

科目名	科目担当代表教員	ページ数
心理学概論	石垣 則昭	5
生命科学	荒井 克俊	10
物理学	松岡 審爾	15
英語 I	Stephen Alex Greig	20
英語 I	Stephen Alex Greig	25
中国語 I	野間 晃	30
基礎ゼミナールⅢ	渡邊 堯宏	35
基礎ゼミナールⅢ	白幡 知尋	40
基礎ゼミナールⅢ	加藤 裕明	45
基礎ゼミナールⅢ	村越 含博	50
基礎音楽	西野 美穂	55
保育原理	吉岡 亜希子	60
社会福祉	鈴木 幸雄	65
障がい児保育 I	美馬 正和	70
障がい児保育 I	美馬 正和	75
知的障がい者の心理・生理・病理	木谷 岐子	80
病弱者の心理・生理・病理	木谷 岐子	85
こどもの食と栄養 I	山森 栄美	90
こどもの食と栄養 I	山森 栄美	95
こどもの食と栄養 I	山森 栄美	100
保育内容Ⅲ環境1	柘植 純一	105
保育内容Ⅲ環境1	柘植 純一	110
保育内容総論	美馬 正和	115
保育内容総論	美馬 正和	120
保育内容総論	美馬 正和	125
総合表現音楽 I	今井 由恵	130
総合表現音楽 I	今井 由恵	135
表現Ⅲ身体表現1	細田 洋介	140
表現Ⅲ身体表現1	細田 洋介	145
表現Ⅱ造形1	笠見 康大	150
表現Ⅱ造形1	笠見 康大	155
表現Ⅳ日本語表現1	森田 弘行	160
表現Ⅳ日本語表現1	森田 弘行	165
家庭科教育概論	木下 教子	170
生活科概論	高桑 純	175
教育課程の編成と実施	相馬 哲也	180
教育相談論 I	山本 愛子	185
教育相談論 I	山本 愛子	190
生徒指導の意義と内容	相馬 哲也	195
道德教育の指導法	村越 含博	200
幼児の理解	吉岡 亜希子	205

教科教育法 家庭	木下 教子		210
教科教育法 算数	但木 功		215
教科教育法 図画工作	笠見 康大		220
教科教育法 図画工作	笠見 康大		225
教科教育法 体育	梅村 拓未		230
教科教育法 理科	高桑 純		235
教科教育法 理科	高桑 純		240
肢体不自由児教育 I	山下 秀樹		245
重複障がい教育総論	山下 秀樹		250
知的障がい教育 I	山下 秀樹		255
病弱教育	木谷 岐子		260
教育実習 I	山口 宗兼		265
教育実習 II	村田 敏彰		270
教育実習指導 I	山口 宗兼		275
保育実習 I-2	渡邊 堯宏		282
こども学総合演習 I	笠見 康大		287
こども学総合演習 I	木谷 岐子		292
こども学総合演習 I	美馬 正和		297
こども学総合演習 I	村田 敏彰		302
こども学総合演習 I	村越 含博		307
こども学総合演習 I	小椋 佐奈衣		312
こども学総合演習 I	高桑 純		317
こども学総合演習 I	吉岡 亜希子		322
こども学総合演習 I	西野 美穂		327
公衆衛生学	續 佳代		332
卒業研究 I	山本 愛子		337
卒業研究 I	渡邊 堯宏		342
卒業研究 I	村田 敏彰		347
卒業研究 I	相馬 哲也		352
卒業研究 I	小椋 佐奈衣		357
卒業研究 I	加藤 裕明		362
卒業研究 I	笠見 康大		367
卒業研究 I	吉岡 亜希子		372
卒業研究 I	高桑 純		377
卒業研究 I	今井 由恵		382
卒業研究 I	山下 秀樹		387
卒業研究 I	小田 進一		392
卒業研究 I	森田 弘行		397
卒業研究 I	西野 美穂		402
卒業研究 I	白幡 知尋		407
卒業研究 I	村越 含博		412
卒業研究 I	山口 宗兼		417

卒業研究Ⅰ	木谷 岐子		422
卒業研究Ⅰ	平岡 英樹		427
卒業研究Ⅰ	美馬 正和		432
総合教養講座	白戸 力弥		437
キャリア入門	木村 悠里菜		442
現代医療と福祉・介護	今泉 博文		446
生涯スポーツB	平岡 英樹		451
生涯スポーツB	平岡 英樹		456
生涯スポーツB	平岡 英樹		461
情報処理	常見 裕子		466
情報処理	常見 裕子		471
こども家庭福祉	鈴木 幸雄		476
子育て支援ネットワーク論	吉岡 亜希子		481
こども家庭支援論	吉岡 亜希子		486
社会的養護Ⅰ	美馬 正和		491
こどもの健康と安全	江本 千晴		496
こどもの健康と安全	江本 千晴		501
こどもの保健	海老名 由紀子		506
社会的養護Ⅱ	堀 允千		511
社会的養護Ⅱ	堀 允千		516
乳児保育Ⅰ	片岡 卓久		521
英語概論	釣 晴彦		526
総合的な学習の時間の指導法	相馬 哲也		531
特別支援教育概論	村田 敏彰		536
保育実習指導Ⅰ－2	渡邊 堯宏		541
保育実習指導Ⅰ－2	渡邊 堯宏		546
保育内容指導法(音楽表現1)	今井 由恵		551
保育内容指導法(音楽表現1)	今井 由恵		556
保育内容指導法(健康1)	平岡 英樹		561
保育内容指導法(健康1)	平岡 英樹		566
保育内容指導法(言葉1)	山口 宗兼		571
保育内容指導法(言葉1)	山口 宗兼		576
保育内容指導法(言葉1)	山口 宗兼		581
保育内容指導法(人間関係1)	山口 宗兼		586
保育内容指導法(人間関係1)	山口 宗兼		591
保育内容指導法(人間関係1)	山口 宗兼		596
保育内容指導法(造形表現1)	笠見 康大		601
保育内容指導法(造形表現1)	笠見 康大		606
保育内容指導法(造形表現1)	笠見 康大		611
幼児と人間関係	山口 宗兼		616
教職入門	村田 敏彰		620
幼児と環境	高桑 純		625

幼児と環境	高桑 純		629
幼児と健康	平岡 英樹		633
幼児と健康	平岡 英樹		637
ICTを活用した教育の理論と方法	村越 含博		641
教育方法論	加藤 裕明		645
特別支援教育基礎論	村田 敏彰		649

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		心理学概論				ナンバリング	1110
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	石垣 則昭						
授業の位置づけ							
本科目はこども発達学科の幅広い教養を身につける「教養科目」として位置づけられ、教科区分では「人間と文化」となっている。また本科目は、「乳幼児期のこどもの成長・発達を支える知識や技術を学ぶ」に該当し、2年生で学習する分野の「対象の理解」の「こども家庭支援の心理学」、さらに「小学校・幼稚園教育の具体的な方法論」に該当し2年生で学習する分野である「小幼教職」の「教育相談Ⅰ、Ⅱ」との関連を重視する。							
授業の概要							
本科目では、人格論に焦点を合わせながら現代心理学の概観を試みる。まず学習、動機づけ、知覚等の心理学的概念を用いて人格の形成過程を説明する。さらに摂食障害、薬物依存、多重人格等、広く人格障害に関与する異常行動の病理に言及する。履修者は、心理学を通して、人間が、外側からは知ることのできない人間のこころの内側とそのしくみをどのように解き明かしてきたのかを知ると同時に、その方法を自分自身にも適用し、自分を客観的に見つめ、いまの自分がどのように形成されてきたのか。また、今の自分をどのように変えていくことができるのかという問題に答えられることを期待する。							
到達目標							
①心理学が辿った歴史的な研究の過程と特徴を理解する。(知識・技能)②心理学概論の研究の変遷を適切にとらえ表現することができる。(思考・判断・表現)③心理学概論の学習を他のメンバーと協力し、学習課題を解決することができる。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
授業の到達目標を達成するため、説明と演習の知的生産交流により授業を進める。受講者の学習への主体化を図るため、ハイブリッド型(ICTの活用と対面学習)を中心にアクティブラーニングにより授業を進める。毎時間、400字～600字及び800字程度で作成する学習レポートを授業中クラスルームより送信、学習終了前に完成させ返信する。その後、採点し返却する。あわせて14回目に小テスト(30点満点)を実施し、総合的に学習評価を行う。							
ICT活用							
毎時間のレポートの作成、FAMアプローチによる授業評価などグーグルクラスルームの活用による双方向の授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道内の公立中学校の校長12年の実務経験と教育原理、教育心理学を中心に据え学校改善を図り、生徒の人間関係力の育成、学力向上を中心に様々な教育成果を上げた。また校長在任中より現在までの間、北海道内外の小中高等学校へ「職場のメンタルヘルスの保持・増進」基礎心理学の社会心理学による「職場の人間関係づくりとコミュニケーション」や生徒指導を含め、今日の教育問題の解消・解決のため教育行政などより依頼を受け各種研修会の講師を務めている。

課題に対するフィードバックの方法

質問は授業中、クラスルームでのレポート提出時とあわせ随時受けつけ、内容により受講者全員への還元を図る。また毎時間、授業への自己評価、相互評価さらにルーブリックにより学習レポートを作成し、学習課題への回答を評価しコメントを添え返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ルーブリック評価による評価基準を含めたオリエンテーション、基礎心理学の進化心理学による行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズの意味、教科書1の自己発見、教科書2のヒポクラテスの単純元素、教科書3のプラトンの自己概念、教科書5のイスラムと精神医学について理解できる。	シラバスにより学習の見通しを持ち、教科書の「はじめに」の内容を熟読する。(90分)	ヒューマン・ユニバーサルズの教科書1の自己発見、教科書の2のヒポクラテスの単純元素、教科書3のプラトンの自己概念、教科書5のイスラムと精神医学を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	教科書6の古代心理学における共通感覚の意味から教科書10のデカルトの思考機械と松果体とその役割、教科書11のウィリスの脳解剖とウィリス動脈輪、さらに教科書12のジョン・ロックの知性の本性としての自己の記録内容について理解できる。	教科書の6の共通感覚から12の知識の本性を熟読し学習内容の把握をする。(90分)	教科書6のデカルトの思考機械、ウィリスの脳解剖、ウィリス動脈輪、教科書12の知識の本性を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	教科書13のバークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、教科書17のキルケゴールの自己の選択、教科書18のフィニアス・ゲージの記憶による前頭前野・大脳皮質の実行機能を中心に学習内容を理解できる。	教科書13バークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、キルケゴールの自己の選択、教科書18のフィニアス・ゲージの記憶の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書13のバークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、教科書17のキルケゴールの自己の選択、特に教科書18のフィニアス・ゲージの記憶の研究内容を中心に整理する。(90分)
担当教員			
第4回	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について理解できる。	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説についての範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について整理する。(90分)
担当教員			

第5回	教科書25の脳半球優位性、特に教科書26のフロイトの精神分析理論を中心に教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究を理解できる。	教科書25の脳半球優位性、教科書26のフロイトの精神分析、教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書25の脳半球優位性、教科書26のフロイトの精神分析、教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)
担当教員			
第6回	教科書29の双極性障害から教科書35の劣等コンプレックス、教科書36のサイコドラマの研究について理解できる。(90分)	教科書29の双極性障害から教科書35の劣等コンプレックス、教科書36のサイコドラマの研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書29の双極性障害から教科書35の劣等コンプレックスを中心に、教科書36のサイコドラマの研究を整理する。(90分)
担当教員			
第7回	教科書37の知能指数から教科書42の発達心理学を中心に、教科書45の心理学の場理論の研究について理解できる。	教科書37の知能指数、教科書42の発達心理学、教科書45の心理学の場理論の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書37の知能指数、教科書42の発達心理学を中心に教科書45の心理学の場理論の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	教科書46の自閉症(自閉症スペクトラム・ASD)から教科書50の知能の心理学、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究を中心に理解できる。	教科書46の自閉症、教科書50の知能の心理学、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書46の自閉症、教科書50の偏見の学習、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	教科書53の人生の八つの段階と教科書59の欲求の段階構造の研究を中心に理解できる。	教科書53の人生の八つの段階と教科書59の欲求の段階構造の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書53の人生の八つの段階、教科書59の欲求の段階構造の研究を中心に整理する。(90分)
担当教員			
第10回	教科書60の言語の獲得から教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、66のモデリング行動を中心に学習内容を理解できる。	教科書60の言語の獲得、教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、67の「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書60の言語の獲得から教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、66のモデリング行動を中心に学習内容を整理する。(90分)
担当教員			

第11回	教科書68のフーコーの人間観から教科書70の抑うつテスト、学習の中心課題である教科書72のボウルビイの愛着理論、教科書74の家族療法の研究を理解できる。	教科書68のフーコーの人間観、教科書70の抑うつテスト、教科書72のボウルビイの愛着理論、教科書74の家族療法の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書68のフーコーの人間観から教科書70の抑うつテスト、学習の中心課題である教科書72のボウルビイの愛着理論、教科書74の家族療法の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	学習の中心となる教科書75の記憶地図からヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究について理解できる。	教科書75の記憶地図、ヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	学習の中心となる教科書75の記憶地図からヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究について整理する。(90分)
担当教員			
第13回	教科書82の感覚データから、学習の中心である教科書83の自己肯定感、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究までを理解できる。	教科書82の感覚データ、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書82の感覚データから、学習の中心である教科書83の自己肯定感、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究までを整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学習のまとめとしての小テストを実施し、教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問について理解できる。	学習のまとめである小テストに向けての準備をし、教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論について理解でき、本科のまとめを行う。	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論を整理し、本科のまとめを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	ルーブリックの評価規準による毎時間の学習レポート評価 (1回1点～5点を14回・70点)	

その他	30	小テスト(30問×1点を1回・30点)
教科書		
図鑑心理学～歴史を変えた100の話～(トム・ジャクソン＝著 清水・井上智義＝監訳・訳 (NEWTON PRESS 2020発行)を各自購入し教科書とする。また自作の補助資料を授業ごとに提供する。		
参考文献		
心理学概論・学びと知のイノベーション(小野寺孝義 磯崎三喜年(編)小川俊樹 ナカニシヤ出版 2011発行)		
履修条件・留意事項等		
学習内容の理解と定着を図るため準備学習、事後学習を重視し学習規律を守り提出物は期限を厳守する。授業中は自ら意見表明するなど能動的な参加態度を必須とする協同的な学びにより、「心理学概論」への理解を深めて頂きたい。		
備考欄		
なし		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		生命科学				ナンバリング	1150
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	荒井 克俊						
授業の位置づけ							
科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。 「解剖学」、「生理学」、「生化学」(健康栄養)、「解剖学I」、「解剖学II」、「生理学I」、「生理学II」(看護、リハビリ)、「免疫学」(看護)、「教科教育法 理科」(こども発達)と連携している教養科目である。							
授業の概要							
生命科学の内容は私たちの健康、医療、食生活、生活環境などの日常生活に密接に関わっているだけではなく、持続的な社会の発展や生物多様性保全など地球生態系にも関係するヒトがよりよく生きるための知識である。本科目では、専門科目の学習に発展・深化しうる身近なトピックスを取り上げて、授業を進める。生命科学の中でも、特に細胞、遺伝、DNA、ゲノム、発生、生殖、内分泌および免疫に関する内容に重点を置いて、高等学校で生物を履修しなかった学生も十分理解できるように、初歩的な事項から、最先端の研究まで、段階を踏んで教授する。また、メディア等で話題になるバイオテクノロジーとその社会での応用についても学ぶ。							
到達目標							
生命とは何かということに興味をもつことができる。 生物の体の構造と仕組みを説明できる。 メディア等で取り上げられる生命科学の成果を積極的に理解する態度をもつことができる。 科学的、論理的思考を身につけ、自身の専攻に関連するバイオテクノロジーの応用や生命倫理に関する議論に参加できる。							
授業の方法							
教科書をもとに、パワーポイントスライドの投影により講義を進める。 講義終了前に、練習問題を中心としてクイズを行い、その解答解説により講義内容の理解を深める。 これらクイズは自己採点として、成績には反映させない。 最終回の講義では小グループディスカッションによる課題研究とその成果プレゼンテーションと討議を中心としたアクティブラーニングを行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

クイズの解答を講義時間内に解説するとともに、クラスルームに掲示する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス：担当講師の自己紹介に続き、本科目の位置づけ、概要、到達目標、授業方法、成績評価をシラバスに基づいて説明する。アンケート等により、高等学校までに得た生物の知識を確認する。生命現象に見られる共通性と多様性について考える。	シラバスおよび教科書第1章2-6頁を読み、疑問点をまとめる。(90分程度)	生命科学を学ぶ意味をノートに記述する。(90分程度)
担当教員			
第2回	細胞生物学の基礎：原核生物と原核生物の違い、細胞の構造、細胞内小器官の形態と機能、ミトコンドリア、核と染色体と遺伝子の関係について学ぶ。	教科書第1章7-11頁を読み、疑問点をまとめる。さらに、細胞説とは何かを調べてくる。(90分程度)	ノートを整理し、核と染色体の関係、細胞内小器官の働きを説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			
第3回	遺伝学の基礎：メンデルの法則を確認し、改訂された遺伝用語(顕性、潜性)を説明する。体細胞分裂、細胞周期を学び、減数分裂における染色体の挙動とDNA量の変化が体細胞分裂とどの様に違うか理解する。	教科書第4章48-60頁を読んで、遺伝の法則について疑問点をまとめる。(90分程度)	ノートを整理し、体細胞分裂と減数分裂の違いを説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			
第4回	分子生物学の基礎：遺伝物質がDNAであることを示唆したアベリーの実験、シャルガフの法則、ハーシーとチェイスの実験を解説した後、DNAの構造、転写・翻訳、タンパク合成に到る過程を説明する。	教科書第1章12-17頁を読んで、予め、ロザリンド・フランクリンについて調べてくること。(90分程度)	ノートを整理し、DNAからどのようににアミノ酸配列が決めるかを説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			

第5回	ゲノム科学の基礎: ゲノムとは何かを説明した後、自然界におけるゲノム量の変異について触れ、さらにゲノムプロジェクトを解説する。遺伝子組み換え技術、PCR技術、シーケンス技術の概要を説明する。DNA多型、シンテニーを説明した後、例えば、遺伝病の原因遺伝子をどのように特定するかについて、概要を述べる。また、体重や身長などの量的な形質の遺伝子による支配についても学ぶ。	教科書第2章22、23頁、第4章58頁、第5章66-68頁を読んで、疑問点をまとめる。(90分程度)	ノートを整理し、DNA多型の分析方法を簡単に説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			
第6回	発生生物学の基礎: 受精卵は卵割(細胞分裂)を続け、細胞が分化していくことにより、背腹と左右の軸ができ、誘導の現象を介して、複雑な体が作り上げられていく。発生が遺伝子発現のプロセスであることを理解する。	教科書第3章32-46頁を読み、疑問点をまとめる。(90分程度)	ノートを整理し、受精卵から動物の体になるプロセスを理解する。(90分程度)
担当教員			
第7回	生殖生物学の基礎: ヒトや多くの動物では雌と雄の比率はほぼ1:1である。受精の瞬間に遺伝的に雌であるか、雄であるか決まること(性決定)の仕組みと性決定遺伝子の関係、また、卵巣と精巣が形成され機能する生理学的な過程(性分化)について学び、卵と精子がどのように形成され、子孫を残すのかを理解する。	教科書第11章147-158頁を読み、疑問点をまとめる。(90分程度)	ノートを整理し、雌と雄の比率(性比)が1:1となる仕組みを説明できるようにする。あわせて、第1回から第7回の講義内容、関連するクイズの問題を復習する。(90分程度)
担当教員			
第8回	第一回小テスト: 第1回から第7回の授業内容に関する筆記試験(30分程度) 試験答案回収後に、問題と解答の解説を行う。	ノートを整理して、第1回から第7回の講義内容、関連するクイズの問題を復習する。(90分程度)	自分の答案について、再度解答し、不正解の場所があれば、復習する。(90分程度)
担当教員			
第9回	内分泌学の基礎: 外分泌と内分泌の違い、ホルモンの定義を解説する。内分泌による恒常性維持(ホメオスタシス)の概念を解説した後、主要な内分泌器官を挙げて、そこで産生されるホルモンの種類と働きを概説する。	教科書第10章139-145頁を読み、疑問点をまとめる。(90分程度)	ノートを整理し、主要な内分泌器官とホルモンについて説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			
第10回	免疫学の基礎: 病原体と感染症、自然免疫と獲得免疫、自己と非自己の認識メカニズム、MHCと拒否反応、アレルギーについて基礎的、初歩的事項についてのみ教授する。	教科書第13章175-188頁を読み、疑問点をまとめる。(90分程度)	ノートを整理し、抗原と抗体について説明できるようにする。(90分程度)
担当教員			

第11回	バイオテクノロジー入門(1): 実験動物に利用される純系とは何かを説明した後、同じ遺伝子型を持つ個体(クローン)を得る方法としての単為発生技術と体細胞核移植技術を説明する。さらに、ES細胞とiPS細胞について説明し、細胞の初期化を考える。また、凍結保存技術の現状と可能性を述べる。	教科書第3章46頁、第5章62-65頁を読み、疑問点をまとめる。(90分程度)	ノートを整理し、ES細胞とiPS細胞の違いを説明できるようになる。(90分程度)
担当教員			
第12回	バイオテクノロジー入門(2): 遺伝子組換え生物の作り方と現状、これらの規制のためのカルタヘナ条約を解説する。最新のゲノム編集技術について初歩的事項を説明する。このほか不妊治療の技術としての顕微授精、人工授精等についても解説する。	教科書第2章25-28頁、第5章69-74頁、第7章103頁を読み、疑問点をまとめる。(90分程度)	ノートを整理し、遺伝子組換え生物、ゲノム編集生物の規制について簡単に説明できるようになる。(90分程度)
担当教員			
第13回	バイオテクノロジー入門(3): 我々の食を支える農業、畜産、水産養殖では、栽培した植物、馴致した家畜、人工的に作った養殖魚の品種改良(育種)が欠かせない。育種を進めるために重要な、選抜育種、交雑育種、倍数体育種について具体例を挙げて説明し、我々の生存が生命科学の土台の上にあることを認識する。	巨峰ブドウと信州サーモンについて調べ、何がこれら二つの品種に共通する生命現象であるかを考えてくる。(90分程度)	ノートを整理し、人間の歴史、文化、現代の社会生活における育種の役割を説明できるようになる。(90分程度)
担当教員			
第14回	第2回小テスト: 第1回から第7回、第9回から第13回の授業内容に関する筆記試験(30分程度) 試験答案回収後に問題と解答の解説を行う。 第15回授業の班分けとグループワークに関する解説を行う。	ノートを整理し、出題範囲の講義内容と関連するクイズの問題を復習する。(90分程度)	自分の答案について再度解答し、不正解の場所があれば、復習する。(90分程度)
担当教員			
第15回	生命科学と生命倫理: 設定された課題について、グループワークを通じて、各班の考え方をまとめ、パワーポイント等でプレゼンテーションを行い、参加者全員でディスカッションする。 レポートの課題を提示する。	各班ごとに課題解決に関するグループディスカッションを行い、考えをまとめ、パワーポイントなどプレゼンテーションの準備をおこなうとともに、発表練習をする。(90分程度)	ディスカッションの要点を整理し、自分なりの考え方をまとめる。(90分程度)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	第8回、第13回における筆記試験により評価する	

その他	30	課題レポート 決められた書式のレポートを期日までにクラスルームを通じて提出する。
教科書		
みんなの生命科学 北口哲也・塚原伸次・坪井貴司・前川文彦 化学同人 ISBN 97847598181116		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		物理学				ナンバリング	1152
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。 運動学の基礎となる(理学、作業)。物理療法学、物理療法学実習の基礎となる(理学)。 理学療法学科のディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・理解)」と特に関係がある科目である。							
授業の概要							
物理学は広範な自然現象を統一的に理解しようとするものであり、全ての自然科学の基礎をなしている。ここでは、生体力学や運動学の基礎となるニュートン力学および熱力学の基本的な考えや電磁気学の基礎法則を理解し、剛体の力学、変形体の力学および生体組織の力学的性質および電気、電磁波、超音波の性質や生体作用について学習する。							
到達目標							
1. ニュートンの法則にもとづいて運動方程式を記述し、物体の運動を求めることができる。 2. 力のモーメントを用いて剛体のつりあいの式を記述できる。 3. 変形する物体の力学的性質や波動の性質について説明できる。 4. 仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存の法則、熱エネルギーについて説明できる。 5. 電磁現象の概略(電気力や磁力の原因、電磁誘導、電磁波の性質)を説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 理解度確認テストを実施するとともに、コメントを書かせる(全15回)。 毎回の内容について宿題を課す(1回目～14回目)。 9回目と15回目に試験を実施する。 フィードバックとして理解度確認テストと宿題の解説を行う。							
ICT活用							
Google Formのテスト作成機能を用いて、確認テストと宿題として練習問題を提供し自主学習を促す。 授業の動画(パワーポイントの説明に音声を入力したもの)をGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストおよび宿題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	はじめに 物理学で用いられる単位系について学ぶ。 力学1【運動の記述】直線上を運動する物体の速度、加速度の計算方法を習得する。また、平面上の運動における物体の位置の表しかた、速度と速さの違いを理解する。	教科書のp5、p9～p10、p12、p14、p19、p25～p28を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	力学2【運動の記述】平面上の運動における物体の加速度の向きを知る方法を理解する。【ニュートンの運動の法則】ニュートンの運動の3法則である慣性の法則、運動の法則($F=ma$)および作用反作用の法則を理解する。 ・物体に働く力の矢印の書き方を習得する。 ・等速円運動する物体に働く力の向きを理解する。	教科書のp29、p34～p37、p39～p40、p73～p75を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	力学3【ニュートンの運動の法則の応用】・地球上の物体に働く重力と落下運動について理解する。・床等に置かれた物体が静止するために垂直抗力が働くことが必要なことを理解する。物体の運動方程式を立てることによって、物体に働く力や加速度を求める方法を習得する。・平面における運動式を理解する。	教科書のp41、p43、p46～p47を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第4回	力学4【ニュートンの運動の法則の応用】・力の合成と分解を理解する。・静止摩擦力、最大摩擦力、動摩擦力のちがいを理解する。・垂直抗力と摩擦係数から最大摩擦力、動摩擦力を計算する方法を習得する。斜面上の物体の運動方程式を立てる方法を習得する。	教科書のp42～p43、p45下半分、p48～p50を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第5回	力学5【剛体の力学】・大きさがあるが変形しないというモデルである「剛体」の概念を理解する。物体の回転状態を変化させる作用である力のモーメントの計算方法を習得する。力のモーメントをもとにして重心という概念を理解できること、また重心の位置を計算する方法を習得する。	教科書のp42、p51を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	力学6【剛体の力学】・剛体の力学—剛体が回転せずにつりあうための条件を理解し、これに基づいて剛体に働く力を求める方法を習得する。 【仕事とエネルギー】仕事と仕事率の定義を理解する。	教科書のp44～p45、p52～p53、p59～p62を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第7回	力学7【仕事とエネルギー】・重力の位置エネルギー、運動エネルギーの計算方法を習得する。・仕事と運動エネルギーとの関係から力学的エネルギー保存則が導かれることを理解する。・力学的エネルギー保存の法則を用いて運動する物体の速さを求める方法を習得する。・より広い意味のエネルギー保存則を理解する。 【慣性力】・非慣性系における、みかけの力(慣性力)を学び、遠心力が慣性力であることを理解する。	教科書のp62～p66、p93を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	力学8【変形する物体の静力学】・力を加えると変形するが、力を取り除くと元に戻る性質をもつ物体を弾性体という。弾性体のひずみが小さいとき、弾性体の変形のもととなる応力はひずみに比例する。このときの比例定数が弾性定数であり、これを用いて物体の変形量を計算する方法を習得する。また、いくつかの弾性率(ヤング率、剛性率)の違いを知る。	教科書のp101～p104を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第9回	力学9【流体の力学】・流体の力学—流体とはなにか、またその圧力の特徴を理解する。流体の密度や、ある深さにおける流体の圧力の計算方法を習得する。粘性がずれ応力であることを理解する。 ★授業の1回目から7回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp95～p101、p104～p108を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第10回	【波動】・波の表し方および波の基本式を理解する。・正弦波が波の基本的な形であることを理解する。・波の干渉と回折について理解する。・弦に生じる定在波の固有振動の計算を修得する。・超音波の性質を学ぶ。	教科書のp114～p124を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第11回	電磁気学1【電気力】・電気現象を引き起こす電荷について理解する。・真空中の電荷の間に働く力である電気力(クーロン力)の性質を学ぶ。電気力を働かせる空間である電場の概念を理解する。電位の定義を理解し電位差と電気量から電気力がした仕事量を計算する方法を習得する。・電場によって物体表面に電荷が現れる現象である静電誘導について理解する。	教科書のp158～p161、p162～p171を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第12回	電磁気学2【電流・電気回路】・電流、電圧と電気抵抗との間の関係であるオームの法則を理解する。・電力およびジュール熱の計算し、抵抗の発熱量を計算する方法を習得する。・交流による電力と実効値を理解する。・電荷を蓄える装置であるキャパシターの性質を理解する。・比誘電率について理解する。	教科書のp161～p162、p164～p165、p173～p175、p177～p179、p182～p184、p206～p208を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第13回	電磁気学3【磁場】・磁場の性質を理解する。・電流が磁場を発生されることを知り、定常電流がどのような向きの磁場を生じるかを理解する。・磁場中で運動する荷電粒子に働くローレンツ力の向き、また磁場中で電流が流れている導線に働く力を理解する。	教科書のp191～p199を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第14回	電磁気学4【電磁誘導】・電磁誘導(ファラデーの法則)、磁場が時間変化することにより電場が発生することを理解する。・磁場中でコイルを動かすと、磁場が時間変化していなくてもコイルに電流が流れることを理解する。・電場の変化によって磁場の発生することを理解する。・電磁波の発生機序を理解する。	教科書のp199～p203、p212～p214を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第15回	【熱力学】・熱の移動方法は主に熱伝導、対流、熱輻射の3つがある。このうち熱伝導の性質、熱輻射の性質を理解する。 ★授業の8回目から14回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp136～p144、p147、p149～p150を読んでおく。(90分)。	授業で行った全範囲について復習しておく(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)、各回ごとの宿題の提出(14回)および授業内(9回目と15回目)に実施する試験により評価する。	

その他	0	なし
教科書		
第3版 物理学入門 Web動画付／原康夫／学術出版図書		
参考文献		
医療系のための物理／佐藤幸一他／東京教学社		
履修条件・留意事項等		
理学療法学専攻の学生は、運動学、物理療法学の基本となるので、高校で物理基礎のみ履修の学生,それすら未履修の学生は必ず履修すること。作業療法学専攻の学生は、運動学の基本となるので履修するとよい。看護学科、健康栄養学科の学生は専門に直結するわけではないので数理分野が得意で興味があれば履修してもよい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語 I (1組)				ナンバリング	1170
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Stephen Alex Greig						
授業の位置づけ							
This course is a required graduation course for the Department of Child Development. The aim of this course is to improve the students speaking and reading skills, whilst building their vocabulary and confidence to communicate in English. 本科目では、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルを習得する。これらのスキルは、英語で効果的にコミュニケーションを行うために必要であり、講義は参加型の学習スタイルを取る。ネイティブスピーカーと英語を話す機会を得るとともに、第2言語として英語を話す機会が提供される。							
授業の概要							
Students will participate in various oral and written activities, sometimes alone, in pairs or small groups.							
到達目標							
(1) To increase the student’s ability and confidence to understand and apply new vocabulary and skills. (2) To increase student’s confidence in both listening and speaking. (3) To improve student’s pronunciation and intonation.							
授業の方法							
Students will participate in activities and exercises based on weekly handouts.							
ICT活用							
None							
実務経験のある教員の教育内容							

None			
課題に対するフィードバックの方法			
Teacher will give feedback each week.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Class orientation Self-introductions / Introduce your partner	Prepare some information about yourself to use in class (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第2回	Question words and tense review Getting more information	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第3回	Daily life - talk about daily routines, habits and routines Practice using adverbs of frequency	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第4回	My weekend - talk about the past Practice using time expressions	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			

第5回	My future - talk about future plans and intentions Practice using modal verbs and verb patterns	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第6回	Making longer sentences - adding more information Practice using conjunctions	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第7回	Mid-term presentation - review the information from previous classes	Review weeks 1-6 and prepare a mid-term presentation. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第8回	Adjectives - talk about describing people, things and places Practice using adjectives, comparatives and superlatives	Prepare a list of 10 positive and 10 negative adjectives. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第9回	Favorites - talk about movies, TV and books Practice expressing opinions and making recommendations	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第10回	How much? - talk about shopping Practice using numbers and money	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			

第11回	Health - talk about health and the body Practice giving advice	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第12回	Travel - talk about countries and experience Practice using 1st and 2nd conditional clauses	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第13回	Food -talk about food and restaurants Practice using countable and noncountable nouns	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第14回	Restaurant role-play - make restaurant role play with a partner Practice using polite requests and offers	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第15回	Final presentation - review all previous class and practice using new language and skills	Review weeks 13/14 to prepare a role-play for the final presentation. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	None	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	60% - class participation, attitude and effort (covers all classes) 20% - mid- term presentation 20% - final presentation	

その他	0	None
教科書		
None		
参考文献		
None		
履修条件・留意事項等		
Class will be mainly in English. Students should bring a bilingual dictionary to class every day.		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語 I (2組)				ナンバリング	1170
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Stephen Alex Greig						
授業の位置づけ							
This course is a required graduation course for the Department of Child Development. The aim of this course is to improve the students speaking and reading skills, whilst building their vocabulary and confidence to communicate in English. 本科目では、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルを習得する。これらのスキルは、英語で効果的にコミュニケーションを行うために必要であり、講義は参加型の学習スタイルを取る。ネイティブスピーカーと英語を話す機会を得るとともに、第2言語として英語を話す機会が提供される。							
授業の概要							
Students will participate in various oral and written activities, sometimes alone, in pairs or small groups.							
到達目標							
(1) To increase the student’s ability and confidence to understand and apply new vocabulary and skills. (2) To increase student’s confidence in both listening and speaking. (3) To improve student’s pronunciation and intonation.							
授業の方法							
Students will participate in activities and exercises based on weekly handouts.							
ICT活用							
None							
実務経験のある教員の教育内容							

None			
課題に対するフィードバックの方法			
Teacher will give feedback each week.			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	Class orientation Self-introductions / Introduce your partner	Prepare some information about yourself to use in class (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第2回	Question words and tense review Getting more information	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第3回	Daily life - talk about daily routines, habits and routines Practice using adverbs of frequency	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第4回	My weekend - talk about the past Practice using time expressions	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			

第5回	My future - talk about future plans and intentions Practice using modal verbs and verb patterns	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第6回	Making longer sentences - adding more information Practice using conjunctions	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第7回	Mid-term presentation - review the information from previous classes	Review weeks 1-6 and prepare a mid-term presentation. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第8回	Adjectives - talk about describing people, things and places Practice using adjectives, comparatives and superlatives	Prepare a list of 10 positive and 10 negative adjectives. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第9回	Favorites - talk about movies, TV and books Practice expressing opinions and making recommendations	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第10回	How much? - talk about shopping Practice using numbers and money	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			

第11回	Health - talk about health and the body Practice giving advice	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第12回	Travel - talk about countries and experience Practice using 1st and 2nd conditional clauses	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第13回	Food -talk about food and restaurants Practice using countable and noncountable nouns	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第14回	Restaurant role-play - make restaurant role play with a partner Practice using polite requests and offers	Review last week's worksheet, vocabulary and grammar points. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
第15回	Final presentation - review all previous class and practice using new language and skills	Review weeks 13/14 to prepare a role-play for the final presentation. (90 minutes)	Practice/review the main points from today's class (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	None	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	60% - class participation, attitude and effort (covers all classes) 20% - mid- term presentation 20% - final presentation	

その他	0	None
教科書		
None		
参考文献		
None		
履修条件・留意事項等		
Class will be mainly in English. Students should bring a bilingual dictionary to class every day.		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 外国語					
科目名		中国語 I				ナンバリング	1178
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	野間 晃						
授業の位置づけ							
履修者が中国語を初めて学ぶことを前提として、入門中国語にとって最も大切な発音の練習から、中国語がどういう言語なのかを基礎的につかめるようにする。							

(なし)			
課題に対するフィードバックの方法			
毎回授業開始時に配られるノート兼ねたプリントの答えを記入して授業終了後に提出し、次回に返却されたものを見ながら重要点を復習する。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる内容が理解できるようになる。	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる内容が理解できるようになる。	中国語学習の方向性認識。(90分)
担当教員			
第2回	発音 プロローグA 声調、日本人にとって難しい発音 日本人にとって難しい中国語の発音が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第3回	発音 プロローグB -n:-ng、そり舌音、iの特別な発音、iu 中国語の発音の中でも、特に注意を要すべきものについて理解できるようになる①。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第4回	発音 プロローグC 日本語にない子音の発音 日本語にない子音の発音について理解できるようになる②。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			

第5回	発音 プロローグD 書き換え規則、二重母音・三重母音、隠れるローマ字 中国語の発音の中でも、特に注意を要すべきものについて理解できるようになる③。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	第1課 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文と“很” 3. “嗎”疑問文 4. “不” 5. “不”の変調 指示代名詞と形容詞述語文と“很”と“嗎”疑問文と“不”と“不”の変調が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第7回	第2課 1. 正反疑問文 2. 選択疑問文 3. “的”が省略できる場合 4. 動詞句+“的”→名詞句 正反疑問文と選択疑問文と“的”が省略できる場合と動詞句+“的”→名詞句親族名称が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第8回	第3課 1. 親族名称 2. “両” 3. “有”と“没有” 4. 年齢の聞き方 5. “一”の変調 6. 21から99までの“十”の発音 親族名称と“両”と“有”と“没有”と年齢の聞き方と“一”の変調と21から99までの“十”の発音が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	第4課 1. 助動詞“想” 2. 日付と曜日 3. 動詞の重ね型 4. 前置詞“給” 5. 積極的な気持ちを表す“来” 助動詞“想”と日付と曜日と動詞の重ね型と前置詞“給”と積極的な気持ちを表す“来”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第10回	第5課 1. 月 2. 時刻 月と時刻の言い方が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			

第11回	第6課 1. お金の言い方 2. 100以上の数 3. 数量補語 4. “児化” お金の言い方と100以上の数と数量補語と“児化”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	第7課 1. 助動詞“在” 2. 助動詞“要” 3. 前置詞“離” 助動詞“在”“要”と前置詞“離”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第13回	第8課 1. 助動詞“在” 2. 助動詞“能” 3. 二重目的語 4. “多一点兒” 助動詞“在”“能”と二重目的語と“多一点兒”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	第9課 1. 助動詞“会” 2. 連動文 3. “別”“不要” 助動詞“可以”と連動文と“別”“不要”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	第10課 1. 助動詞“可以” 2. 比較の言い方 助動詞“可以”と比較の言い方が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業中に書き込んで終了後に提出するプリントを総合評価する。	

その他	10	積極的な授業参加は加点の対象とする。
教科書		
複数の教科書を使用するが、受講者に購入は求めない。		
参考文献		
授業中に適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
遅刻は減点の対象になるので注意すること。		
備考欄		
なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナールⅢ(渡邊 堯宏)				ナンバリング	2202
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邊 堯宏						
授業の位置づけ							
①「基礎ゼミナールⅢ」(以下、基礎ゼミⅢ)は、初年次教育の一環として、将来の保育や教育にたずさわる者としての望ましいあり方を探究する科目である。 ②ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。」と特に関係のある科目である。 ③基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ(1年次)のスキルをさらに高める科目で、「こども学総合演習」(3年)、「卒業研究」(4年)、「教職実践演習」等の基礎となる科目である。							
授業の概要							
①基礎ゼミⅢでは、自分の問題関心を広げる文献を読み、理解する力を養う。 ②他の受講者と共に対話し、考え、意見を交わすことにより豊かな表現力を身につける。 ③自然体験活動のできるフィールド(恵庭市牧場「えこりん村」予定)に出かけ、子どもたちとともに活動する。そして、子どもの遊びと学びを見とる力を養い、将来の教育者・保育者としての豊かな人間性を身につける。							
到達目標							
① フィールドワークにおいて、子どもとともに活動するための基本的な資質を身につける。 ②フィールドワークにおいて、子どもの遊びと学びの姿を見とり、それをもとに他者と対話し、考えることができる。 ③ 子どもの姿を中心において、仲間とともに考え、意見を傾聴し、全体場で発表することができる。							
授業の方法							
すべての授業は基本、アクティブラーニングを軸に進める。具体的には以下のような学習活動によって進める。 ①パワーポイントによるテーマの提示と、学生同士の対話的な学びによって進める。 ②フィールドワークを企画し、子どもとともに活動する。 ③自然体験活動の経験を通して、「遊びと学び」を通して見とった子どもの姿を発表する。							
ICT活用							
eラーニングのプラットフォームを活用し、レポート提出や発表用資料の作成等自主学習支援を行う。また、活動成果の発表に向け、その過程を仲間と共有し、協同編集作業を行うよう、双方向的に授業を進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

・担当者は、幼稚園、小学校、高等学校等での勤務経験にもとづき、具体的な子どもの言葉や姿を見とることから、学びのプログラムを構想し、実践してきた。そして、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。これらの思考と経験を生かし、学生諸君が、子どもとともに活動し、子どもの姿や言葉から学ぶことを軸に、演習や活動を構成する。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回ゼミナールの最初に前回のフィードバックを行う。そのフィードバックをふまえ、学生自身がファシリテータとなって、学びの過程を参加者間で共有し、主体的、探究的に学びを深め合う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・ガイダンス：担当者(教師)からゼミナール(以下ゼミ)の趣旨及び内容のあらましを紹介する。 ・各ゼミ(グループ)に分かれ、フィールドワークでどのような活動を行いたいのか、学生間で対話する。	・シラバスを読んでおく。(25分)	・ゼミの日程を再確認し、テキストや資料等を読む。(20分)
担当教員			
第2回	・各ゼミ活動において、フィールドワークの内容、方法、成果の発表等に関し、対話し、発表する。	・基礎ゼミⅢを受講した際の問題関心について考えをまとめておく。(25分)	・ゼミの資料やテキストを読み、自分の考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	・自然体験活動の実践者(「えこりん村学校」スタッフ)を招き、実践の詳細を提供いただき、学生と対話する。	基礎ゼミⅢ全体の目標および方法について自分の考えをまとめておく。(25分)	・次回以後、学生自身でゼミナールを進めることができるよう、役割等決めておく。(20分)
担当教員			
第4回	・フィールド(恵庭市牧場「えこりん村」予定)について、各自で調べ、対話する。	・自分自身の興味や関心の幅をさらに広げる。(25分)	・ゼミ活動をふまえ、「えこりん村」スタッフと連絡を取り合い、フィールドワークのすすめ方について確認を行う。(20分)
担当教員			

第5回	・各ゼミ活動において、それぞれの課題にもとづき、テキストを読み、対話・討論する。	・自分の関心を深め、広げる文献等を探し、読んでおく。(25分)	・これまでに収集した資料の整理を行う。(20分)
担当教員			
第6回	・フィールドワークを見据え、テキストの内容をよく理解し、フィールドでの活動が豊かになるように仲間と対話し、発表する。	・自分の課題をよりわかりやすく報告できるようレジュメの作成を行う。(25分)	・ゼミ活動で対話した内容をふりかえり、自分の考えをまとめておく。(20分)
担当教員			
第7回	・フィールドワーク①:自然体験型教育プログラムに参加し、子どもに寄り添い活動する。	・フィールドワークに参加するため、当日の準備をしておく。(25分)	・フィールドワークで出た課題について、解決する方法を考える。(20分)
担当教員			
第8回	・フィールドワーク②:自然体験型教育プログラムに参加し、子どもの「遊びと学び」の姿を見とり、記録する。	・フィールドワークに向けて、各自が行うことをまとめておく。(25分)	・フィールドワークをふりかえり、見とった子どもの姿の記録をまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	・フィールドワークを通して見とった子どもの姿について各自紹介・発表し、対話する。	・フィールドワークの中で見とった子どもの姿について、わかりやすくまとめておく。(25分)	・ゼミ活動で対話した子どもの姿について、自分の記録をより豊かなものになるよう加筆する。(20分)
担当教員			
第10回	・子どもの姿を生き生きと記述するため、テキストを参照し、対話する。	・前回のフィールドワークの反省点を確認し、より良いフィールドワークになるよう課題点をあげておく。(25分)	・次回のフィールドワークに向け、前回の反省を確認し、まとめる。(20分)
担当教員			

第11回	・フィールドワーク③:子どもたちとともに活動し、あらたな活動における子どもの姿を見とり、記録する。	・フィールドワーク③に向け、仲間と協力し、インタビューの内容および方法についてまとめておく。(25分)	・フィールドワーク③の結果(5W1H)を記録しておく。(20分)
担当教員			
第12回	・フィールドワーク④:フィールドワーク④の中で見とった子どもの姿について記録する。	・フィールドワーク④に向け、前回からの課題点を整理しておく。(25分)	・フィールドワーク④の結果(5W1H)を記録しておく。(20分)
担当教員			
第13回	・フィールドワークの成果発表に向け、発表内容を協同的に編集する。	・成果の発表会に向け、わかりやすい説明のための準備を行う。(25分)	・成果の発表会に向け、フィールドワークへの協力者に対する案内文書を作成し、送付する。(20分)
担当教員			
第14回	・成果の発表(1):フィールドワークによって発見した自然体験型教育プログラムの学びの意義と、子どもたちの姿について発表し、対話する。	・成果の発表会に向け、データの確認を行う。(25分)	・他のゼミの成果発表を聞いて、考えたことをまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	・成果の発表(2):他のゼミ生の発表内容と照らし合わせ、フィールドワークで得たことの意味を考え、学び合う。	・成果の発表会に向け、他の発表への質問を考える。(25分)	・15回のゼミを振り返り、自分の課題を、フィールドワークと関連づけて考え、まとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.フィールドワークへの意欲的参加(40%) 2.発表(30%) 3.その他提出物等(30%)	

その他	0	
教科書		
・ゼミ毎に資料を配布する。		
参考文献		
・レイチェル・カーソン(上遠恵子1996)『センス・オブ・ワンダー』新潮社.ほか		
履修条件・留意事項等		
・自然環境豊かな恵庭市牧場の「えこりん村」に行き、小学生といっしょに遊び、活動するフィールドワークを2回(6月～7月の日曜日(10:00-14:00)2回)予定しています。		
備考欄		
授業テーマによっては、現代教育の課題に取り組むゲストスピーカーを招聘し、学生の皆さんと対話していただきます。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナールⅢ(白幡 知尋)				ナンバリング	2202
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	白幡 知尋						
授業の位置づけ							
①「基礎ゼミナールⅢ」(以下、基礎ゼミⅢ)は、初年次教育の一環として、将来の保育や教育にたずさわる者としての望ましいあり方を探究する科目である。 ②ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。」と特に関係のある科目である。 ③基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ(1年次)のスキルをさらに高める科目で、「こども学総合演習」(3年)、「卒業研究」(4年)、「教職実践演習」等の基礎となる科目である。							
授業の概要							
①基礎ゼミⅢでは、自分の問題関心を広げる文献を読み、理解する力を養う。 ②他の受講者と共に対話し、考え、意見を交わすことにより豊かな表現力を身につける。 ③自然体験活動のできるフィールド(恵庭市牧場「えこりん村」予定)に出かけ、子どもたちとともに活動する。そして、子どもの遊びと学びを見とる力を養い、将来の教育者・保育者としての豊かな人間性を身につける。							
到達目標							
① フィールドワークにおいて、子どもとともに活動するための基本的な資質を身につける。 ②フィールドワークにおいて、子どもの遊びと学びの姿を見とり、それをもとに他者と対話し、考えることができる。 ③ 子どもの姿を中心において、仲間とともに考え、意見を傾聴し、全体場で発表することができる。							
授業の方法							
すべての授業は基本、アクティブラーニングを軸に進める。具体的には以下のような学習活動によって進める。 ①パワーポイントによるテーマの提示と、学生同士の対話的な学びによって進める。 ②フィールドワークを企画し、子どもとともに活動する。 ③自然体験活動の経験を通して、「遊びと学び」を通して見とった子どもの姿を発表する。							
ICT活用							
eラーニングのプラットフォームを活用し、レポート提出や発表用資料の作成等自主学習支援を行う。また、活動成果の発表に向け、その過程を仲間と共有し、協同編集作業を行うよう、双方向的に授業を進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

歴史的遺跡の発掘調査等における人類学的調査や、養護学校勤務等の経験から、広い視点からの物事の理解を目指す。データとしての観察事項を基に子どもの姿の理解を図る。(白幡)

課題に対するフィードバックの方法

・毎回ゼミナールの最初に前回のフィードバックを行う。そのフィードバックをふまえ、学生自身がファシリテータとなって、学びの過程を参加者間で共有し、主体的、探究的に学びを深め合う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・ガイダンス：担当者(教師)からゼミナール(以下ゼミ)の趣旨及び内容のあらましを紹介する。 ・各ゼミ(グループ)に分かれ、フィールドワークでどのような活動を行いたいのか、学生間で対話する。	・シラバスを読んでおく。(25分)	・ゼミの日程を再確認し、テキストや資料等を読む。(20分)
担当教員			
第2回	・各ゼミ活動において、フィールドワークの内容、方法、成果の発表等に関し、対話し、発表する。	・基礎ゼミⅢを受講した際の問題関心について考えをまとめておく。(25分)	・ゼミの資料やテキストを読み、自分の考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	・自然体験活動の実践者(「えこりん村学校」スタッフ)を招き、実践の詳細を提供いただき、学生と対話する。	・基礎ゼミⅢ全体の目標および方法について自分の考えをまとめておく。(25分)	・次回以後、学生自身でゼミナールを進めることができるよう、役割等決めておく。(20分)
担当教員			
第4回	・フィールド(恵庭市牧場「えこりん村」予定)について、各自で調べ、対話する。	・自分自身の興味や関心の幅をさらに広げる。(25分)	・ゼミ活動をふまえ、「えこりん村」スタッフと連絡を取り合い、フィールドワークのすすめ方について確認を行う。(20分)
担当教員			

第5回	・各ゼミ活動において、それぞれの課題にもとづき、テキストを読み、対話・討論する。	・自分の関心を深め、広げる文献等を探し、読んでおく。(25分)	・これまでに収集した資料の整理を行う。(20分)
担当教員			
第6回	・フィールドワークを見据え、テキストの内容をよく理解し、フィールドでの活動が豊かになるように仲間と対話し、発表する。	・自分の課題をよりわかりやすく報告できるようレジュメの作成を行う。(25分)	・ゼミ活動で対話した内容をふりかえり、自分の考えをまとめておく。(20分)
担当教員			
第7回	・フィールドワーク①:自然体験型教育プログラムに参加し、子どもに寄り添い活動する。	・フィールドワークに参加するため、当日の準備をしておく。(25分)	・フィールドワークで出た課題について、解決する方法を考える。(20分)
担当教員			
第8回	・フィールドワーク②:自然体験型教育プログラムに参加し、子どもの「遊びと学び」の姿を見とり、記録する。	・フィールドワークに向けて、各自が行うことをまとめておく。(25分)	・フィールドワークをふりかえり、見とった子どもの姿の記録をまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	・フィールドワークを通して見とった子どもの姿について各自紹介・発表し、対話する。	・フィールドワークの中で見とった子どもの姿について、わかりやすくまとめておく。(25分)	・ゼミ活動で対話した子どもの姿について、自分の記録をより豊かなものになるよう加筆する。(20分)
担当教員			
第10回	・子どもの姿を生き生きと記述するため、テキストを参照し、対話する。	・前回のフィールドワークの反省点を確認し、より良いフィールドワークになるよう課題点をあげておく。(25分)	・次回のフィールドワークに向け、前回の反省を確認し、まとめる。(20分)
担当教員			

第11回	・フィールドワーク③:子どもたちとともに活動し、あらたな活動における子どもの姿を見とり、記録する。	・フィールドワーク③に向け、仲間と協力し、インタビューの内容および方法についてまとめる。(25分)	・フィールドワーク③の結果(5W1H)を記録しておく。(20分)
担当教員			
第12回	・フィールドワーク④:フィールドワーク④の中で見とった子どもの姿について記録する。	・フィールドワーク④に向け、前回からの課題点を整理しておく。(25分)	・フィールドワーク④の結果(5W1H)を記録しておく。(20分)
担当教員			
第13回	・フィールドワークの成果発表に向け、発表内容を協同的に編集する。	・成果の発表会に向け、わかりやすい説明のための準備を行う。(25分)	・成果の発表会に向け、フィールドワークへの協力者に対する案内文書を作成し、送付する。(20分)
担当教員			
第14回	・成果の発表(1):フィールドワークによって発見した自然体験型教育プログラムの学びの意義と、子どもたちの姿について発表し、対話する。	・成果の発表会に向け、データの確認を行う。(25分)	・他のゼミの成果発表を聞いて、考えたことをまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	・成果の発表(2):他のゼミ生の発表内容と照らし合わせ、フィールドワークで得たことの意味を考え、学び合う。	・成果の発表会に向け、他の発表への質問を考える。(25分)	・15回のゼミを振り返り、自分の課題を、フィールドワークと関連づけて考え、まとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.フィールドワークへの意欲的参加(40%) 2.発表(30%) 3.その他提出物等(30%)	

その他	0	
教科書		
・ゼミ毎に資料を配布する。		
参考文献		
・レイチェル・カーソン(上遠恵子1996)『センス・オブ・ワンダー』新潮社.ほか		
履修条件・留意事項等		
・自然環境豊かな恵庭市牧場の「えこりん村」に行き、小学生といっしょに遊び、活動するフィールドワークを2回(6月～7月の日曜日(10:00-14:00)2回)予定しています。		
備考欄		
授業テーマによっては、現代教育の課題に取り組むゲストスピーカーを招聘し、学生の皆さんと対話していただきます。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナールⅢ(加藤 裕明)				ナンバリング	2202
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	加藤 裕明						
授業の位置づけ							
①「基礎ゼミナールⅢ」(以下、基礎ゼミⅢ)は、初年次教育の一環として、将来の保育や教育にたずさわる者としての望ましいあり方を探究する科目である。 ②ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。」と特に関係のある科目である。 ③基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ(1年次)のスキルをさらに高める科目で、「こども学総合演習」(3年)、「卒業研究」(4年)、「教職実践演習」等の基礎となる科目である。							
授業の概要							
①基礎ゼミⅢでは、自分の問題関心を広げる文献を読み、理解する力を養う。 ②他の受講者と共に対話し、考え、意見を交わすことにより豊かな表現力を身につける。 ③自然体験活動のできるフィールド(恵庭市牧場「えこりん村」予定)に出かけ、子どもたちとともに活動する。そして、子どもの遊びと学びを見とる力を養い、将来の教育者・保育者としての豊かな人間性を身につける。							
到達目標							
① フィールドワークにおいて、子どもとともに活動するための基本的な資質を身につける。 ②フィールドワークにおいて、子どもの遊びと学びの姿を見とり、それをもとに他者と対話し、考えることができる。 ③ 子どもの姿を中心において、仲間とともに考え、意見を傾聴し、全体場で発表することができる。							
授業の方法							
すべての授業は基本、アクティブラーニングを軸に進める。具体的には以下のような学習活動によって進める。 ①パワーポイントによるテーマの提示と、学生同士の対話的な学びによって進める。 ②フィールドワークを企画し、子どもとともに活動する。 ③自然体験活動の経験を通して、「遊びと学び」を通して見とった子どもの姿を発表する。							
ICT活用							
eラーニングのプラットフォームを活用し、レポート提出や発表用資料の作成等自主学習支援を行う。また、活動成果の発表に向け、その過程を仲間と共有し、協同編集作業を行うよう、双方向的に授業を進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

・担当者は、幼稚園、小学校、高等学校等での勤務経験にもとづき、具体的な子どもの言葉や姿を見とることから、学びのプログラムを構想し、実践してきた。そして、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。これらの思考と経験を生かし、学生諸君が、子どもとともに活動し、子どもの姿や言葉から学ぶことを軸に、演習や活動を構成する。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回ゼミナールの最初に前回のフィードバックを行う。そのフィードバックをふまえ、学生自身がファシリテータとなって、学びの過程を参加者間で共有し、主体的、探究的に学びを深め合う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・ガイダンス：担当者(教師)からゼミナール(以下ゼミ)の趣旨及び内容のあらましを紹介する。 ・各ゼミ(グループ)に分かれ、フィールドワークでどのような活動を行いたいのか、学生間で対話する。	・シラバスを読んでおく。(25分)	・ゼミの日程を再確認し、テキストや資料等を読む。(20分)
担当教員			
第2回	・各ゼミ活動において、フィールドワークの内容、方法、成果の発表等に関し、対話し、発表する。	・基礎ゼミⅢを受講した際の問題関心について考えをまとめておく。(25分)	・ゼミの資料やテキストを読み、自分の考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	・自然体験活動の実践者(「えこりん村学校」スタッフ)を招き、実践の詳細を提供いただき、学生と対話する。	・基礎ゼミⅢ全体の目標および方法について自分の考えをまとめておく。(25分)	・次回以後、学生自身でゼミナールを進めることができるよう、役割等決めておく。(20分)
担当教員			
第4回	・フィールド(恵庭市牧場「えこりん村」予定)について、各自で調べ、対話する。	・自分自身の興味や関心の幅をさらに広げる。(25分)	・ゼミ活動をふまえ、「えこりん村」スタッフと連絡を取り合い、フィールドワークのすすめ方について確認を行う。(20分)
担当教員			

第5回	・各ゼミ活動において、それぞれの課題にもとづき、テキストを読み、対話・討論する。	・自分の関心を深め、広げる文献等を探し、読んでおく。(25分)	・これまでに収集した資料の整理を行う。(20分)
担当教員			
第6回	・フィールドワークを見据え、テキストの内容をよく理解し、フィールドでの活動が豊かになるように仲間と対話し、発表する。	・自分の課題をよりわかりやすく報告できるようレジュメの作成を行う。(25分)	・ゼミ活動で対話した内容をふりかえり、自分の考えをまとめておく。(20分)
担当教員			
第7回	・フィールドワーク①:自然体験型教育プログラムに参加し、子どもに寄り添い活動する。	・フィールドワークに参加するため、当日の準備をしておく。(25分)	・フィールドワークで出た課題について、解決する方法を考える。(20分)
担当教員			
第8回	・フィールドワーク②:自然体験型教育プログラムに参加し、子どもの「遊びと学び」の姿を見とり、記録する。	・フィールドワークに向けて、各自が行うことをまとめておく。(25分)	・フィールドワークをふりかえり、見とった子どもの姿の記録をまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	・フィールドワークを通して見とった子どもの姿について各自紹介・発表し、対話する。	・フィールドワークの中で見とった子どもの姿について、わかりやすくまとめておく。(25分)	・ゼミ活動で対話した子どもの姿について、自分の記録をより豊かなものになるよう加筆する。(20分)
担当教員			
第10回	・子どもの姿を生き生きと記述するため、テキストを参照し、対話する。	・前回のフィールドワークの反省点を確認し、より良いフィールドワークになるよう課題点をあげておく。(25分)	・次回のフィールドワークに向け、前回の反省を確認し、まとめる。(20分)
担当教員			

第11回	・フィールドワーク③:子どもたちとともに活動し、あらたな活動における子どもの姿を見とり、記録する。	・フィールドワーク③に向け、仲間と協力し、インタビューの内容および方法についてまとめる。(25分)	・フィールドワーク③の結果(5W1H)を記録しておく。(20分)
担当教員			
第12回	・フィールドワーク④:フィールドワーク④の中で見とった子どもの姿について記録する。	・フィールドワーク④に向け、前回からの課題点を整理しておく。(25分)	・フィールドワーク④の結果(5W1H)を記録しておく。(20分)
担当教員			
第13回	・フィールドワークの成果発表に向け、発表内容を協同的に編集する。	・成果の発表会に向け、わかりやすい説明のための準備を行う。(25分)	・成果の発表会に向け、フィールドワークへの協力者に対する案内文書を作成し、送付する。(20分)
担当教員			
第14回	・成果の発表(1):フィールドワークによって発見した自然体験型教育プログラムの学びの意義と、子どもたちの姿について発表し、対話する。	・成果の発表会に向け、データの確認を行う。(25分)	・他のゼミの成果発表を聞いて、考えたことをまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	・成果の発表(2):他のゼミ生の発表内容と照らし合わせ、フィールドワークで得たことの意味を考え、学び合う。	・成果の発表会に向け、他の発表への質問を考える。(25分)	・15回のゼミを振り返り、自分の課題を、フィールドワークと関連づけて考え、まとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.フィールドワークへの意欲的参加(40%) 2.発表(30%) 3.その他提出物等(30%)	

その他	0	
教科書		
・ゼミ毎に資料を配布する。		
参考文献		
・レイチェル・カーソン(上遠恵子1996)『センス・オブ・ワンダー』新潮社.ほか		
履修条件・留意事項等		
・自然環境豊かな恵庭市牧場の「えこりん村」に行き、小学生といっしょに遊び、活動するフィールドワークを2回(6月～7月の日曜日(10:00-14:00)2回)予定しています。		
備考欄		
授業テーマによっては、現代教育の課題に取り組むゲストスピーカーを招聘し、学生の皆さんと対話していただきます。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎ゼミナールⅢ(村越 含博)				ナンバリング	2202
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	村越 含博						
授業の位置づけ							
①「基礎ゼミナールⅢ」(以下、基礎ゼミⅢ)は、初年次教育の一環として、将来の保育や教育にたずさわる者としての望ましいあり方を探究する科目である。 ②ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。」と特に関係のある科目である。 ③基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ(1年次)のスキルをさらに高める科目で、「こども学総合演習」(3年)、「卒業研究」(4年)、「教職実践演習」等の基礎となる科目である。							
授業の概要							
①基礎ゼミⅢでは、自分の問題関心を広げる文献を読み、理解する力を養う。 ②他の受講者と共に対話し、考え、意見を交わすことにより豊かな表現力を身につける。 ③自然体験活動のできるフィールド(恵庭市牧場「えこりん村」予定)に出かけ、子どもたちとともに活動する。そして、子どもの遊びと学びを見とる力を養い、将来の教育者・保育者としての豊かな人間性を身につける。							
到達目標							
① フィールドワークにおいて、子どもとともに活動するための基本的な資質を身につける。 ②フィールドワークにおいて、子どもの遊びと学びの姿を見とり、それをもとに他者と対話し、考えることができる。 ③ 子どもの姿を中心において、仲間とともに考え、意見を傾聴し、全体場で発表することができる。							
授業の方法							
すべての授業は基本、アクティブラーニングを軸に進める。具体的には以下のような学習活動によって進める。 ①パワーポイントによるテーマの提示と、学生同士の対話的な学びによって進める。 ②フィールドワークを企画し、子どもとともに活動する。 ③自然体験活動の経験を通して、「遊びと学び」を通して見とった子どもの姿を発表する。							
ICT活用							
eラーニングのプラットフォームを活用し、レポート提出や発表用資料の作成等自主学習支援を行う。また、活動成果の発表に向け、その過程を仲間と共有し、協同編集作業を行うよう、双方向的に授業を進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

・担当者は、幼稚園、小学校、高等学校等での勤務経験にもとづき、具体的な子どもの言葉や姿を見とることから、学びのプログラムを構想し、実践してきた。そして、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。これらの思考と経験を生かし、学生諸君が、子どもとともに活動し、子どもの姿や言葉から学ぶことを軸に、演習や活動を構成する。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回ゼミナールの最初に前回のフィードバックを行う。そのフィードバックをふまえ、学生自身がファシリテータとなって、学びの過程を参加者間で共有し、主体的、探究的に学びを深め合う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・ガイダンス：担当者(教師)からゼミナール(以下ゼミ)の趣旨及び内容のあらましを紹介する。 ・各ゼミ(グループ)に分かれ、フィールドワークでどのような活動を行いたいのか、学生間で対話する。	・シラバスを読んでおく。(25分)	・ゼミの日程を再確認し、テキストや資料等を読む。(20分)
担当教員			
第2回	・各ゼミ活動において、フィールドワークの内容、方法、成果の発表等に関し、対話し、発表する。	・基礎ゼミⅢを受講した際の問題関心について考えをまとめておく。(25分)	・ゼミの資料やテキストを読み、自分の考えをまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	・自然体験活動の実践者(「えこりん村学校」スタッフ)を招き、実践の詳細を提供いただき、学生と対話する。	・基礎ゼミⅢ全体の目標および方法について自分の考えをまとめておく。(25分)	・次回以後、学生自身でゼミナールを進めることができるよう、役割等決めておく。(20分)
担当教員			
第4回	・フィールド(恵庭市牧場「えこりん村」予定)について、各自で調べ、対話する。	・自分自身の興味や関心の幅をさらに広げる。(25分)	・ゼミ活動をふまえ、「えこりん村」スタッフと連絡を取り合い、フィールドワークのすすめ方について確認を行う。(20分)
担当教員			

第5回	・各ゼミ活動において、それぞれの課題にもとづき、テキストを読み、対話・討論する。	・自分の関心を深め、広げる文献等を探し、読んでおく。(25分)	・これまでに収集した資料の整理を行う。(20分)
担当教員			
第6回	・フィールドワークを見据え、テキストの内容をよく理解し、フィールドでの活動が豊かになるように仲間と対話し、発表する。	・自分の課題をよりわかりやすく報告できるようレジュメの作成を行う。(25分)	・ゼミ活動で対話した内容をふりかえり、自分の考えをまとめておく。(20分)
担当教員			
第7回	・フィールドワーク①:自然体験型教育プログラムに参加し、子どもに寄り添い活動する。	・フィールドワークに参加するため、当日の準備をしておく。(25分)	・フィールドワークで出た課題について、解決する方法を考える。(20分)
担当教員			
第8回	・フィールドワーク②:自然体験型教育プログラムに参加し、子どもの「遊びと学び」の姿を見とり、記録する。	・フィールドワークに向けて、各自が行うことをまとめておく。(25分)	・フィールドワークをふりかえり、見とった子どもの姿の記録をまとめる。(20分)
担当教員			
第9回	・フィールドワークを通して見とった子どもの姿について各自紹介・発表し、対話する。	・フィールドワークの中で見とった子どもの姿について、わかりやすくまとめておく。(25分)	・ゼミ活動で対話した子どもの姿について、自分の記録をより豊かなものになるよう加筆する。(20分)
担当教員			
第10回	・子どもの姿を生き生きと記述するため、テキストを参照し、対話する。	・前回のフィールドワークの反省点を確認し、より良いフィールドワークになるよう課題点をあげておく。(25分)	・次回のフィールドワークに向け、前回の反省を確認し、まとめる。(20分)
担当教員			

第11回	・フィールドワーク③:子どもたちとともに活動し、あらたな活動における子どもの姿を見とり、記録する。	・フィールドワーク③に向け、仲間と協力し、インタビューの内容および方法についてまとめる。(25分)	・フィールドワーク③の結果(5W1H)を記録しておく。(20分)
担当教員			
第12回	・フィールドワーク④:フィールドワーク④の中で見とった子どもの姿について記録する。	・フィールドワーク④に向け、前回からの課題点を整理しておく。(25分)	・フィールドワーク④の結果(5W1H)を記録しておく。(20分)
担当教員			
第13回	・フィールドワークの成果発表に向け、発表内容を協同的に編集する。	・成果の発表会に向け、わかりやすい説明のための準備を行う。(25分)	・成果の発表会に向け、フィールドワークへの協力者に対する案内文書を作成し、送付する。(20分)
担当教員			
第14回	・成果の発表(1):フィールドワークによって発見した自然体験型教育プログラムの学びの意義と、子どもたちの姿について発表し、対話する。	・成果の発表会に向け、データの確認を行う。(25分)	・他のゼミの成果発表を聞いて、考えたことをまとめる。(20分)
担当教員			
第15回	・成果の発表(2):他のゼミ生の発表内容と照らし合わせ、フィールドワークで得たことの意味を考え、学び合う。	・成果の発表会に向け、他の発表への質問を考える。(25分)	・15回のゼミを振り返り、自分の課題を、フィールドワークと関連づけて考え、まとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1.フィールドワークへの意欲的参加(40%) 2.発表(30%) 3.その他提出物等(30%)	

その他	0	
教科書		
・ゼミ毎に資料を配布する。		
参考文献		
・レイチェル・カーソン(上遠恵子1996)『センス・オブ・ワンダー』新潮社.ほか		
履修条件・留意事項等		
・自然環境豊かな恵庭市牧場の「えこりん村」に行き、小学生といっしょに遊び、活動するフィールドワークを2回(6月～7月の日曜日(10:00-14:00)2回)予定しています。		
備考欄		
授業テーマによっては、現代教育の課題に取り組むゲストスピーカーを招聘し、学生の皆さんと対話していただきます。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 学びの理解					
科目名		基礎音楽				ナンバリング	2208
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	西野 美穂						
授業の位置づけ							
大学における学修の基礎的な能力を身につけるための科目である。変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになるための科目である。学生が将来、保育者として、子ども達と楽しく音楽活動ができるようになるために、必要な音楽の基礎的知識を身につけるための科目である。子育て支援者としての基本的な技能・表現力を身につけるための科目である。 「表現Ⅰ 幼児音楽1, 2」、「保育内容指導法(音楽表現1, 2)」、「教科教育法音楽」、「総合表現音楽Ⅰ, Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
この授業では保育における器楽演奏や歌唱指導などの音楽活動に必要な読譜や音楽表現の基礎知識を学ぶ。ピアノ学習や弾き歌いの練習を円滑に進めるために必要な読譜の知識を習得するために音楽理論(楽典)の基礎を学ぶ。さらに、子どもの遊びや、育みたい資質や能力を支援するために必要な音楽知識・技能を学び、豊かな感性を表現する力を実践的に習得する。							
到達目標							
○ 読譜(楽譜を読むこと)のための「きまり」である楽典の基礎的な知識が身につき、初めての曲でも演奏できる。 ○ 簡単な記譜(楽譜を書くこと)ができる。 ○ さまざまな音楽の鑑賞を通して知識を深め、豊かな感性をもって楽しく音楽活動ができる。							
授業の方法							
板書と配布印刷物を活用しながら講義形式ですすめる。必要に応じて楽器を使い、グループで音を実際に出して理解を深める。視聴覚メディア(CDやDVD)を活用してさまざまな音楽を鑑賞し、芸術的感性を育む。							
ICT活用							
google classroomを活用し、情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、実践的な音楽教育について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして授業内で行う小テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ・楽譜の基礎知識について。 ・なぜ楽典が必要であるかの説明。 音の高さ① ・五線と加線、音部記号の種類(ト音記号、ヘ音記号)、さまざまな譜表(大譜表、アルト譜表など)を理解する。 ・五線譜に音符や音部記号が正確に書けるようにする。	・シラバスを読んで、本科目の内容を把握しておくこと ・教科書のp28～p31を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げ、ト音記号、ヘ音記号が正確に書けるようにしておくこと(90分)
担当教員			
第2回	音の高さ② ・音名(日本語、イタリア語、ドイツ語、英語)が正確に読めるようにする。 ・変化記号(＃、ｂなど)、異名同音、幹音と派生音について理解する。・変化記号の効力について理解する。 ・楽譜を書く練習をする。 音楽鑑賞1 ・ルネサンスとバロック時代の音楽	教科書のp32～p39を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第3回	音の長さ① ・音符と休符、付点音符と付点休符、タイ、連符について理解する。 ・楽譜を書く練習をする。 音楽鑑賞2 ・バロック時代の音楽(バッハ)	教科書のp20～p25を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第4回	音の長さ② ・拍子、縦線と小節、拍子記号、いろいろな拍子、弱起と強起について理解する。 音楽鑑賞3 ・古典派時代の音楽①(モーツァルト)	教科書のp20～p25を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			

第5回	音の長さ③ ・拍子の復習。 ・リズム譜によるリズム打ちをする。 ・カホンを使って強弱拍の理解を深める。 ・グループでリズム譜を見て練習する。 音楽鑑賞4 ・古典派時代の音楽②(ベートーヴェン)	教科書のp26～p27を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第6回	音程① ・音程の度数の数え方、音程の種類(長短系・完全系)について理解する。 音楽鑑賞5 ・ロマン派時代の音楽①(シューベルト、シューマン)	教科書のp82～p84を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第7回	音程② ・2音間の音程の度数を数え、音程の転回について理解する。 音楽鑑賞6 ・ロマン派時代の音楽②(ショパン)	教科書のp85～p93を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第8回	音階① ・音階(長音階)について理解する。主音、属音、下屬音、導音の役割、調号について理解する。 音楽鑑賞7 ・近現代の音楽(ドビュッシー、ラヴェル)	教科書のp96～p107を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第9回	音階② ・短音階(自然的、和声的、旋律的短音階)について理解する。 音楽鑑賞8 ・近現代の曲音楽(バルトーク、ストラヴィンスキー)	教科書のp108～p118を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第10回	音階③ ・移調、転調、関係調について理解する。簡単なメロディーを移調する練習をする。 音楽鑑賞9 ・邦楽(雅楽、民謡)	教科書のp123～p130を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			

第11回	音楽の記号 ・強弱記号、速度記号、奏法に関する記号、曲想に関する記号、反復記号について理解する。 音楽鑑賞10 ・世界の民族音楽	教科書のp44～p71を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第12回	和音① ・三和音、和音記号、三和音の種類、七の和音、転回、終止について理解する。ピアノを用いて和音の聴音をし、響きの違いを理解する。 音楽鑑賞11 ・オペラ、ミュージカル	教科書のp134～p149を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第13回	和音② ・コード・ネーム、メジャーコード、マイナーコードについて理解する。 ・ピアノでコードを弾いて響きを確認する。	教科書のp151～p157を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第14回	和音③ ・コードの活用(コードの転回形、伴奏付けの実際) C、F、G のコードで簡単なこどもの歌が伴奏できるようになるまでコードに慣れる。	教科書のp158～p159を読んでおくこと(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
第15回	まとめ ・今までの授業内容を確認する。 確認テストを行う。	今までの授業の中で理解できていない部分を復習しておく(90分)	配布されたプリントを仕上げておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	必要に応じた授業中の小テスト、課題レポート提出、授業態度	

その他	50	第15回の授業内で確認テストをする。
教科書		
音楽通論(教芸音楽研究グループ編)教育芸術社 こどもの歌曲200選 ドレミ楽譜出版社		
参考文献		
実用楽典(澤野立次郎編) ドレミ出版社		
履修条件・留意事項等		
必ず、五線ノートを用意すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 教育と保育の理解					
科目名		保育原理				ナンバリング	2222
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。「保育者論」、「保育方法の理論と実践」へとつながる科目である。							
授業の概要							
保育の意義や目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領の内容理解を図る。保育の歴史や保育・教育思想や子ども観、保育観のとらえ方と歴史の変容を学ぶ。さらに、日本の保育の現状と問題点を理解し、子育て困難な状況など子どもを取り巻く今日的課題への理解を深める。							
到達目標							
(1) 保育の意義と目的を理解し、「保育」と「養護」および「教育」の関係を説明できる。 (2) 保育の歴史の変遷について論じることができる。 (3) 保育の思想について論じることができる。							
授業の方法							
教科書、プリントを使用した講義形式で行う。必要に応じてDVDなどの映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でwebによるリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。第15回の授業で日本の保育・幼児教育の課題についてグループワークを通して考え合い、発表する。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業内で配布するリアクションペーパーに記入された受講生の意見・感想等を共有、フィードバックする時間を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	保育の意義 「保育」「教育」という語の意味～根源的な営みとしての保育・教育 「保育」概念に含まれる「養護」と「教育」の関連	授業のテーマについて教科書、資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてまとめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第2回	保育の理念① 子どもの最善の利益～「児童憲章」、「子どもの権利に関する条約」 生涯学習社会における乳幼児期	授業のテーマについて教科書、資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてまとめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第3回	保育の理念② 子どもの発達特性と保育の内容・方法・計画の基本的な考え方	授業のテーマについて教科書、資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてまとめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第4回	保育の理念③ 家庭における育児機能、地域社会における教育機能 教育の諸要素としての学校、家庭、地域の相互関係	授業のテーマについて教科書、資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてまとめ、整理を行う(90分)
担当教員			

第5回	保育の歴史① 近代家族と保育制度の成立、明治期の保育施設と幼稚園の普及	授業のテーマについて教科書、資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてまとめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第6回	保育の歴史② 大正・昭和期の保育～幼稚園令の制定、新教育運動、セツメント運動、戦時体制下の保育と戦後の保育制度	授業のテーマについて教科書、資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてまとめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第7回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の構造と歴史的変遷	授業のテーマについて教科書、資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてまとめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第8回	日本の保育思想① 江戸期における子育て論及び養育施設の萌芽～貝原益軒、佐藤信淵 明治期における学制公布、幼稚園の誕生と保育思想	授業のテーマについて教科書、資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてまとめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第9回	日本の保育思想② 幼稚園の普及と幼児教育思想の発展、貧民救済としての託児事業	授業のテーマについて教科書、資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてまとめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第10回	日本の保育思想③ 大正期における保育思想～倉橋惣三による誘導保育論の形成、城戸幡太郎による児童中心主義批判	授業のテーマについて教科書、資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてまとめ、整理を行う(90分)
担当教員			

第11回	欧米の保育思想①ヒューマニズム思想と子ども中心主義 近代教育の父～コメニウス、子どもの発見者～ルソー	授業のテーマについて教科書、 資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてま とめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第12回	欧米の保育思想②ヒューマニズム思想と子ども中心主義 貧民救済～ペスタロッチ、幼稚園の創始～フレーベル	授業のテーマについて教科書、 資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてま とめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第13回	欧米の保育思想③子どもの人権、科学的保育・教育学の 時代 子どもの人権～ケイ、児童中心主義教育・経験主義教育 ～デューイ、保育の科学的研究～モンテッソーリ、子どもの 自己中心性～ピアジェ	授業のテーマについて教科書、 資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてま とめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第14回	諸外国の保育・幼児教育の現状と動向	授業のテーマについて教科書、 資料を参考にして調べる(90分)	授業内のキーワードについてま とめ、整理を行う(90分)
担当教員			
第15回	日本の保育・幼児教育の現状と動向:子ども・子育てを取り 巻く社会の変化と保育・幼児教育の課題(グループワーク)	授業のテーマについて教科書、 資料を参考にして調べる(90分)	保育原理の到達目標と自己の 理解について振り返りを行う(90 分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	レポート(60%)、授業内のリアクションペーパー(30%)、授業参加の態度(10%)	

その他	0	なし
教科書		
『最新保育資料集』2023、大豆生田啓友ほか、ミネルヴァ書房、(4月～5月発売予定)		
参考文献		
適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
授業内で配布するリアクションペーパーは、成績評価の対象となるものであるため、必ず提出のこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 こども支援					
科目名		社会福祉				ナンバリング	2250
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木 幸雄						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる」と関連する科目である。 また、保育・教育の基礎的な専門知識を身に付けるための専門基礎科目である。社会福祉の理念や社会問題の構造を理解することで、「ども家庭福祉」や「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」「こども家庭支援論」「子育て支援」等の基盤となる科目である。							
授業の概要							
本科目では、社会問題発生のメカニズムを学び、現代における社会福祉の意義と役割を理解する。社会福祉の歴史・制度・行財政を基にした社会福祉サービスの展開について概観するとともに地域社会にとっての社会福祉の意味やグローバル下での社会福祉の在り方についても検討する。							
到達目標							
1. 私たちの生活の中に「社会福祉」が、どのように位置づいているかを理解し、述べることができる。 2. 「社会福祉」の様々な側面を知り、社会の安心を図るための方策を考えることができる。 3. 「社会福祉」実践の実際を知り、保育士としての在り方を考えることができる。 4. 社会福祉の専門職としての基本的な知識を身に付け、実践につなげるよう考えることができる。							
授業の方法							
配布印刷物等とテキストを用いて講義形式で行う。一部に、映像視聴による補足を行い、理解度の確認を含めてリアクションペーパー等を使用する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

社会福祉施設において児童指導員の勤務経験があり、社会福祉・こども家庭福祉・社会的養護について知識を有している。この経験を活かして教育を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして提出物等の返却の際に、解説を加える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業のオリエンテーション : 授業の進め方や評価方法などを説明する (現代社会の変化と社会福祉) : (少子高齢社会、家族の動向、社会的不平などを学ぶ)	準備学習: 指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習: 講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	社会福祉の意義と理念: 語義の変遷、一般的概念、基本理念などを学ぶ	準備学習: 指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習: 講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	社会福祉の史的発展①: イギリスの社会福祉の歴史を学ぶ	準備学習: 指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習: 講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	社会福祉の史的発展②: アメリカと日本の社会福祉の歴史を学ぶ	準備学習: 指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習: 講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	社会福祉の法と実施体制:法体系、実施体制、財政の概要を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	社会福祉と児童・家庭の問題①:児童福祉の概念、子育て支援対策(保育対策)と子どもの貧困問題の概要を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	社会福祉と児童・家庭の問題②:ひとり親家庭対策(DV問題)と母子保健対策の概要を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	社会福祉と児童・家庭の問題③:子どもの虐待防止対策と社会的養護対策の概要を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	社会福祉と障害児・者の問題:障害児・者の福祉動向、福祉対策などの概要を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	社会福祉と高齢者の問題:高齢者の定義、高齢者の福祉対策などの概要を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	社会福祉と貧困の問題: 貧困の現状、生存権、公的扶助、生活保護制度の概要を学ぶ	準備学習: 指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習: 講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	社会福祉と地域福祉の推進: 地域福祉の動向、社会福祉協議会の活動、利用者保護制度の概要を学ぶ	準備学習: 指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習: 講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第13回	相談援助活動と社会福祉専門職: 相談援助活動の体系、福祉専門職制度の概要を学ぶ	準備学習: 指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習: 講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	日本の社会保障制度: 社会保障の概念、年金保険、医療保険、介護保険などの概要を学ぶ	準備学習: 指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習: 講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	日本の社会福祉の動向と今後の課題: 少子化・高齢化問題、格差・貧困・不平等問題、地域共生社会の創出に向けた課題などを学ぶ	準備学習: 指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習: 講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート80%、リアクションペーパー10%、授業参加状況10%	

その他	0	
教科書		
改訂現代の社会福祉 鈴木幸雄編著 中央法規出版		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
常日頃より社会福祉問題や社会経済的問題について関心を寄せていることが望まれる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 こども支援					
科目名		障がい児保育 I (1組)				ナンバリング	2262
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障害を有するこどもについての基本的な知識を身につける」と特に関係する科目である。 「障がい児保育Ⅱ」、「重複障がい教育総論」に関連する科目である。							
授業の概要							
保育所、幼稚園、認定こども園などで保育者が対峙するであろう障がいのある子を含めた「配慮が必要な子ども」をどのように理解し、それを踏まえどのように対応していくのかを思考するための力を身につける。							
到達目標							
・障がいや特別な配慮を必要とする子どもの特徴について説明ができる。 ・保育実践において障がいや特別な配慮を必要とする子どもへ配慮ができる。 ・障がいや特別な配慮を必要とする子どもを含めた保育実践を計画することができる。 ・障がいや特別な配慮を必要とする子どもへのかかわりについて工夫することができる。							
授業の方法							
基本的にはグループ学習、グループワーク、プレゼンテーションをセットにして実施する。 調査後、発表を行い全体で内容を共有する。 講義に関しては板書とパワーポイントなどを使用して進める。							
ICT活用							
Googleクラスルームを活用し、課題の提出やそれに対するフィードバックを行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

障害者施設や発達支援センターでの勤務経験があり、幼稚園や保育園への訪問をしていた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、各グループの発表に対してコメントをします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業の概要 授業の進め方、こちらが望む授業態度、科目を通しての到達目標などを説明。	障がい児保育の概要を調べておくこと。(25分)	障がい児保育についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	障がいの概念と歴史的変遷について:グループ学習 障がいの概念と歴史的変遷について調べる。	障がいの概念や歴史についての文献を探しておくこと。(25分)	障がいの概念や歴史についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	障がいの概念と歴史的変遷について:グループワーク 障がいの概念と歴史的変遷についてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第4回	障がいの概念と歴史的変遷について:プレゼンテーション 障がいの概念と歴史的変遷についてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	障がいの概念や歴史について振り返ること。(20分)
担当教員			

第5回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:グループ学習 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解について調べる。	地域社会への参加・包容及び合理的配慮についての文献を探しておくこと。(25分)	地域社会への参加・包容及び合理的配慮についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:グループワーク 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解についてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第7回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:プレゼンテーション 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解についてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	発達を促す生活や遊びの環境について文献を探しておくこと。(25分)	発達を促す生活や遊びの環境についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第8回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:グループ学習 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いについて知る。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第9回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:グループワーク 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いについてまとめ、プレゼンの準備をする。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第10回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:プレゼンテーション 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いについてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	発達を促す生活や遊びの環境について振り返ること。(20分)
担当教員			

第11回	視覚・聴覚・言語障害について:グループ学習 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴や診断基準、対応などがあるのか等について知る。	視覚・聴覚・言語障害について の文献を探しておくこと。(25分)	視覚・聴覚・言語障害について まとめておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	視覚・聴覚・言語障害について:グループワーク 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。 (25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第13回	視覚・聴覚・言語障害について:プレゼンテーション 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴などがあり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきなのかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	視覚・聴覚・言語障害について 振り返ること。(20分)
担当教員			
第14回	指導計画及び個別支援計画の作成:講義 指導計画や個別支援計画について知り、実際に作成を試みる。	障害児保育についての配布資料を読み、情報収集すること。 (25分)	実習に向け、障害児保育について 振り返ること。(20分)
担当教員			
第15回	まとめ:障がい児保育についてのまとめ 障がい特性などを踏まえて、実際にどのように保育を展開していくのか考える。	授業内容を振り返る。(25分)	障がい児保育についてまとめておく。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	プレゼンテーションの内容(80)、提出物(10)など	

その他	10	グループワークなどに対する取り組む姿勢(参加度、貢献度など)
教科書		
特に指定なし		
参考文献		
「気になる子」と言わない保育—こんなときどうする？考え方と手だて／赤木和重・岡村由紀子／ひとなる書房 子どものねがい・子どものなやみ乳幼児の発達と子育て〈改訂増補版〉／白石正久／クリエイツかもがわ 特別な配慮を必要とする子どもが輝くクラス運営：教える保育からともに学ぶ保育へ／松井剛太／中央法規		
履修条件・留意事項等		
この授業は、障がい児保育Ⅱと連動した授業になる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 こども支援					
科目名		障がい児保育 I (2組)				ナンバリング	2262
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障害を有するこどもについての基本的な知識を身につける」と特に関係する科目である。 「障がい児保育Ⅱ」、「重複障がい教育総論」に関連する科目である。							
授業の概要							
保育所、幼稚園、認定こども園などで保育者が対峙するであろう障がいのある子を含めた「配慮が必要な子ども」をどのように理解し、それを踏まえどのように対応していくのかを思考するための力を身につける。							
到達目標							
・障がいや特別な配慮を必要とする子どもの特徴について説明ができる。 ・保育実践において障がいや特別な配慮を必要とする子どもへ配慮ができる。 ・障がいや特別な配慮を必要とする子どもを含めた保育実践を計画することができる。 ・障がいや特別な配慮を必要とする子どもへのかかわりについて工夫することができる。							
授業の方法							
基本的にはグループ学習、グループワーク、プレゼンテーションをセットにして実施する。 調査後、発表を行い全体で内容を共有する。 講義に関しては板書とパワーポイントなどを使用して進める。							
ICT活用							
Googleクラスルームを活用し、課題の提出やそれに対するフィードバックを行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

障害者施設や発達支援センターでの勤務経験があり、幼稚園や保育園への訪問をしていた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、各グループの発表に対してコメントをします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業の概要 授業の進め方、こちらが望む授業態度、科目を通しての到達目標などを説明。	障がい児保育の概要を調べておくこと。(25分)	障がい児保育についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	障がいの概念と歴史的変遷について:グループ学習 障がいの概念と歴史的変遷について調べる。	障がいの概念や歴史についての文献を探しておくこと。(25分)	障がいの概念や歴史についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	障がいの概念と歴史的変遷について:グループワーク 障がいの概念と歴史的変遷についてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第4回	障がいの概念と歴史的変遷について:プレゼンテーション 障がいの概念と歴史的変遷についてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	障がいの概念や歴史について振り返ること。(20分)
担当教員			

第5回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:グループ学習 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解について調べる。	地域社会への参加・包容及び合理的配慮についての文献を探しておくこと。(25分)	地域社会への参加・包容及び合理的配慮についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:グループワーク 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解についてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第7回	地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解:プレゼンテーション 地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解についてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	発達を促す生活や遊びの環境について文献を探しておくこと。(25分)	発達を促す生活や遊びの環境についてまとめておくこと。(20分)
担当教員			
第8回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:グループ学習 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いについて知る。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第9回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:グループワーク 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いについてまとめ、プレゼンの準備をする。	配布資料の作成準備をすること。(25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第10回	発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い:プレゼンテーション 発達を促す生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合いについてそれぞれのグループでまとめたことを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	発達を促す生活や遊びの環境について振り返ること。(20分)
担当教員			

第11回	視覚・聴覚・言語障害について:グループ学習 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴や診断基準、対応などがあるのか等について知る。	視覚・聴覚・言語障害について の文献を探しておくこと。(25分)	視覚・聴覚・言語障害について まとめておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	視覚・聴覚・言語障害について:グループワーク 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴や診断基準、具体的な対応などについてまとめ、プレゼンの準備をする。	発表資料の作成準備をすること。 (25分)	プレゼンの準備をすること。(20分)
担当教員			
第13回	視覚・聴覚・言語障害について:プレゼンテーション 視覚・聴覚・言語障害にはどのような特徴などがあり、クラスなどに在籍していた場合、どのような対応、配慮をするべきなのかなどを発表する。	プレゼンの準備をすること。(25分)	視覚・聴覚・言語障害について 振り返ること。(20分)
担当教員			
第14回	指導計画及び個別支援計画の作成:講義 指導計画や個別支援計画について知り、実際に作成を試みる。	障害児保育についての配布資料を読み、情報収集すること。 (25分)	実習に向け、障害児保育について 振り返ること。(20分)
担当教員			
第15回	まとめ:障がい児保育についてのまとめ 障がい特性などを踏まえて、実際にどのように保育を展開していくのか考える。	授業内容を振り返る。(25分)	障がい児保育についてまとめておく。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	プレゼンテーションの内容(80)、提出物(10)など	

その他	10	グループワークなどに対する取り組む姿勢(参加度、貢献度など)
教科書		
特に指定なし		
参考文献		
「気になる子」と言わない保育ーこんなときどうする？考え方と手だて／赤木和重・岡村由紀子／ひとなる書房 子どものねがい・子どものなやみ乳幼児の発達と子育て〈改訂増補版〉／白石正久／クリエイツかもがわ 特別な配慮を必要とする子どもが輝くクラス運営: 教える保育からともに学ぶ保育へ／松井剛太／中央法規		
履修条件・留意事項等		
この授業は、障がい児保育Ⅱと連動した授業になる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 こども支援					
科目名		知的障がい者の心理・生理・病理				ナンバリング	2254
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷 岐子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関係する科目である。 特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修の科目である。知的障がい教育Ⅰ及びⅡの基礎となる。							
授業の概要							
知的発達の遅れ及び適応行動の困難さの要因となる病理面や心理面及び生理面の相互作用について学ぶ。また、観察や検査を通して一人一人の特性を把握することを理解し、家庭や医療機関との連携の重要性について理解する。							
到達目標							
1. 知的発達の遅れ及び適応行動の困難さの要因となる病理面や併存証・合併症と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。 2. 観察や検査を通して知的障害のある幼児、児童又は生徒一人一人の知的障がいの状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解している。 3. 家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。							
授業の方法							
パワーポイントとハンドアウト、視聴覚メディアを適時活用しながら授業内容を解説する。さらに、病弱教育についての理解を深めるための、グループ学習、体験学習、問題解決学習、ディスカッション等を取り入れる。							
ICT活用							
Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

臨床心理士/公認心理師として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事した実務経験を活かし、病弱教育に関する知識と理解、さらに、対応方法についての学びを提供する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	● オリエンテーション 講義の目的や内容、進め方についての説明を行い、15回の授業の展開を理解する。この授業で学ぶ知的障がい者の心理・生理・病理の概要を知る。	知的障害に関するこれまでの知識や経験を整理する。(90分)	配付された資料を基に、これからの授業の見通しをもつ。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	● 障害に対する考え方～ICFを元に考える ICIDHからICFへの変遷について学び、障がいとは何か、どのように捉えるべきであるのか、障がいを理解する枠組みを学び考える。	ICFについて調べる。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	● 知能とは何か 知的障がいの原因や、知的障がいがあることに気づかれるきっかけ、知的能力とは何か、について学ぶ。また、発達検査を紹介し、知的能力を理解する枠組を学ぶ。	教科書第1章(p2～p12)に目を通しておく。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容について、まとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第4回	● 知的障がいがあるこどもの心理面の特徴や適応上の困難 「ことばがなかなかおぼえられない」、「物事を記憶しておくことができない」などの特性について学習し、障がいのある子どもへの理解を深める。	教科書第2章(p34～p38)に目を通しておく。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第5回	●知的障がいがあるこどもの生理面や病理面の特徴 知的障がいのある子どもは、知能だけではなく、運動の発達にも遅れがあることがある。子どもの特徴に合わせてサポートしていくことを理解する。	教科書第1章(p26～p32)に目を通しておく。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	●知的障がいがあるこどもと家族や周囲の人との関係 家族や周囲の人との関係が、子どもの発達に大きな影響をもたらすことを理解する。また、子どもを育てる家族を支える事の意味について考察する。	教科書第3章(p76～p85)に目を通しておく。(90分)	配付プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第7回	●知的障がいがあるこどもの気持ち～体験を通して理解する 知的なおくれとはどのような体験なのか。いくつかの体験ワークを行う。自分が体験したことをグループで話し合い、さらに理解を深める。	第2回～第6回までの配布資料を見直して、考えを整理する。(90分)	配布プリントを見直して、授業で体験した事についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	●知的障がい者の心理・生理・病理の相互作用①(事例を通して理解する) 視聴覚教材視聴を通して、知能への理解、知的障がい児の心理・生理・病理の特徴についての知識を整理し、レポートにまとめて提出する。	これまで配付した資料に目を通しておく。(90分)	映像資料視聴後の感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	●知的障がい者の心理・生理・病理の相互作用②(事例を通して理解する) 視聴覚教材視聴を通して、知能への理解、知的障がい児の心理・生理・病理の特徴についての知識を整理し、レポートにまとめて提出する。	教科書第4章(p88～p95)に目を通しておく。(90分)	映像資料視聴後の感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第10回	●知的障がいがあるこどもや家庭を支援する支援者 知的障がいがある子どもや家族を支援する立場の人の経験や考えを知り、支援者の視点を学ぶ。	教科書資料編(p98～p110)に目を通しておく。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第11回	●知的障がいに関連する諸障害①(ダウン症) ダウン症候群とともにあるこどもと、そのこどもを育てる保護者の思いや願いについて、事例とともに理解する。	ダウン症候群について調べる。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容について、まとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	●知的障がいに関連する諸障害②(自閉スペクトラム症) 自閉スペクトラム症は、社会的コミュニケーションの困難さや、興味・関心の偏り、感覚の過敏さなどの、感覚の偏りに特徴がある。視聴覚教材等を活用しながら、理解を深める。	自閉スペクトラム症について調べる。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第13回	●知的障がいに関連する諸障害③(注意欠如・多動症) 注意欠如・多動症は、年齢に対して著しく不相应な注意散漫、多動、衝動性が見られる。視聴覚教材等を活用しながら、理解を深める。	注意欠如・多動性障害について調べる。(90分)	映像資料視聴後の感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	●知的障がいに関連する諸障害④(学習障害) 学習障害は、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す。視聴覚教材等を活用しながら理解を深める。	学習障害について調べる。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容について、まとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	●授業のまとめ:授業で獲得した知識や理解を定着させるこの授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認するテストとレポートを提出する。	講義で学んだことを確認する。(90分)	授業全体を通しての感想や意見をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(70%) 参加の積極性(30%)	

その他	0	
教科書		
こうすればうまくいく！ 知的障害のある子どもの保育 中央法規		
参考文献		
知的障害の心理学 小池俊英・北島善夫 編著 北大路書房		
履修条件・留意事項等		
この講義では、積極的な授業参加態度が求められる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 こども支援					
科目名		病弱者の心理・生理・病理				ナンバリング	2258
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷 岐子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がい者を有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関係する科目である。 特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修の科目である。病弱教育の基礎となる。							
授業の概要							
病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の病気(身体疾患や精神疾患)や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を把握することを理解するとともに、家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携について学ぶ。肢体不自由者への対応の基礎的な知識について、視聴覚教材を活用しながら、また、パワーポイントと配布印刷物を用い、講義形式とグループ学習を通して、総合的に学ぶ。							
到達目標							
1.病弱(身体虚弱を含む)の幼児、児童又は生徒の病気(身体疾患や精神疾患)や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。 2.観察や検査、医療機関からの情報提供を通して病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を把握することを理解している。 3.家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携の重要性について理解している。							
授業の方法							
パワーポイントとハンドアウト、視聴覚メディアを適時活用しながら授業内容を解説する。さらに、病弱教育についての理解を深めるための、グループ学習、体験学習、問題解決学習、ディスカッション等を取り入れる。							
ICT活用							
Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。また、Google Formのテスト作成機能を用いて課題を提示し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

臨床心理士/公認心理師として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事した実務経験から、肢体不自由者の心理・生理・病理についての基礎的な知識を、総合的に学ぶ授業を提供する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに評価やコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	●オリエンテーション 病弱者の心理・生理・病理について、その全体像を説明し、てんかん、小児がん、筋ジストロフィー、不登校などの概略にふれ、15回の授業内容を具体的に説明する。	病弱者の全体像について調べる。(90分)	配付された資料を基に、これからの授業の見通しをもつ。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	●病気のある児童生徒が学んでいる関係機関と病弱教育の仕組みや制度 病気のある児童生徒が学んでいる関係機関と病弱教育の仕組みや制度について学ぶ。視聴覚教材等を活用しながら理解を深め、児童生徒や、教師の言葉から、その心情の理解を深める。	院内学級について調べる。(90分)	視聴覚教材視聴後の感想をまとめる(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	●糖尿病の心理・生理・病理 糖尿病は、血糖値が高くなり、尿糖が出現し、数年以上の経過で高血糖による血管を中心にした全身の障害に進行する。近年、小児糖尿病も出現し、これらの児童生徒の心理・生理・病理について、視聴覚教材等を活用して理解を深め、困難さに対応する方法等を学ぶ。	糖尿病について調べる。(90分)	糖尿病について学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第4回	●てんかんの心理・生理・病理 てんかんは、脳機能不全による慢性疾患で、脳のニューロンの過剰な放電に由来する反復性の発作を主徴とし、その発作は、多種多様な所見を伴う。発作が起こる不安を抱えつつ生活する、児童生徒の心理・生理・病理について、視聴覚教材等を活用して理解を深め、困難さに対応する方法等を学ぶ。	てんかんについて調べる。(90分)	てんかんについて学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第5回	●気管支喘息の心理・生理・病理 気管支喘息は、笛声喘鳴を伴う、呼気性呼吸困難を繰り返す疾患であり、アレルギー、自律神経の異常、心理的要因、空気汚染など多くの要因が原因や誘因となる。児童生徒の心理・生理・病理について理解を深め、対応する方法等を学ぶ。	気管支喘息について調べる。(90分)	気管支喘息について学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	●腎・泌尿器疾患の心理・生理・病理 腎臓疾患のうち腎炎とネフローゼ症候群等を取り上げ、これらの児童生徒の心理・生理・病理について、視聴覚教材等を活用して理解を深め、そのことがもたらす困難さに対応する方法等を学ぶ。	腎臓疾患について調べる。(90分)	腎臓疾患について学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第7回	●筋ジストロフィーの心理・生理・病理 筋原性委縮疾患には、進行性筋ジストロフィー、先天性筋ジストロフィー、神経原性筋委縮性疾患のウェルドニヒホフマン病等があり、これらの児童生徒の生理・病理について、視聴覚教材等を活用して理解を深め、困難さに対応する方法等を学ぶ。	筋ジストロフィーについて調べる。(90分)	筋ジストロフィーについて学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	●小児がんの心理・生理・病理 小児がん(小児悪性腫瘍)には、白血病、脳腫瘍、神経芽腫、悪性リンパ腫などがあり、小児がんの児童生徒の生理・病理について、視聴覚教材等を活用しながら理解を深め、困難さに対応する方法等を学ぶ。	視聴覚教材から学んだことを話し合う。(90分)	視聴覚教材視聴後の感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	●不登校の心理・生理・病理 年間30日以上、学校を欠席した不登校児童生徒は、13万人以上おり、どの子どもにも、どの学校でも起こりうる。不登校児童生徒の心理・生理・病理について、視聴覚教材等を活用しながら理解を深め、その困難さに対応する方法等を学ぶ。	不登校について調べる。(90分)	不登校について学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第10回	●病弱者の心理・生理・病理に対する課題の発見 これまでの9回の授業で学んだ、小児がん、てんかん、気管支喘息、糖尿病、腎臓疾患、筋ジストロフィー、不登校等の心理・生理・病理に対して、各自がより詳しく調べてみたいこと、解決したい疑問等を見つけ出す作業を行う。調べる対象が一致した者同士で、小グループを編成する。	これまで学んできた内容を振り返り、特に印象に残っている内容を絞る。(90分)	各自が発見した課題の解決方法を考える。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第11回	●病弱者の心理・生理・病理に対する課題の解決①(グループ活動) 調べる対象が一致した者同士で編成した小グループ内で、各自がより詳しく調べてみたいこと、解決したい疑問等を伝え合い、それぞれの課題を解決する方法について、意見を交換する。課題解決方法の見通しができたグループから、指導教員に報告し、調査活動へと展開する。	各自の課題や解決方法について話し合う。(90分)	各自の課題の解決に向けて調査を進める。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	●病弱者の心理・生理・病理に対する課題の解決②(グループ活動) 調べる対象が一致した者同士で編成した小グループ内で、各自の調査の進捗状況を確認し合う。行き詰まりを抱えるメンバーがいれば、解決方法をメンバー全員で考える。課題解決方法の見通しができたグループから、指導教員に報告し、再度調査活動へと展開する。	各自の調査の進捗状況を話し合う。(90分)	各自の課題の解決に向けて調査を進める。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第13回	●病弱者の心理・生理・病理に対する理解と表現①(グループ活動) 調べる対象が一致した者同士で編成した小グループ内で、各自の調査の進捗状況を確認し合う。行き詰まりを抱えるメンバーがいれば、解決方法をメンバー全員で考える。さらに、ポスターセッションにむけての表現方法を話し合い、見通しができたグループから、指導教員に報告。表現活動準備へと展開する。	各自が調査した内容をどのように表現するか、考える。(90分)	表現の精度を高める。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	●病弱者の心理・生理・病理に対する理解と表現②(グループ活動) 調べる対象が一致した者同士で編成したグループごとに、ポスターを発表し、ディスカッションを行う。それと同時に、他のグループの発表を聞いて理解を深める。	ポスターセッションに向けて準備する。(90分)	自分のグループの発表や他のグループの発表についての感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	●まとめ この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認するテストを行う。	講義で使用した資料を振り返り、学んだ事を確認する。(90分)	授業全体を通しての感想及び意見をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(70%) グループ単位の発表活動及び、ディスカッションへの参加の積極性(30%)	

その他	0	なし
教科書		
必要な資料はその都度配付する。		
参考文献		
標準「病弱児の教育」テキスト【改訂版】一般社団法人日本育療学会		
履修条件・留意事項等		
この講義では、積極的な授業参加態度が求められる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 対象の理解					
科目名		こどもの食と栄養Ⅰ（1組）				ナンバリング	3330
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山森 栄美、小塚 美由記						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。【知識・技能】」に重点をおいた科目である。 関連科目は「こどもの食と栄養Ⅱ」であり、「こどもの保健」、「こどもの食育Ⅰ」の基礎となる。							
授業の概要							
こどもの健やかな心身の成長には、食生活が重要である。栄養に関する基本的な知識、こどもの発達段階ごとの栄養に関する留意点、食生活の現状と課題等を学ぶことによって食生活の重要性を理解する。また生涯にわたる心身の健康は、こどもの食生活を中心とする生活環境と深い関係があることを理解する。							
到達目標							
・小児期にとって、食生活のあり方や栄養素の摂取は、心身の成長に影響を与えることが説明できる。 ・小児栄養に関する基礎的な知識を述べることができる。 ・小児期に関わる専門職への認識を高め、自己の食生活を振り返り、見直すことができる。 ・こどもの食と栄養が、生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育んでいく基礎となるものであることを述べることができる。							
授業の方法							
パワーポイントや視聴覚メディアを用いて主に講義形式でおこなう。 アクティブラーニングとして1回目・15回目はグループワークを、7回目・8回目・12回目には実習を取り入れる。							
ICT活用							
Google classroomを活用した双方向授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりする。小テストは返却時に解説を行う。課題に対しては、適宜指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・学生自身の現在までの食生活と育ちを振り返り、「こどもの食と栄養」を学ぶ意義について学ぶ ・こどもの心身の健康と食生活について、日本人の健康や食生活上の問題を知り、こどもの食生活の現状と課題について学ぶ	シラバスを確認する。教科書 P.10～15を読む。(20分)	自分の食生活を「食生活指針」のワークシートで評価する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第2回	食育基本法について ・国民運動として食育推進の意義と必要性を学ぶ - こどもの発育・発達と食生活(1) ・身体発育、精神・運動機能発達と栄養・食生活について学ぶ	食育基本法、第3次食育推進基本計画について調べる。教科書 P.16、P171～172を読む。(20分)	各自の母子手帳を調べ、誕生から18歳までの身長と体重を成長曲線の上に記入する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第3回	食育の基本と内容(1) ・保育における食育の意義・目的と基本的考え方 ・発育・発達に応じて育てたい「食べる力」 ・就学前のこどもに対する食育の推進 ・保育所、幼稚園、認定こども園における食育	教科書P117～122を読む。(30分)	食育の基本に関するワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第4回	食育の基本と内容(2) ・食育の内容と計画及び評価 ・食育のための環境づくり ・地域の関係機関や職員間の連携 ・食生活指導及び食を通じた保護者への支援	教科書P117～122を読む。(30分)	食育の基本に関するワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		

第5回	こどもの発育・発達と食生活(2) ・食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活について学ぶ	教科書P17～21を読む。(20分)	こどもの発育・発達のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第6回	栄養に関する基本的知識(1) ・栄養素・栄養生理・代謝に関する基本的知識を学ぶ ・栄養とは何を意味するのか ・五大栄養素、食べ物の3つのはたらき、6つの基礎食品 ・栄養生理、エネルギー代謝	教科書P22～35を読む。(20分)	栄養に関する基本的知識のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第7回	栄養に関する基本的知識(2) ・日本人の食事摂取基準について、その意義と活用について学ぶ ・食事構成に関する基礎知識 ・食事バランスガイドから、自己の食事バランスをチェックする 小テスト1	小テスト範囲である第1～6回までの授業を復習する。 自分の食事1日分を記録する。 教科書P.36～38を読む。(20分)	日本人の食事摂取基準のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第8回	栄養に関する基本的知識(3) ・献立作成・調理の基本を学ぶ ・栄養価の算定 ・食品表示と食品の選択について学ぶ	教科書P38～47を読む。(20分)	栄養に関する基本的知識のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第9回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(1) 妊娠期(胎児期)の栄養と食生活 ・妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活について学ぶ ・妊娠期の栄養と胎児の成長 ・DOHaD仮説 ・授乳期の栄養	教科書P48～61を読む。(30分)	妊娠期の栄養と食生活について、ワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
第10回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(2) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 ・乳汁栄養・離乳の必要性和留意点 ・離乳食の進め方の目安 ・乳児期の栄養・食生活上の問題と保育者としての対応について学ぶ	教科書P62～75を読む。(20分)	乳汁栄養についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		

第11回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(3) 幼児期の心身の発達と食生活1 ・幼児期の心身の特徴と食生活について学ぶ ・食事と生活リズムについて ・供食上の注意点 ・間食の役割と必要性 ・う蝕について	教科書P76～81を読む。(20分)	離乳食の進め方についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
第12回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(4) 幼児期の心身の発達と食生活2 ・幼児の献立および調理上の留意点 ・お弁当について ・幼児期の栄養・食生活上の問題と保育者としての対応について学ぶ	教科書P82～89を読む。(20分)	幼児期の食生活についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
第13回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(5) 学童期・思春期の心身の発達と食生活 ・学童期・思春期の心身の特徴と食生活について学ぶ ・学童期・思春期の栄養・食生活上の問題と対応について学ぶ ・学校給食 ・栄養教諭制度について	教科書P90～105を読む。(20分)	学童期・思春期の食生活についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
第14回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(6) 生涯発達と食生活 ・生涯発達と加齢変化 ・成人期の栄養・食生活上の問題と健康への対応について学ぶ ・高齢期の栄養・食生活上の問題と健康への対応について学ぶ 特別な配慮を要するこどもの食と栄養(1) ・疾病および体調不良の子どもへの対応について学ぶ 小テスト2	小テスト範囲である第9～13回までの授業を復習する。 教科書P106～116、P144～148を読む。(20分)	成人期、高齢期の食生活、こどもの疾病についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
第15回	特別な配慮を要するこどもの食と栄養(2) ・食物アレルギーのある子どもへの対応について学ぶ ・障がいのある子どもへの対応について学ぶ	教科書P148～170を読む。(20分)	食物アレルギーのある子ども、障がいのある子どもへの対応についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト20%、ワークシート・課題70%、授業の参加態度10%	

その他	0	なし
教科書		
子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本／太田百合子、堤ちはる編著／羊土社 日本食品成分表2023 八訂／医歯薬出版編		
参考文献		
日本人の食事摂取基準[2020年版]／厚生労働省／第一出版		
履修条件・留意事項等		
保育士資格取得の必修科目 学習内容は、後期科目「こどもの食と栄養Ⅱ」に引き継ぐ		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 対象の理解					
科目名		こどもの食と栄養Ⅰ（3組）				ナンバリング	3330
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山森 栄美、小塚 美由記						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。【知識・技能】」に重点をおいた科目である。 関連科目は「こどもの食と栄養Ⅱ」であり、「こどもの保健」、「こどもの食育Ⅰ」の基礎となる。							
授業の概要							
こどもの健やかな心身の成長には、食生活が重要である。栄養に関する基本的な知識、こどもの発達段階ごとの栄養に関する留意点、食生活の現状と課題等を学ぶことによって食生活の重要性を理解する。また生涯にわたる心身の健康は、こどもの食生活を中心とする生活環境と深い関わりがあることを理解する。							
到達目標							
・小児期にとって、食生活のあり方や栄養素の摂取は、心身の成長に影響を与えることが説明できる。 ・小児栄養に関する基礎的な知識を述べることができる。 ・小児期に関わる専門職への認識を高め、自己の食生活を振り返り、見直すことができる。 ・こどもの食と栄養が、生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育んでいく基礎となるものであることを述べることができる。							
授業の方法							
パワーポイントや視聴覚メディアを用いて主に講義形式でおこなう。 アクティブラーニングとして1回目・15回目はグループワークを、7回目・8回目・12回目には実習を取り入れる。							
ICT活用							
Google classroomを活用した双方向授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりする。小テストは返却時に解説を行う。課題に対しては、適宜指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・学生自身の現在までの食生活と育ちを振り返り、「こどもの食と栄養」を学ぶ意義について学ぶ ・こどもの心身の健康と食生活について、日本人の健康や食生活上の問題を知り、こどもの食生活の現状と課題について学ぶ	シラバスを確認する。教科書 P.10～15を読む。(20分)	自分の食生活を「食生活指針」のワークシートで評価する。(25分)
担当教員			
第2回	食育基本法について ・国民運動として食育推進の意義と必要性を学ぶ - こどもの発育・発達と食生活(1) ・身体発育、精神・運動機能発達と栄養・食生活について学ぶ	食育基本法、第3次食育推進基本計画について調べる。教科書 P.16、P171～172を読む。(20分)	各自の母子手帳を調べ、誕生から18歳までの身長と体重を成長曲線の上に記入する。(25分)
担当教員			
第3回	食育の基本と内容(1) ・保育における食育の意義・目的と基本的考え方 ・発育・発達に応じて育てたい「食べる力」 ・就学前の子どもに対する食育の推進 ・保育所、幼稚園、認定こども園における食育	教科書P117～122を読む。(30分)	食育の基本に関するワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			
第4回	食育の基本と内容(2) ・食育の内容と計画及び評価 ・食育のための環境づくり ・地域の関係機関や職員間の連携 ・食生活指導及び食を通じた保護者への支援	教科書P117～122を読む。(30分)	食育の基本に関するワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			

第5回	こどもの発育・発達と食生活(2) ・食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活について学ぶ	教科書P17～21を読む。(20分)	こどもの発育・発達のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			
第6回	栄養に関する基本的知識(1) ・栄養素・栄養生理・代謝に関する基本的知識を学ぶ ・栄養とは何を意味するのか ・五大栄養素、食べ物の3つのはたらき、6つの基礎食品 ・栄養生理、エネルギー代謝	教科書P22～35を読む。(20分)	栄養に関する基本的知識のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			
第7回	栄養に関する基本的知識(2) ・日本人の食事摂取基準について、その意義と活用について学ぶ ・食事構成に関する基礎知識 ・食事バランスガイドから、自己の食事バランスをチェックする 小テスト1	小テスト範囲である第1～6回までの授業を復習する。 自分の食事1日分を記録する。 教科書P.36～38を読む。(20分)	日本人の食事摂取基準のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			
第8回	栄養に関する基本的知識(3) ・献立作成・調理の基本を学ぶ ・栄養価の算定 ・食品表示と食品の選択について学ぶ	教科書P38～47を読む。(20分)	栄養に関する基本的知識のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			
第9回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(1) 妊娠期(胎児期)の栄養と食生活 ・妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活について学ぶ ・妊娠期の栄養と胎児の成長 ・DOHaD仮説 ・授乳期の栄養	教科書P48～61を読む。(30分)	妊娠期の栄養と食生活について、ワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			
第10回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(2) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 ・乳汁栄養・離乳の必要性和留意点 ・離乳食の進め方の目安 ・乳児期の栄養・食生活上の問題と保育者としての対応について学ぶ	教科書P62～75を読む。(20分)	乳汁栄養についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			

第11回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(3) 幼児期の心身の発達と食生活1 ・幼児期の心身の特徴と食生活について学ぶ ・食事と生活リズムについて ・供食上の注意点 ・間食の役割と必要性 ・う蝕について	教科書P76～81を読む。(20分)	離乳食の進め方についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			
第12回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(4) 幼児期の心身の発達と食生活2 ・幼児の献立および調理上の留意点 ・お弁当について ・幼児期の栄養・食生活上の問題と保育者としての対応について学ぶ	教科書P82～89を読む。(20分)	幼児期の食生活についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			
第13回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(5) 学童期・思春期の心身の発達と食生活 ・学童期・思春期の心身の特徴と食生活について学ぶ ・学童期・思春期の栄養・食生活上の問題と対応について学ぶ ・学校給食 ・栄養教諭制度について	教科書P90～105を読む。(20分)	学童期・思春期の食生活についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			
第14回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(6) 生涯発達と食生活 ・生涯発達と加齢変化 ・成人期の栄養・食生活上の問題と健康への対応について学ぶ ・高齢期の栄養・食生活上の問題と健康への対応について学ぶ 特別な配慮を要するこどもの食と栄養(1) ・疾病および体調不良の子どもへの対応について学ぶ 小テスト2	小テスト範囲である第9～13回までの授業を復習する。 教科書P106～116、P144～148を読む。(20分)	成人期、高齢期の食生活、こどもの疾病についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			
第15回	特別な配慮を要するこどもの食と栄養(2) ・食物アレルギーのある子どもへの対応について学ぶ ・障がいのある子どもへの対応について学ぶ	教科書P148～170を読む。(20分)	食物アレルギーのある子ども、障がいのある子どもへの対応についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト20%、ワークシート・課題70%、授業の参加態度10%	

その他	0	なし
教科書		
子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本／太田百合子、堤ちはる編著／羊土社 日本食品成分表2023 八訂／医歯薬出版編		
参考文献		
日本人の食事摂取基準[2020年版]／厚生労働省／第一出版		
履修条件・留意事項等		
保育士資格取得の必修科目 学習内容は、後期科目「こどもの食と栄養Ⅱ」に引き継ぐ		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 対象の理解					
科目名		こどもの食と栄養 I (2組)				ナンバリング	3330
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山森 栄美、小塚 美由記						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。【知識・技能】」に重点をおいた科目である。 関連科目は「こどもの食と栄養Ⅱ」であり、「こどもの保健」、「こどもの食育Ⅰ」の基礎となる。							
授業の概要							
こどもの健やかな心身の成長には、食生活が重要である。栄養に関する基本的な知識、こどもの発達段階ごとの栄養に関する留意点、食生活の現状と課題等を学ぶことによって食生活の重要性を理解する。また生涯にわたる心身の健康は、こどもの食生活を中心とする生活環境と深い関係があることを理解する。							
到達目標							
・小児期にとって、食生活のあり方や栄養素の摂取は、心身の成長に影響を与えることが説明できる。 ・小児栄養に関する基礎的な知識を述べることができる。 ・小児期に関わる専門職への認識を高め、自己の食生活を振り返り、見直すことができる。 ・こどもの食と栄養が、生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育んでいく基礎となるものであることを述べることができる。							
授業の方法							
パワーポイントや視聴覚メディアを用いて主に講義形式でおこなう。 アクティブラーニングとして1回目・15回目はグループワークを、7回目・8回目・12回目には実習を取り入れる。							
ICT活用							
Google classroomを活用した双方向授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりする。小テストは返却時に解説を行う。課題に対しては、適宜指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・学生自身の現在までの食生活と育ちを振り返り、「こどもの食と栄養」を学ぶ意義について学ぶ ・こどもの心身の健康と食生活について、日本人の健康や食生活上の問題を知り、こどもの食生活の現状と課題について学ぶ	シラバスを確認する。教科書 P.10～15を読む。(20分)	自分の食生活を「食生活指針」のワークシートで評価する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第2回	食育基本法について ・国民運動として食育推進の意義と必要性を学ぶ - こどもの発育・発達と食生活(1) ・身体発育、精神・運動機能発達と栄養・食生活について学ぶ	食育基本法、第3次食育推進基本計画について調べる。教科書 P.16、P171～172を読む。(20分)	各自の母子手帳を調べ、誕生から18歳までの身長と体重を成長曲線の上に記入する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第3回	食育の基本と内容(1) ・保育における食育の意義・目的と基本的考え方 ・発育・発達に応じて育てたい「食べる力」 ・就学前のこどもに対する食育の推進 ・保育所、幼稚園、認定こども園における食育	教科書P117～122を読む。(30分)	食育の基本に関するワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第4回	食育の基本と内容(2) ・食育の内容と計画及び評価 ・食育のための環境づくり ・地域の関係機関や職員間の連携 ・食生活指導及び食を通じた保護者への支援	教科書P117～122を読む。(30分)	食育の基本に関するワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		

第5回	こどもの発育・発達と食生活(2) ・食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活について学ぶ	教科書P17～21を読む。(20分)	こどもの発育・発達のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第6回	栄養に関する基本的知識(1) ・栄養素・栄養生理・代謝に関する基本的知識を学ぶ ・栄養とは何を意味するのか ・五大栄養素、食べ物の3つのはたらき、6つの基礎食品 ・栄養生理、エネルギー代謝	教科書P22～35を読む。(20分)	栄養に関する基本的知識のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第7回	栄養に関する基本的知識(2) ・日本人の食事摂取基準について、その意義と活用について学ぶ ・食事構成に関する基礎知識 ・食事バランスガイドから、自己の食事バランスをチェックする 小テスト1	小テスト範囲である第1～6回までの授業を復習する。 自分の食事1日分を記録する。 教科書P.36～38を読む。(20分)	日本人の食事摂取基準のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第8回	栄養に関する基本的知識(3) ・献立作成・調理の基本を学ぶ ・栄養価の算定 ・食品表示と食品の選択について学ぶ	教科書P38～47を読む。(20分)	栄養に関する基本的知識のワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	小塚 美由記		
第9回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(1) 妊娠期(胎児期)の栄養と食生活 ・妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活について学ぶ ・妊娠期の栄養と胎児の成長 ・DOHaD仮説 ・授乳期の栄養	教科書P48～61を読む。(30分)	妊娠期の栄養と食生活について、ワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
第10回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(2) 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 ・乳汁栄養・離乳の必要性和留意点 ・離乳食の進め方の目安 ・乳児期の栄養・食生活上の問題と保育者としての対応について学ぶ	教科書P62～75を読む。(20分)	乳汁栄養についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		

第11回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(3) 幼児期の心身の発達と食生活1 ・幼児期の心身の特徴と食生活について学ぶ ・食事と生活リズムについて ・供食上の注意点 ・間食の役割と必要性 ・う蝕について	教科書P76～81を読む。(20分)	離乳食の進め方についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
第12回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(4) 幼児期の心身の発達と食生活2 ・幼児の献立および調理上の留意点 ・お弁当について ・幼児期の栄養・食生活上の問題と保育者としての対応について学ぶ	教科書P82～89を読む。(20分)	幼児期の食生活についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
第13回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(5) 学童期・思春期の心身の発達と食生活 ・学童期・思春期の心身の特徴と食生活について学ぶ ・学童期・思春期の栄養・食生活上の問題と対応について学ぶ ・学校給食 ・栄養教諭制度について	教科書P90～105を読む。(20分)	学童期・思春期の食生活についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
第14回	ライフステージに沿ったこどもの発育・発達と食生活(6) 生涯発達と食生活 ・生涯発達と加齢変化 ・成人期の栄養・食生活上の問題と健康への対応について学ぶ ・高齢期の栄養・食生活上の問題と健康への対応について学ぶ 特別な配慮を要するこどもの食と栄養(1) ・疾病および体調不良の子どもへの対応について学ぶ 小テスト2	小テスト範囲である第9～13回までの授業を復習する。 教科書P106～116、P144～148を読む。(20分)	成人期、高齢期の食生活、こどもの疾病についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
第15回	特別な配慮を要するこどもの食と栄養(2) ・食物アレルギーのある子どもへの対応について学ぶ ・障がいのある子どもへの対応について学ぶ	教科書P148～170を読む。(20分)	食物アレルギーのある子ども、障がいのある子どもへの対応についてワークシートを活用して復習する。(25分)
担当教員	山森 栄美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト20%、ワークシート・課題70%、授業の参加態度10%	

その他	0	なし
教科書		
子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本／太田百合子、堤ちはる編著／羊土社 日本食品成分表2023 八訂／医歯薬出版編		
参考文献		
日本人の食事摂取基準[2020年版]／厚生労働省／第一出版		
履修条件・留意事項等		
保育士資格取得の必修科目 学習内容は、後期科目「こどもの食と栄養Ⅱ」に引き継ぐ		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容Ⅲ環境1(1組)				ナンバリング	3362
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	柘植 純一						
授業の位置づけ							
主体的・探求的な学習を通じて、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を養うため、身近な環境に関わり、考えたり扱ったりする中で物の性質や数量などに対する感覚を豊かにする。「保育内容Ⅲ環境葉2」の基礎となる。							
授業の概要							
幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」で対象とする内容のうち、特に自然環境に重点を置いて学習を進める。幼児に自然との触れ合いを指導する際に求められる保育者の姿勢、小動物・植物との触れ合いを指導する上での留意点について重点を置きながら考察する。保育者自身が季節の変化等への感性を磨くとともに身近な動植物に興味や関心を持つ。実際に野外に出て身近な自然と触れ合うことにより、身近な動植物への興味や関心を深める機会をもつ。							
到達目標							
①幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明することができる。 ②授業内で提示した身近な植物を野外で見つけることができる。 ③身近な植物を使って遊びを工夫することができる。 ④身近な自然との触れ合いを指導する上での留意点について説明できる。							
授業の方法							
①幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明することができる。 ②授業内で提示した身近な植物を野外で見つけることができる。 ③身近な植物を使って遊びを工夫することができる。 ④身近な自然との触れ合いを指導する上での留意点について説明できる。							
ICT活用							
指導案の作成、模擬授業において効果的に活用するように工夫する。							
実務経験のある教員の教育内容							

指導案の作成、模擬授業において効果的に活用するように工夫する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりする。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス、現代の幼児の特徴 この授業の概要、受講上の留意点について話します。またこれから学習を始めるにあたって現在の子どもについて一般的にいわれている特徴について考えていきます。	現代の子どもを取り巻く問題点について考えておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「環境」、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記述されている領域「環境」のねらいと内容について学習します。	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第3回	身近な植物についての教材研究および草花遊びの指導案作成 大学キャンパス内に自生しているセイヨウタンポポおよびオオイトドリについて、幼児が触れ合う身近な自然物として教材研究を行うとともに草花遊びの模擬保育を行うための指導案を作成します。指導案の作成においてはICT技術を保育構想に効果的に活用することを学修します。	タンポポとオオイトドリがどんな植物か調べておく。(15分)	作成した指導案を見直す。(30分)
担当教員			
第4回	タンポポを使った草花遊びの模擬保育 作成した指導案に基づき実際に野外に出てタンポポを使った草花遊びの模擬保育を行います。また実際にタンポポの花を観察しながらキク科植物の特徴について理解します。模擬保育においてはICT技術を活用し効果的な提示の方法について学生が相互評価を行います。	前回作成した指導案をもとに実際の模擬保育について考えておく。(15分)	自分の模擬保育を振り返って改善点について考える。(30分)
担当教員			

第5回	身近な自然観察で春を感じる 野外に出て大学周辺の自然観察を行います。視覚だけではなく、聴覚、嗅覚など、五感をしっかり働かせて春を感じましょう。また実物に触れて興味・関心をもった動植物の写真を撮影し、図鑑などの参考資料を活用することを通して具体的・実践的に学びます。	身近な春の植物について調べておく。(15分)	観察した植物について調べるとともに日常生活でも身近な自然に目を向ける..(30分)
担当教員			
第6回	領域「環境」指導に求められる保育者の姿勢 子どもにとって重要な人的環境である保育者の役割について考えます。特に自然を中心とした身近な環境の指導に必要な保育者の姿勢について学習します。	幼児にとって保育者はどのような存在であるべきか考えておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第7回	子どもの発達と環境 子どもの発達に伴う身近な環境に対する認識や働きかけ方の変化について学習します。	幼児の発達と環境とのかかわりについて自分なりに調べておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第8回	身近な昆虫 幼児にとって最も身近で興味・関心の対象となりやすい昆虫について学習します。身近な昆虫の種類、特徴、基本的な分類について学習します。	登下校の際に出会う昆虫に目を向けておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第9回	身近な小動物との触れ合いの指導法 人間の接し方の違いによる動物の分類、身近な小動物との触れ合いの意義・ねらい、保育環境としての小動物について学習します。	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第10回	保育現場での小動物の飼育 昆虫を中心とした身近な小動物を保育現場で飼育する意義、留意点等について学習します。身近な小動物は基本的には野生動物であり、愛玩動物とは違った接し方が必要であることも心得る必要があります。	保育現場で飼育教材に用いられる小動物について調べておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			

第11回	オオイタドリを使った草花遊びの模擬保育 作成した指導案に基づき実際に野外に出てオオイタドリを使った草花遊びの模擬保育を行います。また、オオイタドリの茎および葉を監察しながら子どもの目の高さで遊びの発展性について考えます。模擬保育においてはICT技術を活用し効果的な提示の方法について学生が相互評価を行います。	作成した指導案をもとに実際の模擬保育について考えておく。(15分)	自分の模擬保育を振り返って改善点について考える。(30分)
担当教員			
第12回	身近な植物との触れ合いの指導法 昆虫等の小動物とともに植物も子ども達が豊かな感性を磨くためにはとても大切な役割を果たします。身近な植物の特徴について学習するとともに、身近な植物との触れ合いの目的、意義について学習します。	日常的な保育で関わる機会のある遊びの材料に用いられる身近な植物について調べておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第13回	植物栽培 植物は私達にとっては食物としても大切な存在です。子ども達が食物となる植物の栽培に携わり、食物を手に入れる手間や苦労を体験することは自然に対する感謝の気持ちや食べ物を大切にすることを育てる基礎になります。土づくり、種子の植え方等植物栽培の基礎について学習します。	植物栽培の意義について考えておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第14回	身近な自然観察で夏を感じる 大学周辺の自然観察を行います。季節の移り変わりを感じましょう。授業内で勉強した昆虫や植物を実際に自分の目で確認します。また実物に触れて興味・関心をもった動植物の写真を撮影し、図鑑などの参考資料を活用することを通して具体的・実践的に学びます。	第5回の観察記録を見直し、春からの季節の移り変わりを意識しておく。(15分)	観察した自然について調べてまとめる。(30分)
担当教員			
第15回	生物との触れ合い」の保育現場での問題点 保育現場では広く生物との触れ合い、特に飼育・栽培が取り入れられていますが、保育者の勉強不足や準備不足によって命がおろそかにされていたり、十分な効果が発揮されていないことがあります。どういったところが良くないのか実例を挙げながら解説します。	保育現場での飼育の実践について調べておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	毎回の授業で提出してもらいアクションペーパー(30%)および復習のための期末レポート(30%)で評価	

その他	40	春, 夏の観察レポート(30%), 第3回の指導案(10%)で評価
教科書		
教科書は使用しません。毎回資料を配付します。		
参考文献		
幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
履修条件・留意事項等		
幼児と自然との触れ合いに興味をもてる。野外観察は日程が変更になる場合があります。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容Ⅲ環境1(2組)				ナンバリング	3362
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	柘植 純一						
授業の位置づけ 主体的・探求的な学習を通じて、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を養うため、身近な環境に関わり、考えたり扱ったりする中で物の性質や数量などに対する感覚を豊かにする。「保育内容Ⅲ環境葉2」の基礎となる。							
授業の概要 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」で対象とする内容のうち、特に自然環境に重点を置いて学習を進める。幼児に自然との触れ合いを指導する際に求められる保育者の姿勢、小動物・植物との触れ合いを指導する上での留意点について重点を置きながら考察する。保育者自身が季節の変化等への感性を磨くとともに身近な動植物に興味や関心を持つ。実際に野外に出て身近な自然と触れ合うことにより、身近な動植物への興味や関心を深める機会をもつ。							
到達目標 ①幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明することができる。 ②授業内で提示した身近な植物を野外で見つけることができる。 ③身近な植物を使って遊びを工夫することができる。 ④身近な自然との触れ合いを指導する上での留意点について説明できる。							
授業の方法 パワーポイントと配付資料を用いて講義方式で進めるほか、野外での自然観察、草花遊びなど身近な自然に触れ合う体験を行う。毎回の授業でリアクションペーパーに授業についての感想、意見、質問、課題への回答を記述する。提出したリアクションペーパーにコメントを記入し翌週の授業で返却する。							
ICT活用 指導案の作成、模擬授業において効果的に活用するように工夫する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし.

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、学んだことや質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりする。また、グループ課題に対しては、グループごとに指導・助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス、現代の幼児の特徴 この授業の概要、受講上の留意点について話します。またこれから学習を始めるにあたって現在の子どもについて一般的にいわれている特徴について考えていきます。	現代の子どもを取り巻く問題点について考えておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」 幼稚園教育要領および保育所保育指針に記述されている領域「環境」のねらいと内容について学習します。	幼保連携型認定こども園教育・保育要領	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第3回	身近な植物についての教材研究および草花遊びの指導案作成 大学キャンパス内に自生しているセイヨウタンポポおよびオオイトドリについて、幼児が触れ合う身近な自然物として教材研究を行うとともに草花遊びの模擬保育を行うための指導案を作成します。指導案の作成においてはICT技術を保育構想に効果的に活用することを学修します。	タンポポとオオイトドリがどんな植物か調べておく。(15分)	作成した指導案を見直す。(30分)
担当教員			
第4回	タンポポを使った草花遊びの模擬保育 作成した指導案に基づき実際に野外に出てタンポポを使った草花遊びの模擬保育を行います。また実際にタンポポの花を観察しながらキク科植物の特徴について理解します。模擬保育においてはICT技術を活用し効果的な提示の方法について学生が相互評価を行います。	前回作成した指導案をもとに実際の模擬保育について考えておく。(15分)	自分の模擬保育を振り返って改善点について考える。(30分)
担当教員			

第5回	身近な自然観察で春を感じる 野外に出て大学周辺の自然観察を行います。視覚だけではなく、聴覚、嗅覚など、五感をしっかり働かせて春を感じましょう。また実物に触れて興味・関心をもった動植物の写真を撮影し、図鑑などの参考資料を活用することを通して具体的・実践的に学びます。	身近な春の植物について調べておく。(15分)	観察した植物について調べるとともに日常生活でも身近な自然に目を向ける..(30分)
担当教員			
第6回	領域「環境」指導に求められる保育者の姿勢 子どもにとって重要な人的環境である保育者の役割について考えます。特に自然を中心とした身近な環境の指導に必要な保育者の姿勢について学習します。	幼児にとって保育者はどのような存在であるべきか考えておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第7回	子どもの発達と環境 子どもの発達に伴う身近な環境に対する認識や働きかけ方の変化について学習します。	幼児の発達と環境とのかかわりについて自分なりに調べておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第8回	身近な昆虫 幼児にとって最も身近で興味・関心の対象となりやすい昆虫について学習します。身近な昆虫の種類、特徴、基本的な分類について学習します。	登下校の際に出会う昆虫に目を向けておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第9回	身近な小動物との触れ合いの指導法 人間の接し方の違いによる動物の分類、身近な小動物との触れ合いの意義・ねらい、保育環境としての小動物について学習します。	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の該当箇所を読んでおく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第10回	保育現場での小動物の飼育 昆虫を中心とした身近な小動物を保育現場で飼育する意義、留意点等について学習します。身近な小動物は基本的には野生動物であり、愛玩動物とは違った接し方が必要であることも心得る必要があります。	配付した資料を見直す。(30分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			

第11回	オオイタドリを使った草花遊びの模擬保育 作成した指導案に基づき実際に野外に出てオオイタドリを使った草花遊びの模擬保育を行います。また、オオイタドリの茎および葉を観察しながら子どもの目の高さで遊びの発展性について考えます。模擬保育においてはICT技術を活用し効果的な提示の方法について学生が相互評価を行います。	作成した指導案をもとに実際の模擬保育について考えておく。(15分)	自分の模擬保育を振り返って改善点について考える。(30分)
担当教員			
第12回	身近な植物との触れ合いの指導法 昆虫等の小動物とともに植物も子ども達が豊かな感性を磨くためにはとても大切な役割を果たします。身近な植物の特徴について学習するとともに、身近な植物との触れ合いの目的、意義について学習します。	日常的な保育で関わる機会のある遊びの材料に用いられる身近な植物について調べておく。	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第13回	植物栽培 植物は私達にとっては食物としても大切な存在です。子ども達が食物となる植物の栽培に携わり、食物を手に入れる手間や苦勞を体験することは自然に対する感謝の気持ちや食べ物を大切にすることの気持ちを育てる基礎になります。土づくり、種子の植え方等植物栽培の基礎について学習します。	植物栽培の意義について考えておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
第14回	身近な自然観察で夏を感じる 大学周辺の自然観察を行います。季節の移り変わりを感じましょう。授業内で勉強した昆虫や植物を実際に自分の目で確認します。また実物に触れて興味・関心をもった動植物の写真を撮影し、図鑑などの参考資料を活用することを通して具体的・実践的に学びます。	第5回の観察記録を見直し、春からの季節の移り変わりを意識しておく。(15分)	観察した自然について調べてまとめる。(30分)
担当教員			
第15回	生物との触れ合い」の保育現場での問題点 保育現場では広く生物との触れ合い、特に飼育・栽培が取り入れられていますが、保育者の勉強不足や準備不足によって命がおろそかにされていたり、十分な効果が発揮されていないことがあります。どういったところが良くないのか実例を挙げながら解説します。	保育現場での飼育の実際について調べておく。(15分)	配付した資料を見直す。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	毎回の授業で提出してもらいアクションペーパー(30%)および復習のための期末レポート(30%)で評価	

その他	40	春, 夏の観察レポート(30%), 第3回の指導案(10%)で評価
教科書		
教科書は使用しません。毎回資料を配付します。		
参考文献		
幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
履修条件・留意事項等		
幼児と自然との触れ合いに興味をもてる。野外観察は日程が変更になる場合があります。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容総論(2組)				ナンバリング	3352
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることが出来る」と関係する科目である。 保育内容指導法各科目と関連する科目である。							
授業の概要							
本科目は、子どもの健やかな発達のために、保育者は子どもの生活をどのようにとらえ、どう働きかければよいのかということを理解するための科目である。保育目標と保育内容との関連、保育内容と小学校以上の科目内容とのとらえ方の違い、保育内容に含まれる養護的内容と教育的内容、保育内容のとらえ方と保育方法との関連、これからの保育内容などについて学ぶ。子どもの心身の発達について理解しておくことが本科目の学習の基礎になる。							
到達目標							
1. 「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連づけて保育内容の説明をすることができる。 2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について論じることができる。 3. 保育の多様な展開について具体的に学び、適用する事ができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物・テキストを使用した講義形式で実施する。 グループワークを複数回行う。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

発達支援センターでの勤務や乳幼児健診における心理相談担当の経験から、就学前のこどもの育ちや環境についての知識を有している。この経験をいかして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、コメントシートによる質問等への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	近隣の幼稚園や保育所、既卒の園がどのような保育を実施していたかを話し合う。 ・既卒園のホームページなどを見て現在の保育を確認し当時と比較する。【グループワーク】	近隣の幼稚園・保育所について調べておく。(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第2回	幼稚園教育要領に基づく幼稚園教育の基本および内容の理解 幼稚園の役割、幼稚園における教育の内容について知る。	テキスト第1講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第3回	保育の全体構造と保育内容:養護にかかわる内容「養護に関わるねらい及び内容」「教育に関わるねらい及び内容」との関連について知る。	テキスト第2講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第4回	保育の全体構造と保育内容:教育にかかわる内容 保育所における教育について、領域について、教育に関わるねらいおよび内容について、保育の実施上の配慮事項について知る。	テキスト第3講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第5回	保育内容の歴史的変遷 : 保育所保育指針の歴史的変遷、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準、幼稚園と保育所との関係について知る。	テキスト第4講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	子どもの発達の特性と保育内容:乳幼児期における発達の特性、発達過程に応じた保育、発達過程に応じた保育内容と環境構成について知る。	テキスト第5講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第7回	個と集団の発達と保育内容【グループワーク】 個と集団の発達、発達過程と保育内容について知る。また、保育実践場面の視聴覚教材を活用し、具体的な個と集団の発達、働きかけを実践的に学ぶ。	テキスト第10講の読了(25分)	個と集団の発達についての表の作成(20分)
担当教員			
第8回	保育における観察と記録、評価:保育における記録、保育における観察・観察方法・評価について知る。さらに、情報機器及び教材の活用方法を理解した上で、記録方法や評価について学ぶ。ワークシート及び資料、視聴覚教材、などICTを活用して、具体的・実践的に学ぶ。	テキスト第7講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第9回	養護と教育が一体的に展開する保育:「養護と教育の一体的な展開」「養護と教育が一体的に展開する保育」について知る。	テキスト第6講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第10回	環境を通して行う保育【グループワーク】 環境を通して行う保育とは、保育の環境と保育士の役割について知る。また、テキストの他、視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキスト第8講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第11回	遊びによる総合的な保育【グループワーク】:乳幼児期の学びとしての遊び、乳幼児期の遊びの特徴について知る。さらに、テキストの他、資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキスト第9講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第12回	生活や発達の連続性に考慮した保育:保育課程とは何か、望ましい未来をつくり出す力の基礎＝生活習慣の自立と保育課程、生活習慣の自立に向けた保護者との協働について知る。	乳幼児期の発達過程の確認(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第13回	家庭、地域、小学校等との連携をふまえた保育:家庭、地域、小学校等との連携の意義について知る。さらに、情報機器及び教材の活用法を理解した上で、関係機関との連携をふまえた保育について学ぶ。	テキスト第12講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第14回	保育指導案の作成:これまでの授業内容を踏まえ、対象年齢、時期、子どもの発達や状態を考えて指導案を作成する。	指導案作成に必要な資料等の準備(25分)	指導案の作成(20分)
担当教員			
第15回	まとめ:模擬保育 これまでの内容を踏まえて作成した指導案による保育を実施し、自己評価をする。	指導案の作成と、模擬保育の準備(25分)	模擬保育の振り返りと指導案の改善(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物(40) 授業・グループワークへの参加態度(30) 小テスト(30)	

その他	0	
教科書		
新基本保育シリーズ14 保育内容総論／公益財団法人児童育成協会編／中央法規		
参考文献		
幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省編／フレーベル館		
履修条件・留意事項等		
準備学習及び事後学習をして、講義の内容を深く理解できるよう努力すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容総論(3組)				ナンバリング	3352
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることが出来る」と関係する科目である。 保育内容指導法各科目と関連する科目である。							
授業の概要							
本科目は、子どもの健やかな発達のために、保育者は子どもの生活をどのようにとらえ、どう働きかければよいのかということを理解するための科目である。保育目標と保育内容との関連、保育内容と小学校以上の科目内容とのとらえ方の違い、保育内容に含まれる養護的内容と教育的内容、保育内容のとらえ方と保育方法との関連、これからの保育内容などについて学ぶ。子どもの心身の発達について理解しておくことが本科目の学習の基礎になる。							
到達目標							
1. 「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連づけて保育内容の説明をすることができる。 2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について論じることができる。 3. 保育の多様な展開について具体的に学び、適用する事ができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物・テキストを使用した講義形式で実施する。 グループワークを複数回行う。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

発達支援センターでの勤務や乳幼児健診における心理相談担当の経験から、就学前のこどもの育ちや環境についての知識を有している。この経験をいかして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、コメントシートによる質問等への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	近隣の幼稚園や保育所、既卒の園がどのような保育を実施していたかを話し合う。 ・既卒園のホームページなどを見て現在の保育を確認し当時と比較する。【グループワーク】	近隣の幼稚園・保育所について調べておく。(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第2回	幼稚園教育要領に基づく幼稚園教育の基本および内容の理解 幼稚園の役割、幼稚園における教育の内容について知る。	テキスト第1講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第3回	保育の全体構造と保育内容:養護にかかわる内容「養護に関わるねらい及び内容」「教育に関わるねらい及び内容」との関連について知る。	テキスト第2講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第4回	保育の全体構造と保育内容:教育にかかわる内容 保育所における教育について、領域について、教育に関わるねらいおよび内容について、保育の実施上の配慮事項について知る。	テキスト第3講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第5回	保育内容の歴史的変遷 : 保育所保育指針の歴史的変遷、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準、幼稚園と保育所との関係について知る。	テキスト第4講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	子どもの発達の特性と保育内容:乳幼児期における発達の特性、発達過程に応じた保育、発達過程に応じた保育内容と環境構成について知る。	テキスト第5講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第7回	個と集団の発達と保育内容【グループワーク】 個と集団の発達、発達過程と保育内容について知る。また、保育実践場面の視聴覚教材を活用し、具体的な個と集団の発達、働きかけを実践的に学ぶ。	テキスト第10講の読了(25分)	個と集団の発達についての表の作成(20分)
担当教員			
第8回	保育における観察と記録、評価:保育における記録、保育における観察・観察方法・評価について知る。さらに、情報機器及び教材の活用方法を理解した上で、記録方法や評価について学ぶ。ワークシート及び資料、視聴覚教材、などICTを活用して、具体的・実践的に学ぶ。	テキスト第7講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第9回	養護と教育が一体的に展開する保育:「養護と教育の一体的な展開」「養護と教育が一体的に展開する保育」について知る。	テキスト第6講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第10回	環境を通して行う保育【グループワーク】 環境を通して行う保育とは、保育の環境と保育士の役割について知る。また、テキストの他、視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキスト第8講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第11回	遊びによる総合的な保育【グループワーク】:乳幼児期の遊びとしての遊び、乳幼児期の遊びの特徴について知る。さらに、テキストの他、資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキスト第9講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第12回	生活や発達の連続性に考慮した保育:保育課程とは何か、望ましい未来をつくり出す力の基礎＝生活習慣の自立と保育課程、生活習慣の自立に向けた保護者との協働について知る。	乳幼児期の発達過程の確認(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第13回	家庭、地域、小学校等との連携をふまえた保育:家庭、地域、小学校等との連携の意義について知る。さらに、情報機器及び教材の活用法を理解した上で、関係機関との連携をふまえた保育について学ぶ。	テキスト第12講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第14回	保育指導案の作成:これまでの授業内容を踏まえ、対象年齢、時期、子どもの発達や状態を考えて指導案を作成する。	指導案作成に必要な資料等の準備(25分)	指導案の作成(20分)
担当教員			
第15回	まとめ:模擬保育 これまでの内容を踏まえて作成した指導案による保育を実施し、自己評価をする。	指導案の作成と、模擬保育の準備(25分)	模擬保育の振り返りと指導案の改善(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物(40) 授業・グループワークへの参加態度(30) 小テスト(30)	

その他	0	
教科書		
新基本保育シリーズ14 保育内容総論／公益財団法人児童育成協会編／中央法規		
参考文献		
幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省編／フレーベル館		
履修条件・留意事項等		
準備学習及び事後学習をして、講義の内容を深く理解できるよう努力すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容総論(1組)				ナンバリング	3352
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることが出来る」と関係する科目である。 保育内容指導法各科目と関連する科目である。							
授業の概要							
本科目は、子どもの健やかな発達のために、保育者は子どもの生活をどのようにとらえ、どう働きかければよいのかということを理解するための科目である。保育目標と保育内容との関連、保育内容と小学校以上の科目内容とのとらえ方の違い、保育内容に含まれる養護的内容と教育的内容、保育内容のとらえ方と保育方法との関連、これからの保育内容などについて学ぶ。子どもの心身の発達について理解しておくことが本科目の学習の基礎になる。							
到達目標							
1. 「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連づけて保育内容の説明をすることができる。 2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について論じることができる。 3. 保育の多様な展開について具体的に学び、適用する事ができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物・テキストを使用した講義形式で実施する。 グループワークを複数回行う。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

発達支援センターでの勤務や乳幼児健診における心理相談担当の経験から、就学前のこどもの育ちや環境についての知識を有している。この経験をいかして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業において、コメントシートによる質問等への解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	近隣の幼稚園や保育所、既卒の園がどのような保育を実施していたかを話し合う。 ・既卒園のホームページなどを見て現在の保育を確認し当時と比較する。【グループワーク】	近隣の幼稚園・保育所について調べておく。(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第2回	幼稚園教育要領に基づく幼稚園教育の基本および内容の理解 幼稚園の役割、幼稚園における教育の内容について知る。	テキスト第1講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第3回	保育の全体構造と保育内容:養護にかかわる内容「養護に関わるねらい及び内容」「教育に関わるねらい及び内容」との関連について知る。	テキスト第2講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第4回	保育の全体構造と保育内容:教育にかかわる内容 保育所における教育について、領域について、教育に関わるねらいおよび内容について、保育の実施上の配慮事項について知る。	テキスト第3講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第5回	保育内容の歴史的変遷 : 保育所保育指針の歴史的変遷、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準、幼稚園と保育所との関係について知る。	テキスト第4講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第6回	子どもの発達の特性と保育内容:乳幼児期における発達の特性、発達過程に応じた保育、発達過程に応じた保育内容と環境構成について知る。	テキスト第5講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第7回	個と集団の発達と保育内容【グループワーク】 個と集団の発達、発達過程と保育内容について知る。また、保育実践場面の視聴覚教材を活用し、具体的な個と集団の発達、働きかけを実践的に学ぶ。	テキスト第10講の読了(25分)	個と集団の発達についての表の作成(20分)
担当教員			
第8回	保育における観察と記録、評価:保育における記録、保育における観察・観察方法・評価について知る。さらに、情報機器及び教材の活用方法を理解した上で、記録方法や評価について学ぶ。ワークシート及び資料、視聴覚教材、などICTを活用して、具体的・実践的に学ぶ。	テキスト第7講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第9回	養護と教育が一体的に展開する保育:「養護と教育の一体的な展開」「養護と教育が一体的に展開する保育」について知る。	テキスト第6講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第10回	環境を通して行う保育【グループワーク】 環境を通して行う保育とは、保育の環境と保育士の役割について知る。また、テキストの他、視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキスト第8講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			

第11回	遊びによる総合的な保育【グループワーク】:乳幼児期の遊びとしての遊び、乳幼児期の遊びの特徴について知る。さらに、テキストの他、資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	テキスト第9講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第12回	生活や発達の連続性に考慮した保育:保育課程とは何か、望ましい未来をつくり出す力の基礎＝生活習慣の自立と保育課程、生活習慣の自立に向けた保護者との協働について知る。	乳幼児期の発達過程の確認(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第13回	家庭、地域、小学校等との連携をふまえた保育:家庭、地域、小学校等との連携の意義について知る。さらに、情報機器及び教材の活用法を理解した上で、関係機関との連携をふまえた保育について学ぶ。	テキスト第12講の読了(25分)	テキスト・配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員			
第14回	保育指導案の作成:これまでの授業内容を踏まえ、対象年齢、時期、子どもの発達や状態を考えて指導案を作成する。	指導案作成に必要な資料等の準備(25分)	指導案の作成(20分)
担当教員			
第15回	まとめ:模擬保育 これまでの内容を踏まえて作成した指導案による保育を実施し、自己評価をする。	指導案の作成と、模擬保育の準備(25分)	模擬保育の振り返りと指導案の改善(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物(40) 授業・グループワークへの参加態度(30) 小テスト(30)	

その他	0	
教科書		
新基本保育シリーズ14 保育内容総論／公益財団法人児童育成協会編／中央法規		
参考文献		
幼稚園教育要領解説／文部科学省／フレーベル館 保育所保育指針解説／厚生労働省編／フレーベル館		
履修条件・留意事項等		
準備学習及び事後学習をして、講義の内容を深く理解できるよう努力すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		総合表現音楽Ⅰ（1組）				ナンバリング	3416
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 由恵、西野 美穂、西村 範子						
授業の位置づけ							
①こどもの保育・教育に関する専門科目「表現方法の理解」分野の科目であり、音楽表現分野の一素養としての基礎力の獲得と、人間的コミュニケーション能力を身につけ、学び・考え続け、実行しようとする意欲・態度と感性を身につけるための科目である。 ②これまで履修した音楽関連科目のすべてと関連し、「総合表現音楽Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
これまでのこどもに関する学びを総合的に活用し、保育者・教育者をを目指す学生は、音楽的素養を身につける必要がある。こどもの“遊び”としての音楽の特徴を理解し、歌唱や楽器演奏などの技術習得の他に、音楽の多様性を認識して複合的な活動の手法も身につけなければならない。歌唱や鍵盤楽器の実践にくわえ、音楽領域でのレパートリーを広げられるような学生自身の意識と感性の向上を目指す。							
到達目標							
こどもの遊びの一つである音楽の領域で、保育者・教育者に必要とされるピアノ演奏と弾き歌いについて、課題曲を保育士・幼稚園教諭志望と小学校・特別支援学校教諭志望の2グループに分け、現場に必要な実践力を養い、レパートリーの拡充を図る。 ○ 反復練習と意欲的な取り組みにより、読譜の困難を軽減する ○ 音楽の基礎知識を確認し、楽譜に書かれている内容を読み取ることができる ○ 楽曲における音楽的表現を学び、演奏に反映させられるよう意識をすることができる ○ 鍵盤楽器の基礎的技能の向上を実感できる							
授業の方法							
①②各担当教員のグループに分かれ、実技の個人レッスン形式ですすめる。 ③主に、レッスン時のディスカッション（聴講学生を含む）を行う。							
ICT活用							
タブレット端末などを用いた双方向型授業を行う場合がある。							
実務経験のある教員の教育内容							

全教員の音楽表現活動・教授経験を活かし、学生自身が興味をもって音楽に取り組み、確実な技術が身につけられるよう指導する。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員グループのレッスン中に、随時行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス～授業内容の概説 これからの授業の流れや留意点を説明した後、各担当教員のクラスに分かれ、 各々が準備した楽曲を演奏した後、課題曲を決定する ※幼保志望の【課題曲グループ】については、ガイダンス時に詳細を説明します	担当教員との打ち合わせに必要な、任意のピアノ曲、あるいは弾き歌いの曲を少なくとも1曲準備すること。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第2回	レッスン1:弾き歌い・ソロ曲の学習1 (幼保)【課題曲グループ1】の学習①～園生活・行事・季節(春)の歌などを中心に学習 (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第3回	レッスン2:弾き歌い・ソロ曲の学習2 (幼保)【課題曲グループ1】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第4回	レッスン3:弾き歌い・ソロ曲の学習3 (幼保)【課題曲グループ1】の学習③～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			

第5回	レッスン4:弾き歌い・ソロ曲の学習4 (幼保)【課題曲グループ1】の学習④～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第6回	レッスン5:弾き歌い・ソロ曲の学習5 (幼保)【課題曲グループ2】の学習①～園生活・行事・季節(夏)の歌などを中心に (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第7回	レッスン6:弾き歌い・ソロ曲の学習6 (幼保)【課題曲グループ2】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第8回	レッスン7:弾き歌い・ソロ曲の学習7 (幼保)【課題曲グループ2】の学習③・ソロ曲の学習①～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第9回	レッスン8:弾き歌い・ソロ曲の学習8 (幼保)【課題曲グループ2】の学習④・ソロ曲の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第10回	レッスン9:弾き歌い・ソロ曲の学習9～丁寧な譜読みを心がけた練習をすること (幼保)試験課題曲の学習① (小特)試験課題曲の学習①	実技試験課題曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			

第11回	レッスン10:弾き歌い・ソロ曲の学習10～確実な演奏を目指して、頭と耳を使った練習をすること (幼保)試験課題曲の学習② (小特)試験課題曲の学習②	引き続き、実技試験課題曲を丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第12回	レッスン11:弾き歌い・ソロ曲の学習11～演奏中のさまざまな問題にも対応できるよう、練習を続けること (幼保)試験課題曲の学習③ (小特)試験課題曲の学習③	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、自身の演奏表現を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第13回	レッスン12:弾き歌い・ソロ曲の学習12～実技試験に向けた楽曲演奏の仕上げ (幼保)試験課題曲の学習④ (小特)試験課題曲の学習④	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、自身の演奏表現を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第14回	実技試験1 仲間の演奏を見聴きすることは、自分自身を振り返ることにもつながるので、対象者の視点で観察することも重要	各々の演奏に対する不安材料を残さないよう、丁寧に準備する。(最低30分)	試験終了者・未終了者ともに、反省点・気づいた点などを実践し、確認・改善する。(15分)
担当教員			
第15回	実技試験2、まとめ 仲間の演奏を見聴きすることは、自分自身を振り返ることにもつながるので、対象者の視点で観察することも重要 全体の講評とまとめ	各々の演奏に対する不安材料を残さないよう、丁寧に準備する。(最低30分)	これまで学んだことを忘れないよう、根気よく、頭と心を使った練習を夏季休業中も継続すること。(最低15分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	15	受講姿勢や意欲、自主練習の取り組み	

その他	85	ピアノ実技試験 ※現場の日常的な音楽活動においては、1度限りの演奏に集中して臨むことが求められる
教科書		
(幼保系)こどものうた200／小林美実／チャイルド本社 (小特系)2年次「教科教育法 音楽」で使用するテキスト (全履修者)1年次使用のピアノのテキスト など その他テキストの詳細は、ガイダンス時に説明する。		
参考文献		
明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌／音楽之友社 音楽のおくりもの1～6 教師用指導書 伴奏編／教育出版 他		
履修条件・留意事項等		
確実な技術などを習得することを目的としているので、「総合表現音楽Ⅰ・Ⅱ」を継続して受講することが望ましい。 学習進度は、各々の習得度などにより異なることがある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		総合表現音楽Ⅰ（2組）				ナンバリング	3416
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 由恵、西野 美穂、西村 範子						
授業の位置づけ							
①こどもの保育・教育に関する専門科目「表現方法の理解」分野の科目であり、音楽表現分野の一素養としての基礎力の獲得と、人間的コミュニケーション能力を身につけ、学び・考え続け、実行しようとする意欲・態度と感性を身につけるための科目である。 ②これまで履修した音楽関連科目のすべてと関連し、「総合表現音楽Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
これまでのこどもに関する学びを総合的に活用し、保育者・教育者をを目指す学生は、音楽的素養を身につける必要がある。こどもの“遊び”としての音楽の特徴を理解し、歌唱や楽器演奏などの技術習得の他に、音楽の多様性を認識して複合的な活動の手法も身につけなければならない。歌唱や鍵盤楽器の実践にくわえ、音楽領域でのレパートリーを広げられるような学生自身の意識と感性の向上を目指す。							
到達目標							
こどもの遊びの一つである音楽の領域で、保育者・教育者に必要とされるピアノ演奏と弾き歌いについて、課題曲を保育士・幼稚園教諭志望と小学校・特別支援学校教諭志望の2グループに分け、現場で必要な実践力を養い、レパートリーの拡充を図る。 ○ 反復練習と意欲的な取り組みにより、読譜の困難を軽減する ○ 音楽の基礎知識を確認し、楽譜に書かれている内容を読み取ることができる ○ 楽曲における音楽的表現を学び、演奏に反映させられるよう意識をすることができる ○ 鍵盤楽器の基礎的技能の向上を実感できる							
授業の方法							
①②各担当教員のグループに分かれ、実技の個人レッスン形式ですすめる。 ③主に、レッスン時のディスカッション（聴講学生を含む）を行う。							
ICT活用							
タブレット端末などを用いた双方向型授業を行う場合がある。							
実務経験のある教員の教育内容							

全教員の音楽表現活動・教授経験を活かし、学生自身が興味をもって音楽に取り組み、確実な技術が身につけられるよう指導する。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員グループのレッスン中に、随時行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス～授業内容の概説 これからの授業の流れや留意点を説明した後、各担当教員のクラスに分かれ、 各々が準備した楽曲を演奏した後、課題曲を決定する ※幼保志望の【課題曲グループ】については、ガイダンス時に詳細を説明します	担当教員との打ち合わせに必要な、任意のピアノ曲、あるいは弾き歌いの曲を少なくとも1曲準備すること。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第2回	レッスン1:弾き歌い・ソロ曲の学習1 (幼保)【課題曲グループ1】の学習①～園生活・行事・季節(春)の歌などを中心に学習 (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第3回	レッスン2:弾き歌い・ソロ曲の学習2 (幼保)【課題曲グループ1】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第4回	レッスン3:弾き歌い・ソロ曲の学習3 (幼保)【課題曲グループ1】の学習③～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			

第5回	レッスン4:弾き歌い・ソロ曲の学習4 (幼保)【課題曲グループ1】の学習④～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)低学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第6回	レッスン5:弾き歌い・ソロ曲の学習5 (幼保)【課題曲グループ2】の学習①～園生活・行事・季節(夏)の歌などを中心に (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第7回	レッスン6:弾き歌い・ソロ曲の学習6 (幼保)【課題曲グループ2】の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第8回	レッスン7:弾き歌い・ソロ曲の学習7 (幼保)【課題曲グループ2】の学習③・ソロ曲の学習①～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第9回	レッスン8:弾き歌い・ソロ曲の学習8 (幼保)【課題曲グループ2】の学習④・ソロ曲の学習②～個々のレベルに合わせて指示・指導をしますので、常時2～3曲を準備すること (小特)中学年の歌唱共通教材から任意の2～3曲	新曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第10回	レッスン9:弾き歌い・ソロ曲の学習9～丁寧な譜読みを心がけた練習をすること (幼保)試験課題曲の学習① (小特)試験課題曲の学習①	実技試験課題曲を譜読みし、演奏できるよう丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			

第11回	レッスン10:弾き歌い・ソロ曲の学習10～確実な演奏を目指して、頭と耳を使った練習をすること (幼保)試験課題曲の学習② (小特)試験課題曲の学習②	引き続き、実技試験課題曲を丁寧に準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第12回	レッスン11:弾き歌い・ソロ曲の学習11～演奏中のさまざまな問題にも対応できるよう、練習を続けること (幼保)試験課題曲の学習③ (小特)試験課題曲の学習③	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、自身の演奏表現を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第13回	レッスン12:弾き歌い・ソロ曲の学習12～実技試験に向けた楽曲演奏の仕上げ (幼保)試験課題曲の学習④ (小特)試験課題曲の学習④	引き続き、実技試験課題曲について丁寧に、自身の演奏表現を目指すよう準備する。(30分)	レッスンで指摘された改善ポイントを復習する。(15分)
担当教員			
第14回	実技試験1 仲間の演奏を見聴きすることは、自分自身を振り返ることにもつながるので、対象者の視点で観察することも重要	各々の演奏に対する不安材料を残さないよう、丁寧に準備する。(最低30分)	試験終了者・未終了者ともに、反省点・気づいた点などを実践し、確認・改善する。(15分)
担当教員			
第15回	実技試験2、まとめ 仲間の演奏を見聴きすることは、自分自身を振り返ることにもつながるので、対象者の視点で観察することも重要 全体の講評とまとめ	各々の演奏に対する不安材料を残さないよう、丁寧に準備する。(最低30分)	これまで学んだことを忘れないよう、根気よく、頭と心を使った練習を夏季休業中も継続すること。(最低15分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	15	受講姿勢や意欲、自主練習の取り組み	

その他	85	ピアノ実技試験 ※現場の日常的な音楽活動においては、1度限りの演奏に集中して臨むことが求められる
教科書		
(幼保系)こどものうた200／小林美実／チャイルド本社 (小特系)2年次「教科教育法 音楽」で使用するテキスト (全履修者)1年次使用のピアノのテキスト など その他テキストの詳細は、ガイダンス時に説明する。		
参考文献		
明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌／音楽之友社 音楽のおくりもの1～6 教師用指導書 伴奏編／教育出版 他		
履修条件・留意事項等		
確実な技術などを習得することを目的としているので、「総合表現音楽Ⅰ・Ⅱ」を継続して受講することが望ましい。 学習進度は、各々の習得度などにより異なることがある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅲ身体表現1(2組)				ナンバリング	3408
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	細田 洋介						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの乳幼児期・学童期のこどもの基本的な知識、こどもの特徴と発達へのニーズを見極め対応できる教育的能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、不断に学ぶ意欲・態度を身につけることと関連がある科目です。 これまでに学んだ「表現Ⅳ日本語表現」「表現Ⅱ造形」等と関連し、「表現Ⅲ身体表現2」の基礎となる科目です。							
授業の概要							
保育者・教育者には幼児や児童と「触れ合う」コミュニケーションが求められます。そのためには、まず自らが身体表現を実践しながら、いかに身体や声が機能するかを理解する必要があります。 また、他者と協働する「演劇教育」の手法を軸として、コミュニケーション能力の指導を実践的に学びます。							
到達目標							
1. シアターゲーム・コミュニケーションゲームを通じて他者とつながる意識を獲得し、他者の表現を理解し尊重することができる。 2. 身体による表現手段ならびにコミュニケーション手段を多様に使うことができ、こどもたちが受け入れやすい手段を選択することができる。 3. グループ制作の手法を理解し、こどもたちの身体表現の基礎的な指導ができる。							
授業の方法							
シアターゲーム・コミュニケーションゲームを実際に体験し、その目的や方法を解説することで理解を深める。また、課題となる作品制作と発表を通じて、他者へどのように表現が伝わるか、あるいは伝わらないかを考察し意見交換を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

舞台演出家、児童向け演劇ワークショップ講師としての実務経験を活かし、身体表現の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを通じて個別にコメントに対して返信するほか、重要事項については授業で取り上げて説明する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【イントロダクション】 授業概要と演劇教育についての説明を行い、本授業でのルールを確認する。 アイスブレイクとして、シアターゲーム・コミュニケーションゲームを行う。 (原則的に、毎授業アイスブレイクは行う)	シラバスを事前に読んでおく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員			
第2回	【シアターゲーム・1】 他者とコンタクトを取りやすくするためのシアターゲーム(コミュニケーションゲーム)を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員			
第3回	【シアターゲーム・2】 主に身体を使ったシアターゲームを行う。 また、怪我などをしないように簡単な準備体操を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員			
第4回	【シアターゲーム・3】 主に声を使ったシアターゲームを行う。 また、喉を痛めないように簡単な発声練習を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。また、発声練習も自分でやってみる。(30分)
担当教員			

第5回	【シアターゲーム・4】 複合的なシアターゲームを行う。	前回に行ったシアターゲーム、 発声練習を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容 や目的を考察し、こどもたちと行 う場合の要点・注意点をまとめる 。また、発声練習も自分でやっ てみる。(30分)
担当教員			
第6回	【シアターゲーム・5】 他者を演じるシアターゲームを行う。	前回に行ったシアターゲーム、 発声練習を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容 や目的を考察し、こどもたちと行 う場合の要点・注意点をまとめる 。また、発声練習も自分でやっ てみる。(30分)
担当教員			
第7回	【絵本の読み聞かせ・1】 こどもに向けた絵本の読み聞かせについて、グループ練習 をする。	前回渡されたテキストを熟読し、 内容を理解しておく。(15分)	自分が担当するパートの音読練 習をしておく。 また、発声練習も自分でやって みる。(30分)
担当教員			
第8回	【絵本の読み聞かせ・2】 こどもに向けた絵本の読み聞かせについて、グループ発表 をする。	自分が担当するパートの音読練 習をしておく。 また、発声練習も自分でやって みる。(15分)	発表した際の反応を振り返り、ど のような工夫をすればさらに良 いものになったかを考える。(30 分)
担当教員			
第9回	【絵本を劇にする・1】 読み聞かせで使用した絵本を使い、グループごとに場面を 身体のみで表現する。 またセリフも考えてみる。 各グループごとに発表を行う。	文章だけでなく、背景の絵にど んなものが描かれているのか眺 めておく。(15分)	セリフの出し方や身体の動かし 方について、発表の際にもら った意見を振り返り、より良い表現 方法を模索しておく。(30分)
担当教員			
第10回	【絵本を劇にする・2】 前回作った場面をブラッシュアップし、さらに前後の場面を つくる。 各グループごとに発表を行う。	セリフの出し方や身体の動かし 方について各自練習しておく。(15分)	セリフの出し方や身体の動かし 方について、発表の際にもら った意見を振り返り、より良い表現 方法を模索しておく。(30分)
担当教員			

第11回	【絵本を劇にする・3&セタゲーム】 前回までにつくった場面をさらにブラッシュアップさせる。 セタの時期にちなみんだシアターゲームを行う。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	各場面がつながったイメージをシミュレーションしておく。(30分)
担当教員			
第12回	【絵本を劇にする・4】 各グループで作った場面をつなげ、一つの物語をつくる。 つなぎ方について意見交換を行い、練習する。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	練習・発表で出された意見をまとめ、より良い表現方法を模索しておく。(30分)
担当教員			
第13回	【絵本を劇にする・5】 最終的なブラッシュアップを行い、全体で発表を行う。 発表後は自分たちで意見交換をする。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	発表後の意見交換を振り返り、表現方法や制作過程の課題を考察しておく。(30分)
担当教員			
第14回	【それぞれの身体表現・準備】 各人・各グループで発表する身体表現作品についての準備・練習を行う。	各々の作品についてアイデアをまとめておく。(15分)	各々の作品についてアイデアの整理や使用品の準備をしておく(30分)
担当教員			
第15回	【それぞれの身体表現・発表会】 各人・各グループで用意してきた身体表現作品を発表する。 発表者以外はそれを見学する。	各々の作品発表を練習しておく。(15分)	各々が発表した身体表現作品の魅力や不足点を考察する。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	・出席状況 ・授業への参加姿勢 ・課題発表	

その他	30	コメントシート記載内容
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
筆記用具を持参。動きやすい服装(パンツスタイル)で受講してください。 必須ではないが、上靴の使用を推奨します。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅲ身体表現1(1組)				ナンバリング	3408
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	細田 洋介						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの乳幼児期・学童期のこどもの基本的な知識、こどもの特徴と発達へのニーズを見極め対応できる教育的能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、不断に学ぶ意欲・態度を身につけることと関連がある科目です。 これまでに学んだ「表現Ⅳ日本語表現」「表現Ⅱ造形」等と関連し、「表現Ⅲ身体表現2」の基礎となる科目です。							
授業の概要							
保育者・教育者には幼児や児童と「触れ合う」コミュニケーションが求められます。そのためには、まず自らが身体表現を実践しながら、いかに身体や声が機能するかを理解する必要があります。 また、他者と協働する「演劇教育」の手法を軸として、コミュニケーション能力の指導を実践的に学びます。							
到達目標							
1. シアターゲーム・コミュニケーションゲームを通じて他者とつながる意識を獲得し、他者の表現を理解し尊重することができる。 2. 身体による表現手段ならびにコミュニケーション手段を多様に使うことができ、こどもたちが受け入れやすい手段を選択することができる。 3. グループ制作の手法を理解し、こどもたちの身体表現の基礎的な指導ができる。							
授業の方法							
シアターゲーム・コミュニケーションゲームを実際に体験し、その目的や方法を解説することで理解を深める。また、課題となる作品制作と発表を通じて、他者へどのように表現が伝わるか、あるいは伝わらないかを考察し意見交換を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

舞台演出家、児童向け演劇ワークショップ講師としての実務経験を活かし、身体表現の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを通じて個別にコメントに対して返信するほか、重要事項については授業で取り上げて説明する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【イントロダクション】 授業概要と演劇教育についての説明を行い、本授業でのルールを確認する。 アイスブレイクとして、シアターゲーム・コミュニケーションゲームを行う。 (原則的に、毎授業アイスブレイクは行う)	シラバスを事前に読んでおく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員			
第2回	【シアターゲーム・1】 他者とコンタクトを取りやすくするためのシアターゲーム(コミュニケーションゲーム)を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員			
第3回	【シアターゲーム・2】 主に身体を使ったシアターゲームを行う。 また、怪我などをしないように簡単な準備体操を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。(30分)
担当教員			
第4回	【シアターゲーム・3】 主に声を使ったシアターゲームを行う。 また、喉を痛めないように簡単な発声練習を行う。	前回に行ったシアターゲームの方法を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容や目的を考察し、こどもたちと行う場合の要点・注意点をまとめる。また、発声練習も自分でやってみる。(30分)
担当教員			

第5回	【シアターゲーム・4】 複合的なシアターゲームを行う。	前回に行ったシアターゲーム、 発声練習を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容 や目的を考察し、こどもたちと行 う場合の要点・注意点をまとめる 。また、発声練習も自分でやっ てみる。(30分)
担当教員			
第6回	【シアターゲーム・5】 他者を演じるシアターゲームを行う。	前回に行ったシアターゲーム、 発声練習を復習しておく。(15分)	体験したシアターゲームの内容 や目的を考察し、こどもたちと行 う場合の要点・注意点をまとめる 。また、発声練習も自分でやっ てみる。(30分)
担当教員			
第7回	【絵本の読み聞かせ・1】 こどもに向けた絵本の読み聞かせについて、グループ練習 をする。	前回渡されたテキストを熟読し、 内容を理解しておく。(15分)	自分が担当するパートの音読練 習をしておく。 また、発声練習も自分でやって みる。(30分)
担当教員			
第8回	【絵本の読み聞かせ・2】 こどもに向けた絵本の読み聞かせについて、グループ発表 をする。	自分が担当するパートの音読練 習をしておく。 また、発声練習も自分でやって みる。(15分)	発表した際の反応を振り返り、ど のような工夫をすればさらに良 いものになったかを考える。(30 分)
担当教員			
第9回	【絵本を劇にする・1】 読み聞かせで使用した絵本を使い、グループごとに場面を 身体のみで表現する。 またセリフも考えてみる。 各グループごとに発表を行う。	文章だけでなく、背景の絵にど んなものが描かれているのか眺 めておく。(15分)	セリフの出し方や身体の動かし 方について、発表の際にもら った意見を振り返り、より良い表現 方法を模索しておく。(30分)
担当教員			
第10回	【絵本を劇にする・2】 前回作った場面をブラッシュアップし、さらに前後の場面を つくる。 各グループごとに発表を行う。	セリフの出し方や身体の動かし 方について各自練習しておく。(15分)	セリフの出し方や身体の動かし 方について、発表の際にもら った意見を振り返り、より良い表現 方法を模索しておく。(30分)
担当教員			

第11回	【絵本を劇にする・3&セタゲーム】 前回までにつくった場面をさらにブラッシュアップさせる。 セタの時期にちなみんだシアターゲームを行う。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	各場面がつながったイメージをシミュレーションしておく。(30分)
担当教員			
第12回	【絵本を劇にする・4】 各グループで作った場面をつなげ、一つの物語をつくる。 つなぎ方について意見交換を行い、練習する。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	練習・発表で出された意見をまとめ、より良い表現方法を模索しておく。(30分)
担当教員			
第13回	【絵本を劇にする・5】 最終的なブラッシュアップを行い、全体で発表を行う。 発表後は自分たちで意見交換をする。	セリフの出し方や身体の動かし方について各自練習しておく。(15分)	発表後の意見交換を振り返り、表現方法や制作過程の課題を考察しておく。(30分)
担当教員			
第14回	【それぞれの身体表現・準備】 各人・各グループで発表する身体表現作品についての準備・練習を行う。	各々の作品についてアイデアをまとめておく。(15分)	各々の作品についてアイデアの整理や使用品の準備をしておく(30分)
担当教員			
第15回	【それぞれの身体表現・発表会】 各人・各グループで用意してきた身体表現作品を発表する。 発表者以外はそれを見学する。	各々の作品発表を練習しておく。(30分)	各々が発表した身体表現作品の魅力や不足点を考察する。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	・出席状況 ・授業への参加姿勢 ・課題発表	

その他	30	コメントシート記載内容
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
筆記用具を持参。動きやすい服装(パンツスタイル)で受講してください。 必須ではないが、上靴の使用を推奨します。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅱ造形1(2組)				ナンバリング	3404
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
保育に必要な表現力を身につけ、表現方法の理解に関する科目である。幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許取得に必須の科目であり、こどもの造形表現に関する理解と保育者・教育者としての実践力を身につける科目である。また、ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「保育内容指導法(造形表現1,2)」ではおもに絵で表す活動を中心に学んできたが、本科目では素材への理解を深めながら立体表現を中心に制作する。「表現Ⅱ造形2」の基礎となる。							
授業の概要							
造形表現活動は、自分の思いを何らかの形や色彩、その他の表現方法で表す活動である。子どもは結果よりも活動自体を楽しむ傾向にあり、それは環境へ自ら働きかけて遊びながら表現し、表現しながら遊んでいる。保育においてはこのプロセスを大切にし感性や想像力を働かせ創造性を育むことが大切である。ここでは、子どもの造形表現の理解を深め、保育者としての表現力も習得する。							
到達目標							
1造形表現と子どもの関係を理解しそれを説明できる。 2子どもの感性を豊かにする造形表現を実践できる。 3.こどもの造形表現についての基礎的な指導ができる。							
授業の方法							
配布物やDVDなどをおしてテーマへの理解を深め制作への動機付けをおこなう。 各テーマごとに作品を制作し、制作したものはポートフォリオにまとめ活動を振り返り素材や創造性への理解を深める。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用してデータ収集や編集、活動報告をお行う。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオに評価をつけて返却する。製作物に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション～社会の中の造形表現 我々の身の回りにある造形表現(美術作品)について考察をしていく。社会の中にある美術館やパブリックアートなどが担う役割について理解を深めて行く。	教科書のp1～p23をよんでおくこと(25分)	授業内容をワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	描画表現—観察から想像する 身のまわりのものを観察することから想像を膨らますことをテーマに絵を描く。観察することや想像することがいかに創造性に関わっているのかを考察する。	任意で絵本や画集を選び多様な表現を確認する。(25分)	こどもの自由な発想を保障する保育者のかかわりについてまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	描画表現—観察からイメージをつかむ(詩の朗読から) 「不思議」をテーマに身のまわりのものを観察し絵を描く。観察することや想像することがいかに創造性に関わっているのかを考察する。	任意で絵本や画集を選び多様な表現を確認する。(25分)	不思議をテーマにした作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第4回	描画表現—キャラクターについて① テレビや漫画などに登場するキャラクターとこどもの描画表現について再考する。友達のキャラクターを制作するにあたり、ワークシートに友達の特長をまとめる。	教科書p26～p31まで読んでおく。(25分)	キャラクターについてのワークシートをまとめる。(20分)
担当教員			

第5回	描画表現—キャラクターについて② テレビや漫画などに登場するキャラクターとこどもの描画表現について再考する。前回の講義でまとめた友達の特徴からイメージを膨らましオリジナルのキャラクターを作成する。	日本のキャラクター文化について調べておく。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第6回	素材と関わる表現—紙との関わりからイメージを膨らます① 色画用紙を使ったオリジナルの「新種の生き物」を制作する。紙の特徴をつかみ次回の講義で作る「新種の生き物」のアイデアスケッチをワークシートにまとめる	教科書p32～p37まで読んでおく。(25分)	アイデアスケッチを完成させる。(20分)
担当教員			
第7回	素材と関わる表現—紙との関わりからイメージを膨らます② 色画用紙を使ったオリジナルの「新種の生き物」を制作する。前回の講義で作成したワークシートを元に自立する「新種の生き物」を色画用紙を使って制作する。	不要になった紙などの材料を集めておく。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第8回	素材と関わる表現—紙との関わりからイメージを膨らます③ 完成したオリジナルの「新種の生き物」を撮影する。それぞれの作品に合った場所で撮影し自作の物語をつくりポートフォリオにまとめる。	作品が自立するように調整しておく。(25分)	ポートフォリオを完成させる。(20分)
担当教員			
第9回	楽しい造形遊び —飛ぶものを作る① 子どもは遊びを通して感受性を豊かにする。本講義では紙皿を使ったオリジナルUFOの制作をし、風の力を利用した造形やゴム等の動力を使って飛ばす造形について考察する。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	教科書p153～p154まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第10回	楽しい造形遊び —飛ぶものを作る② 前回まとめたワークシートをもとに紙皿を使ったオリジナルUFOの制作をする。飛ばすための形を考慮しつつ、形、色、素材を工夫する。	不要になったカップなどの材料を用意する。(25分)	次回必要な材料を確認する。(20分)
担当教員			

第11回	楽しい造形遊び ―飛ぶものを作る③ 完成したオリジナルUFOを実際に飛ばしてみる。実際の活動の様子を撮影し、自作のUFOの物語りをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、紙皿を使った造形活動の指導案を作成する。	必要な材料を準備しておく。(25分)	作品を完成させポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
第12回	楽しい造形遊び ～走るものを作る① 子どもは身近な材料を自分の世界に持ち込んで楽しめる。ここでは、紙を中心にやさしくつくって遊べる車輪が動くオリジナルカーの作品づくりをする。車輪の構造を理解しアイデアをワークシートにまとめる。	車輪が回る構造を調べておく(25分)	ワークシートにアイデアをまとめる。(20分)
担当教員			
第13回	楽しい造形遊び ～走るものを作る② 前回作成したワークシートを元にオリジナルカーの制作をする。既成概念にとらわれず思いつきを積極的に取り入れながら柔軟に制作を進める。車輪の動く構造を完成させる。	材料を準備しておく。(25分)	次回必要な材料を確認する。(20分)
担当教員			
第14回	楽しい造形遊び ～走るものを作る③ 前回に引き続きオリジナルカーの制作をする。色、形、素材を工夫しながら完成させる。車輪の動く構造が出来ているか確認する。	必要な材料を準備しておく。(25分)	車輪が回るか確認し作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第15回	楽しい造形遊び ～走るものを作る④ ダンボールを使って坂道を作り完成したオリジナルカーを実際に走らせる。実際の活動の様子を撮影し、オリジナルカーのコンセプトをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、車輪の動く造形活動の指導案を作成する。	車輪が回るように調整しておく。(25分)	授業内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	作品(期限内提出、制作条件の理解、制作の取組、作品内容)	

その他	50	ポートフォリオ(制作のまとめ、内容の報告)。指導案(こどもや環境への配慮)
教科書		
なし		
参考文献		
●授業時に資料配布・参考作品を提示 ●文部科学省「幼稚園 教育要領」		
履修条件・留意事項等		
作成したポートフォリオや資料、ワークシートを記録・保管できるA4サイズのクリアポケットファイル(15ポケット以上)を用意しておく。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅱ造形1(1組)				ナンバリング	3404
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
保育に必要な表現力を身につけ、表現方法の理解に関する科目である。幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許取得に必須の科目であり、こどもの造形表現に関する理解と保育者・教育者としての実践力を身につける科目である。また、ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「保育内容指導法(造形表現1,2)」ではおもに絵で表す活動を中心に学んできたが、本科目では素材への理解を深めながら立体表現を中心に制作する。「表現Ⅱ造形2」の基礎となる。							
授業の概要							
造形表現活動は、自分の思いを何らかの形や色彩、その他の表現方法で表す活動である。子どもは結果よりも活動自体を楽しむ傾向にあり、それは環境へ自ら働きかけて遊びながら表現し、表現しながら遊んでいる。保育においてはこのプロセスを大切にし感性や想像力を働かせ創造性を育むことが大切である。ここでは、子どもの造形表現の理解を深め、保育者としての表現力も習得する。							
到達目標							
1造形表現と子どもの関係を理解しそれを説明できる。 2子どもの感性を豊かにする造形表現を実践できる。 3.こどもの造形表現についての基礎的な指導ができる。							
授業の方法							
配布物やDVDなどをおしてテーマへの理解を深め制作への動機付けをおこなう。 各テーマごとに作品を制作し、制作したものはポートフォリオにまとめ活動を振り返り素材や創造性への理解を深める。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用してデータ収集や編集、活動報告をお行う。また、googleclassroomを活用した情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオに評価をつけて返却する。製作物に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション～社会の中の造形表現 我々の身の回りにある造形表現(美術作品)について考察をしていく。社会の中にある美術館やパブリックアートなどが担う役割について理解を深めて行く。	教科書のp1～p23をよんでおくこと(25分)	授業内容をワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	描画表現—観察から想像する 身のまわりのものを観察することから想像を膨らますことをテーマに絵を描く。観察することや想像することがいかに創造性に関わっているのかを考察する。	任意で絵本や画集を選び多様な表現を確認する。(25分)	こどもの自由な発想を保障する保育者のかかわりについてまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	描画表現—観察からイメージをつかむ(詩の朗読から) 「不思議」をテーマに身のまわりのものを観察し絵を描く。観察することや想像することがいかに創造性に関わっているのかを考察する。	任意で絵本や画集を選び多様な表現を確認する。(25分)	不思議をテーマにした作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第4回	描画表現—キャラクターについて① テレビや漫画などに登場するキャラクターとこどもの描画表現について再考する。友達のキャラクターを制作するにあたり、ワークシートに友達の特長をまとめる。	教科書p26～p31まで読んでおく。(25分)	キャラクターについてのワークシートをまとめる。(20分)
担当教員			

第5回	描画表現—キャラクターについて② テレビや漫画などに登場するキャラクターとこどもの描画表現について再考する。前回の講義でまとめた友達の特徴からイメージを膨らましオリジナルのキャラクターを作成する。	日本のキャラクター文化について調べておく。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第6回	素材と関わる表現—紙との関わりからイメージを膨らます① 色画用紙を使ったオリジナルの「新種の生き物」を制作する。紙の特徴をつかみ次回の講義で作る「新種の生き物」のアイデアスケッチをワークシートにまとめる	教科書p32～p37まで読んでおく。(25分)	アイデアスケッチを完成させる。(20分)
担当教員			
第7回	素材と関わる表現—紙との関わりからイメージを膨らます② 色画用紙を使ったオリジナルの「新種の生き物」を制作する。前回の講義で作成したワークシートを元に自立する「新種の生き物」を色画用紙を使って制作する。	不要になった紙などの材料を集めておく。(25分)	作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第8回	素材と関わる表現—紙との関わりからイメージを膨らます③ 完成したオリジナルの「新種の生き物」を撮影する。それぞれの作品に合った場所で撮影し自作の物語をつくりポートフォリオにまとめる。	作品が自立するように調整しておく。(25分)	ポートフォリオを完成させる。(20分)
担当教員			
第9回	楽しい造形遊び —飛ぶものを作る① 子どもは遊びを通して感受性を豊かにする。本講義では紙皿を使ったオリジナルUFOの制作をし、風の力を利用した造形やゴム等の動力を使って飛ばす造形について考察する。現代のこどもに即した造形遊びの展開を工夫をする。アイデアをワークシートにまとめる。	教科書p153～p154まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第10回	楽しい造形遊び —飛ぶものを作る② 前回まとめたワークシートをもとに紙皿を使ったオリジナルUFOの制作をする。飛ぶための形を考慮しつつ、形、色、素材を工夫する。	不要になったカップなどの材料を用意する。(25分)	次回必要な材料を確認する。(20分)
担当教員			

第11回	楽しい造形遊び ～飛ぶものを作る③ 完成したオリジナルUFOを実際に飛ばしてみる。実際の活動の様子を撮影し、自作のUFOの物語りをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、紙皿を使った造形活動の指導案を作成する。	必要な材料を準備しておく。(25分)	作品を完成させポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
第12回	楽しい造形遊び ～走るものを作る① 子どもは身近な材料を自分の世界に持ち込んで楽しめる。ここでは、紙を中心にやさしくつくって遊べる車輪が動くオリジナルカーの作品づくりをする。車輪の構造を理解しアイデアをワークシートにまとめる。	車輪が回る構造を調べておく(25分)	ワークシートにアイデアをまとめる。(20分)
担当教員			
第13回	楽しい造形遊び ～走るものを作る② 前回作成したワークシートを元にオリジナルカーの制作をする。既成概念にとらわれず思いつきを積極的に取り入れながら柔軟に制作を進める。車輪の動く構造を完成させる。	材料を準備しておく。(25分)	次回必要な材料を確認する。(20分)
担当教員			
第14回	楽しい造形遊び ～走るものを作る③ 前回に引き続きオリジナルカーの制作をする。色、形、素材を工夫しながら完成させる。車輪の動く構造が出来ているか確認する。	必要な材料を準備しておく。(25分)	車輪が回るか確認し作品を完成させる。(20分)
担当教員			
第15回	楽しい造形遊び ～走るものを作る④ ダンボールを使って坂道を作り完成したオリジナルカーを実際に走らせる。実際の活動の様子を撮影し、オリジナルカーのコンセプトをポートフォリオにまとめる。また、遊び方や制作の方法などを、車輪の動く造形活動の指導案を作成する。	車輪が回るように調整しておく。(25分)	授業内容をポートフォリオにまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	作品(期限内提出、制作条件の理解、制作の取組、作品内容)	

その他	50	ポートフォリオ(制作のまとめ、内容の報告)。指導案(こどもや環境への配慮)
教科書		
なし		
参考文献		
●授業時に資料配布・参考作品を提示 ●文部科学省「幼稚園 教育要領」		
履修条件・留意事項等		
作成したポートフォリオや資料、ワークシートを記録・保管できるA4サイズのクリアポケットファイル(15ポケット以上)を用意しておく。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅳ日本語表現1(1組)				ナンバリング	3412
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	森田 弘行						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている(知識・技能)」ための科目である。さらにディプロマポリシーの「・教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につける【思考・判断・表現】」ための科目である。また、初年次教育の一環として、保育・教育活動に役立つ日本語表現のスキルを身につけるための科目であり、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎となる科目として位置付けられる。							
授業の概要							
社会で求められる能力は、「感じる力」「考える力」「想像する力」などの言葉による「理解力」と、これらを言葉で適切に表す「表現力」である。幼児は、母語としての日本語に初めて触れ、保育士の指導で国語の能力を身に付けていく。したがって、学生は、日々、言語感覚を磨き、確かに豊かな表現とは何かを理解しておく必要がある。表現の基礎力を培うために、会話や話し合いの事例や、様々な文例や作品から日本語の機微に触れ、適切な表現を理解させる。また、演習を通して、確かに豊かな言語表現力を身に付けさせる。							
到達目標							
1 幼児の日本語表現の特徴や、表現力を高めるかかわり方について理解できる。 2 円滑なコミュニケーションに心がけ、グループ学習に生かすことができる。 3 言葉による適切な表現を理解し、伝え方を工夫することができる。 4 言葉による表現力を確かにするために、自学自習を積極的に行うことができる。 5 保育に役立つ日本語表現力をレポートやディカッションなどで活用することができる。							
授業の方法							
授業形態は、演習を中心にグループワークやディカッションなどを織り交ぜて行う。主にパワーポイントと配布物、そして視聴覚メディアを活用しながら行い、毎回、TPO に合った事例を提示し、日本語表現の重要性に気付くようにする。可能な限り、学生が主体的・対話的・深い学び(＝アクティブラーニング)ができるような工夫をする。具体的には、ディスカッション、ロールプレイ・バズセッションなどを取り入れる。課題に対するフィードバックは、毎回授業の振り返り文やメモについてコメントを書く。また、必要に応じてルーブリック評価も取り入れる。							
ICT活用							
毎時間、パワーポイントを使用し、視覚的にも理解しやすいようにする。日本語表現に関連した動画を視聴し、互いに意見を述べ合う活動を設定する。ロールプレイを行っている様子を録画し、それをもとにディスカッションやシェアリングを行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

日本語担当加配教員として、外国人児童をに日本語表現を教えた経験を生かして、日本語表現の重要性や豊かな日本語表現の活用法などについて授業を行う。
また、長年、国語教育の教員として、文章表現やコミュニケーション活用について幅広い知識、知見を有しているので、その経験を生かした指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

演習におけるメモ内容と感想・要望・質問・内省等の文章に対しては、コメントを返す。また、全体にフィードバックした方が良い内容は、回収後、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】本p10-18 保育者として適切な日本語表現にするために必要なことについて理解する。 話す・聞く・読む・書くの技術を磨く。基礎となる豊かな教養と日本語表現力を身に付けることが目的となる。 15回の授業を通して、大学の講義、演習、実習で必要な日本語表現力を学ぶ。	事前にテキスト全体に目を通し、日本語表現に対する自分なりの考えをまとめておくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第2回	【会話表現(基礎編)1・2】本p20-25 本p93-103 保育者として保育現場での「聞き取りやすい話し方の基本」「あいさつの仕方」について理解し、日常生活にも生かすことを学ぶ。 保育者として相手・目的意識を持ちながら、手紙全般の書き方、様式、時候の挨拶などの書き方を学ぶ。 また、実習や参観に行った時に礼状の書き方を学び身に付ける。	テキストp20~25をしっかりと読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第3回	【会話表現(基礎3)】本p26-30 保育者として、いろいろな場面を想定し、保護者や上司との会話場面をロールプレイなどで敬語の使い方を学ぶ。 また、実習先や職場での話し方の工夫やクッション言葉の使い方を知ること、円滑なコミュニケーションが取れることを理解する。	テキストp26~30をしっかりと読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第4回	【会話表現(応用編)1・2・3・4】本p32-42 保育者として「保育者の発声」「自己紹介の仕方」「実習先とのやりとり」「保育現場での話し方」などの日本語表現スキルを学ぶ。	テキストp32~42をしっかりと読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第5回	【会話表現(応用編)5・6・7】本46－54 保育者として「子どもへの声がけ」の仕方を学ぶ。また、「就職面接」時の事前準備、面接内容、実際の質問例などを踏まえて、ロールプレイを行い、面接で重要なポイントを理解する。	テキストp46-54をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			
第6回	【会話表現(応用編)7・8】本p55-56 保育者として「保育現場での電話」について理解し、日常生活に生かしていくことを学ぶ。 送り迎え時の保護者とのやり取りや保護者との電話マナー、電話での話し方の基本をロールプレイなどを通して理解する。	テキストp55～56をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			
第7回	【文章表現(基礎編)1・2】本p58－65 保育者としての「正しい文字の書き方」「正しい表記の仕方」をしっかりと理解する。 また、「正しい文字、美しい文字、文字を書く際の基本的な留意点」を演習を通して学ぶ。	テキストp66～76をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			
第8回	【文章表現(基礎編)3・4】本p66－76 保育者としての「文章作成上の留意点」「文章表現への生かし方」を学ぶ。 特に、当て字、差別用語、不快用語、隠語、重複表現に留意して書くことを知る。 また、文章の基本的な書き方である「一文を短く書く」「句読点を正しく打つ」などに注意して書くことを理解する。	テキストp66～76をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			
第9回	【文章表現(応用編)1】本p78-87 保育士の卵として、保育実習に行くための「実習日誌」の基本的な書き方について理解する。 演習を通して、注意したい表現に気を付けながら、実習日誌の書き方を身に付ける。	テキストp76～87をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			
第10回	【文章表現(応用編)2】本p88-92 保育士の卵として、指導計画の書き方について理解し、文章表現に生かすことを学ぶ。 指導計画の種類や計画際の留意点などを意識し、演習を通してその書き方を学ぶ。	テキストp88-92をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			

第11回	【文章表現(応用編)3・4】本p93-106 保育者としての「ハガキの書き方」や「文章表現に生かす術」を学ぶ。 「メールの書き方」「メールの種類」などについて、演習を通して理解する。	テキストp104~106をしっかりと読んでくこと。 普段、自分や友人がどのようなメールの書き方をしているか考え、調べてくること。テキストp100~103を読んでおくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第12回	【文章表現(応用編)5・6】本p106-113 保育者として将来就職する時のために、履歴書の書く方と小論文の基本的な書き方を身に付ける。 また、原稿用紙の書き方や履歴書や小論文を書く時の留意点を理解する。	テキストp106-113をしっかりと読み、自分の考えをまとめてくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第13回	【文章表現(応用編)7】本p114-124 本p125-132 小論文のテーマや具体例を確認し、保育者としての問題意識について学ぶ。 保育者として「連絡帳の書き方」について理解し、演習を通して連絡帳の書き方を学ぶ。 また、連絡帳のメリット、デメリットについて討論し、よりよい書き方を身に付ける。	テキストp114~132をしっかりと読み、自分の考えをまとめてくること。 小論文テストに備えて800字の文にまとめる練習をしておくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第14回	【文章表現(応用編)8】本p133-138 保育者としての「園だよりの書き方」について理解し、演習を通して実際に書いてみる。 また、1~15回までの日本語表現の学びを振り返り、自身の日本語表現力を再確認し、自己評価する。	テキストp133~138をしっかりと読み、自分の考えをまとめてくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第15回	【文章表現(まとめ)】 これまでの学んだことをテキストに沿って振り返る。 小論文のポイントを確認後、小論文テストのテーマを理解したうえで、文章表現を工夫しながら書きまとめる。 また、これまで学んできた文章表現法を反芻しながら、再確認する。 小論文の留意点(原稿用紙の使い方、構想、叙述、推敲) 小論文は800字以内で書く。	テキストp112-124をしっかりと読んでくこと。 小論文テストに備えて800字の文にまとめる練習をしてくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物 ○5点(小課題とメモ)×14回=70点 ◎30点(小論文)(15回目)	

その他	0	なし
教科書		
改訂 保育者になるための国語表現 田上貞一郎 萌文書林 2023年4月1日改訂版第6刷発行		
参考文献		
適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
・評価は、演習問題、提出文章など毎回の提出物による。 ・提出物は、添削後に返却するので文章表現力の向上に役立てる。 ・筆記用具は、濃い鉛筆もしくはペンとする。 ・辞書の持ち込みは可とする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 表現方法の理解					
科目名		表現Ⅳ日本語表現1(2組)				ナンバリング	3412
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	森田 弘行						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている(知識・技能)」ための科目である。さらにディプロマポリシーの「・教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につける【思考・判断・表現】」ための科目である。また、初年次教育の一環として、保育・教育活動に役立つ日本語表現のスキルを身につけるための科目であり、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎となる科目として位置付けられる。							
授業の概要							
社会で求められる能力は、「感じる力」「考える力」「想像する力」などの言葉による「理解力」と、これらを言葉で適切に表す「表現力」である。幼児は、母語としての日本語に初めて触れ、保育士の指導で国語の能力を身に付けていく。したがって、学生は、日々、言語感覚を磨き、確かに豊かな表現とは何かを理解しておく必要がある。表現の基礎力を培うために、会話や話し合いの事例や、様々な文例や作品から日本語の機微に触れ、適切な表現を理解させる。また、演習を通して、確かに豊かな言語表現力を身に付けさせる。							
到達目標							
1 幼児の日本語表現の特徴や、表現力を高めるかわり方について理解できる。 2 円滑なコミュニケーションに心がけ、グループ学習に生かすことができる。 3 言葉による適切な表現を理解し、伝え方を工夫することができる。 4 言葉による表現力を確かにするために、自学自習を積極的に行うことができる。 5 保育に役立つ日本語表現力をレポートやディカッションなどで活用することができる。							
授業の方法							
授業形態は、演習を中心にグループワークやディカッションなどを織り交ぜて行う。主にパワーポイントと配布物、そして視聴覚メディアを活用しながら行い、毎回、TPO に合った事例を提示し、日本語表現の重要性に気付くようにする。可能な限り、学生が主体的・対話的・深い学び(＝アクティブラーニング)ができるような工夫をする。具体的には、ディスカッション、ロールプレイ・バズセッションなどを取り入れる。課題に対するフィードバックは、毎回授業の振り返り文やメモについてコメントを書く。また、必要に応じてルーブリック評価も取り入れる。							
ICT活用							
毎時間、パワーポイントを使用し、視覚的にも理解しやすいようにする。日本語表現に関連した動画を視聴し、互いに意見を述べ合う活動を設定する。ロールプレイを行っている様子を録画し、それをもとにディスカッションやシェアリングを行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

日本語担当加配教員として、外国人児童をに日本語表現を教えた経験を生かして、日本語表現の重要性や豊かな日本語表現の活用法などについて授業を行う。
また、長年、国語教育の教員として、文章表現やコミュニケーション活用について幅広い知識、知見を有しているので、その経験を生かした指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

演習におけるメモ内容と感想・要望・質問・内省等の文章に対しては、コメントを返す。
また、全体にフィードバックした方が良い内容は、回収後、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】本p10-18 保育者として適切な日本語表現にするために必要なことについて理解する。 話す・聞く・読む・書くの技術を磨く。基礎となる豊かな教養と日本語表現力を身に付けることが目的となる。 15回の授業を通して、大学の講義、演習、実習で必要な日本語表現力を学ぶ。	事前にテキスト全体に目を通し、日本語表現に対する自分なりの考えをまとめておくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第2回	【会話表現(基礎編)1・2】本p20-25 本p93-103 保育者として保育現場での「聞き取りやすい話し方の基本」「あいさつの仕方」について理解し、日常生活にも生かすことを学ぶ。 保育者として相手・目的意識を持ちながら、手紙全般の書き方、様式、時候の挨拶などの書き方を学ぶ。 また、実習や参観に行った時に礼状の書き方を学び身に付ける。	テキストp20~25をしっかりと読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第3回	【会話表現(基礎3)】本p26-30 保育者として、いろいろな場面を想定し、保護者や上司との会話場面をロールプレイなどで敬語の使い方を学ぶ。 また、実習先や職場での話し方の工夫やクッション言葉の使い方を知ること、円滑なコミュニケーションが取れることを理解する。	テキストp26~30をしっかりと読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第4回	【会話表現(応用編)1・2・3・4】本p32-42 保育者として「保育者の発声」「自己紹介の仕方」「実習先とのやりとり」「保育現場での話し方」などの日本語表現スキルを学ぶ。	テキストp32~42をしっかりと読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			

第5回	【会話表現(応用編)5・6・7】本46－54 保育者として「子どもへの声がけ」の仕方を学ぶ。また、「就職面接」時の事前準備、面接内容、実際の質問例などを踏まえて、ロールプレイを行い、面接で重要なポイントを理解する。	テキストp46-54をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			
第6回	【会話表現(応用編)7・8】本p55-56 保育者として「保育現場での電話」について理解し、日常生活に生かしていくことを学ぶ。 送り迎え時の保護者とのやり取りや保護者との電話マナー、電話での話し方の基本をロールプレイなどを通して理解する。	テキストp55～56をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			
第7回	【文章表現(基礎編)1・2】本p58－65 保育者としての「正しい文字の書き方」「正しい表記の仕方」をしっかりと理解する。 また、「正しい文字、美しい文字、文字を書く際の基本的な留意点」を演習を通して学ぶ。	テキストp58-65をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			
第8回	【文章表現(基礎編)3・4】本p66－76 保育者としての「文章作成上の留意点」「文章表現への生かし方」を学ぶ。 特に、当て字、差別用語、不快用語、隠語、重複表現に留意して書くことを知る。 また、文章の基本的な書き方である「一文を短く書く」「句読点を正しく打つ」などに注意して書くことを理解する。	テキストp66～76をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			
第9回	【文章表現(応用編)1】本p78-87 保育士の卵として、保育実習に行くための「実習日誌」の基本的な書き方について理解する。 演習を通して、注意したい表現に気を付けながら、実習日誌の書き方を身に付ける。	テキストp76～87をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			
第10回	【文章表現(応用編)1】本p88-92 保育士の卵として、指導計画の書き方について理解し、文章表現に生かすことを学ぶ。 指導計画の種類や計画際の留意点などを意識し、演習を通してその書き方を学ぶ。	テキストp88-92をしっかりと読んで くこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをま とめること。(20分)
担当教員			

第11回	【文章表現(応用編)3・4】本p93-106 保育者としての「ハガキの書き方」や「文章表現に生かす術」を学ぶ。 「メールの書き方」「メールの種類」「履歴書の基本的な書き方」などについて、演習を通して理解する。	テキストp104~106をしっかりと読んでくること。 普段、自分や友人がどのようなメールの書き方をしているか考え、調べてくること。テキストp100~103を読んでおくこと。	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第12回	【文章表現(応用編)5・6】本p106-113 保育者として将来就職する時のために、履歴書の書く方と小論文の基本的な書き方を身に付ける。 また、原稿用紙の書き方や履歴書や小論文を書く時の留意点を理解する。	テキストp106-113をしっかりと読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第13回	【文章表現(応用編)7】本p114-124 本p125-132 小論文のテーマや具体例を確認し、保育者としての問題意識について学ぶ。 保育者として「連絡帳の書き方」について理解し、演習を通して連絡帳の書き方を学ぶ。 また、連絡帳のメリット、デメリットについて討論し、よりよい書き方を身に付ける。	テキストp114~132をしっかりと読んでくること。 小論文テストに備えて800字の文にまとめる練習をしておくこと。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第14回	【文章表現(応用編)8】本p133-138 保育者としての「園だよりの書き方」について理解し、演習を通して実際に書いてみる。 また、1~15回までの日本語表現の学びを振り返り、自身の日本語表現力を再確認し、自己評価する。	テキストp133~138をしっかりと読んでくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
第15回	これまでの学んだことをテキストに沿って振り返る。 小論文のポイントを確認後、小論文テストのテーマを理解したうえで、文章表現を工夫しながら書きまとめる。 また、これまで学んできた文章表現法を反芻しながら、再確認する。 小論文の留意点(原稿用紙の使い方、構想、叙述、推敲) 小論文は800字以内で書く。	テキストp112-124をしっかりと読んでくること。 小論文テストに備えて800字の文にまとめる練習をしてくること。(25分)	配布プリントを復習し、考えをまとめること。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	提出物 ・5点(小課題とメモ)×14回＝70点 ◎30点(小論文)(15回目)	

その他	0	なし
教科書		
改訂 保育者になるための国語表現 田上貞一郎 萌文書林 2023年4月1日改訂版第6刷発行		
参考文献		
献適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
・評価は、演習問題、提出文章など毎回の提出物による。 ・提出物は、添削後に返却するので文章表現力の向上に役立てる。 ・筆記用具は、濃い鉛筆もしくはペンとする。 ・辞書の持ち込みは可とする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教科科目					
科目名		家庭科教育概論				ナンバリング	3450
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木下 教子						
授業の位置づけ							
小学校の家庭科は家庭における人間関係や安全で安心な衣食住の暮らしなどについて、発達に応じ系統的、総合的な指導が必要であることから設置されている。ディプロマ・ポリシーとして、教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけるための科目である。 小学校教諭一種免許状を取得するための必修科目であり、教科教育法 家庭の基礎科目である。							
授業の概要							
家庭科は人の生活を学習対象とする教科である。生活は個人や家族、家庭にとどまらず、地域、社会と深く関わっている。家庭科の学びにより育む力は、衣食住の生活の知識や技能の習得だけではなく、生活を営むことの意味や価値をよく理解すること、より良い生活の実現にむけて課題を解決し実践的な態度を育むことが大切である。学習指導要領(家庭編)に基づき、小学校家庭科の目標および内容について学び理解する。							
到達目標							
・生活に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技能を自らも実践し、授業実践に活用できる。 ・家庭生活を大切にすることを目指す学習活動を展開することができる。 ・自ら生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育み、人に伝えることができる。 ・日常生活の中から課題を見出して、様々な解決方法を考え、授業実践に活用できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いた講義形式である。グループ活動を行い対話的な学びを深める。							
ICT活用							
なし。							
実務経験のある教員の教育内容							

管理栄養士の経験を活かして、家庭科教育の指導方法を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを加え、小テストは解答の説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 15回の授業を概観し、教科書、小学校学習指導要領(家庭編)の使い方について説明を行う。小・中・高と学んだ家庭科の学びについてグループ活動により整理し、家庭科の既習事項や生活に役立つことを学んでいるという有効感を高めるためにはどのような教育活動が必要であるかを知る。	小・中・高校と学んだ家庭科教育を振り返り、日常生活の場で活用していることや特に印象に残っていること、得意なことについてまとめる。(90分)	教科書全体に目を通して、記載内容について理解する。(90分)
担当教員			
第2回	小学校家庭科の目標及び内容について 家庭科の学習内容は「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」で構成されている。グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、社会の急激な変化に主体的に対応することができる資質・能力の育成を目指していることを理解する。	学習指導要領解説のp1～p10を熟読しておく。(90分)	学習指導要領解説のp12～p16を熟読しておく。(90分)
担当教員			
第3回	家族・家庭生活について 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることなど、家庭生活の意義について学ぶ。家庭生活が地域の人々との関わりもちながら成り立っていることや幼児や高齢者など異なる世代の人々の関わりや地域の人々との協力、家庭生活を大切にすることの心情が大切であることを理解する。	自分の平日と休日の生活時間について調べて、生活時間の有効な使い方について見直してまとめる。(90分)	学習指導要領解説のp20～p31を熟読しておく。(90分)
担当教員			
第4回	日常の食事と調理の基礎について 食事は食品の栄養的な特徴を知り組み合わせるとる必要があることを学ぶ。食事は健康を保ち、体の成長や活動のもとになることや、朝食を食べることによって学習や活動のために使われるしくみ、一緒に食事をするものの意義について理解する。	日常食べているバランスのよい食事について、3日分(献立名、食品)記録してください。授業時に使用する。(90分)	教科書をp40～p49を熟読しておく。(90分)
担当教員			

第5回	調理の基礎について おいしく食べるために調理の手順や、材料の切り方、加熱の仕方、味の付け方、盛り付けなど調理計画の立て方を学ぶ。実際に野菜を使った副菜を作る調理計画を作成を行う。	教科書を見て野菜の洗い方、切り方、保存方法について調べておく。(90分)	学習指導要領解説のp36～p41を熟読しておく。(90分)
担当教員			
第6回	家庭科と食育について 食育基本法、食育推進計画に基いて、児童の食生活の実態から日常の食事を大切にする心、心身の成長や健康を保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方、調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能などを育むとともに日本の伝統的な食文化の継承に向けた取り組みも推進されていることを知る。	前時に参考資料を提示する。児童における食生活の課題についてまとめる。(90分)	web教材を提示しますので視聴する。食文化を継承するための取り組みについてまとめる。(90分)
担当教員			
第7回	快適な衣服について(1) 衣服の主な働きとして、保健衛生上及び生活活動の上の働きを理解し、季節に応じた日常着の快適な着方については、観察や実験を通して知る。	日常着として使われている繊維の特徴・用途について調べておく。(90分) 教科書をp90～p93を熟読しておく。	学習指導要領解説のp49～p52を熟読しておく。(90分)
担当教員			
第8回	快適な衣服について(2) 手洗いを中心とし、洗濯に必要な洗剤、用具及び洗い方などを理解し洗濯の基本について理解する。	環境に配慮した洗濯のしかた、取扱ひ絵表示について調べておく。(90分)	web教材を提示しますので視聴する。洗濯の用具の扱い方について知る。(90分)
担当教員			
第9回	生活を豊かにするための布を用いた製作(1) 手縫いの種類や手法について知る。なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、ボタン付けなど実際に行う。	手縫いをするための玉結びや玉どめの方法、目的に応じた縫い方、用具の安全な取扱いについて理解する。(90分)	本時で行った手縫い、ボタン付けなどを復習する。(90分)
担当教員			
第10回	生活を豊かにするための布を用いた製作(2) なみ縫い、返し縫い、かがり縫いなどを使い、小物の製作計画を立てる。	布の裁断、印づけ、縫い代、目的にあった縫い方を確認し理解する。(90分)	裁縫道具の安全な使い方について、調べておく。(90分)
担当教員			

第11回	生活を豊かにするための布を用いた製作(3) 製作計画にそって、製作の見通しをもち小物を完成させる。 。	仕上げに用いるアイロンの扱い 方の留意点について調べておく。 (90分)	製作計画どおりできたか振り返り、 製作のなかで工夫したこと、課題 などをまとめておく。(90分)
担当教員			
第12回	身近な消費生活について 物や金銭の大切さについて理解し、買い物の仕組みや消費者の役割、物の選び方や買い方など、目的にあった品質のよいものを適切に購入する方法について理解する。	学用品など物を購入するために 必要な情報の収集・整理につい てまとめておく。(90分)	自分の消費生活を振り返り、物 や金銭の計画的な使い方など の課題についてまとめておく。 (90分)
担当教員			
第13回	環境に配慮した生活について 持続可能な社会の構築の視点から、自分の生活と身近な環境との関わり及び物の使い方を工夫することを理解する。 。	日常生活でできる持続可能な社会 に向けた取り組みについて調べて おく。(90分)	授業時に提示したweb教材を視聴し、消費者としての態度について知る。(90分)
担当教員			
第14回	快適な住まいについて 住まい方に関心をもって、整理・整頓や清掃の仕方について理解する。	身の回りの収納の仕方や日常の掃除の方法についてまとめておく。(90分)	夏と冬の住まい方についてまとめる。(90分)
担当教員			
第15回	講義のまとめと確認 これまでの学習をふり返り、家庭科教育の役割・課題についてまとめる。	学習指導要領、ノート、プリント 等を復習しておく。(90分)	授業時に提示したレポート課題をまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度15%、課題45%、小テスト40%	

その他	0	
教科書		
小学校学習指導要領 家庭編／文部科学省 小学校家庭科教科書 新編新しい家庭5・6／東京書籍		
参考文献		
小学校家庭科教育法／大竹美登利他／建帛社		
履修条件・留意事項等		
課題・レポートは提出期限を厳守する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教科科目					
科目名		生活科概論				ナンバリング	3448
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高桑 純						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。【知識・技能】」および「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。【思考・判断・表現】」ための科目である。 小学校教員一種免許取得のためには、この科目の後、「教科教育法 生活」を履修しなければならない。							
授業の概要							
小学校の教育課程における生活科の意義や特性について理解する。また、指導計画や学習指導のあり方等について学ぶ。小学校低学年における生活科教育の果たす役割を具体的な活動や体験を通して学ぶ。 ①教科の内容・特性や位置づけを理解し、指導計画を作成する技能を身につける。(知識・理解・技能) ②教科の意義や果たす役割について検討し説明する。(思考・判断・表現) ③わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
小学校生活科の学習において、教育課程編成・実施の基準となっている学習指導要領や教科書の内容の理解を通して、生活科の目標、内容を把握するとともに、目標を実現するための望ましい授業づくりを工夫できる。 小学校生活科の目標を実現するための授業の在り方、特に、「具体的な活動や体験を通し」、「身近な生活に関わる見方・考え方を生かす」指導の在り方について工夫できる。							
授業の方法							
生活科の内容の中から、興味・関心ある単元を選択し、プレゼンテーションソフトで発表することを中心に進める。履修学生全員が発表するようにする。 指導教員は、発表内容の補足と、詳しい解説をハンドアウトやプレゼンテーションソフトを活用して付け加える。							
ICT活用							
検索機能を活用した資料の調査を行う。また、プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、データの共有や双方向授業を活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

教育委員会において学校教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、教科指導に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして小学校生活科の指導法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

学生の発表については、教員からの評価を行うとともに、他の学生からの質問・感想を受けて、今後の発表に生かすようフィードバックする。提出された課題については、講評を付記して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・オリエンテーション ・シラバス解説や授業におけるICT機器の活用法 ・生活科の授業の振り返り 自分が受けた生活科の授業を振り返り、理想的な生活科の授業について考える。自分の体験をもとに、小グループで話し合って発表する。その中から本授業への意欲を高める。	シラバスを読み授業内容を理解しておく。(90分)	オリエンテーション資料を読み内容を確認する。理想的な生活科の授業についてまとめる。(課題1)(90分)
担当教員			
第2回	・「学習指導要領における生活科の変遷」 かつての小学校1, 2年生の理科や社会科で学習した内容と、生活科の内容を比較しながら、生活科設立の背景や教科としてのねらいについて理解を図る。また、昭和30-50年代に行われていた合科学習についての実践について学ぶ。 これからの時代を生きる児童に学ばせる生活科の在り方について考える。	かつての小学校1, 2年生の理科・社会科の学習指導要領と現在の生活科の学習指導要領を読んで理解しておく。(90分)	生活科設立の背景を確認する。(課題2)(90分)
担当教員			
第3回	・「生活科の存在意義と身に付ける力」 生活科の教科が何のためにあるのか、生活科の学習でどんな力を身に付けようとしているのかについて考えさせる。学習指導要領における生活科の目標について理解する。	生活科の学習指導要領を読んで理解しておく。(90分)	生活科の意義を確認する。(課題3)(90分)
担当教員			
第4回	・「幼稚園教育要領の『環境』『人間関係』との関連や、小学校3, 4年生の理科、社会とのつながり」 幼稚園の「環境」及び「人間関係」のねらいや内容と、生活科のねらいや内容とのつながりを考える。また、生活科の大まかな内容と、小学校3年生からの理科、社会科との関連について学ぶ。	「幼稚園教育要領の『人間関係』と『環境』を読んで理解しておく。(90分)	生活科からつながる小学校3, 4年生の理科、社会の学習指導要領の内容を確認する。(課題4)(90分) 次回発表者は発表の準備をする。
担当教員			

第5回	・内容(1) 学校と生活 当該単元の内容について発表する。 学内やキャンパスを使って、学校生活に関わる授業の内容や指導法を習得する。 学校生活を支えている人々について考えることや、楽しく安全に生活する方法を身に付けさせるための授業の工夫や配慮について考える。	(1)の内容について学習指導要領を読み理解しておく。 (90分)	教科書を読み(1)の内容を確認する。 (90分) 次回発表者は発表の準備をする。
担当教員			
第6回	・内容(2) 家庭と生活 単元(2)(3)の内容について発表する。 家族のことや自分でできることについて考える授業の内容や指導法を習得する。 自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活する態度を身に付けさせるための授業の工夫や配慮について考える。	(2)の内容について学習指導要領を読み理解しておく。 (90分)	教科書を読み(2)の内容を確認する。 (90分) 次回発表者は発表の準備をする。
担当教員			
第7回	・内容(3) 地域と生活 単元(4)(5)の内容について発表する。 自分が生活する地域で働いたりしている人々について考える授業の内容や指導法を習得する。 自分の生活が様々な人や場所と関わっていることや地域に適切に接したり、安全に生活する方法を身に付けさせるための授業の工夫や配慮について考える。	(3)の内容について学習指導要領を読み理解しておく。 (90分)	教科書を読み(3)の内容を確認する。 (90分)
担当教員			
第8回	・内容(4) 公共物や公共施設の利用 駅や公共施設を利用してフィールドワークを行い、それらの良さや役割を理解する授業の内容や指導法を習得する。 身の回りにはみんなで使う施設とそれを支えている人々がいることを理解し、大切に正しく利用しようとするための授業の工夫や配慮について考える。	(4)の内容について学習指導要領を読み理解しておく。 (90分)	教科書を読み(4)の内容を確認する。 フィールドノートを完成させる。(課題5) (90分)
担当教員			
第9回	・内容(5) 季節の変化と生活 森林や川を利用してフィールドワークを行い、自然を観察したり四季の変化に気付かせる授業の内容や指導法を習得する。 季節によって生活が変わることや、それを取り入れて生活を楽しむための授業の工夫や配慮について考える。	(5)の内容について学習指導要領を読み理解しておく。 (90分)	教科書を読み(5)の内容を確認する。 フィールドノートを完成させる。(課題6) (90分)
担当教員			
第10回	・内容(5) 季節の変化と生活 森林や川を利用してフィールドワークを行い、自然を観察したり四季の変化に気付かせる授業の内容や指導法を習得する。 ネイチャーゲームなどを通して、自然に親しむ授業の工夫や配慮について考える。	(5)の内容について学習指導要領を読み理解しておく。 (90分)	教科書を読み(5)の内容を確認する。 ネイチャーゲームを完成させる。(課題7) (90分) 次回発表者は発表の準備をする。
担当教員			

第11回	・内容(6) 自然や物を使った遊び 当該単元の内容について発表する。 身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりして遊ぶ活動を取り入れた授業の内容や指導法を習得する。 自然を利用した遊びの面白さや自然の不思議さに気づき、みんなと楽しみながら遊ぶための授業の工夫や配慮について考える。	(6)の内容について学習指導要領を読み理解しておく。 (90分)	教科書を読み(6)の内容を確認する。 (90分) 次回発表者は発表の準備をする。
担当教員			
第12回	・内容(7) 動植物の飼育・栽培 当該単元の内容について発表する。 動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらが育つ場所、変化や成長の様子を理解する授業の内容や指導法を習得する。 それらが生命を持っていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち大切にしようとする気持ちを育てるための授業の工夫や配慮について考える。	(7)の内容について学習指導要領を読み理解しておく。 (90分)	教科書を読み(7)の内容を確認する。 (90分) 次回発表者は発表の準備をする。
担当教員			
第13回	・内容(8) 生活や出来事の伝え合い 当該単元の内容について発表する。 自分たちの生活や地域の出来事を伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝える内容や方法を選んだりできる授業の内容や指導法を習得する。 身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かり、進んで触れ合い交流しようとする態度を育てるための授業の工夫や配慮について考える。	(8)の内容について学習指導要領を読み理解しておく。 (90分)	教科書を読み(8)の内容を確認する。 (90分) 次回発表者は発表の準備をする。
担当教員			
第14回	・内容(9) 自分の成長 当該単元の内容について発表する。 自分自身を振り返る活動を取り入れた授業の内容や指導法を習得する。 自分や支えてくれた人々について考え、自分の成長がわかるとともに、支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、意欲的に生活しようとするための授業の工夫や配慮について考える。	(9)の内容について学習指導要領を読み理解しておく。 (90分)	教科書を読み(9)の内容を確認する。 (90分)
担当教員			
第15回	「授業の実際と工夫 2学年」 生活の単元の中から、1時間分の授業を選び、指導内容や指導方法について考え、略案を作成する。特に、「気づきを増やす」「活動を活発にする」ための方法について工夫する。	生活の単元の中から1時間分の授業内容を選び、教科書等を参考にして授業の展開を考える。(90分)	指導略案の完成・提出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題・フィールドノート等(50%) 指導略案(20%) 単元の内容の発表(20%) 授業に取り組む姿勢・態度(10%)	

その他	0	
教科書		
小学校学習指導要領解説 生活編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社		
参考文献		
小学校生活科教科書 上、下 教科書用指導書 小学校社会・理科教科書 3, 4年用 幼稚園教育要領解説(環境)(人間関係)		
履修条件・留意事項等		
小学校教諭免許 必修。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		教育課程の編成と実施				ナンバリング	3504
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	相馬 哲也						
授業の位置づけ							
本科目では、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、教育に関わる者として、一人一人の子どもの特徴と発達へのニーズを見極め、それに対応できる教育的能力を身に付けることを目指している。 授業においては、現代教育の課題を見つめ、それらに対応した教育課程編成の在り方や社会に開かれた教育課程の実際などに関する探究を行う。また、本科目は、幼稚園教諭および小学校教諭免許を取得するうえで必修の教職科目であり、「教育基礎論」や「教育方法論」との連続性のもと、「教育実習指導Ⅰ・Ⅱ」に接続する科目である。							
授業の概要							
本授業では、現代の学校教育の課題を認識し、学習指導要領を踏まえた教育課程編成に関わる知見や方法を学ぶ。 また、教育課程を編成する上で重要となる、「資質・能力の三つの柱」(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性」)について理解し、幼稚園・学校における教育の全体計画について、考えや意見を交流しながら考察する。 さらに、地域の教育力を生かした学習環境の充実やカリキュラム・マネジメントの意義について理解し、意欲的に調査を行い自らの意見等を積極的に交流・発表する。							
到達目標							
○教育に係る法令や規則を理解し、幼稚園教育要領や学習指導要領について説明できるとともに、教育課程編成の重要性や編成・実施の方法などについて理解し、説明することができる。 ○子どもを取り巻く課題を認識し、施策や制度面の改善方策について意見を持ち、説明できる。 ○子どもの健やかな成長を育む幼稚園づくり、学校づくりに向けた方策を考え、説明できるとともに、社会に開かれた教育課程の在り方への関心を持ち、対話的な活動に意欲的に参加できる。							
授業の方法							
○本授業では、プレゼンテーションソフトを活用し、適宜印刷物も用いて説明する。 ○提出課題に見る学生の問題意識を拾い上げ、フィードバックしながら、双方向あるいは対話的に授業をすすめるとともに、グループワークなどを通じて意見の交流を行う。 ○毎時間の最後にフォームを活用した振り返りを行い、次の授業では意見の共有しながら、考察を深める。							
ICT活用							
グーグル等のプラットフォームを活用し、フォームによる意見集約を行うとともに、ミート等による遠隔授業も必要に応じて取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

教諭として、教科指導(英語)、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては総合的な学習の時間や小学校外国語活動の導入など、小中高校の教育課程編成・管理に関わった。こうした経験を活かし、教育課程編成の意義や実際の編成方法等の理解を促すとともに、探究的な活動を通じて研究意欲を高め、課題解決に向けた技法等を身に付けるための指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。また、学生の意見等を紹介することによって、学生同士が相互に学び合えるようフィードバックを適切に行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方、毎時間の振り返り、課題や評価について説明する。 ・教育課程編成の意義について学習する。	・シラバスを読んで理解しておくこと。教育課程について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	◎教育に関係する各種法令・規則について ・幼稚園教育要領や学習指導要領の法的根拠について学習する。 ・保育者、教育者として必要な資質・能力について学習する。	・関係する法令について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	◎教育課程編成の基本について ・週時程や時間割から見えてくる学校の姿について学習する。 ・小学校における教育課程の特徴について、学習し、考察する。	・学校教育法施行規則 別表第一(第五十一条関係)について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第4回	◎幼児教育に係る教育課程について ・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の共通点や違いについて学習する。 ・幼児教育の課題について、考察する。	・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		

第5回	◎幼児教育の現状と課題について ・少子化の現状について学習する。 ・幼児教育のカリキュラム編成の視点から、保育の現状について学習し、考察する。	・日本の少子化対策と他国の対策について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	◎小学校における教育課程編成について ・学校の教育目標の設定方法について学習する。 ・都道府県と市町村の教育目標との関係について学習し、考察する。	・北海道教育推進計画について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第7回	◎PDCAサイクルを意識した教育課程編成について ・遠足等の学校行事の立案から実施、反省までの流れなどについて学習する。 ・行事計画の作成方法を学び、考察する。	・遠足を行うために準備しておく事柄について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	◎社会に開かれた教育課程について ・保育所、幼稚園、小学校の地域連携について学習する。 ・学校等の情報発信の方法などについて学習し、考察する。	・複数の学校のHPを閲覧し、地域とのかかわりの視点からそれぞれの特徴を調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	◎コミュニティースクールについて ・導入の趣旨や意義について学習する。 ・恵庭市内小学校の取組を学習し、考察する。	・学校運営協議会制度について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第10回	◎学力について ・全国学力学習状況等調査について学習する。 ・市町村ごとの結果発表の状況を学習し、考察する。	・令和4年度実施全国学力学習状況等調査の北海道の結果、自分の出身市町村や小学校の結果などを調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		

第11回	◎学力と体力について ・学力や体力の向上を意図した教育課程編成について考察する。 ・課題解決に向けた学校や学級の取組について学習し、考察する。	令和4年度実施全国体力運動能力等調査の北海道の結果について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	◎隠れたカリキュラムについて ・小学校の実践について学習する。 ・子どもたちの指導に生きる隠れたカリキュラムの実践について学習し、考察する。	・学習環境や子どもたちの意欲などを向上させるものであり、教育課程編成上では見えてこない取組について調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第13回	◎地域の教育力について ・地域の教育力を幼児教育や小学校教育に取り込んでいる事例について学習する。 ・保育園、幼稚園、小学校が地域に与える影響などについて考察する。	・地域と学校等が連携して行っている取組を調べておくこと。(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	◎教育課程の管理について ・学校等の説明責任について理解する。 ・担任としての教育課程の進行管理の必要性を理解し、考察する。	・カリキュラムマネジメントについて調べておくこと(90分)	・配布プリントを復習し、疑問点等を整理し、考えをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	◎教育課程の編成と実施についてもまとめ ・これまでの学習を振り返り、具体的な保育者像、教師像を描く。	・事前に指示された課題に対して取り組むこと。(120分)	・15回の振り返りを行い、配布物等の整理を行うこと。(60分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、振り返りシートの内容(50%)、課題(30%)	

その他	0	なし
教科書		
適宜資料を配布する。		
参考文献		
・幼稚園教育要領解説 文部科学省 ・保育所保育指針 厚生労働省 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 ・小学校学習指導要領 総則編 文部科学省		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		教育相談論 I (1組)				ナンバリング	3516
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本 愛子						
授業の位置づけ							
この授業は、こども発達学科における小学校・幼稚園教職科目として指定されています。ここでは、教育相談の成り立ちや教育相談の基礎理論の学習を深め、課題解決発展型の取組ができる力を修得していきます。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている」に関わる科目です。なお、ここで学んだことは、後期開講の「教育相談論Ⅱ」の基礎となります。							
授業の概要							
今日、いじめ、不登校、学級崩壊の問題に代表されるように、学校はさまざまな問題を抱えています。このような学校現場の状況に教師として適切に対処していくためには、教科の指導力と合わせて児童・生徒の心の問題に対処できる力が求められています。この演習では、教育相談の成り立ち、教育相談の基礎理論についての学習を深め、教育相談に関わる関係者(保護者を含む)と適切な連携を取り、課題解決発展型の取組ができる力を習得することを意図した学習を展開します。							
到達目標							
1. 教育相談について、基礎的な理論と方法を理解し、説明することができる。 2. 集団遊戯療法に関するロールプレイ・行動観察・分析の体験学習を通して、児童生徒理解のための観察力を高めることができる。 3. 教育相談における学校と関係機関との連携・協働の必要性について、事例に基づいて論じることができる。							
授業の方法							
この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレイ学習、クlickerを活用した分析体験学習、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションを行います。							
ICT活用							
この授業では、クlicker(反応収集提示装置)による行動分析を行います。ここでは、特に集団遊戯療法場面をクlickerを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、遊戯療法の実際に関する理解を深めます。							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の教育相談に関する学習の軌跡と教育臨床実践の紹介を行います。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての具体的な説明を行います。	事前にシラバスを読んで授業の概要を把握すること(20分)	配布資料を読み、今後の授業の流れ・留意事項等について理解すること(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、演習を円滑に進めるためのベースを構築します。ここでは、「私の偏愛マップ」の作成・発表を行い、自己の内面を視覚的に表現することを通して、自己理解・他者理解を深めます。また、教育相談に携わる者としての自己理解の重要性について学びます。	自己理解というキーワードを心理学的視点から整理すること(30分)	完成させたマップを通して自己理解を深めること(15分)
担当教員			
第3回	教育相談と臨床心理学(1):教育相談と臨床心理学の歴史と背景について学びます。ここでは、教育相談と臨床心理学の成り立ちについて理解を深めます。また、教育相談に関わる学校組織の構成、学校と臨床心理学の専門職のかかわりについても学びます。	関連文献を読んで概要をまとめること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			
第4回	教育相談と臨床心理学(2):児童生徒理解にかかわるパーソナリティの発達に関する理論を学習します。ここでは、主として、ユングおよびフロイトによる学説について理解を深めます。	パーソナリティというキーワードについて調べること(25分)	配布資料を読んで専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			

第5回	教育相談とカウンセリングの理論と実際(1):来談者中心療法の理論について学習します。ここでは、ロジャーズの提唱した来談者中心療法の理論について教育相談事例を交えながら実践的に学びます。自己概念と経験の一致・不一致に関しては、具体的な事例を想定して、相談の進め方について理解を深めます。	来談者中心療法について調べること(20分)	事例に対する自分の考えをまとめること(25分)
担当教員			
第6回	教育相談とカウンセリングの理論と実際(2):心理アセスメントについて学習します。ここでは、教育相談・カウンセリングにおける心理アセスメントの位置づけ、方法、流れについて学びます。また、知能検査、性格検査の活用については、実際の検査の体験学習を通して理解を深めます。	心理アセスメントというキーワードについて調べること(20分)	関連文献を読んで概要をまとめること(25分)
担当教員			
第7回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(1):学校における教育相談と生徒指導との関わりについて学習します。ここでは、児童生徒理解の視点から、学校心理学における心理教育的援助サービスの構造についても学びを深めます。	学校心理学というキーワードについて整理すること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第8回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(2):スクールカウンセリングにおける「発達の視点」について学習します。ここでは、臨床発達支援の視点による児童生徒理解のあり方について学びます。ブロンフェン布伦ナーが提唱した生態学的システム論についても、事例を通して理解を深めます。	生態学的システム論について調べること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第9回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(3):スクールカウンセリングに関わって、ゲストスピーカーを招聘し、さまざまな特性の児童生徒の理解と支援の実際について学びます。ここでは、特に、障がいのある児童生徒における学校生活、対人関係などに関する具体的な相談事例を検討することを通して、これからのスクールカウンセリングのあり方について学びを深めます。	児童生徒理解に関して学んだことを整理すること(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(25分)
担当教員			
第10回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(1):児童を対象とした集団遊戯療法の理論について学びます。ここでは、教育相談に関わって、心理療法と遊戯療法との関係性について理解を深めます。また、文献講読を通して「関係力育成プログラム」の理論の枠組みを学習します。	遊戯療法というキーワードについて調べること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			

第11回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(2):教育相談の事例を想定して、集団遊戯療法のロールプレイ実習を行います。ここでは、教育相談の事例を想定し、対象児童の状態像をイメージした「関係力育成プログラム」に基づくロールプレイを実施します。子ども・指導者・観察記録の役割担当によって集団遊戯療法の実践的な学びを深めます。	課題レポートを作成すること(30分)	B-S評定スケールによる評価を行うこと(15分)
担当教員			
第12回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(3):教育相談の事例を想定した集団遊戯療法のロールプレイに基づいて行動観察を行います。ここでは、ロールプレイにおける行動に関して、クリッカーを用いた分析の方法を学びます。また、これらの学習の成果についてレポート作成を行います。	関連文献を読んで概要をまとめること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			
第13回	教育相談における関係機関・関係者との連携・協働(1):教育相談における学級担任、保護者、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等のさまざまな立場とそれらの連携・協働について理解を深めます。また、関係機関と学校・教師との協力関係について討論を通して学びます。	スクールカウンセラーの役割について調べること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第14回	教育相談における関係機関・関係者との連携・協働(2):教育相談における関係機関との連携・協働について、事例を関する分析および討論を通して学習します。ここでは保護者との連携・協働についても、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること(30分)	配布資料について専門用語を中心にまとめること(15分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認を行います。ここでは、この演習で学んだことについて全体のまとめを行います。これまでの演習で学んだことを振り返り、課題について小論文の作成およびスピーチによる意見交換を行います。	演習を通して学んできたことについて、自分の考えを整理すること(25分)	配布資料および関連文献を読み、これまでの学習のまとめを行うこと(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習への参加態度、グループでの活動状況及び授業内容に関係するレポート作成によって評価します。	

その他	25	集団遊戯療法に関しては「クリッカーによる行動分析」および所定の書式で作成した「ロールプレイ体験レポート」によって評価します。
教科書		
教科書は使用しません。関連する資料は、講義担当者が作成して、その都度、配布します。		
参考文献		
教師のための教育相談-日常から子どもに向き合うインクルーシブな発達支援 西本絹子著 萌文書林 教育相談支援 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門 西見奈子編著 萌文書林 高度情報化時代の学びと教育 渡部信一編著 東北大学出版会 生徒指導提要(改訂版) 文部科学省		
履修条件・留意事項等		
この演習では、教育相談に関する、ロールプレイ実習、体験学習の取り組みが重視されます。そのため、積極的な授業参加が求められるので留意してください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		教育相談論 I (2組)				ナンバリング	3516
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本 愛子						
授業の位置づけ							
この授業は、こども発達学科における小学校・幼稚園教職科目として指定されています。ここでは、教育相談の成り立ちや教育相談の基礎理論の学習を深め、課題解決発展型の取組ができる力を修得していきます。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている」に関わる科目です。なお、ここで学んだことは、後期開講の「教育相談論Ⅱ」の基礎となります。							
授業の概要							
今日、いじめ、不登校、学級崩壊の問題に代表されるように、学校はさまざまな問題を抱えています。このような学校現場の状況に教師として適切に対処していくためには、教科の指導力と合わせて児童・生徒の心の問題に対処できる力が求められています。この演習では、教育相談の成り立ち、教育相談の基礎理論についての学習を深め、教育相談に関わる関係者(保護者を含む)と適切な連携を取り、課題解決発展型の取組ができる力を習得することを意図した学習を展開します。							
到達目標							
1. 教育相談について、基礎的な理論と方法を理解し、説明することができる。 2. 集団遊戯療法に関するロールプレイ・行動観察・分析の体験学習を通して、児童生徒理解のための観察力を高めることができる。 3. 教育相談における学校と関係機関との連携・協働の必要性について、事例に基づいて論じることができる。							
授業の方法							
この授業では、授業担当者が作成した資料を受講生に配布します。講義とあわせて、グループによる体験学習、ロールプレイ学習、クlickerを活用した分析体験学習、文献講読など、多様な方法を通して授業を展開していきます。なお、グループによる体験学習においては、あわせて、全体への学習成果の発表・ディスカッションを行います。							
ICT活用							
この授業では、クlicker(反応収集提示装置)による行動分析を行います。ここでは、特に集団遊戯療法場面をクlickerを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、遊戯療法の実際に関する理解を深めます。							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者は、公認心理師・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の教育相談に関する学習の軌跡と教育臨床実践の紹介を行います。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての具体的な説明を行います。	事前にシラバスを読んで授業の概要を把握すること(20分)	配布資料を読み、今後の授業の流れ・留意事項等について理解すること(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、演習を円滑に進めるためのベースを構築します。ここでは、「私の偏愛マップ」の作成・発表を行い、自己の内面を視覚的に表現することを通して、自己理解・他者理解を深めます。また、教育相談に携わる者としての自己理解の重要性について学びます。	自己理解というキーワードを心理学的視点から整理すること(30分)	完成させたマップを通して自己理解を深めること(15分)
担当教員			
第3回	教育相談と臨床心理学(1):教育相談と臨床心理学の歴史と背景について学びます。ここでは、教育相談と臨床心理学の成り立ちについて理解を深めます。また、教育相談に関わる学校組織の構成、学校と臨床心理学の専門職のかかわりについても学びます。	関連文献を読んで概要をまとめること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			
第4回	教育相談と臨床心理学(2):児童生徒理解にかかわるパーソナリティの発達に関する理論を学習します。ここでは、主として、ユングおよびフロイトによる学説について理解を深めます。	パーソナリティというキーワードについて調べること(25分)	配布資料を読んで専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			

第5回	教育相談とカウンセリングの理論と実際(1):来談者中心療法の理論について学習します。ここでは、ロジャーズの提唱した来談者中心療法の理論について教育相談事例を交えながら実践的に学びます。自己概念と経験の一致・不一致に関しては、具体的な事例を想定して、相談の進め方について理解を深めます。	来談者中心療法について調べること(20分)	事例に対する自分の考えをまとめること(25分)
担当教員			
第6回	教育相談とカウンセリングの理論と実際(2):心理アセスメントについて学習します。ここでは、教育相談・カウンセリングにおける心理アセスメントの位置づけ、方法、流れについて学びます。また、知能検査、性格検査の活用については、実際の検査の体験学習を通して理解を深めます。	心理アセスメントというキーワードについて調べること(20分)	関連文献を読んで概要をまとめること(25分)
担当教員			
第7回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(1):学校における教育相談と生徒指導との関わりについて学習します。ここでは、児童生徒理解の視点から、学校心理学における心理教育的援助サービスの構造についても学びを深めます。	学校心理学というキーワードについて整理すること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第8回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(2):スクールカウンセリングにおける「発達の視点」について学習します。ここでは、臨床発達支援の視点による児童生徒理解のあり方について学びます。ブロンフェン布伦ナーが提唱した生態学的システム論についても、事例を通して理解を深めます。	生態学的システム論について調べること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第9回	スクールカウンセリングと児童生徒理解(3):スクールカウンセリングに関わって、ゲストスピーカーを招聘し、さまざまな特性の児童生徒の理解と支援の実践について学びます。ここでは、特に、障がいのある児童生徒における学校生活、対人関係などに関する具体的な相談事例を検討することを通して、これからのスクールカウンセリングのあり方について学びを深めます。	児童生徒理解に関して学んだことを整理すること(20分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(25分)
担当教員			
第10回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(1):児童を対象とした集団遊戯療法の理論について学びます。ここでは、教育相談に関わって、心理療法と遊戯療法との関係性について理解を深めます。また、文献講読を通して「関係力育成プログラム」の理論の枠組みを学習します。	遊戯療法というキーワードについて調べること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			

第11回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(2):教育相談の事例を想定して、集団遊戯療法のロールプレイ実習を行います。ここでは、教育相談の事例を想定し、対象児童の状態像をイメージした「関係力育成プログラム」に基づくロールプレイを実施します。子ども・指導者・観察記録の役割担当によって集団遊戯療法の実践的な学びを深めます。	課題レポートを作成すること(30分)	B-S評定スケールによる評価を行うこと(15分)
担当教員			
第12回	教育相談と遊戯療法の理論と実際(3):教育相談の事例を想定した集団遊戯療法のロールプレイに基づいて行動観察を行います。ここでは、ロールプレイにおける行動に関して、クリッカーを用いた分析の方法を学びます。また、これらの学習の成果についてレポート作成を行います。	関連文献を読んで概要をまとめること(30分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(15分)
担当教員			
第13回	教育相談における関係機関・関係者との連携・協働(1):教育相談における学級担任、保護者、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等のさまざまな立場とそれらの連携・協働について理解を深めます。また、関係機関と学校・教師との協力関係について討論を通して学びます。	スクールカウンセラーの役割について調べること(25分)	配布資料について専門用語を中心に整理すること(20分)
担当教員			
第14回	教育相談における関係機関・関係者との連携・協働(2):教育相談における関係機関との連携・協働について、事例を関する分析および討論を通して学習します。ここでは保護者との連携・協働についても、事例を通して理解を深めます。	関連文献を読んで概要をまとめること(30分)	配布資料について専門用語を中心にまとめること(15分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認を行います。ここでは、この演習で学んだことについて全体のまとめを行います。これまでの演習で学んだことを振り返り、課題について小論文の作成およびスピーチによる意見交換を行います。	演習を通して学んできたことについて、自分の考えを整理すること(25分)	配布資料および関連文献を読み、これまでの学習のまとめを行うこと(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習への参加態度、グループでの活動状況及び授業内容に関係するレポート作成によって評価します。	

その他	25	集団遊戯療法に関しては「クリッカーによる行動分析」および所定の書式で作成した「ロールプレイ体験レポート」によって評価します。
教科書		
教科書は使用しません。関連する資料は、講義担当者が作成して、その都度、配布します。		
参考文献		
教師のための教育相談-日常から子どもに向き合うインクルーシブな発達支援 西本絹子著 萌文書林 教育相談支援 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門 西見奈子編著 萌文書林 高度情報化時代の学びと教育 渡部信一編著 東北大学出版会 生徒指導提要(改訂版) 文部科学省		
履修条件・留意事項等		
この演習では、教育相談に関する、ロールプレイ実習、体験学習の取り組みが重視されます。そのため、積極的な授業参加が求められるので留意してください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		生徒指導の意義と内容				ナンバリング	3506
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	相馬 哲也						
授業の位置づけ							
生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。また、進路指導・キャリア教育は、児童生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度の育成を通してキャリア発達を促す教育である。本科目は、それらの意義や機能を捉え、実践的な指導力を身に付けるとともに、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な教育の在り方を考え続ける姿勢を身に付けることなどをねらいとしている。子どもの心身の成長・発達及び学童期の子どもの心理等についての知識を身に付けるための科目でもあり、「教育相談論Ⅰ、Ⅱ」、「青年心理学」、「道徳教育の指導法」と関連する。							
授業の概要							
本授業では、生徒指導提要(令和4年12月)の考え方にに基づき、生徒指導の意義や構造、教育課程における位置付け、児童生徒理解の方法や教育相談の進め方、学校における生徒指導体制の確立について学習するとともに、生徒指導上の今日的な課題である、いじめ、暴力行為、少年非行、児童虐待、自殺、不登校等の問題への対応方法、家庭・地域・関係機関との連携の在り方について、具体的な事例や実践例をもとに学習する。また、進路指導・キャリア教育の意義や内容について学習するとともに、ガイダンスの機能を生かした指導の在り方について学習し、教員に求められる実践的な指導力を身に付ける。							
到達目標							
1. 生徒指導の意義と課題、教育課程における位置付けについて説明することができる。 2. 児童生徒の発達の特徴や児童生徒理解の方法、教育相談の進め方について説明することができる。 3. いじめ、暴力行為、少年非行、児童虐待、自殺、不登校等の問題について、未然防止や対応方法について説明することができる。 4. 生徒指導における学校と家庭・地域・関係機関との連携の在り方について説明することができる。 5. 進路指導・キャリア教育の意義、教育課程における位置付けについて説明することができる。 6. キャリア教育の進め方、ガイダンスの機能を生かした指導の在り方について説明することができる。							
授業の方法							
・プレゼンテーションソフトによる説明と配布資料により、講義形式を基本に進める。 ・グーグルクラスルームのフォームの機能を用い、学生の考えや意見を適時に集約し、反映させる。 ・グループワークとグループ発表、学生によるプレゼンテーションを取り入れて行う。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトを活用した事例研究を行うとともに、グーグルクラスルームのフォームの機能の活用により、学生の考えを把握し、タイムリーにフィードバックする。							
実務経験のある教員の教育内容							

教諭として、教科指導(英語)、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては、北海道いじめ不登校等対策本部会議の運営に関わるとともに、小中高等学校の生徒指導上の諸課題への対応について、教員等に指導助言を行ってきた。こうした経験を活かし、生徒指導上の諸問題への対応の仕方、積極的な生徒指導の在り方、家庭・地域・関係機関との連携等について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、学生からのフォームでの回答を全体に還元しながら、コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎ オリエンテーション ・生徒指導、進路指導・キャリア教育とは何かを学習し、学ぶ意義を確認する。 ・授業の概要、到達目標、授業の方法、授業計画等を把握し、学習に見通しをもつ。	・シラバス及び生徒指導提要(令和4年12月)(以降 教科書)p1~p11を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、生徒指導、進路指導・キャリア教育について学習する意義をまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	◎ 生徒指導の基礎について ・生徒指導の意義と構造について学習する。 ・生徒指導の方法や取組上の留意点について学習し、考察する。	・教科書のp12~p38を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、生徒指導の意義と構造、生徒指導の方法や取組上の留意点についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	◎ 生徒指導と教育課程について ・教育課程における生徒指導の位置付けについて学習する。 ・教科等と関連した生徒指導の充実について学習し、考察する。	・教科書のp39~p67を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、教育課程における生徒指導の位置付け、教科等と関連した生徒指導の充実についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第4回	◎ チーム学校による生徒指導体制について ・生徒指導体制、教育相談体制、危機管理体制について学習する。 ・家庭や地域との連携の在り方について学習し、考察する。	・教科書のp68~p118を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、生徒指導に係る様々な体制整備及び家庭や地域との連携の在り方についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		

第5回	◎個別の課題に対する生徒指導～いじめ～について ・いじめの防止等のための基本的な方針が策定された背景などについて学習する。 ・いじめの未然防止に向けた取組について、意見を出し合い、考察する。	・教科書のp119～p140を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、いじめの防止等のための施策等を整理するとともに、いじめの未然防止に向けた学校、学級の取組についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	◎個別の課題に対する生徒指導～暴力行為と少年非行～について ・暴力行為や少年非行の未然防止、早期発見・早期対応の視点等について学習する。 ・関係機関等との連携等について学習し、考察する。	・教科書のp141～p170を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、問題行動の未然防止、早期発見・早期対応の視点等について整理するとともに、関係機関等との連携等についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第7回	◎個別の課題に対する生徒指導～児童虐待～について ・児童虐待が発生する背景等について学習する。 ・児童虐待を発見した際の対応などについて学習し、考察する。	・教科書のp171～p188を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、児童虐待が発生する背景及び児童虐待を発見した際の対応などについてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	◎個別の課題に対する生徒指導～自殺・不登校～について ・自殺予防に関する生徒指導の重層的支援構造について学習する。 ・不登校対応に求められる学校の組織体制などについて学習し、考察する。	・教科書のp189～p239を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、自殺予防や不登校対応に関して、学校の対応や担任の取組についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	◎個別の課題に対する生徒指導～インターネットや携帯電話に関わる問題・性に関する課題～について ・インターネット等を介しての問題行動の現状や対策について学習する。 ・性に関する課題に関して保護者対応や関係機関との連携について学習し、考察する。	・教科書のp240～p267を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、情報活用リテラシーに関する指導や性に関する課題に関して、関係機関との連携等についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第10回	◎個別の課題に対する生徒指導～多様な背景を持つ児童生徒への指導～について ・発達障害等に関する理解と対応について学習する。 ・支援を要する家庭への対応等について学習し、考察する。	・教科書のp268～p289を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、多様な背景を持つ児童生徒への指導についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		

第11回	◎ 生徒指導に関する法制度及び学校と家庭・地域・関係機関との連携について ・保護者や地域との信頼関係構築に向けた学校や教員の取組について学習する。 ・児童生徒や家庭を支援する各種制度等について学習し、考察する。	・これまで学習した内容から子どもを取り巻く法律・規則及び各種制度について調べておくこと(90分)	配布資料を復習し、生徒指導や家庭支援に関する法制度をまとめておくこと。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	◎ 進路指導・キャリア教育の意義と原理について ・進路指導・キャリア教育の意義と内容、教育課程における位置付けについて学習する。 ・進路指導・キャリア教育の指導計画の作成、家庭や関係機関との連携について学習し、考察する	・これまで自分が受けてきた進路指導、キャリア教育を振り返るとともに、学習指導要領等での扱いについて調べておくこと。(90分)	・配布資料を復習し、進路指導・キャリア教育の意義と内容についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第13回	◎ キャリア発達課題に基づくキャリア教育について ・キャリア発達課題に基づく、各学年段階のキャリア教育の進め方について学習する。 ・ガイダンスの機能を生かした指導の意義や留意点について学習し、考察する。	・キャリア教育の意義について調べておくこと。(90分)	・配布資料を復習し、キャリア発達を踏まえたキャリア教育の進め方についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	◎ 進路探索の基礎を養う指導と相談について ・職業に関する体験的学習の計画立案や指導の在り方について学習する。 ・キャリア・カウンセリングの基本的な考え方とその実際について学習し、考察する。	・これまで体験したインターンシップ等の職業体験について、自分が受けた影響などをまとめること。(90分)	・配布資料を復習し、職業体験の計画立案についてまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	◎ 生徒指導、進路指導・キャリア教育についての学習のまとめ ・生徒指導の意義と課題、進路指導・キャリア教育の意義と内容についてまとめ、学習の成果を確認する。	・これまで学んだことのまとめを整理し、課題に取り組んでおくこと。(90分)	・授業での指示を受け、課題の提出に向けて仕上げを行うこと。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組(20%)、振り返りシートの内容(50%)、課題提出(30%)	

その他	0	
教科書		
生徒指導提要(令和4年12月)／文部科学省		
参考文献		
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 / 小学校 特別活動 / 国立教育政策研究所 / 東洋館出版社 その他、必要に応じて適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
小学校教諭一種免許状取得のための必修科目である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		道徳教育の指導法				ナンバリング	3510
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	村越 含博						
授業の位置づけ							
道徳教育を学びながら人間としてよりよい生き方を追求し、学校の教育活動全体で行われる道徳教育とその要として行われる「特別の教科 道徳」の授業について学ぶ。ディプロマポリシーの「教育的能力」を身につけること、「より適切な教育のあり方を考え続ける」意欲、「教育実践を実現するための思考、判断」につながる科目でもある。また、小学校教員免許取得に必要な教職科目である。							
授業の概要							
道徳教育と道徳科の授業についての学びをもとに幼保・小・中のつながりを意識した道徳の授業ができ、道徳教育を推進していける力を修得する。道徳性の芽生えと道徳教育についての基礎知識を身につけ、その重要性について認識を深める。要となる道徳科の学習指導案作成と模擬授業や主体的で協動的な学習を通して、教員として必要な道徳教育の資質と具体的なスキルを身につける。							
到達目標							
1. 幼稚園・保育園における道徳性の芽生えからつながる小学校の道徳教育の目標・内容及び具体的な取組や学習指導法の基本的な活用と中学校の道徳へのつながりを説明できる。 2. 小学生の心に届き、心に響く授業構想と授業ができるよう、道徳性の育成に資する道徳学習指導案を作成でき、授業ができる。 3. 自己の道徳性を見つめること(メタ認知)ができるとともに、他者と協力的・論理的思考により、自らの道徳性育成への意欲を高めていけるようになることを身に付け、それを保育・教育の実践に生かすことができる。							
授業の方法							
指定した教科書をもとに、授業ではさらに内容を深めるようスライドの提示や資料を配布して講義式の授業を行い、内容によっては受講者同士の交流を行う。また、模擬授業の構想ではグループでの演習方式を取り入れ、知識や技能の自己獲得を図る。 授業の後にはリフレクションシートを提出し、授業内容の定着とより深い考察を通して、教師としての力量形成につなげる。							
ICT活用							
①資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする。 ②レスポンスシート等の提出は原則Googleドキュメントにて行う。 ③Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道公立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(理科・算数)、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆している。近年は感染症の授業開発や、ICT教育についても現場で実践を行ってきた。北海道教育委員会道德教育推進事業の指定校に勤務し、特別の教科道德に関しての実践方法、学校での教育課程の編成を手掛け、空知管内の道德推進教師研修会講師を勤めた。道德に関する論文も執筆している。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された指導案、レポートについては個別にコメントを通してフィードバックを行う。
模擬授業終了後にはその授業の価値について授業ごとに解説をつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. 授業方法、授業計画、評価、についての説明を行う。 2. 受講者の「道德教育」の被教育経験について交流する。 3. 小学校道德の模擬授業を通し、この授業で身につけた道德教育の「技法」について提示する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道德編」P10～21を 読んでおくこと(90分)	授業の復習を行い、リフレクシ ョンシートを提出する。(90分)
担当教員			
第2回	1. 道德教育の歴史について触れ、その設置目的とその後の授業展開の議論を概括する。 2. 「特別の教科道德」の目標、目的、道德性について具体的なイメージを持てるように学び、理解を深める。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道德編」P21～P71を 読んでおくこと(90分)	授業の復習を行い、リフレクシ ョンシートを提出する。(90分)
担当教員			
第3回	1. 道德性の議論として、「モラルジレンマ」を取り上げ、道德教育の授業方法について理解を深める。 2. 「読み物教材」と呼ばれる道德の教材について分析をし、道德の価値項目に迫る授業の方法について理解する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道德編」P90～P91を 読んでおくこと(90分)	授業の復習を行い、リフレクシ ョンシートを提出する。(90分)
担当教員			
第4回	1. 「問題解決的な道德」と呼ばれる道德の授業方法を概括し、それに関わる教材について分析をし、道德の価値項目に迫る授業の方法について理解する。 2. 「体験学習を取り入れた道德」と呼ばれる道德の授業方法を概括し、それに関わる教材について分析をし、道德の価値項目に迫る授業の方法について理解する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道德編」P92～P93を 読んでおくこと(90分)	授業の復習を行い、リフレクシ ョンシートを提出する。(90分)
担当教員			

第5回	1.道徳の学習指導案について、記述すべき内容と作成手順について理解を深める。 2・児童の発達段階や個に応じた道徳性の育成に資する指導方法について、具体的な取り組み事例をもとに学習する。	「小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」P78～P80を読んでおくこと(90分)	授業の復習を行い、リフレクションシートを提出する。(60分) 小学4年生道徳教科用図書を読み、模擬授業の構想をたてておく(30分)
担当教員			
第6回	グループワークによる道徳の授業授業づくり① 指定したいいくつかの共通教材より選択した受講者でグループを作成し、模擬授業の指導案を作成する演習を行う。指導案作成後は模擬授業の準備を行う。	小学4年生道徳教科用図書を読み、模擬授業の構想をたてておく(90分)	模擬授業の準備をし、指導案を作成する。(90分)
担当教員			
第7回	グループワークによる道徳の模擬授業① 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案に基づいた模擬授業の準備(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく(90分)
担当教員			
第8回	グループワークによる道徳の模擬授業② 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案に基づいた模擬授業の準備(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく(90分)
担当教員			
第9回	グループワークによる道徳の模擬授業③ 作成した模擬授業を、受講生を児童に見立てて授業を行う。授業後は教師役・児童役による相互評価を行い交流する。その後道徳教育のねらいからの講義を行う。	指導案に基づいた模擬授業の準備(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。また、自主選択教材について教科用図書を読み構想しておく(90分)
担当教員			
第10回	道徳の授業づくりと実践①～教材選びと指導案作成1 これまでの授業、グループワークをもとに自分で教材を選び内容項目を設定し、模擬授業に向けた指導案作成を行う。グループ内で模擬授業指導案の検討をし合うことを通して多面的に授業づくりを行う。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする(90分)	模擬授業の準備をし、指導案を作成する。(90分)
担当教員			

第11回	道徳の授業づくりと実践②～教材選びと指導案作成2 これまでの授業、グループワークをもとに自分で教材を選び内容項目を設定し、模擬授業に向けた指導案作成を行う。グループ内で模擬授業指導案の検討をし合うことを通して多面的に授業づくりを行う。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする(90分)	模擬授業の準備をし、指導案を作成する。(90分)
担当教員			
第12回	道徳の授業づくりと実践③～模擬授業① 中心発問の前後で構成された短時間の模擬授業を行う。児童役の受講者による評価と交流を行う。授業者は指摘された点をもとに指導案を再構成して提出する。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員			
第13回	道徳の授業づくりと実践④～模擬授業② 中心発問の前後で構成された短時間の模擬授業を行う。児童役の受講者による評価と交流を行う。授業者は指摘された点をもとに指導案を再構成して提出する。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員			
第14回	道徳の授業づくりと実践⑤～模擬授業③ 中心発問の前後で構成された短時間の模擬授業を行う。児童役の受講者による評価と交流を行う。授業者は指摘された点をもとに指導案を再構成して提出する。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員			
第15回	道徳の授業づくりと実践⑥～模擬授業④ 中心発問の前後で構成された短時間の模擬授業を行う。児童役の受講者による評価と交流を行う。授業者は指摘された点をもとに指導案を再構成して提出する。 これまでの授業を踏まえて、道徳教育のあり方についてまとめを行う。	指導案の作成及び模擬授業の準備をする(90分)	指導案の完成と、授業後の指導案の修正を行い、リフレクションシートを提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度 10%(発言、グループワークでの積極性等) グループワークでの模擬授業20%(授業後のリフレクション) 自主選択模擬授業40%(指導案30% 模擬授業の内容10%) 提出課題30%(リフレクションシートの内容等)	

その他	0	
教科書		
・小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編 文部科学省 ・道徳4「きみがいちばん光るとき」東京書籍		
参考文献		
平成29年版学習指導要領(ダウンロード可能)		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		幼児の理解				ナンバリング	3508
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目である。「保育内容Ⅳ言葉2」、「保育内容Ⅱ人間関係2」、「幼稚園教育実習指導」または「小学校教育実習事前事後指導」と関連する。							
授業の概要							
子どもを理解することは、保育者の重要な役割と言える。なぜなら、保育者はひとりひとりの幼児の内面に何が起り、どのような思いを抱いているのかに目を向けながら、保育を展開していくためである。子どもを理解するための観察や記録、研修について理解を深めつつ、その方法を具体的な実践例から考えていく。また、子どもの行為の意味を保護者と共有していくことと子どもの育ちの関連について理解する。							
到達目標							
(1) 幼児ひとりひとりの内面が予測でき、子どもの行為の意味や発達段階を理論的に説明することができる。 (2) 子どもの理解を深めるための観察と記録の意義と方法を学び、実践できる。 (3) 子ども理解の方法を具体的な実践事例から学び、実施できる。							
授業の方法							
基本的には講義形式で授業を展開する。視聴覚メディアなどを活用しながら行う。 第1回と第13回にグループワークを実施する。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で配布するリアクションペーパーに記入された受講生の意見・感想等を共有、フィードバックする時間を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業の概要： 「理解」とはということかについて考える。グループワークを行う。	「子ども」に関連する文献を探す(90分)	「理解」とはということかについてまとめる(90分)
担当教員			
第2回	保育における子ども理解とは： 保育の始まりとしての「子ども理解」、子どもを見る「まなざし」、子どもの行為の「意味」を探ること、「カウンセリングマインド」について知る。	カウンセリングマインドについて調べる(90分)	子どもを理解することについてまとめる(90分)
担当教員			
第3回	子どもの発達理解： 子どもの発達について、「発達段階」「発達過程」、発達における「内側」と「外側」、能力論的発達と行為論的発達などについて知る。	発達段階・発達過程について調べる(90分)	発達の理解についてまとめる(90分)
担当教員			
第4回	保育における「理解」と「援助」： かわりながら理解をし、理解しつつかわること、個々の子どもに応じた援助の関係、子ども集団としてみた理解。	保育についての援助の種類について調べる(90分)	「理解」と「援助」についてまとめる(90分)
担当教員			

第5回	「理解」から生まれる「ねらい」と「援助」: 遊びの実態をとらえて「ねらい」をたてる。「ねらい」に応じた援助や遊びの中から「学び」の可能性をとらえる。	ねらいと援助について調べる(90分)	ねらいと援助についてまとめる(90分)
担当教員			
第6回	「子ども理解」を深める観察と記録: 保育者の基礎的な態度・視点、観察をするというのはどういうことか、保育の場で子どもを「ミル」というのはどういうことか、記録をとることの意味について知る。	保育における観察について調べる(90分)	観察と記録についてまとめる(90分)
担当教員			
第7回	「子ども理解」を深める保育カンファレンス: 園内研修の必要性と意義、保育カンファレンスとはなにか。保育カンファレンスを「子ども理解」に役立てるためにはどうすべきか。	保育カンファレンスについて調べる(90分)	保育カンファレンスについてまとめる(90分)
担当教員			
第8回	保育カンファレンスの素材: 文字による記録物、写真、映像等で語り合う。自分の保育を「振り返る」目を育む。	保育カンファレンスの素材について調べる(90分)	保育カンファレンスの素材についてまとめる(90分)
担当教員			
第9回	特別な支援が必要な子どもの保育から考える子ども理解: 障がいのある子どもとの出会い、さまざまな課題、保育者が抱える葛藤など、人間の多様性への理解に向けて考えていく。	特別な支援が必要な子どもの保育について調べる(90分)	特別な支援が必要な子どもの保育についてまとめる(90分)
担当教員			
第10回	子ども理解と保育現場でのカウンセリング: 保育カウンセラーとはどのような人なのか、保育カウンセラーに求められる役割などについて知る。	保育カウンセラーについて調べる(90分)	保育カウンセラーについてまとめる(90分)
担当教員			

第11回	子育て支援・家庭支援における子ども理解: 子育て支援・家庭支援の必要性、子どもの行為の「意味」を保護者と共有していくこと、子どもの育ちを「ともに」味わう保育実践の広がりについて知る。	子育て支援について調べる(90分)	子育て支援についてまとめる(90分)
担当教員			
第12回	子ども理解の方法:エピソード記述 エピソード記述とはなにか、エピソード記述の利点について、具体的実践例から知る。	エピソード記述について調べる(90分)	エピソード記述についてまとめる(90分)
担当教員			
第13回	子ども理解の方法:KJ法 KJ法とはなにか、KJ法の利点について、具体的実践例から知る。グループワークを行う。	KJ法について調べる(90分)	KJ法についてまとめる(90分)
担当教員			
第14回	子ども理解の方法:ラーニング・ストーリー ラーニングストーリーとはなにか、ラーニングストーリーの利点について、ラーニングストーリーの具体的実践例から知る。	ラーニングストーリーについて調べる(90分)	ラーニングストーリーについてまとめる(90分)
担当教員			
第15回	まとめ:幼児の理解についての振り返り 幼児の理解をするために、どのような方法があり、どのような視点があるのかを考える。	授業の内容を振り返える(90分)	幼児の理解の到達目標と自己の理解について振り返りを行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	0 レポート(60%)、授業内のリアクションペーパー(30%)、授業参加の態度(10%)	

その他	0	なし
教科書		
なし。適宜資料を配布する。		
参考文献		
「子ども理解のメソロジー」、中坪史典ほか、ナカニシヤ出版 「新しい保育講座3 子ども理解と援助」、高嶋景子・砂上史子編著、ミネルヴァ書房 「最新保育資料集」(1年次に購入したもの):本テキストに含まれる保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参照のこと		
履修条件・留意事項等		
授業内でweb配布するリアクションペーパーは、成績評価の対象となるものであるため、必ず提出のこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 家庭				ナンバリング	3554
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木下 教子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)、教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)を重点に位置付けている科目である。小学校教諭一種免許状を取得するための必修科目である。							
授業の概要							
小学校家庭科の目標及び内容を分析して教科内容のねらいに沿った指導計画をたてる方法について学ぶ。実践的な指導ができるよう製作・調理の実習・模擬授業などの実技を行う。児童が基礎的・基本的な知識および技能を習得できるような教材研究及び児童の問題解決能力を育む教育実践力を身につけることを目的とする。							
到達目標							
・児童に家族の一員として男女が協力して家庭や地域の生活を営むことの指導ができる。 ・児童に日常生活に必要な知識や技術を身につけ活用させる指導ができる。 ・児童に生活を工夫し生活の課題を主体的に解決する指導ができる。 ・学習指導案をもとに効果的な教材を用いて模擬授業を実践することができる。 ・児童の思考力、判断力、表現力を培うような授業実践ができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いた講義形式である。グループ活動により対話的な学びを深め問題解決能力を培う。							
ICT活用							
なし。							
実務経験のある教員の教育内容							

管理栄養士の経験を活かして、家庭科教育の指導方法を教授する。

課題に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを加え、小テストは解答の説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 家庭科教育の理念と意義についてまとめる。家庭科の見方・考え方の4つの視点から生活のあり方、自立的に生活を営む力を身につけるための学習のプロセスを理解する。15回までの講義内容について概観する。	学習指導要領のp12～p19を熟読しておく。(90分)	授業時に提示した課題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	年間指導計画と学習指導案について 2年間の指導計画から小学校、中学校の領域のつながりを知る。指導案事例、板書計画事例、準備する教材などから授業計画の留意点について理解する。	学習指導要領のp84～p85まで熟読しておく。(90分)	授業時に提示した題材計画から一つ選んで、学習指導案を作成する。(90分)
担当教員			
第3回	家庭科の評価 について 小学校家庭科の学習評価の4つの観点、授業計画と学習の改善につなげる授業評価の意味と方法を理解する。	授業時に配付された学習指導案を読んで授業評価の方法について予習する。(90分)	自ら作成した学習指導案に評価の観点を加える。使用する教材を考える。(90分)
担当教員			
第4回	生活を豊かにするための布を用いた製作(1) 生活に役立つミシン縫いの小物の製作計画をたてる。	教科書を見てミシンの各部の名前、使い方について理解する。(90分)	身近にある小物の縫い方について、観察し布の裁断から完成まで製作方法についてまとめる。(90分)
担当教員			

第5回	生活を豊かにするための布を用いた製作(2) 製作計画に基づき、布を裁断してミシンの安全な扱い方に留意して製作活動を行う。	配付された資料からミシンの故障の主な原因と調整の仕方を知る。(90分)	配付されたワークシートに製作過程の振り返りを行いまとめる。(90分) 裁縫道具の安全な取扱いについてまとめておく。
担当教員			
第6回	生活を豊かにするための布を用いた製作(3) 前時の続きから、完成を目指して製作を行う。	繊維製品の取り扱い絵表示を見て、アイロンのかけ方について復習をする。(90分)	製作活動から、上手くできたこと及び製作上の課題、指導における留意点についてまとめる。(90分)
担当教員			
第7回	家族・家庭生活の指導法・教材について 自分の成長と家族・家庭生活、家庭生活と仕事、家族や地域の人々との関わりなど教材を使った授業実践例を見ながら指導上の留意点について理解する。題材を選び、グループに分かれて学習指導案を作成する。	授業時に提示した資料を基に家族・家庭生活の現状と課題をまとめる。(90分)	作成した指導案の教材を考える。(90分)
担当教員			
第8回	食生活の指導法、教材について 食事の役割、調理の基礎、日本の伝統的な日常食、五大栄養素と体内での働き、栄養のバランスを考えた1食分の献立など授業実践例を見ながら指導上の留意点について理解する。題材を選び、グループに分かれて学習指導案を作成する。	授業時に提示した資料を基に食生活の現状と課題をまとめる。(90分)	作成した指導案の教材を考える。(90分)
担当教員			
第9回	衣生活に関する指導法、教材について 衣服の機能、季節や状況に応じた日常着の快適な着方、日常着の手入れ、布を用いた製作など授業実践例を見ながら指導上の留意点について理解する。題材を選び、グループに分かれて学習指導案を作成する。	授業時に提示した資料を基に衣生活の現状と課題をまとめる。(90分)	作成した指導案の教材を考える。(90分)
担当教員			
第10回	住生活に関する指導法、教材について 住まいの機能、室内環境の調整、住まいの管理など授業実践例を見ながら指導上の留意点について理解する。題材を選び、グループに分かれて学習指導案を作成する。	授業時に提示した資料を基に住生活の現状と課題をまとめる。(90分)	作成した指導案の教材を考える。(90分)
担当教員			

第11回	消費生活と環境に関する指導法、教材について物や金銭の大切さ、身近な物の選び方・買い方、環境に配慮した選び方・使い方など授業実践例を見ながら指導上の留意点について理解する。題材を選び、グループに分かれて学習指導案を作成する。	授業時に提示した資料を基に消費生活の現状と課題をまとめておく。(90分)	作成した指導案の教材を考える。(90分)
担当教員			
第12回	「調理の基礎」の指導法(1) 日本の伝統的な食生活、ごはんのみそ汁の調理計画について学び、指導上の留意点について理解する。	教科書を見て、調理用具の名前、使い方及びごはんのみそ汁の作り方を予習する。(90分)	みその原料と種類、みその製法について調べておく。(90分)
担当教員			
第13回	「調理の基礎」の指導法(2) 調理計画に基づき、実際にご飯のみそ汁をつくる。	学習指導要領p81～p83を熟読しておく。(90分)	配付されたワークシートに調理計画の振り返りを行い記録する。(90分) 授業時に示されたレポート課題をまとめる。
担当教員			
第14回	グループ活動による模擬授業の公開(前半グループ) 模擬授業後に学習指導案、教材、授業展開等を全体交流をする。	模擬授業を行うため学習指導案の確認、教材の準備を行う。(90分)	模擬授業の終了後、良かった点、今後の課題についてまとめる。(90分)
担当教員			
第15回	グループ活動による模擬授業の公開(後半グループ) 模擬授業後に学習指導案、教材、授業展開等を全体交流をする。	模擬授業を行うため学習指導案の確認、教材の準備を行う。(90分)	模擬授業の終了後、良かった点、今後の課題についてまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度15%、課題45%、小テスト40%	

その他	0	
教科書		
小学校学習指導要領 家庭編／文部科学省 小学校家庭科教科書 新編新しい家庭5・6／東京書籍		
参考文献		
小学校家庭科教育法／大竹美登利他／建帛社		
履修条件・留意事項等		
課題・レポートは提出期限を厳守する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 算数				ナンバリング	3544
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	但木 功、丹尾 春彦、櫻田 和也						
授業の位置づけ							
授業の目的は、算数科の目標・指導内容・指導方法・評価に関する基礎的な理解、子どものつまずきの予想や適切な指導方法の判断と実践等、算数科を指導する教員に求められる資質・能力を育成することであり、「算数概論」を基礎とする科目である。							
授業の概要							
算数科のねらいと算数指導の本質を理解するために、学習指導要領を分析したり教科書や学習プランから具体的な事例を挙げ、算数科で育みたい「数学的に考える資質・能力」について学ぶ。							
到達目標							
1. 算数指導においていろいろな学習指導法があることを理解するとともに、子どもが主体的に授業に参加できるプランを作成できる。 2. 算数科の目標や内容を理解し、指導案作成や模擬授業を通して、算数科の授業づくりの基本を学ぶことができる。							
授業の方法							
配布印刷物をもとに講義形式で行いますが、実践上あるいは今日的な課題について、学修者から意見を求めたり、学修者からの質問や意見を授業に取り入れたりし学修者と共に考えるような授業にします。							
ICT活用							
模擬授業の授業計画及び本時案～各自パソコンで作成 SCRATCH(スクラッチ)で遊ぼう							
実務経験のある教員の教育内容							

30年以上北海道地区数学教育協議会に所属し、教科書の指導内容を比較・検討しながら年間2～3本、実践記録をつくってきた。算数を研究する学校に勤務した際は、研究担当として授業づくりに積極的に関わってきた。これらの経験を生かし、「教科教育法 算数」について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題として行う「授業後のポイント並びに質問」については、授業の初めに取り上げたり、次回以降の講義の内容に付け加えたりする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	①オリエンテーション(本講義の目的と概要) ②小学校学習指導要領～算数編～について1 算数のいくつかの単元を取り上げ、指導要領の改訂にともないどのように変遷してきたかを学ぶ。	シラバスを読んで学習内容について確認しておくこと。(20分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(400字程度)(30分)
担当教員	但木 功		
第2回	①小学校学習指導要領～算数編～について2 現行の指導要領の特徴について学ぶ	前回の授業で使った資料を読んだり授業を振り返ったりしておくこと。(30分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(400字程度)(30分)
担当教員	但木 功		
第3回	低学年の授業実践 その1 2年:かけ算 ①プランの概要、指導する上でのポイント ②教科書との比較	指導要領算数編や教科書(2年:かけ算)の指導内容を確認しておくこと。(30分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(400字程度)(30分)
担当教員	丹尾 春彦		
第4回	低学年の授業実践 その2 2年:水のかさ ①プランの概要、指導する上でのポイント ②教科書との比較	指導要領算数編や教科書(2年:水のかさ)の指導内容を確認しておくこと。(30分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(400字程度)(30分)
担当教員	丹尾 春彦		

第5回	中学年の授業実践 その1 3・4年:小数 ①プランの概要、指導する上でのポイント ②教科書との比較	指導要領算数編や教科書(3・4年:小数)の指導内容を確認しておくこと。(30分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(400字程度)(30分)
担当教員	櫻田 和也		
第6回	中学年の授業実践 その2 4年:面積 ①プランの概要、指導する上でのポイント ②教科書との比較	指導要領算数編や教科書(4年:面積)の指導内容を確認しておくこと。(30分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(400字程度)(30分)
担当教員	櫻田 和也		
第7回	高学年の授業実践 その1 5年:多角形の面積 ①プランの概要、指導する上でのポイント ②教科書との比較	指導要領算数編や教科書(5年:四角形や三角形の面積)の内容を確認しておくこと。(30分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(400字程度)(30分)
担当教員	但木 功		
第8回	高学年の授業実践 その2 6年:比例 ①プランの概要、指導する上でのポイント ②教科書との比較	指導要領算数編や教科書(6年:比例)の内容を確認しておくこと。(30分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(400字程度)(30分)
担当教員	但木 功		
第9回	算数の授業づくりのポイント1 ①授業づくりと教材研究(単位量あたりの大きさ) ②中学数学を見据えて(整数の見方)	指導要領算数編や教科書(5年:単位量あたりの大きさ、整数の見方)の内容を確認しておくこと(30分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(400字程度)(30分)
担当教員	但木 功		
第10回	算数の授業づくりのポイント2 ①校内研究の実際、授業の紹介(指導案案)	これまでの配付資料を読んでおくこと。(30分)	講義内容や資料を振り返り、今日の授業のポイントや質問をまとめる。(400字程度)(30分)
担当教員	但木 功		

第11回	①指導案の作成と模擬授業の計画 ②グループで模擬授業の分担を決め、授業に向けて準備する。	模擬授業を行う単元を選び、授業の構想を考えておく。(30分)	グループで、模擬授業の分担を決め、指導案を作成する。(60分)
担当教員	但木 功		
第12回	①模擬授業の実施と相互評価1 (3グループ) グループごとに模擬授業を行う。1授業20分程度、授業後に10分交流。	グループで模擬授業に向けた準備を進める。(60分)	授業に対する意見・感想、授業者は授業後の反省などを書き、交流を踏まえ、指導案を改善する。(60分)
担当教員	但木 功		
第13回	①模擬授業の実施と相互評価2 (3グループ) グループごとに模擬授業を行う。1授業20分程度、授業後に10分交流。	グループで模擬授業に向けた準備を進める。(60分)	授業に対する意見・感想、授業者は授業後の反省などを書き、交流を踏まえ、指導案を改善する。(60分)
担当教員	但木 功		
第14回	①模擬授業の実施と相互評価3 (3グループ) グループごとに模擬授業を行う。1授業20分程度、授業後に10分交流。	グループで模擬授業に向けた準備を進める。(60分)	授業に対する意見・感想、授業者は授業後の反省などを書き、交流を踏まえ、指導案を改善する。(60分)
担当教員	但木 功		
第15回	まとめとこれからの算数教育について ①SCRATCH(スクラッチ)で遊ぼう	これまでの配付資料を読んでおくこと。(30分)	レポートの課題に取り組む。(60分)
担当教員	但木 功		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○各講義における受講の様子、出席状況…20% ○各課題への取り組み状況…40% ○指導案・模擬授業、レポート…40%	

その他	0	実施しない
教科書 「小学校学習指導要領(文部科学省)」 「小学校学習指導要領解説算数編(文部科学省)」備考欄のURLからダウンロードをし、閲覧できるようにしておいてください。		
参考文献 指導要領 https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf 指導要領解説算数編 https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002607_04.pdf		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 図画工作(1組)				ナンバリング	3552
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
小学校の教育課程における教育方法を学ぶ科目である。教育者としての教育活動や実践力を身につけ、小学校教諭免許取得に必須となる図画工作についての理解を深め実践力を培う。ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「保育内容指導法(造形表現1,2)」「表現Ⅱ 造形1, 2」は本科目の基礎となる。							
授業の概要							
小学校における図画工作を実践する上で、当面する諸課題について研究するとともに、図画工作の変遷や理論について理解する。また、子どもがつくりだす喜びを感じ取る授業づくりのために、造形遊びなど具体的な教材研究を行う。							
到達目標							
1図画工作における教育の目標・内容の考え方を理解し説明できる。 2図画工作における指導法や評価方法について理解を深め実践できる。 3図画工作の授業の在り方を社会の中で思考し、育成すべき「生きる力」について考え続けることができる。							
授業の方法							
小学校指導要領図画工作編をもとに15回の講義・演習をすすめる。 各授業の導入部分で配布プリントやDVDなどの教材を使用しテーマを把握させる。 各自が設定したテーマをもとに制作活動や模擬授業をする。活動内容についてグループごとに討議しポートフォリオにまとめる。							
ICT活用							
2回～15回まで、ICTを活用した教材の提示方法や投影機を使った作品発表の仕方を実践的に学ぶ。また、題材ごとに活動を振り返るポートフォリオを作成する。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポート、ポートフォリオ、指導案、についてはコメントをつけて返却し、振り返る機会を設ける。作品に関しては鑑賞の授業の一環としてとりあげる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義:教科教育法 図画工作の授業計画の説明と「美術と人間」について考察する。 美術の変遷と現代アートのも様性について学ぶ。(2回～15回まで、ICTを活用した教材の提示方法や投影機を使った作品発表の仕方を実践的に学ぶ。また、題材ごとに活動を振り返るポートフォリオを作成する。)	指導要領p1～p5まで読んでおく。美術の歴史について調べる。(90分)	授業内容をふまえ現代美術の多様性についてまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	A表現 絵に表す活動について 絵に表す活動(体験想起、空想想像、観察記録)の違いについて考察し、指導案を作成する。	教科書の絵に表す活動に関する部分を読んでおく。(90分)	本時の活動内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	A表現 絵に表す活動—共同制作について。共同で絵に表す活動についての演習を行なう。各班でテーマを設定し描画活動をする。また共同で絵に表す活動の指導案を作成する。	こどもの発達と描画活動について調べておく。(90分)	本時の内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第4回	A表現 絵に表す活動—評価と指導法について。法則化運動の功罪。代表的な描画法「キミコ式」と「酒井式」の実践例を紹介し、その特質と問題点を考察する。	指導法・描画法の種類を調べておく。(90分)	現在求められている指導法(授業のあり方)についてレポートをまとめる。(90分)
担当教員			

第5回	A表現 立体に表す活動ー「粘土を使った」指導案の作成。粘土を使った授業案の考察。各自テーマを決めて教材研究をする。制作で気づいたことを生かし指導案を作成する。	教科書の立体表現に関する部分を読んでおく。(90分)	授業内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	A表現 立体に表す活動ー「粘土を使った」模擬授業。各班で用意した授業案の実践。導入方法を振り返り意見交換する。授業内容をワークシートにまとめる。	指導案を完成させ人数分用意する。(90分)	意見交換した内容や他の班の模擬授業などをポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第7回	学習指導要領の共通事項 ～形や色、イメージ。共通事項について考察し、形や色をとらえ自分のイメージを持つことについてワークシートを完成させる。	指導要領の共通事項に関する部分を読んでおく。(90分)	共通事項をまとめるワークシートを完成させる。(90分)
担当教員			
第8回	美術教育の変遷と指導法の変容 ～映画「絵を描く子供たち」から学ぶ。また、指導要領の変遷から見えてくる現在求められている図画工作のあり方について考察しワークシートをまとめる。	美術教育の変遷について調べておく。(90分)	授業内容を振り返り美術教育の変わるものと変わらないものについてレポートにまとめる。(90分)
担当教員			
第9回	図画工作・美術教育の指導と評価。資質・能力の育成の仕方や評価基準の作成の仕方について考察する。また、児童作品への接し方と評価のポイントを実際に作った作品を通して考察する。	図画工作における評価の観点をしらべておく。(90分)	任意の制作物(活動)について評価基準を作成する。(90分)
担当教員			
第10回	図画工作における鑑賞活動について ～DVD「モナリザは怒っている」から学ぶ。児童の感受性を育む鑑賞教育のあり方について考察し、これからの鑑賞教育のあり方についてレポートを書かせる。	指導要領の鑑賞に関する部分を読んでおく。(90分)	現在行なわれている鑑賞教育のレポートを完成させる。(90分)
担当教員			

第11回	A表現 工作に表す表現「ばらばら漫画」を作る。映像機器の適切な使用法を考察する。指導要領を参考に学年ごとに適切な道具の使い方及びICTの使用法についてワークシートをまとめる。	指導要領の工作に関する部分を読んでおく。(90分)	各自製作したものをポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第12回	図画工作科における道徳の授業との関連。道徳教育の目標に関連付けられる造形活動を考察し実践する。演習「いろいろなものに目を張ってもものの気持ちを考えよう」。デジタルカメラを使用した作品制作の方法を実践的に学ぶ。	道徳の指導要領を読んでおく。(90分)	活動内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第13回	A表現 造形遊びについて①。造形遊びの概念を明確にするとともに、素材や場所とのかかわりからイメージを膨らませていく活動について、クリストとゴールズワージーの実践から学び指導案を作成。	ランドアートやインスタレーションについて調べておく。(90分)	ランドアートやインスタレーションについてワークシートにまとめる。(90分)
担当教員			
第14回	A表現 造形遊びについて② 実践編。空間との関わりをテーマに新聞紙をつかってグループ活動する。活動後は発表、鑑賞を行い。意見を交わし造形遊びの理解を深めるものとする。	指導要領のA表現(1)に関する部分を読んでおく。(90分)	活動内容をもとに指導案を作成する。(90分)
担当教員			
第15回	図画工作における教育の意味について再構築する。教師を目指す者の資質や、子どもにとって理想の教育者とはどのようなものかを考察する。また課題のばらばら漫画の発表を行なう。	図画工作科の目標を再度確認しておく。(90分)	レポート課題について必要な文献の収集をおこなう。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	指導案・模擬授業・ポートフォリオ	

その他	50	・作品(フリップブック)の提出 レポート課題「これからの図画工作に求められる教師像」(1200字以上)
教科書		
文部科学省 平成30年発行「小学校学習指導要領解説 図画工作編」日本文教出版「ずがこうさく1・2上、図画工作3・4上、図画工作5・6上」日本文教出版		
参考文献		
文部科学省国立教育政策研究所「評価基準作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料小学校図画工作」教育出版		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 図画工作(2組)				ナンバリング	3552
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
小学校の教育課程における教育方法を学ぶ科目である。教育者としての教育活動や実践力を身につけ、小学校教諭免許取得に必須となる図画工作についての理解を深め実践力を培う。ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。「保育内容指導法(造形表現1,2)」「表現Ⅱ造形1, 2」は本科目の基礎となる。							
授業の概要							
小学校における図画工作を実践する上で、当面する諸課題について研究するとともに、図画工作の変遷や理論について理解する。また、子どもがつくりだす喜びを感じる授業づくりのために、造形遊びなど具体的な教材研究を行う。							
到達目標							
1図画工作における教育の目標・内容の考え方を理解し説明できる。 2図画工作における指導法や評価方法について理解を深め実践できる。 3図画工作の授業の在り方を社会の中で思考し、育成すべき「生きる力」について考え続けることができる。							
授業の方法							
小学校指導要領図画工作編をもとに15回の講義・演習をすすめる。 各授業の導入部分で配布プリントやDVDなどの教材を使用しテーマを把握させる。 各自が設定したテーマをもとに制作活動や模擬授業をする。活動内容についてグループごとに討議しポートフォリオにまとめる。							
ICT活用							
2回～15回まで、ICTを活用した教材の提示方法や投影機を使った作品発表の仕方を実践的に学ぶ。また、題材ごとに活動を振り返るポートフォリオを作成する。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通じた教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポート、ポートフォリオ、指導案、についてはコメントをつけて返却し、振り返る機会を設ける。作品に関しては鑑賞の授業の一環としてとりあげる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義:教科教育法 図画工作の授業計画の説明と「美術と人間」について考察する。 美術の変遷と現代アートの多様性について学ぶ。(2回～15回まで、ICTを活用した教材の提示方法や投影機を使った作品発表の仕方を実践的に学ぶ。また、題材ごとに活動を振り返るポートフォリオを作成する。)	指導要領p1～p5まで読んでおく。美術の歴史について調べる。(90分)	授業内容をふまえ現代美術の多様性についてまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	A表現 絵に表す活動について 絵に表す活動(体験想起、空想想像、観察記録)の違いについて考察し、指導案を作成する。	教科書の絵に表す活動に関する部分を読んでおく。(90分)	本時の活動内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	A表現 絵に表す活動—共同制作について。共同で絵に表す活動についての演習を行なう。各班でテーマを設定し描画活動をする。また共同で絵に表す活動の指導案を作成する。	こどもの発達と描画活動について調べておく。(90分)	本時の内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第4回	A表現 絵に表す活動—評価と指導法について。法則化運動の功罪。代表的な描画法「キミコ式」と「酒井式」の実践例を紹介し、その特質と問題点を考察する。	指導法・描画法の種類を調べておく。(90分)	現在求められている指導法(授業のあり方)についてレポートをまとめる。(90分)
担当教員			

第5回	A表現 立体に表す活動ー「粘土を使った」指導案の作成。粘土を使った授業案の考察。各自テーマを決めて教材研究をする。制作で気づいたことを生かし指導案を作成する。	教科書の立体表現に関する部分を読んでおく。(90分)	授業内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	A表現 立体に表す活動ー「粘土を使った」模擬授業。各班で用意した授業案の実践。導入方法を振り返り意見交換する。授業内容をワークシートにまとめる。	指導案を完成させ人数分用意する。(90分)	意見交換した内容や他の班の模擬授業などをポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第7回	学習指導要領の共通事項 ～形や色、イメージ。共通事項について考察し、形や色をとらえ自分のイメージを持つことについてワークシートを完成させる。	指導要領の共通事項に関する部分を読んでおく。(90分)	共通事項をまとめるワークシートを完成させる。(90分)
担当教員			
第8回	美術教育の変遷と指導法の変容 ～映画「絵を描く子供たち」から学ぶ。また、指導要領の変遷から見えてくる現在求められている図画工作のあり方について考察しワークシートをまとめる。	美術教育の変遷について調べしておく。(90分)	授業内容を振り返り美術教育の変わるものと変わらないものについてレポートにまとめる。(90分)
担当教員			
第9回	図画工作・美術教育の指導と評価。資質・能力の育成の仕方や評価基準の作成の仕方について考察する。また、児童作品への接し方と評価のポイントを実際に作った作品を通して考察する。	図画工作における評価の観点をしらべておく。(90分)	任意の制作物(活動)について評価基準を作成する。(90分)
担当教員			
第10回	図画工作における鑑賞活動について ～DVD「モナリザは怒っている」から学ぶ。児童の感受性を育む鑑賞教育のあり方について考察し、これからの鑑賞教育のあり方についてレポートを書かせる。	指導要領の鑑賞に関する部分を読んでおく。(90分)	現在行なわれている鑑賞教育のレポートを完成させる。(90分)
担当教員			

第11回	A表現 工作に表す表現「ばらばら漫画」を作る。映像機器の適切な使用法を考察する。指導要領を参考に学年ごとに適切な道具の使い方及びICTの使用法についてワークシートをまとめる。	指導要領の工作に関する部分を読んでおく。(90分)	各自製作したものをポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第12回	図画工作科における道徳の授業との関連。道徳教育の目標に関連付けられる造形活動を考察し実践する。演習「いろいろなものに目を張ってもものの気持ちを考えよう」。デジタルカメラを使用した作品制作の方法を実践的に学ぶ。	道徳の指導要領を読んでおく。(90分)	活動内容をポートフォリオにまとめる。(90分)
担当教員			
第13回	A表現 造形遊びについて①。造形遊びの概念を明確にするとともに、素材や場所とのかかわりからイメージを膨らませていく活動について、クリストとゴールズワージーの実践から学び指導案を作成。	ランドアートやインスタレーションについて調べておく。(90分)	ランドアートやインスタレーションについてワークシートにまとめる。(90分)
担当教員			
第14回	A表現 造形遊びについて② 実践編。空間との関わりをテーマに新聞紙をつかってグループ活動する。活動後は発表、鑑賞を行い。意見を交わし造形遊びの理解を深めるものとする。	指導要領のA表現(1)に関する部分を読んでおく。(90分)	活動内容をもとに指導案を作成する。(90分)
担当教員			
第15回	図画工作における教育の意味について再構築する。教師を目指す者の資質や、子どもにとって理想の教育者とはどのようなものかを考察する。また課題のばらばら漫画の発表を行なう。	図画工作科の目標を再度確認しておく。(90分)	レポート課題について必要な文献の収集をおこなう。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	指導案・模擬授業・ポートフォリオ	

その他	50	・作品(フリップブック)の提出 レポート課題「これからの図画工作に求められる教師像」(1200字以上)
教科書		
文部科学省 平成30年発行「小学校学習指導要領解説 図画工作編」日本文教出版「ずがこうさく1・2上、図画工作3・4上、図画工作5・6上」日本文教出版		
参考文献		
文部科学省国立教育政策研究所「評価基準作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料小学校図画工作」教育出版		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 体育				ナンバリング	3556
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	梅村 拓未						
授業の位置づけ							
小学校の教育課程の中で、体育は「身体活動を通して」行われるという特色を生かして心身の健康を育み、社会性に富んだ人格形成を構築する基礎的な科目である。他教科との連携や共通点を考えて、全人格的教育の基盤となることに寄与する科目である。(指導計画、指導法、評価法などの基礎となる)「生涯スポーツ」、食育に関する科目など広く連動する。ディプロマポリシー「より適切な教育のあり方を考え続けることができる」と特に関係がある科目である。							
授業の概要							
教科教育法の「体育」は他の教科と大きく違う特徴を持った教科目である。「身体活動を通した教育」であり、身体活動が伴うことや教科書がないことなどが他の教科目と異なる点である。心と体を一体としてとらえ、体を動かすことの楽しさや喜びを感じながら運動に親しむ資質や能力を養う体育科授業を構想し、実践する指導力を身につけることが本講義では重要となる。							
到達目標							
① 小学校体育科の目標及び指導内容を理解している。 ② 目標及び内容に適した指導計画や学習展開を考えることができる。 ③ 児童を取り巻く環境や体育科に生起する諸課題を解決するための探究心と学び続ける意欲を身につけている。 ④ 教育現場において、協働的に教育実践を行うことができる意識とコミュニケーション能力を身につけている。							
授業の方法							
主にスライドによる説明とグループワークによって講義を進める。 授業では毎回小レポートにより講義の理解度の確認や振り返りを行う。							
ICT活用							
振り返りについては、基本的にFormを用いて行い、学生一人ひとりが自己の学びの変容を確認することができるようにする。また、適宜グループワークでの意見や個人の考えをICTを用いて全体へ共有する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎時間の振り返りの内容を、次々の授業の導入でフィードバックし、本時の課題を捉える上での参考資料とする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション及び小学校体育の位置付け 体育の授業は子供たちにとって興味のあるような「体育を学ぶ活動」を意図的、計画的な教育の場(機会)である。基本的な考え方を基に体育教育の教科活動の重要性を理解する(概論)	「体育科教育法」の文献、学習指導要領、参考書を図書館等で検索しておくこと(90分)	授業の流れを理解し、講義内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第2回	学習指導要領の変遷からみた体育科の目標と学習内容の理解 1)これまでの我が国での体育科教育の変遷を理解する 2)新学習指導要領の重点を理解する	「体育科教育」の位置づけを考へて、講義に臨む準備をする(90分)	教科目の特徴を自分がどの程度理解できたかについて再考する(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第3回	体育授業における教師行動について 1)体育の授業の中で教師が行う行動の種類について理解する 2)教師行動によって子どもの学習成果にどのように影響するかを考察する	体育科における教師の子どもへの関わりについて事前に学習しておくこと(90分)	講義内容を再考して、理解を深めるための課題発見に努める(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第4回	体育指導と子どもの発達 1)幼児期～児童期における子どもの身体的発達の特徴・傾向について理解する 2)発達を促す体育について考察・検討する	運動が子どもの発達に及ぼす影響について検索しておくこと(90分)	運動によって発達はどのように促されるかについて文献検索をする(90分)
担当教員	梅村 拓未		

第5回	体育授業における熟練教師の授業技術の特徴 1) 授業づくりの特徴について理解する 2) 実際の授業場面での指導の特徴について理解する	体育授業での授業が上手い先生の特徴について、文献検索しておく(90分)	講義の内容について、振り返りノートにまとめる(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第6回	体育科における教材・教具 1) 体育の授業に必要な教材・教具について理解する 2) 実例をもとに体育の教材・教具の在り方を考える 3) ICTを活用した体育授業の在り方を考える	配布資料の授業例を把握しておく(90分)	教材・教具を意識した学習指導案を作成する(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第7回	体育科における知識・技能 1) 学習指導要領における知識・技能の考え方を理解する 2) 体育授業における知識・技能の捉え方と教師の関わり方を検討する	配布資料を熟読して講義に臨む準備をしておくこと(90分)	発展課題の発見のために文献検索を行うこと(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第8回	体育科における思考力・判断力・表現力 1) 学習指導要領における思考力・判断力・表現力の考え方を理解する 2) 思考力・判断力・表現力の捉え方と教師の関わり方を検討する	学習指導要領における体育科の目標について自分の考えをまとめておくこと(90分)	思考力・判断力・表現力を育成する体育授業の実践について考えを整理すること(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第9回	体育科における学びに向かう力、人間性等 1) 学習指導要領における学びに向かう力、人間性等の考え方を理解する 2) 学びに向かう力、人間性等と教師の関わり方について検討する	学習指導要領および解説の内容を確認しておくこと(90分)	体育科における育成すべき3つの資質・能力についてまとめる(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第10回	体育の授業づくり① 1) 年間指導計画の作成方法について理解する 2) 実際に年間指導計画を作成し、内容を検討する ※グループでの話し合いによる年間計画・単元計画の作成(アクティブ・ラーニング形式)	体育科の年間指導計画について具体的な例を検索・確認する(90分)	作成した年間指導計画を修正・改善しまとめる(90分)
担当教員	梅村 拓未		

第11回	体育の授業作り② 1) 体育授業の構成単位について理解する 2) 学年ごとの単元計画の作成方法を理解する ※グループでの話し合いによる授業づくりと振り返り(アクティブ・ラーニング形式)	具体例について検索・調査・検討しておく(90分)	授業課題に従って単元計画を作成する(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第12回	体育の授業づくり③ 1) 単元計画の具体化と指導過程について理解する ※グループでの話し合いによる授業づくりと振り返り(アクティブ・ラーニング形式)	「単元」の意味を文献検索しておく(90分)	単元の進展過程を簡略化して記述しておく(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第13回	体育の授業づくり④ 1) 学習指導案(本時案)の作成方法を理解する 2) 実際に学習指導案を作成する	学習指導案の作成方法について実例をまとめておく(90分)	学習指導案を理解するための参考文献を3編検索すること(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第14回	体育科における評価方法 1) 体育授業での評価・評定の方法について理解する 2) 具体例をもとに児童の何を見とるのかを検討する	体育での評価・評定について自分の考え方をまとめておく(90分)	評価・評定についての文献検索すること(90分)
担当教員	梅村 拓未		
第15回	へき地教育における体育・ICTを活用した体育について 1) へき地教育における少人数での体育授業の在り方について考察する。 2) ICTを活用した体育授業について具体的な事例から理解する。	・事前に小規模校における体育やICTの活用事例について調べておく(45分) ・これまでの全講義での内容を振り返っておく(45分)	これまでの講義の内容をまとめておく(90分)
担当教員	梅村 拓未		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しません。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	学則を超えた欠席数は評価の対象外、提出物(期限厳守)	

その他	20	グループワークへの貢献度および受講時の積極的な学習態度
教科書		
小学校学習指導要領(平成29年3月) 小学校学習指導要領解説体育編(平成29年7月)		
参考文献		
講義の中で適宜紹介する。		
履修条件・留意事項等		
次の項目が重要な受講条件です。 ① 講義への積極的・主体的な参加姿勢 ② グループワークへの積極的・主体的な参加姿勢		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 理科(1組)				ナンバリング	3546
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高桑 純						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。【思考・判断・表現】」ことを主な目的とする科目である。さらに、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。【知識・技能】」ための科目である。事前に、理科概論を履修していること。							
授業の概要							
本科目においては、理科概論で学習した、小学校理科の目標、内容の理解を踏まえて、理科の教材について学習、研究することを中心とする。また、指導案作りや模擬授業を通して、小学校理科の授業づくりについて学ぶ。 ①教科指導を行うための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②模擬授業を活用し、児童の実態をふまえた授業計画と望ましい教科指導の方法を検討する。(思考・判断・表現) ③教科の目標を達成するために、わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
① 理科教材の学習や研究を通して、理科の目標・内容の理解を深める。 ② 指導案作りや模擬授業を通して、理科の実践的指導力を身につける。							
授業の方法							
小学校理科で取り上げるべき観察・実験を、学生が児童の目線に立って体験することにより、より効果的な指導法を考える。 学生が作成した指導計画に基づいて、模擬授業を行う学習を中心に授業を進める。指導計画作成についてのポイントや授業づくり、授業の進め方について、学生同士の相互評価も行わせる。 全模擬授業の指導計画集を作成する。							
ICT活用							
検索機能を活用した資料の調査を行う。また、プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、データの共有を活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

教育委員会において理科教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、理科教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして観察や実験を取り入れた小学校理科の指導法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題については、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。
作成した指導計画を相互評価する。模擬授業について、優れている点や改善点を意見交換する。
模擬授業の指導計画を作成し、様々な機会に自他の模擬授業を振り返る。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、模擬授業のやり方等の説明)。 理科教育の特徴や重点である観察・実験の重視、問題解決の過程や能力、科学的に探求する心などの意義について再確認させる。理科学習における情報機器の活用やICT教育について説明する。 指導計画の作成・模擬授業を実施する内容を選択させる。	シラバスを読み授業の内容を理解しておく。(90分)	オリエンテーション資料や授業の進め方について、再度確認する。(90分)
担当教員			
第2回	小学校理科の内容(3, 4, 5, 6年生)についての授業作りについて学ぶ。① 数人のグループを編成し、内容の理解、指導計画の作成、授業の工夫、模擬授業のやり方について考えさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元、内容を考える。(90分)	指導計画作成・模擬授業実施 単元、内容を考える。(90分)
担当教員			
第3回	小学校理科の内容(3, 4, 5, 6年生)についての授業作りについて学ぶ。② 数人のグループを編成し、内容の理解、指導計画の作成、授業の工夫、模擬授業のやり方について考えさせる。 指導計画の作成においては、ICT技術を効果的に活用するよう指導する。	指導計画作成・模擬授業実施 単元、内容を決める。(90分)	指導計画作成・模擬授業実施 単元、内容を決める。(90分)
担当教員			
第4回	「エネルギー・粒子」に関する内容(3, 4年生)についての模擬授業の実施① 30分の授業。実際の観察や実験を行う。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価(ICT活用の提示についても含める)を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			

第5回	「エネルギー・粒子」に関する内容(3, 4年生)についての模擬授業の実施② 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第6回	「生命・地球」に関する内容(3, 4年生)についての模擬授業の実施① 30分の授業。実際の観察や実験を行う。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価(ICT活用の提示についても含める)を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第7回	「生命・地球」に関する内容(3, 4年生)についての模擬授業の実施② 30分の授業。実際の観察や実験を行う。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価(ICT活用の提示についても含める)を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第8回	「エネルギー・粒子」に関する内容(5, 6年生)についての模擬授業の実施① 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第9回	「エネルギー・粒子」に関する内容(5, 6年生)についての模擬授業の実施② 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第10回	「エネルギー・粒子」に関する内容(5, 6年生)についての模擬授業の実施③ 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			

第11回	「生命・地球」に関する内容(5, 6年生) についての模擬授業の実施① 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施単元の指導計画を作成する。模擬授業の進め方を考える。(90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第12回	「生命・地球」に関する内容(5, 6年生) についての模擬授業の実施② 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施単元の指導計画を作成する。模擬授業の進め方を考える。(90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第13回	「生命・地球」に関する内容(5, 6年生) についての模擬授業の実施③ 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施単元の指導計画を作成する。模擬授業の進め方を考える。(90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第14回	観察・実験を取り入れた授業づくりについての要点整理(ねらいの焦点化、時間配分、問題解決能力の育成、ICT機器の活用など)。	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。(90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。指導計画集の原稿を作成する。(90分)
担当教員			
第15回	指導計画の改善。自分の作成した指導計画を、相互評価の内容を踏まえて、改善する。指導計画集を作成する。	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。(90分)	改善した指導計画を精査する。指導計画集の原稿を作成する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業にかかわる指導計画(20%) 模擬授業(50%) 指導計画の修正と指導計画集の作成(10%) 相互評価の提出(10%) その他授業への取り組みの姿勢等(10%画)	

その他	0	
教科書		
小学校学習指導要領解説 理科編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社 ※「理科概論」に引き続いて使用する。		
参考文献		
小学校理科教科書3, 4, 5, 6年用 教科書の指導書3, 4, 5, 6年用		
履修条件・留意事項等		
小学校教諭一種免許必修		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校教職科目					
科目名		教科教育法 理科(2組)				ナンバリング	3546
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高桑 純						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。【思考・判断・表現】」ことを主な目的とする科目である。さらに、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。【知識・技能】」ための科目である。事前に、理科概論を履修していること。							
授業の概要							
本科目においては、理科概論で学習した、小学校理科の目標、内容の理解を踏まえて、理科の教材について学習、研究することを中心とする。また、指導案作りや模擬授業を通して、小学校理科の授業づくりについて学ぶ。 ①教科指導を行うための知識・技能を身につける。(知識・理解・技能) ②模擬授業を活用し、児童の実態をふまえた授業計画と望ましい教科指導の方法を検討する。(思考・判断・表現) ③教科の目標を達成するために、わかる授業や楽しい授業を工夫しようとする。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
① 理科教材の学習や研究を通して、理科の目標・内容の理解を深める。 ② 指導案作りや模擬授業を通して、理科の実践的指導力を身につける。							
授業の方法							
小学校理科で取り上げるべき観察・実験を、学生が児童の目線に立って体験することにより、より効果的な指導法を考える。 学生が作成した指導計画に基づいて、模擬授業を行う学習を中心に授業を進める。指導計画作成についてのポイントや授業づくり、授業の進め方について、学生同士の相互評価も行わせる。 全模擬授業の指導計画集を作成する。							
ICT活用							
検索機能を活用した資料の調査を行う。また、プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、データの共有を活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

教育委員会において理科教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、理科教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして観察や実験を取り入れた小学校理科の指導法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題については、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。
作成した指導計画を相互評価する。模擬授業について、優れている点や改善点を意見交換する。
模擬授業の指導計画を作成し、様々な機会に自他の模擬授業を振り返る。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、模擬授業のやり方等の説明)。 理科教育の特徴や重点である観察・実験の重視、問題解決の過程や能力、科学的に探求する心などの意義について再確認させる。理科学習における情報機器の活用やICT教育について説明する。 指導計画の作成・模擬授業を実施する内容を選択させる。	シラバスを読み授業の内容を理解しておく。(90分)	オリエンテーション資料や授業の進め方について、再度確認する。(90分)
担当教員			
第2回	小学校理科の内容(3, 4, 5, 6年生)についての授業作りについて学ぶ。① 数人のグループを編成し、内容の理解、指導計画の作成、授業の工夫、模擬授業のやり方について考えさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元、内容を考える。(90分)	指導計画作成・模擬授業実施 単元、内容を考える。(90分)
担当教員			
第3回	小学校理科の内容(3, 4, 5, 6年生)についての授業作りについて学ぶ。② 数人のグループを編成し、内容の理解、指導計画の作成、授業の工夫、模擬授業のやり方について考えさせる。 指導計画の作成においては、ICT技術を効果的に活用するよう指導する。	指導計画作成・模擬授業実施 単元、内容を決める。(90分)	指導計画作成・模擬授業実施 単元、内容を決める。(90分)
担当教員			
第4回	「エネルギー・粒子」に関する内容(3, 4年生)についての模擬授業の実施① 30分の授業。実際の観察や実験を行う。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価(ICT活用の提示についても含める)を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。 相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			

第5回	「エネルギー・粒子」に関する内容(3, 4年生)についての模擬授業の実施② 30分の授業。実際の観察や実験を行う。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価(ICT活用の提示についても含める)を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第6回	「生命・地球」に関する内容(3, 4年生)についての模擬授業の実施① 30分の授業。実際の観察や実験を行う。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価(ICT活用の提示についても含める)を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第7回	「生命・地球」に関する内容(3, 4年生)についての模擬授業の実施② 30分の授業。実際の観察や実験を行う。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価(ICT活用の提示についても含める)を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第8回	「エネルギー・粒子」に関する内容(5, 6年生)についての模擬授業の実施① 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第9回	「エネルギー・粒子」に関する内容(5, 6年生)についての模擬授業の実施② 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第10回	「エネルギー・粒子」に関する内容(5, 6年生)についての模擬授業の実施③ 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			

第11回	「生命・地球」に関する内容(5, 6年生) についての模擬授業の実施① 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第12回	「生命・地球」に関する内容(5, 6年生) についての模擬授業の実施② 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第13回	「生命・地球」に関する内容(5, 6年生) についての模擬授業の実施③ 30分の授業。実際の観察や実験を行う(実験・観察にかかわる教具・教材活用)。工夫点や安全面への配慮も考えさせる。相互評価を行い、改善点を明らかにさせる。	指導計画作成・模擬授業実施 単元の指導計画を作成する。 模擬授業の進め方を考える。 (90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。相互評価票を提出する。(90分)
担当教員			
第14回	観察・実験を取り入れた授業づくりについての要点整理(ねらいの焦点化、時間配分、問題解決能力の育成、ICT機器の活用など)。	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。(90分)	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。指導計画集の原稿を作成する。(90分)
担当教員			
第15回	指導計画の改善。自分の作成した指導計画を、相互評価の内容を踏まえて、改善する。 指導計画集を作成する。	教員の指導や学生同士の相互評価に基づいて、指導計画を改善する。模擬授業の進め方についても、改善方法を考える。(90分)	改善した指導計画を精査する。 指導計画集の原稿を作成する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	模擬授業にかかわる指導計画(20%) 模擬授業(50%) 指導計画の修正と指導計画集の作成(10%) 相互評価の提出(10%) その他授業への取り組みの姿勢等(10%画)	

その他	0	
教科書		
小学校学習指導要領解説 理科編(平成30年2月)文部科学省 東洋館出版社 ※「理科概論」に引き続いて使用する。		
参考文献		
小学校理科教科書3, 4, 5, 6年用 教科書の指導書3, 4, 5, 6年用		
履修条件・留意事項等		
小学校教諭一種免許必修		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 特別支援専門科目					
科目名		肢体不自由児教育 I				ナンバリング	3576
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	山下 秀樹、白幡 知尋						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達について全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につける【知識・技能】」ことと関連する科目である。 肢体不自由児の心理・生理・病理(1年)を基礎としており、肢体不自由児教育Ⅱ(2年後期)の基礎となる。							
授業の概要							
肢体不自由児教育の歴史や障がいの特性を知り、肢体不自由児教育がどのように創設されてきたのか、また、現在までどのように発展してきたのかを知ることを目的とする。特別支援学校の学習指導要領から、肢体不自由児教育における教育課程に焦点を当て、その内容について整理する。また、各教科や特別の教科道徳、特別活動、自立活動等の指導が学校教育の中でどのような形で取り組まれているのか、さらに医療機関との連携等、実際に特別支援学校で行われている様々な形態の授業について学ぶ。							
到達目標							
①肢体不自由障がいの理解と肢体不自由児教育の歴史を説明することができる。 ②肢体不自由児教育の各教科、総合的な学習の時間、特別の教科 道徳、特別活動、自立活動等についての基本的な事項や学習内容について述べることができる。 ③特別支援学校や医療機関等での指導実践から必要な知識や取組を学び、今後の課題について討議することができる。							
授業の方法							
パワーポイントおよび配布物や教材教具等を用いて、授業内容に合わせた講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。 毎回、宿題・予習プリントを配布し、集中して授業に取り組めるようにする。 途中、5回目・10回目に小テストを実施し、授業内容の確認・整理に努める。							
ICT活用							
毎時間パワーポイントを活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。 障がいや量的配慮に係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

肢体不自由特別支援学校及び医療機関等での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介及び医療機関で使用されている器具など、より具体的でわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。(山下)

理学療法士としての医療機関及び養護学校勤務の経験から、臨床を基にした肢体不自由児への理解を図る。(白幡)

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題については、返却時に回答例を解説し、確実に定着が図れるよう工夫することで、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション 肢体不自由と教育】 講義の概要と今後の予定及び受講上の注意について周知する。肢体不自由特別支援学校の一日をビデオでたどり、視聴後の討議から今後の受講における視点や学習内容の整理を行う。 (山下・白幡)	肢体不自由について、教科書に目を通して、概要を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	【子どもの発達と肢体不自由】 通常の新児と肢体不自由障がい新児の身体発達を比べ、その共通点や違いから肢体不自由障がいの定義を考え、肢体不自由障がいとその後の心身の発達にどのような影響を及ぼすのかを調べる。(白幡)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	【肢体不自由児教育の歴史】 肢体不自由児教育の成立とその時代背景をさぐり、整形外科医療の発達と療育や教育の関係を解説する。さらに肢体不自由教育の創始から現在に至るまでの歴史を振り返り、先人の業績や教育発展の歴史を調べる。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	【肢体不自由障がいの理解 I 主な障がいと教育】 肢体不自由児教育を進める観点から主な障がいの理解を図り、運動と認知の発達と障がいについて解説する。特に脳性まひ、二分脊椎、筋ジストロフィー症の三大障がいについて詳しく調べる。 (白幡)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。(90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	【肢体不自由障がいの理解Ⅱ 肢体不自由児の特性】 関係する障がいの原因や分類の仕方を解説し、近年の出現率の傾向や特徴を調べる。また、就学前幼児の障がいの特性を理解し、障がいを踏まえた学校教育の可能性や必要な取り組みについて考える。 小テストを実施する。(白幡・山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	【肢体不自由児教育の教育課程】 学校教育法や学習指導要領の法的根拠をもとに、特別支援教育の位置づけと役割を考える。また幼稚園や小学校の教育課程と特別支援学校や特別支援学級の教育課程の共通点と相違点を調べる。(山下)	小テストの振り返り及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第7回	【肢体不自由児教育を進める理論】 肢体不自由児教育を支える個別の教育支援計画や個別の指導計画がどのように作成、活用されているのか、また内容や役割は何かを解説する。さらに策定・活用・評価・改善のシステムについてグループで考え、内容を発表するなどして理解を図る。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第8回	【肢体不自由児教育の実践Ⅰ 各教科の指導と指導法】 各教科で指導されている教育の紹介から、準ずる教育や下学年対応教育の指導、知的障がいに対応した教育の指導の内容を整理し、グループごとに一人一人の障がいに応じた各教科の教育の工夫を考える。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第9回	【肢体不自由児教育の実践Ⅱ 各教科の指導と工夫】 各教科ごとの特性を調べ、肢体不自由障がいのある子どもへの指導にあって必要なことは何かをグループごとに考える。学習内容の精選や教材・教具の活用、工夫について解説する。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	【肢体不自由児教育の実践Ⅲ 総合的な学習の時間の指導】 特別支援学校での総合的な学習の時間における指導事例から、学習内容や学習形態・指導体制等がどのように工夫されているかを調べる。 小テストを実施する。(山下・白幡)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	【肢体不自由児教育の実践Ⅳ 特別の教科 道徳・特別活動の指導】 特別支援学校で取り組まれている特別の教科 道徳、特別活動における指導を紹介し、障がいや発達を踏まえ一人一人のニーズに応ずる特別の教科 道徳や特別活動指導の工夫を調べる。(山下)	小テストの振り返り及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第12回	【肢体不自由児教育の実践Ⅴ 自立活動の指導】 自立活動とは何なのか、なぜ肢体不自由児教育で重要な要素とされているのかを考え、自立活動の意義や指導の実際を解説する。(白幡)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第13回	【肢体不自由児の教育の実践Ⅵ 共同学習及び交流学習】 共同学習及び交流学習指導の現状やその共通点や違いについて解説する。また、実施されている幼稚園や小中学校との連携の在り方や指導の工夫について考える。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び復習プリントにより、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
第14回	【特別支援教育センターとしての役割】 特別支援学校が果たしているセンター的役割 について解説する。さらに地域の福祉事業所との連携や教育相談について考える。(山下)	予習のプリントも含め、次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。 (90分)	配布プリント及び小テストも含めて、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	【講義のまとめ 肢体不自由教育の課題】 これまでの講義を振り返ってキーワードから、要点を整理する。さらに、肢体不自由児教育の現状から学んだ成果と課題について、まとめのテストを実施する。(山下・白幡)	予習のプリント及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。まとめのテストに向けて全体の授業内容について確認しておくこと。(90分)	予習のプリント及び次回の授業内容に関わる箇所を調べておくこと。まとめのテストに向けて全体の授業内容について確認しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出(15%) 授業への参加態度(15%) 授業内での発表状況(20%) 2回の小テスト(20%) まとめのテスト(30%)	

その他	0	
教科書		
改訂版 肢体不自由児の教育 川間健之介 西川公司 放送大学教育振興会		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修。 宿題・予習のプリントは、必ず提出すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 特別支援専門科目					
科目名		重複障がい教育総論				ナンバリング	3584
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	山下 秀樹						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会にと保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援する基本的な資質を身につけている【知識・技能】」に関係する科目であり、主体的・探求的な学習を通じて、変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を得るための科目である。特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修である。 知的障がい教育Ⅰ・Ⅱ、肢体不自由児教育Ⅰ・Ⅱ(2年)及び発達障がい等教育総論(3年)が基礎となっている。							
授業の概要							
重複障がい教育の歴史や障がいの特性を知り、どのように進められてきたのか、また、現在の重複障がい児教育がどのように発展してきたか学ぶ。 特別支援学校学習指導要領から、重複障がい児教育の教育課程と編成について解説し、教科や領域を合わせた指導や自立活動の指導について学ぶ。また、障がいを見通して展開されている多様な教育活動について紹介し、あわせて保護者や障がい者から社会参加の現状を聞き、これからの課題について考える。							
到達目標							
①重複障がいについての定義や対象児を理解すると共に、重複障がい教育の歴史や可能性について説明できる。 ②学習指導要領で示された重複障がい者に関する教育課程の取り扱いを理解し、障がいの状態から必要とされる教育的ニーズに対する授業づくりについて関連づけることができる。 ③特別支援学校等での教育実践から必要な知識や取組を学び、今後の課題について討議することができる。							
授業の方法							
パワーポイントおよび配布物を用いて、授業内容に合わせて講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。 資料映像や当事者のお話を直接聞くなどしながら授業を進める。 レポートへのコメント等によりフィードバックする。							
ICT活用							
パワーポイント等を活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。 障がいに係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

複数の障がい種の特別支援学校における勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介など、より具体的にわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題の返却時に回答例を解説することで、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション 重複障がい児と教育】 講義の概要と今後の予定、及び受講上の注意について周知する。特別支援教育における重複障がい児の概念及び、教育の現状から今後の受講における視点や今後の学習内容の整理を行う。	重複障がいについて、関係する専門書などを中心に調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	【重複障がいについて知る】 重複障がい教育を進める上で必要な身体状況や発達、心理的な特性などを知る方法を解説する。さらに実際に身体状況のチェック表や発達診断テスト等に取り組み、重複障がい児の特徴を把握する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	【重複障害児のための教育課程】 学習指導要領等示された重複障がい者等に関する教育課程の取り扱いについて解説し、障がいの状況を踏まえた教育課程の編制についての考え方を理解する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	【知的障がい教育の教育課程】 重複障がい児は知的障がいを伴うことが多い。そのため特別支援学校の実践例を示しながら、知的障がい教育の考え方を取り入れた教育課程について解説する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	【重複学級の経営と学内外との連携】 重複学級や訪問学級の経営について必要な知識や方策を考えさせ、保護者や医療、療育、福祉等の関係者と連携した学級経営の在り方について解説する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	【訪問教育】 重複障がい児への訪問教育の制度や歴史をたどり指導の実態等を紹介しながら、訪問教育で必要な知識や指導の在り方や授業作りなどをグループごとに考えて発表する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	【幼児の発達支援と教育】 重複障がい幼児の誕生からその後の発達を支援する療育・教育について解説し、幼児への特別支援教育が果たす役割を考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	【障がい者を知る】 重い障がいがありながらも社会の中で活躍されている障がい者からそのたくましい生き方についての思いを知り、特別支援教育が求められていること、果たすべき役割を考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	【支援や介助の実際について知る】 重複障がい児教育の場で必要な支援や介助の仕方について解説する。一人一人の障がい実態や指導する環境、支援機器の活用状況等の紹介から、必要な支援や介助の在り方をグループごとに考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	【障がい児の保護者の思いを知る】 重い障がいのある子どもを育てている保護者から出生から現在までの子育てについての思いを知り、子どもの障がいや地域での生活の様子を知り、教育への期待や保護者としての思いや願いについてグループごとに考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	【てんかん児の健康管理】 抗てんかん薬の投与や吸引器、人工呼吸器等使用などの医療面での管理が必要な子どもの学校での健康管理について主にてんかんから解説し、医療的ケアの実際や日常的な健康管理について考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	【障がいと教育】 障害者観の歴史をたどり、最近の「ICF」の考え方を紹介し障がいのある人々の社会参加について考える。また、社会参加のために学校教育の中で取り組まれている、移行支援や進路支援について解説する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第13回	【重複障がい児のための授業づくり1】 特別支援学校の重複学級で作成された指導案をもとに、様式や内容から作成における手順や配慮事項を解説し、実際に指導案を作成する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	【重複障がい児のための授業づくり2】 特別支援学校の重複学級で作成された指導案をもとに、様式や内容から作成における手順や配慮事項を解説し、実際に指導案を作成する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	【講義のまとめ 重複障がい教育の課題】 講義を振り返って要点を整理する。 重複障がい教育のまとめのテストを実施する。	授業内容の予告に基づき、内容及びまとめのテストに向け、全体の授業内容について確認しておくこと。(90分)	まとめのテストの確認及び配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出(15%) 授業への参加態度(15%) 授業内での発表状況(20%) 小論文の提出(10%) 感想文の提出(10%) まとめのテスト(30%)	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修.		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 特別支援専門科目					
科目名		知的障がい教育Ⅰ				ナンバリング	3572
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	山下 秀樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達について全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につける【知識・技能】」のための科目である。さらに、特別支援専門科目であり、特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修である。 知的障がい者の心理・生理・病理(1年)を基礎とし、知的障がい教育Ⅱ(2年)の基礎となる。							
授業の概要							
知的障がい児教育の歴史や障がいの特性を知り、どのように創設され、現在はどのように展開されているのかを学ぶことを目的とする。特別支援学校学習指導要領から、知的障がい児教育の教育課程に焦点を当て、その内容について学ぶ。また、知能とは何か、各教科や特別の教科道徳、特別活動、自立活動等の指導が学校教育の中でどのような形で取り組まれているのか等、実際に特別支援学校で行われている指導について学ぶ。							
到達目標							
①知的障がいの理解と知的障がい児教育の歴史を説明することができる。 ②知的障がい児教育の各教科、総合的な学習の時間、特別の教科道徳、特別活動、自立活動等についての基本的な事項や合わせた指導が必要となる背景について説明することができる。 ③特別支援学校等での教育実践から必要な知識や取組を学び、今後の課題について討議することができる。							
授業の方法							
パワーポイントおよび配布物を用いるとともに、授業内容に合わせ講義形式やアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式で進めていく。資料映像なども活用しながら授業を進める。							
ICT活用							
毎時間パワーポイントを活用し、提示したスライドを確認するなどしながら視覚的に内容が理解しやすい授業展開とする。 知的障がい等に係るビデオや動画などを視聴し、より理解が深められるようにするとともに、グループワークをしながら互いに意見交流できる場面を設定する。							
実務経験のある教員の教育内容							

知的障がい特別支援学校での勤務経験を活かし、教育現場での子どもたちの様子や授業内容、教材・教具の紹介など、より具体的でわかりやすい授業を行う。また、保護者や関係機関との連携についても勤務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出した課題の返却時に、確実に定着が図れるよう解説をする加えるなど工夫することで、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	＜講義の内容と講義予定について＞ 講義予定、受講時の諸注意、教科用図書、評価等について説明する。知的障がいの定義とその特性、知的障がい児教育の歴史について解説する。	知的障がい教育について、関係する専門書なども含めて授業内容について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	＜通常教育と知的障がい児教育との違いについて＞ 小学校で履修してきたことを手がかりに通常教育で学んできたことの教科や領域を構造化し、知的障がい児に必要な教育との共通点や相違点をグループごとに考えて発表する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	＜知的障がいについて＞ 知的障がいの主な原因と行動特性について詳しく解説し、教育的な対応で必要となる指導上のポイントについて説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	＜学習指導要領について＞ 学習指導要領の法的根拠やこれまでの改訂の歴史を解説し、小学校学習指導要領の内容構成や教育課程の編成について説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。(90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	＜特別支援学校学習指導要領について＞ 特別支援学校学習指導要領の内容構成や障がいの種類や程度に応じた指導を可能とする特例等について解説し、通常教育との共通点や違いについて理解する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	＜特別支援学校(知的障がい)の教育と学習指導要領について＞ 特別支援学校の教育課程で見られる「準ずる教育」や「下学年対応教育」、「知的代替教育」、「自立活動中心教育」など通常4つの類型の意義と、知的障がい教育の基本や特徴を学習指導要領と関連づけて解説する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	＜幼児・児童・生徒の障がいと発達について＞ 一人一人の障がいや社会性発達の状況についての把握の仕方と、いくつかの障がい事例を通してどのような進め方がいいのかグループごとに考える。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	＜知的障がい教育の教育内容・方法について＞ 知的障がいのある幼児・児童・生徒の教育的ニーズについて考え、どんな学習内容や方法を用意し指導すべきか教育課程編成の観点から説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	＜教育課程の編成について＞ 知的障がい児教育で使われている教育課程がどのように編成されているか調べ、他の障がいとの共通点や相違点を整理し特有な部分についての理解を深める。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	＜特別支援学校(知的障がい児教育)の学習について＞ 本道の特別支援学校の概要を解説し、学習の様子を紹介する映像から実際の場面でどのように指導が進められているかを理解する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	＜知的障がい児教育と個別の計画について＞ 一人一人のニーズに対応した教育を支える個別的教育支援計画や個別の指導計画等を解説し、どのように作成し活用されているのか説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	＜心理アセスメントと知能検査について＞ 知能検査で捉えた知能の定義、その発達や生きていく時に必要な知識や技能などとの関係を考える。また、学校現場での実施の仕方や結果の活用、留意点について解説する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第13回	＜知的障がい児への就学支援について＞ 障がい児の就学について関係する法令や市町村教育委員会の業務について解説し、早期からの相談・支援事業について説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	＜特別支援学級(知的障がい)について＞ インクルーシブ教育システムの中で、知的障がい児のための特別支援学級の教育はどのような内容で行われているのかを、通常学級や通級指導学級との関係で説明する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べておくこと。 (90分)	配布プリントを中心に、授業内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	＜知的障がい児教育Ⅰのまとめ＞ 知的障がい児の家族や生活を取りまく状況を福祉や保育、教育の現状から解説し、誕生から就学、卒業後の社会参加までを見通した教育のあり方について考える。まとめのテストを実施する。	次回の授業内容の予告に基づき関係する箇所について調べるとともに、まとめのテストに向けて全体の授業内容について確認しておくこと。(90分)	配布プリント及びまとめのテストを振り返り、授業内容についてまとめておくこと。 (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出(15%) 授業への参加態度(15%) 授業内での発表状況(30%) まとめのテスト(40%)	

その他	0	
教科書		
特別支援学校学習指導要領解説 総則編 平成30年3月 文部科学省		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 特別支援専門科目					
科目名		病弱教育				ナンバリング	3580
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木谷 岐子、反保 公志						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関係する科目である。 特別支援教育の専門科目であり、特別支援学校教諭免許取得希望者は、必修の科目である。 病弱者の心理・生理・病理(1年)、特別支援教育総論(2年)に関連する。							
授業の概要							
特別支援学校(病弱)の教育において教育課程が有する意義を理解する。幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校(病弱)の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。							
到達目標							
1. 生きる力として知・特・体に加え、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを目指すために教育課程を編成することについて理解している。 2. 病気や障がいの状態、特性および心身の発達の段階等並びに学習の進捗を踏まえ、各教科等の教育の内容を選定し、組織し、それらに必要な授業時数を定めて編成することを理解している。 3. 各教科等の年間指導計画を踏まえ、個々の幼児、児童又は生徒の実態に応じて適切な指導を行うために個別の指導計画を作成することを理解している。 4. 自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取扱いについて理解するとともに、教化と自立活動の目標設定に至る手続きの違いを理解している。 5. 個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげることについて、カリキュラム・マネジメントの側面の一つとして理解している。							
授業の方法							
パワーポイントとハンドアウト、視聴覚メディアを適時活用しながら授業内容を解説する。さらに、病弱教育についての理解を深めるための、グループ学習、体験学習、問題解決学習、ディスカッション等を取り入れる。							
ICT活用							
Google Classroom上での意見交流や、情報共有、共同作業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

臨床心理士/公認心理師として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事した実務経験を活かし、病弱教育に関する知識と理解、さらに、対応方法についての学びを提供する。(木谷)
 特別支援教育の教諭、管理職として、40年間特別支援教育に従事した実務経験を活かし、病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導や、自立活動及び自立活動の指導等、具体的な授業場面を想定した授業設計に関する学びを提供する。(反保)

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、質問事項に対してコメントを返したり、解説を行ったりする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	●オリエンテーション 本講義のシラバスや成績・評価についての説明を受けるとともに、病弱教育の概要について学習する。病弱教育の教育課程・位置づけを考えたり、様々な病種を理解する講義であることを認識する。	本講義の内容を認識する。(90分)	病弱教育の概要をまとめる。(90分)
担当教員	反保 公志、未定、木谷 岐子		
第2回	●病弱・身体虚弱と学習上・生活上の困難と教育課程(木谷) 病弱養護学校、特別支援学級(院内学級)、小学校や中学校に在籍している児童生徒たちが、自分の病気のことで困っていることや悩んでいることについて考える。	1年生前期に学んだ「病弱者の心理・生理・病理」の資料を読んで復習する。(90分)	病気の子供たちの困り感と教師ができる対応をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	●病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階について①(木谷) 児童生徒一人一人の不安や悩み、繊細な思いを理解する関わり方を、心理臨床で活用されている方法論を通して学ぶ。	心理臨床で活用されている方法論について調べる。(90分)	心理臨床で活用されている方法論についてまとめる。(90分)
担当教員	未定、木谷 岐子		
第4回	●病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階について②(木谷) 演習を通して、児童生徒一人一人の不安や悩み、繊細な思いを理解する関わり方を学ぶ。	特に興味を持った心理臨床の方法論について調べる。(90分)	演習の感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第5回	●病弱・身体虚弱のあるこどもが抱える様々な不安とその対応①(木谷) こころの不調に関する基本的な理解の仕方や、様々な状態像について学ぶ。	こころの不調の状態像について調べる。(90分)	こころの不調に対する、基本的な考え方をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	●病弱・身体虚弱のあるこどもが抱える様々な不安とその対応②(木谷) 視聴覚教材や、事例を通して、こころの不調をかかえる児童生徒への理解を深める。	こころの不調について考え、まとめたことを話し合う。(90分)	視聴覚教材の内容や事例についての感想をまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第7回	●自立活動の指導における指導計画の作成、指導内容・方法①(反保) 特別支援教育ならではの指導領域である自立活動を主とした個別の指導計画の作成について学ぶ。	本人が困っていることは何かを話し合う(自立活動の項目を参照)。(90分)	生徒の実態に応じた障害の捉え方をまとめる。(90分)
担当教員	反保 公志、未定		
第8回	●自立活動の指導における指導計画の作成、指導内容・方法②(反保) 一人ひとりの実態を踏まえた系統的な指導実践を展開できるよう指導案(略案)の作成を学ぶ。	指導の根拠について主体的対話的に話し合う。(90分)	個別の指導計画を基に授業展開をまとめる。(90分)
担当教員	反保 公志、未定		
第9回	●各教科等の個別の指導計画の作成とカリキュラム・マネジメント①(反保) 各教科等の教育内容を相互に関連付けながら教科横断的な視点を学ぶ。	目標達成に必要な教育の内容を認識する。(90分)	より良い指導の実践についてまとめる。(90分)
担当教員	反保 公志、未定		
第10回	●各教科等の個別の指導計画の作成とカリキュラム・マネジメント②(反保) 生徒の実態を踏まえ、自己有用感を引き出す個別の指導計画の作成を学ぶ。	カリキュラム・マネジメントを大局的に捉え3つの層について認識する。(90分)	教育活動に必要な条件整備を授業内容と一体に考え地域の特性等(学生 の 地元等)をまとめる。(90分)
担当教員	反保 公志、未定		

第11回	●学習効果、指導効果を高めるICTの活用、教材教具の活用①(反保) 病弱教育における情報化の意義や有効性について考える。	病弱教育における情報化の施策を認識する。(90分)	リアルタイムで行える学習内容について創造しまとめる。(90分)
担当教員	反保 公志、未定		
第12回	●学習効果、指導効果を高めるICTの活用、教材教具の活用②(反保) 比較的障がいの重い生徒の自己有用感を高めるための自作教材を用いて授業の深まりを学ぶ。	併せ持つ障害のケースの場合、限られた学習活動をとおしてより有効な展開を考えまとめる。(90分)	様々な発表内容を聞いて感想をまとめる。(90分)
担当教員	反保 公志、未定		
第13回	●自立活動との関連を踏まえた各教科等の学習指導案の作成①(反保) 各教科の指導と自立活動の指導の基本的な違いについて認識し、6区分27項目について認識し指導案を作成する。	慢性疾患の生徒の自立活動を主とした教育課程を想定し学習指導案を作成する。(90分)	個のニーズに対応した授業展開をまとめる。(90分)
担当教員	反保 公志、未定		
第14回	●自立活動との関連を踏まえた各教科等の学習指導案の作成②(反保) 医療と教育が連携し、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の核として支援していく場合の学校(教師)の役割について。	健康面で多くの課題を抱えている生徒への配慮について「健康の保持」の考えをまとめる。(90分)	事例を通して個々の対応例について具体策をまとめる。(90分)
担当教員	反保 公志、未定		
第15回	●まとめ この授業についての全体的な内容を振り返り、学びの定着を確認する。	講義で学んだことを確認する。(90分)	授業全体を通しての感想や意見をまとめる。(90分)
担当教員	反保 公志、未定、木谷 岐子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート内容と、学びの定着を確認するテストの点数(70%) グループ単位の発表活動及び、ディスカッションへの参加の積極性(30%)	

その他	0	
教科書		
標準「病弱児の教育」テキスト【改訂版】一般社団法人日本育療学会		
参考文献		
適時資料を配布する		
履修条件・留意事項等		
この講義では、積極的な授業参加態度が求められる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		教育実習 I				ナンバリング	4832
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	4
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。また、幼稚園における教育・保育計画の立案・実践を行い、幼稚園教諭の姿から子どもとの関わり方、援助の方法を学ぶ科目である。加えて、「教育実習指導 I」を基礎とし、「教職実践演習」に繋がる科目である。							
授業の概要							
これまでの幼児教育の学習の集大成として、実践をより深めるための実習である。教育実習では、実際に幼稚園のクラスに入り、クラス担任の助手的な役割を務め、部分的にあるいは1日の指導計画の立案・実践を行う(責任実習)。このことを通して、幼児期の子ども達がどのような発達過程を歩んでいるのかを実際の子どもの遊び・仲間関係・興味・関心に触れながら学習する。また、幼稚園教諭がどのように幼児と関わり、幼児を援助しているのかを、幼稚園教諭の姿から学ぶ。							
到達目標							
1. 幼稚園という保育・教育の場の機能、役割を理解することができる。 2. 幼稚園における遊びや生活を通して子どもを理解することができる。 3. 幼稚園教諭の職務・役割・仕事の内容を具体的に学び理解することができる。 4. 大学における学習と実習の内容を有機的に融合することができる。							
授業の方法							
幼稚園教諭の職務・役割・仕事を、実習指導教諭を中心とした指導や実習巡回指導教員による指導によって理解を深める。							
ICT活用							
特になし							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当教員は、幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。実習では、直接、幼稚園教員から学ぶ。

課題に対するフィードバックの方法

教育実習Ⅰ後に事後指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○幼稚園において、4週間(原則20日間)の実習を行う ○事前訪問 ・実習先と実習のスケジュール等について確認を行い、実習に向けた諸注意等の指導を受ける	なし。	なし。
担当教員			
第2回	○参加実習 ・保育の中に入り生活や遊びを共にする中から保育を体験的に学ぶ ・幼稚園教諭の職務を理解し、日々の生活を通してその役割を理解する	なし。	なし。
担当教員			
第3回	○幼児の個人差やニーズについて理解し、その援助方法を習得する ・幼児に共感し、受容する態度を身につける。 ・幼児の個人差や発達の違いに応じた援助を身につける	なし。	なし。
担当教員			
第4回	○家庭との意思疎通を具体的な事例を通して学ぶ ・日常の保護者との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ ・親子のコミュニケーションについても学ぶ	なし。	なし。
担当教員			

第5回	○部分案を作成し部分実習を行う ・個々の幼児に応じた指導案を作成し部分的な責任実習を行う ・幼児の興味関心及び安全に十分配慮する	なし。	なし。
担当教員			
第6回	○巡回指導を受ける ・巡回指導教員及び実習指導者からの指導を受け、日々の実践の反省及び課題をより明確化する ・巡回指導による助言を今後の実践に十分生かす	なし。	なし。
担当教員			
第7回	○日案を作成し全日実習を行う ・個々の幼児に応じた指導案を作成し全日(一日)の責任実習を行う ・幼児の興味関心及び安全に十分配慮する	なし。	なし。
担当教員			
第8回	○事後訪問 ・実習終了に係る挨拶を兼ねて訪問し、実習日誌等を提出する ・実習園に対して感謝の気持ちを伝える	なし。	なし。
担当教員			
第9回	○事後指導 ・幼稚園における体験をもとにし、反省や課題を明確化する。 ・今後の学習計画(教職実践演習等)を明確にし、インターンシップ等で実践する。	なし。	なし。
担当教員			
第10回	なし。	なし。	なし。
担当教員			

第11回	なし。	なし。	なし。
担当教員			
第12回	なし。	なし。	なし。
担当教員			
第13回	なし。	なし。	なし。
担当教員			
第14回	なし。	なし。	なし。
担当教員			
第15回	なし。	なし。	なし。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	実習日誌30%(記述内容・実習後の反省・考察)・実習態度20%(出席簿等の結果)	

その他	50	実習園評価50%(実習態度・理解・指導力等)
教科書		
特になし		
参考文献		
特になし		
履修条件・留意事項等		
こども発達学科学外実習履修要件を満たしていること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		教育実習Ⅱ				ナンバリング	4852
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	4
担当教員	村田 敏彰、相馬 哲也、高桑 純、村越 含博						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。【思考・判断・表現】」ことを主な目的とする科目である。事前に教育実習指導Ⅱを履修していなければならない。また、小学校教員免許取得のためには、この授業あるいは「教育実習Ⅰ」が必修であるが、小学校教師になる場合はこの授業を選択すること。							
授業の概要							
事前指導を踏まえ、教育実習の意義を再確認しながら、授業観察の方法、指導案の書き方や授業実践の仕方について具体的に学び、実習についての心構えを身につける。また、教育実習での子ども理解や対処の仕方、学級経営などについて、現場の教員から学んだことを生かして、研究授業等に取り組む。							
到達目標							
教育現場で、教師の立場で教育実習を体験することにより、次の目標を達成させる。 ①教職の素晴らしさに気付くことができる。 ②教員としての資質や能力の基礎を身に付けることができる。 ③資質・能力の向上に向けて、より意欲的に学習する態度を高めることができる。							
授業の方法							
4月から、実習までの4週間には、直前指導として、実習目標や心構えの確認や授業の進め方の確認をする。 4月下旬からGW中に、教科書を使って該当学年の指導計画づくりや授業の進め方について、事前の学習をさせる。 実習中の休日を利用して、実習記録の書き方や研究授業の構想などの交流や指導を通して、不安解消や実習の充実を目指す。 実習終了後は、実習の内容や努力が教員としての実践的能力に結びつくよう、事後の指導を充実させる。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

実習記録の点検と指導
 ①事前指導 事前訪問の内容と目標の記載
 ②実習中指導 記録の書き方
 ③事後指導 目標に対する実施状況や考察

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「オリエンテーション」 事前指導のポイントを再確認する。本実習の内容を中心に、その直前の指導や事中指導の内容を伝え、心構えを確立させる。 実習記録の書き方について説明し、個人調査書の内容を実習記録に転記させる。 事前登校(学校への電話)や実習のための通学定期券の申し込みについて説明する。	なし	なし
担当教員			
第2回	事前指導① 指導略案書きと模擬授業の準備 実習の目的を再確認する中で、教材研究の仕方について説明する。(ハンドブック使用)	なし	なし
担当教員			
第3回	事前指導② 教材研究、指導案書きを行う。また、先輩の体験談を聴き、実習に向けて意欲の向上を図る。	なし	なし
担当教員			
第4回	事前指導③ 授業参観の仕方、実習記録の書き方(実習校の概要、自己目標の具体化、日々の記録など)、出勤簿、実習評価についての説明する。購入教科書を活用した教材研究の準備をさせる。	なし	なし
担当教員			

第5回	実習中指導① 実習記録の交流と指導。授業観察の仕方の再指導。教材研究の仕方や児童との触れ合い(学級経営)についての指導。	なし	なし
担当教員			
第6回	実習中指導② 教材研究に基づく指導案作成の留意点の指導。特に、国語、算数を中心に「ねらいに基づく」「“教える”と“考えさせる”」指導を重点的に行う。	なし	なし
担当教員			
第7回	実習中指導③ 指導案作成の留意点と授業づくりの指導。特に、「わかる、できる授業」「個に応じる」指導を重点的に行う。教員としての法的事項や身分・立場についての学習についても触れる。	なし	なし
担当教員			
第8回	実習中指導④ 研究授業及び研究協議における指導。巡回指導教員による。指導のねらいに基づく授業実践の反省・評価に対する指導。児童理解に基づく授業づくりに対する指導など。	なし	なし
担当教員			
第9回	事後指導① 自己課題(目標)に基づく反省・評価の交流と自己課題の焦点化。礼状の書き方の指導と実際。実習記録の整理と実習校への提出などの指導。	なし	なし
担当教員			
第10回	事後指導② 「実習のまとめと考察の交流」自己課題の焦点化と教職実践演習に向けての指導。また、道徳や学級活動の指導、学級経営について補足の指導を行う。	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	実習日誌30%(記述内容) 実習に対する取り組み状況30%(巡回指導の評価、出勤簿、自己評価)	

その他	40	実習校による評価40% (学習指導力・生徒指導力・実習態度)
教科書		
保育実習・教育実習ハンドブック		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
小学校教員免許取得希望者 必修 学外実習履修要件を満たしていること。(「保育実習・教育実習ハンドブック」3ページ参照)		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		教育実習指導 I				ナンバリング	3830
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び 教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。また、教育実習 I (幼稚園実習) で必要な、実践的な指導力の基礎を培い、幼稚園に関する基礎的な技術等を具体的に習得する科目である。「幼児の理解」を基礎とし、「教育実習 I」及び「教職実践演習」に繋がる科目である。							
授業の概要							
幼稚園教育実習に向けての指導として、幼稚園実習の目的、意義、保育の部分指導に関する実習指導案作成等を行う。幼稚園教育実習で最小限必要な、実践的な指導力の基礎を培う。幼稚園教育実習を円滑にするために、幼稚園に関する基礎的な知識・実習に必要な技術、実習に関わる実務などを具体的に習得する。							
到達目標							
幼稚園における教育実習の全体像を知る。また、教育実習についての知識や、実習に役立つ技能を身につけていく。加えて、幼児についての理解を深め、幼児の育ち(＝自立)を援助する保育者としての資質や役割、心構えなどについて理解し、実際に行動・実践できるかが到達目標である。							
授業の方法							
配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。 今回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
配布資料の他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

今回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)。②渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	幼稚園教育実習について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第3回	部分実習「手遊び」についての指導計画を立案する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第4回	部分実習「手遊び」についての指導計画を立案する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第5回	部分実習「手遊び」を発表する①。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第6回	部分実習「手遊び」を発表する②。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第7回	部分実習「手遊び」を発表する③。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第8回	部分実習「絵本読み」について留意すること等を理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第9回	「園外保育」について考える①。「園外保育」において留意すること等を理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第10回	「園外保育」について考える②。「園外保育」のロールプレイングを通して实际的に理解する。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第11回	指導計画とは①。指導計画について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第12回	指導計画とは②。「週案」を理解し作成する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第13回	保育実習Ⅰ－Ⅱ(保育所)での経験をグループ討議等によって、幼稚園教育実習に生かす。(アクティブラーニング)	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第14回	部分案におけるねらいの立案方法について理解する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第15回	部分案におけるねらいの立案方法について理解する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第16回	部分案の作成方法について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第17回	部分案を作成する①。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第18回	部分案を作成する②。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第19回	部分案を作成する③。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第20回	部分実習(責任実習)を行う際に留意することについて理解を深める。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第21回	幼稚園教育実習単位取得者からの解説を通して、幼稚園教育実習への理解を深める。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第22回	幼稚園教育実習園の選び方について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			

第23回	幼稚園教育実習個人調査票や日誌の記入方法について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
第24回	幼稚園教育実習後の事後指導について理解する。	返却された課題や資料などに目を通し、講義の内容を事前に調べておくこと。(20分)	返却された課題や資料などに目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	行わない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	
その他	0	なし	
教科書			
幼稚園教育要領解説(平成30年3月)文部科学省			
参考文献			
特になし			
履修条件・留意事項等			

教育実習Ⅰ（幼稚園教育実習）を選択する学生は必ず履修すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		保育実習Ⅰ－Ⅱ				ナンバリング	3803
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	2
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一						
授業の位置づけ							
より良い教育・保育環境及び教育・保育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけるための科目である。これまで学習したことを実践、確認するために保育現場で実習を行う。「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」へ発展していく。							
授業の概要							
これまでに学んだ教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力の養成を図る。乳幼児に対する直接的な働きかけによって、保育の理論と実践の関係について考えさせようとするものである。保育所における実習を通じて、保育所の役割や保育内容を理解するとともに、保育者としての自己の在り方についても学ぶ機会となる。							
到達目標							
1. 保育所の役割や機能について説明することができる。 2. 実習における具体的な観察や関わりにより、子どもへの理解を深めることができる。 3. 保育の計画・観察・記録・自己評価等についての理解を深めることができる。 4. 保育士の業務内容や職業倫理についての具体的な理解を深めることができる。 5. 実習における様々な体験や触れ合いの中で、保育者としての必要な資質について理解を深めることができる。							
授業の方法							
保育所(園)において10日間の実習を行う。実習の実施前に「事前指導」、実施後に「事後指導」を行なう。							
ICT活用							
該当なし。							
実務経験のある教員の教育内容							

保育士の資格、短期大学保育学科の教員経験を活かし、保育実習に必要な知識と技術の専門性について、実践的な取り組み方を提供する。

課題に対するフィードバックの方法

実習終了後に実施するアンケートに対しコメントを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	保育所において10日間の実習を行う。実習形態としては参加実習を中心とし、保育の場における様々な体験を通して、「保育所の役割と機能」「子どもの理解」「保育内容・保育環境」「保育の計画・観察・記録」「保育士の役割と職業倫理」等について、具体的・総合的に学ぶ。	なし	なし
担当教員			
第2回	○事前訪問 実習先と、実習のスケジュールについて確認を行い、オリエンテーションを受ける。	なし	なし
担当教員			
第3回	○観察実習、参加実習 保育に参加し、子どもと生活や遊びを共にする中から、保育について具体的・総合的に学ぶ。必要に応じて、部分実習や全日実習を行う。	なし	なし
担当教員			
第4回	○巡回指導 巡回指導教員から、実習課題を基に面談指導を受け、助言を今後の実習に生かす。	なし	なし
担当教員			

第5回	○事後訪問 実習終了に係る挨拶をかねて実習先を訪問し、実習日誌を提出する。	なし	なし
担当教員			
第6回	○お礼状の作成、郵送	なし	なし
担当教員			
第7回	○事後指導 実習について自己評価を行い、自らの課題を整理し、保育実習Ⅱに向けての準備を計画する。	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	実習への参加態度及び自己評価(30) 実習日誌等提出物(30)	

その他	40	実習施設による評価(実習評価票)
教科書		
「保育実習・教育実習ハンドブック」北海道文教大学人間科学部こども発達学科編		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
・学外実習履修要件を満たしていること ・保育実習指導Ⅰの単位を取得していること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅰ（笠見 康大）				ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、こども学原論を履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる							
授業の概要							
こども発達学科の総合科目である。 学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。美術館等へのフィールドワークも予定している。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通じた教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(全体活動)【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援 本科目では、アートプロジェクトを基盤に、プロジェクト型保育、アートワークショップの開発、教材研究をテーマに授業を行なうものとする。今後の研究テーマの選択等につき検討を行う。	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	アートプロジェクトについて調べしておく。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			
第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			

第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容及び科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	レジョエミリアについて調べておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			
第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回は引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	鑑賞内容を次の活動に生かせるようにまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			
第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	アートプロジェクトの達成に向けて準備をしておく。(25分)	次の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出する。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版(岡山)		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅰ（木谷 岐子）				ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木谷 岐子						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、こども学原論を履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる							
授業の概要							
こども発達学科の総合科目である。 学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンを活用し、報告書や発表資料を作成する。また、Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

博士の学位取得後、大学所属の専門研究員として、研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。また、学びの場の創造について、対話・討論を通して認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom等も活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容(①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援)に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	今後の研究テーマについて関心事をまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておく。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第4回	【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		

第5回	【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討する。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考え方、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで学んだ情報の利用法について復習する。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第7回	【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究する。(25分)	研究活動の内容を整理する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	【各グループによる活動:前回は引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理する。(25分)	今回の研究活動の内容を整理する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第10回	【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をする。(25分)	鑑賞内容を次の活動に生かせるようにまとめる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		

第11回	【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第13回	【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	調査活動の達成に向けて準備をしておく。(25分)	次の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを行う。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	【中間報告書の作成と提出】15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出する。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理する。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 授業参加姿勢50% 2. 課題25% 3. 発表25%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版(岡山)		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅰ（美馬 正和）				ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、こども学原論を履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる							
授業の概要							
こども発達学科の総合科目である。 学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(全体活動)【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておく。(20分)
担当教員			
第3回	(全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			
第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			

第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	計画内容に関連する領域について調べておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			
第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回は引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	鑑賞内容を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員			

第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			
第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	研究活動の報告準備をしておく。(25分)	次の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出する。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版(岡山)		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅰ（村田 敏彰）				ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	村田 敏彰						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、こども学原論を履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる							
授業の概要							
こども発達学科の総合科目である。 学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオに関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(全体活動)【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	指導を受けた事項につき整理しておく。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討しておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			
第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			

第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を復習しておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			
第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回は引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	研究内容を次の活動に生かせるようにまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			
第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	報告会に向けて準備をしておく。(25分)	次の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出する。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版(岡山)		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅰ（村越 含博）				ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	村越 含博						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、こども学原論を履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる							
授業の概要							
こども発達学科の総合科目である。 学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査・フィールドワーク等を行い成果を発表する。発表後は成果物をもとにレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道公立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(理科・算数)、ことばの教室担当教諭、生活指導、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆している。近年は感染症の授業開発や、ICT教育についても現場で実践を行ってきた。地域社会科教材開発、副読本の執筆等にもかかわってきた。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、学びのポートフォリオ、発表物等に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(全体活動)【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			
第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			

第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	千回の授業を確認しておく(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			
第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回は引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	発表内容を次の活動に生かせるようにまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			
第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	発表に向けて準備をしておく。(25分)	次の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	発表リハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出する。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版(岡山)		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅰ（小椋 佐奈衣）				ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小椋 佐奈衣						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、こども学原論を履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる							
授業の概要							
こども発達学科の総合科目である。 学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、戸外活動を実施することもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

短期大学の保育学科の教員経験に基づき、子どもを対象とした実践的教育と視覚的教材を通した幼児教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオ、作品に関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(全体活動)【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておく。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第2回	(全体活動)【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	
担当教員	小椋 佐奈衣		
第3回	全体活動【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。		調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回は引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	鑑賞内容を次の活動に生かせるようにまとめる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	アートプロジェクトの達成に向けて準備をしておく。(25分)	次回の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出する。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版(岡山)		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅰ（高桑 純）				ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	高桑 純						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、こども学原論を履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる							
授業の概要							
こども発達学科の総合科目である。 学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

教育委員会や学校に長年間勤務した経験を生かして、理科教育、環境教育、HR指導、生活指導、学校経営をはじめとする実践経験を有する。これらの経験を活かし、教育や学校の在り方について、具体的に指導する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポート、ポートフォリオに関してコメントする。プレゼンテーションにおいては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(全体活動)【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①学校教育の課題 ②理科教育 ③ICT教育 ④環境教育	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			
第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			

第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	基礎ゼミナールⅠ・Ⅱを振り返り、文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法などについて確認しておく。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			
第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回は引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	研究内容を次の活動に生かせるようにまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、プレゼンテーションソフトによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてプレゼンテーションソフトで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			
第13回	(全体活動)【中間報告会1:発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	発表に向けて準備をしておく。(25分)	次の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出する。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版(岡山)		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅰ（吉岡 亜希子）				ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、こども学原論を履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる							
授業の概要							
こども発達学科の総合科目である。 学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
テーマを決め、グループで研究を行う。テーマに基づいて文献検討や調査等の情報収集を行い、分析、整理をする。子どもや保護者を支援する施設や組織、子どもの学びを支える施設や組織の調査を行いながら研究することを基本とする。グループごとに研究成果を発表し、中間報告書を提出する。							
ICT活用							
Google classroomを活用した双方向授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

子育て支援組織の実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グループごとに課題の進捗状況を報告し共有する。その都度、検討を行いフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(全体活動)【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	説明を受けた事項につき整理しておく。(20分)
担当教員			
第3回	全体活動【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			
第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			

第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	授業のテーマについて調べる。(25分)	調査範囲を分担し担当箇所をリサーチする。(20分)
担当教員			
第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回は引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	鑑賞内容を次の活動に生かせるようにまとめておく。(20分)
担当教員			

第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			
第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	アートプロジェクトの達成に向けて準備をしておく。(25分)	次の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出する。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版(岡山)		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		こども学総合演習Ⅰ（西野 美穂）				ナンバリング	3600
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野 美穂						
授業の位置づけ							
「こども学総合演習Ⅰ」は、広い視野から保育・教育・子育て支援とそのあり方を考え、学際的なものの見方を養う総合科目である。学生が保育者として、専門的知識や技術などを用い、こどもに対する適切な支援・指導のための情報を収集・分析・整理することができるようになることを目指し、保育者・教育者としての実践力を育成することを目的とする。 ディプロマ・ポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。（思考・判断・表現）」ことと特に関係する科目である。 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、こども学原論を履修し、こども学総合演習Ⅱの基礎となる							
授業の概要							
こども発達学科の総合科目である。 学生自身による主体的活動と教員との双方向的関わりを基盤として授業が展開される。学生は担当教員から提示される内容を参考にテーマを選び、グループごとに自主的な学習・体験・研究活動を行い、ディスカッションや調査・研究活動を経て前期終盤に中間報告会において中間報告を行い、中間報告書を作成・提出する。							
到達目標							
1. 保育士として使命を説明できる。 2. 社会的コミュニケーションの能力の基礎を活用できる。 3. 家庭・地域・子育て関連の機関との連携について説明できる。 4. 子育て支援に必要な能力の基礎を活用することができる。 5. 実践と理論を結ぶ方法を活用することができる。							
授業の方法							
配布資料や映像等を使い研究対象への動機付けをおこなう。個人及びグループで教材研究・文献調査を行い成果を発表する。発表後はアンケートをとりレポートにまとめ今後の学習につなげる。研究内容によっては、活動時間の一部が休日・長期休暇中となることもある。							
ICT活用							
パソコンや映像機器を利用したデータ収集や編集、発表の準備をお行う。また、googleclassroomを活用して課題の実施や情報共有を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、実践的な音楽教育について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに関してコメントする。プレゼンテーションや演奏においては発表後に講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(全体活動)【オリエンテーションⅠ】授業の方法、日程の確認、諸連絡を行う。 担当教員により本科目設置の趣旨、本科目の目的と意義、前期15回の授業の進め方、今後の日程、履修上の留意点と心得などについて必要な説明・連絡を行う。学生は必ず出席をして必要な事項を十分に理解する必要がある	シラバスにより本科目の内容を把握しておく。(25分)	説明を受けた事項につき整理をしておく。(20分)
担当教員			
第2回	(全体活動)【オリエンテーションⅡ】各教員より以下の内容に係る研究課題の例示、活動方法などの指導を行う。①保育士の使命 ②社会的コミュニケーション能力 ③家庭・地域・子育て関連の機関との連携 ④子育てに関する支援	シラバスを参照して各担当教員の専門領域等を把握する。(25分)	担当教員の専門領域から研究課題を検討する。(20分)
担当教員			
第3回	(全体活動)【活動テーマの選択と登録 希望テーマを第3希望まで選択する】前回の授業で受けた説明と、例示された研究テーマを参考にして、活動テーマの検討を行い、希望するテーマを第3希望まで選択して登録する。この段階では希望を変更することも可能である。	前回例示されたテーマについて十分に検討をしておくこと。(25分)	テーマの内容について検討する。(20分)
担当教員			
第4回	(グループ活動)【テーマごとにグループを編成 活動の目標、方法、活動計画等の検討】希望する研究テーマ・領域により研究活動の単位となるグループを編成し、以後はグループにより行動することを原則とする。各班はリーダー・書記等の役割を決め、活動の目標、活動の方法、活動計画の検討を行う。	希望するテーマについて必要な書籍や文献を探る。(25分)	グループにより決定された内容を整理する。(20分)
担当教員			

第5回	(グループ活動)【活動内容・テーマの確定、活動内容案・活動計画書の作成・提出】班のメンバーによる討議を行い、グループ研究のテーマを確定し、研究活動の内容の検討を行い、活動計画書を作成して提出する。メンバーによる討議を尽くすとともに、必要に応じて、適宜指導教員の指導・助言を受けることとする。	研究テーマ・研究活動内容につきあらかじめ検討しておく。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第6回	(全体活動)【参考文献の探し方と活用法、著作権に関する指導、Web情報の利用法などの指導】1年次の基礎ゼミナールⅠ・Ⅱで行われた指導内容及び同科目で体験した内容を踏まえて、研究活動を展開するために必要な文献の探し方、著作権に関する考えかた、Web情報の利用法、その効用と限界等についての指導を行う。	研究テーマ・研究活動内容につき検討を進める。(25分)	活動計画の内容を再度検討する。(20分)
担当教員			
第7回	(グループ活動)【必要な資料についての検討、リストアップ等の実施】前回の授業の内容を受けて、各グループの研究テーマに即して研究活動に必要な資料の範囲等を検討し、参考・引用文献として適切な資料を検討し、リストアップを行う。図書館、パソコン等の利用を含めて活動を行う。	前回の授業の内容を確認しておく。(25分)	リストアップした資料の関連資料についても検討を行う。(20分)
担当教員			
第8回	(グループ活動)【各グループによる活動:資料収集、取材活動など】前回の授業でリストアップした資料、収集した資料の内容を検討し、更に資料の検討・収集の活動を行う。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	収集した資料の内容について研究をしておく。(25分)	研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第9回	(グループ活動)【各グループによる活動:前回は引き続き資料収集、取材などの活動】前回の活動に引き続き、収集した資料の内容の検討、学外での活動の内容の整理などを行い、研究活動を推進する。学外での情報や資料の収集、見学、取材などの活動を行う場合は事前に指導教員に相談をして指示を受ける。	前回の活動内容を整理しておく。(25分)	今回の研究活動の内容を整理しておく。(20分)
担当教員			
第10回	(グループ活動)【各グループによる活動:収集した資料などの整理・分析】前回の授業まで収集した内容や研究活動の成果を整理・分析して研究報告書の作成の準備を行い、研究報告会での発表のための準備を始める。不十分と思われる部分等についての補充や訂正などについても検討を行う。	研究活動全体の整理をしておく。(25分)	研究内容を次の活動に生かせるようにまとめる。(20分)
担当教員			

第11回	(全体活動)【中間報告会に向けての指導:プレゼンテーションの基礎】 1年次後期の『プレゼンテーション技術』で学んだ内容を踏まえながら、研究発表の方法、プレゼンテーションの方法と必要な準備、パワーポイントによる発表の際の留意点、発表時の役割分担等につき指導を行う。	テーマを検討する。(25分)	グループ活動の具体的方法を検討する。(20分)
担当教員			
第12回	(グループ活動)【各グループによる活動:活動内容のまとめ、発表資料作成】研究活動のまとめである研究論文の作成に向けて、発表会用の資料としてパワーポイントで提示する発表資料の作成を行い、実際の発表方法や役割分担等につき、具体的な事項について検討を行う。	活動計画の確認、材料の準備をする。(25分)	実践の検討、反省をする。(20分)
担当教員			
第13回	(全体活動)【中間報告会1:5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	発表に向けて準備をしておく。(25分)	次の発表に向けて資料の作成、配布物の準備をする。(20分)
担当教員			
第14回	(全体活動)【中間報告会2:残りの5グループが発表を行う。発表時間20分、質疑時間5分】現段階での研究活動内容、研究活動の成果について発表を行い、研究活動の反省点や今後の研究の発展への展望などについても述べる。発表者は制限時間を守り、聞き取りやすくわかりやすい話し方をするように留意する。	実施のリハーサルを充分にしておく。(25分)	他のグループの発表内容をまとめ今後の研究活動の参考にする。(20分)
担当教員			
第15回	(グループ活動)【中間報告書の作成と提出】 15回の授業、研究活動、研究発表を受けて中間報告書を作成して提出する。本報告書は中間報告書であるので、研究テーマ設定の理由、研究の目的、研究計画、研究活動の経過、今までの活動の反省点などと今後の研究活動への展望、後期の研究活動への課題と展望などをまとめる。	報告書作成のための資料等を整理しておく。(25分)	報告書の内容を今後に生かす方法を考える。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1. 課題40% 2. 授業参加20% 3. 発表20% 4. レポート20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
保育・教育実践演習テキストノート／田中卓也 編／ふくろう出版(岡山)		
履修条件・留意事項等		
積極的に授業に参加し、提出物等の期限を厳守すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		公衆衛生学				ナンバリング	3624
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	續 佳代						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「地域社会の生活習慣病予防・健康増進、および臨床の場において必要とされる高度な専門知識を体系的に身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。人間の健康を規定する要因である社会・環境に関する基礎知識、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる基本的な考え方、保健・医療・福祉制度や関連法規の概要についての基礎知識を学ぶ科目である。「環境と化学」、「食品衛生学」の基礎となる。							
授業の概要							
公衆衛生学は、人の集団の健康に関わる自然条件や人為的条件を分析して、集団としての人の健康の保持と増進を図る学問である。人の生命と健康を支える食と栄養の専門家として、健康について広い視野から考えるために、公衆衛生学の考え方や保健指標・分析方法などを学び、生活習慣病などの現状と対策について理解を進め、基礎的知識を修得することを目的とする。							
到達目標							
・公衆衛生の基本を論じることができる。 ・保健統計、疫学、公衆衛生に関する情報などの要点を述べることができる。 ・生活習慣病、感染症などの疾患について説明できる。 ・地域保健、衛生行政、母子・学校・高齢者などについて説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントと教科書を用いて講義形式で進める。 毎回配布するかんれんする練習問題で知識が深まるよう解説する。 各講義の最後に、講義内容についての小テストを行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回配布する国家試験対策問題は講義内でフィードバックします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	公衆衛生と健康の概念 ・公衆衛生の定義、健康の定義を理解する。 ・予防医学の概念を理解する。 ・プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションについて理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	感染症対策- I ・感染症成立の三要因について理解する。 ・感染症法について理解する。 ・検疫法について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	感染症対策- II ・予防接種法について理解する。 ・新興感染症、再興感染症について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	医療と社会- I ・医の倫理をめぐる歴史と医の倫理に関する規定を理解する。 ・ヘルシンキ宣言とインフォームドコンセントについて理解する。 ・医療の質と安全の確保について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第5回	医療と社会-Ⅱ ・医療保障制度について理解する。 ・国民医療費について理解する。 ・保健所と市町村保健センターの役割について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	成人保健と健康増進-Ⅰ ・健康増進法について理解する。 ・健康日本21(第2次)について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	成人保健と健康増進-Ⅱ ・生活習慣病対策について理解する。 ・肝炎対策、がん対策について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	母子保健 ・母子保健法について理解する。 ・母体保護法について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	児童福祉 ・児童福祉法について理解する。 ・児童虐待防止法について理解する。 障害者福祉 ・障害者福祉法について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第10回	高齢者保健 ・高齢者の身体的変化、認知症について理解する。 ・後期高齢者医療制度について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第11回	食品保健-Ⅰ ・食品保健に関する法律について理解する。 ・遺伝子組み換え食品、ゲノム編集食品、食品添加物について理解する。 ・食品の種類と機能について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	食品保健-Ⅱ ・食中毒の概念について理解する。 ・細菌性食中毒、ウイルス性食中毒についてその原因微生物とその予防法について理解する。 ・自然毒、寄生虫、アレルギー様食中毒について原因物質とその予防法について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第13回	疫学、保健統計 ・人口静態統計、人口動態統計について理解する。 ・人口構造の変化について理解する。 ・死因統計について理解する。 ・疾病統計について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	学校保健 ・学校保健関係法規について理解する。 産業保健 ・産業保健に関する法律について理解する。 ・労働衛生の3管理について理解する。	シラバスを参考にしてあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した練習問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	復習試験 ・復習試験を行った後、復習試験のフィードバックを行う。	復習試験に備えて講義で配布した練習問題を勉強しておくこと。(90分)	復習試験の問題を復習すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回、講義の最後に実施する小テストの合計点と、15回目の講義で行う復習試験の合計点で評価する。	

その他	0	
教科書		
公衆衛生がみえる 2022-2023 医療情報科学研究所 メディックメディア		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
10回以上出席すること。6回以上欠席した場合、単位は認定できない。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（山本 愛子）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山本 愛子						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有している。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	なし
教科書		
教科書は使用しない。各担当教員から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（渡邊 堯宏）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邊 堯宏						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

大学卒業後は、民間幼稚園で担任、管理職業務。また、保育所での園長業務と民間学童保育の代表の実務を経験。その後、修士(教育学)を取得のため大学院に進学。修了後は、保育現場での経験をもとに、保育の環境、保育者の働き方についての研究を主に行う。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（村田 敏彰）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	村田 敏彰						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（相馬 哲也）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	相馬 哲也						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

教諭として、教科指導(英語)、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては総合的な学習の時間や小学校外国語活動の導入など、小中高校の教育課程編成・管理に関わった。こうした経験を活かし、探究的な活動を通じて研究意欲を高め、課題解決に向けた技法等を身に付けるための指導を行う。特に「国際理解教育」、「生徒指導」、「総合的な学習の時間」、「学級経営」、「教育行政」に関する知識を生かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員	相馬 哲也		
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員	相馬 哲也		

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（小椋 佐奈衣）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小椋 佐奈衣						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

・児童相談所で発達相談および支援業務、大学の研究機関で発達障害の研究に従事、短期大学の教員など、こども発達学に関する実践的経験を有する。以上の経験を活かし、学生が目指している発達支援や教育について、そのニーズに基づく卒業研究の調査、論文作成の支援および指導をする。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員	小椋 佐奈衣		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（加藤 裕明）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	加藤 裕明						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

・授業担当者(加藤)は、公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践経験を有する。それらをふまえ、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。これらの思考と経験を生かし、この間、部活動指導にも従事し、演劇教育を専門的に研究し、博士号を取得した。以上の経験を活かし、教育実践の具体的現場をリアルに想定すること、とりわけ具体的な子どもの姿や言葉を想定しながら、学びの場の創造について、対話を中心としたコミュニケーションにより学びを深め合うよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなした研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（笠見 康大）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識とスキルを有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（吉岡 亜希子）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（高桑 純）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	高桑 純						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
検索機能を活用した資料や先行研究の調査を行う。また、プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。研究テーマに応じて、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、データの共有化やWeb会議機能を活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

授業担当者(高桑)は、理科教育に係る研修機関の指導主事として教育委員会での勤務経験があり、学校経営、教育課程、理科教育、環境教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして小学校理科の目標や内容について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

定期的に進捗状況を報告させ、直接あるいはICTを活用した間接的なアドバイスをを行う。論文の作成においては、随時内容を確認して、必要に応じて文言整理、先行論文の確認、データの検定等の指示をおこなう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（今井 由恵）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 由恵						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生にフィードバックし、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう指導する。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（山下 秀樹）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山下 秀樹						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
eラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

・授業担当者(山下)は、複数の障がい種の特別支援学校に38年間勤務し、特別支援教育における教科等を合わせた授業やHR指導、生徒指導をはじめとする実践経験を有する。それらをふまえ、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。これらの思考と経験を生かし、この間、管理職(教頭、副校長、校長)としてカリキュラムマネジメントの研究・実施を進めてきた。以上の経験を活かし、教育実践の具体的現場をリアルに想定すること、とりわけ障がいのある子どもの特性や具体的な子どもの姿や言葉を想定しながら、学びの場の創造について、対話を中心としたコミュニケーションにより学びを深め合うよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなした研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（小田 進一）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小田 進一						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

保育園25年、幼稚園20年、こども園2年と乳幼児期の保育に携わってきた。保育実践のみならず運営や経営についての役割も担うと共に「実習生の受け入れプログラム作り」、「障碍児の受け入れ体制づくり」と充実のための取り組み、保育現場における研修体制づくり、保育内容の充実に向けての見直し、保育者の実践研究等の課題に取り組んできた。これらの実務から得た内容と研究活動を基にして、個々の学生の研究に向かう姿勢を支えていく。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員	小田 進一		
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員	小田 進一		
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員	小田 進一		
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員	小田 進一		

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員	小田 進一		
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員	小田 進一		
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員	小田 進一		
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員	小田 進一		
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員	小田 進一		

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員	小田 進一		
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員	小田 進一		
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員	小田 進一		
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員	小田 進一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（森田 弘行）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	森田 弘行						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

・授業担当者(森田)は、公立小学校に36年間勤務し、教科指導、生徒指導、進学指導をはじめとする実践経験を有する。それらをふまえ、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。これらの思考と経験を生かし、この間、心理臨床活動にも従事し、児童の心理的な発達を専門的に研究し、修士を取得した。以上の経験を活かし、教育実践の具体的な現場をリアルに想定すること、とりわけ具体的な子どもの姿や言葉を想定しながら、学びの場の創造について、対話を中心としたコミュニケーションにより学びを深め合うよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍 ・松井豊(2010) 改訂新版 心理学論文の書き方 ・山田剛史・村井潤一郎(2005) よくわかる心理学統計		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（西野 美穂）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	西野 美穂						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

子どもを対象としたコンサートでのピアノ演奏活動や絵本の読み聞かせの実践を30年間継続して行っている。この経験を生かして、実践的な音楽教育について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（白幡 知尋）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	白幡 知尋						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

歴史的遺跡の発掘調査等における人類学的調査や、養護学校勤務等の経験から、広い視点からの物事の理解を目指す。医療系学科でも行われている、アンケートや観察事項を基に統計的手法を用いる研究の方法についての理解を基に、論文作成、プレゼンテーション技法について指導を行う。(白幡)

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ(村越 含博)				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	村越 含博						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」(以下、卒研Ⅰ)は、ディプロマ・ポリシー(以下DP)をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。(知識・理解) ②成果発表(卒研Ⅱ)に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。(関心・意欲・態度)							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究(文献など)を探し、内容を説明することができるようになる。(知識・理解) ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。(思考・判断・表現) ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。(関心・意欲・態度)							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。(知識・技能) ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。(思考・判断・表現) ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。(関心・意欲・態度)							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道公立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(理科・算数)、ことばの教室担当教諭、生活指導、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆している。近年は感染症の授業開発や、ICT教育についても現場で実践を行ってきた。地域社会科教材開発、副読本の執筆等にもかかわってきた。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（山口 宗兼）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（木谷 岐子）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木谷 岐子						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

博士の学位取得後、大学所属の専門研究員として、研究活動を行った実務経験を活かし、学習・研究活動の基礎的な手法を伝える授業を提供する。また、学びの場の創造について、対話・討論によりながら認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom等を活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員	木谷 岐子		

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(25分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(20分)
担当教員	木谷 岐子		
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（平岡 英樹）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭等をめざす者が、4年間をかけて本学で学んだものの集大成としての卒業論文（作品）を完成させるための授業である。 ②基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①卒研Ⅰでは、各教員の指導のもと、「論文」とは何かについての基本を理解したうえで、論文作成（卒研Ⅱ）及び発表のための研究計画を立案する。（知識・理解） ②そして、成果発表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」を立案するための技能を習得する。（技能） ③さらに、論文（芸術の場合は作品・演奏）完成まで、指導教員や他の学生と対話し、自分を問い直す謙虚な姿勢を身につける。（態度）							
到達目標							
①「論文」とは何か、「先行研究」とは何か等、研究論文を構成する基本的なキーワードについて説明できる。（知識・理解） ②論文や作品・演奏の完成に至るまでの「研究計画書」を作成するための方法を操作できる。（技能） ③自分の研究計画について、指導教員や他の学生と対話し、アドバイスを受け、学びを深めようとする謙虚な姿勢を身につける。（態度）							
授業の方法							
①「卒研Ⅰ」では、パワーポイントや配布印刷物を用いて卒業研究完成までの計画を立案するための知識を解説する。 ②少人数のゼミ形式により、学生自身の「問題意識」や「研究の目的」などを不断に問い直す。 ③発表にもとづき、質疑応答を繰り返す、学生の主体的で対話的な活動によってすすめる。							
ICT活用							
eラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 卒業研究全体について目的や意義、その過程、ゴールについて十分に理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題意識」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	「問題意識」の掘り下げ 自分自身の問題意識を掘り下げるため、指導教員や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の「問題意識」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題意識」を更に掘り下げる。(20分)
担当教員			
第3回	「問題意識」の明確化 自分の「問題意識」をより明確にするため、指導教員や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「問題意識」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題意識」について、更に明確化させる。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題意識」から設定した論文のタイトルを発表し、指導教員や他の学生のアドバイスを受ける。	論文のタイトルを具体的に言葉にしてみる。(25分)	アドバイスを参考に、論文タイトルを絞り込む。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) この研究で何を明らかにするか、「研究の目的」について、指導教員や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究は何を明らかにするのか、「研究の目的」を考える。(20分)	アドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに絞りこむ。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 絞り込んだ「研究の目的」を、指導教官や他の学生に説明し、不十分な点を洗い出す。	「研究の目的」を絞り込み、他者に説明するための準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 「先行研究」とは自分が明らかにしようとする課題(「問い」)に対して、先人がなした研究成果のことである。自分の研究を他者の研究と比較し、自分のオリジナリティがどこにあるかを明らかにするためのものであることをよく理解する。	あらためて自分の「問題意識」と「研究の目的」がつながっているか、整合性を確認しておく。(20分)	「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」(文献)を読み、自分の研究目的と関わる部分を把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を熟読し、自分の研究との接点と差異を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」(文献)を読み込み、その論点と自分の研究との関係を明らかにするため、指導教員や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」の論点を整理し、指導教員や他の学生に説明できるようにしておく。(20分)	アドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容と、自分の研究との関係を明らかにするため、指導教員や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	これまでに集めた「先行研究」の論点を整理する。(20分)	アドバイスを参考に、「先行研究」の到達点と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、指導教員や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークや質問紙調査などの計画を立て、指導教員や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや各種調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや各種調査対象者への依頼文の作成等)について、指導教員や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	フィールドワークや各種調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや各種調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、指導教員や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題意識」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや実験、各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究過程における対話・討論への積極的な取り組み(40%)、「研究計画書」(Word データ)の内容(60%)	

その他	0	なし
教科書		
適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
「卒業研究Ⅱ」を見通し、卒業論文(作品)完成まで、粘り強くやり遂げる意思を持つことが重要。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 総合科目					
科目名		卒業研究Ⅰ（美馬 正和）				ナンバリング	4701
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
①「卒業研究Ⅰ」（以下、卒研Ⅰ）は、ディプロマ・ポリシー（以下DP）をふまえ、変化する現代社会の中で、いま、教育に求められている国民のニーズにこたえ、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができるようになることを目的とする。4年間のこども発達学科での学びの集大成として、卒業論文、卒業制作を完成させるための科目である。 ②基礎ゼミナール、基礎ゼミナールⅢ及びこども学総合演習を基礎に、すべての専門科目の理論と実践の延長線上に位置づけられる。							
授業の概要							
①「論文」とは何かについての基本的な理解や、アート制作に関する基本的で豊かな方法に関して理解できるようになる。（知識・理解） ②成果発表表（卒研Ⅱ）に至るまでの「研究計画」の立案方法を身につける。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向けて、指導教員や他の学生と対話し、豊かなコミュニケーション能力、人間性を身につける。（関心・意欲・態度）							
到達目標							
①研究を進めていく上で必要な先行研究（文献など）を探し、内容を説明することができるようになる。（知識・理解） ②先行研究の主張を整理し、自分の研究が、それらの主張とどのように結びつくのか、論理的に考え、表現することができるようになる。（思考・判断・表現） ③「研究計画書」を立案し、自分の問題関心、研究の目的、方法について、他者とコミュニケーションできるようになる。（関心・意欲・態度）							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。 ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。（知識・技能） ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。（思考・判断・表現） ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。（関心・意欲・態度）							
ICT活用							
e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を他の参加者にも紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	シラバスを読んでおく。(25分)	自分自身の「問題関心」を考える。(20分)
担当教員			
第2回	自分自身を知る 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(20分)
担当教員			
第3回	「問題関心」の明確化 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(25分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(20分)
担当教員			
第4回	論文タイトルの設定 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(25分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(20分)
担当教員			

第5回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(25分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第6回	「研究の目的」の明確化(2) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(20分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(25分)
担当教員			
第7回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(20分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(25分)
担当教員			
第8回	「先行研究」の検討(2) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する。	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(20分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(25分)
担当教員			
第9回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(20分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(25分)
担当教員			
第10回	「先行研究」の検討(4) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(20分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(25分)
担当教員			

第11回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(20分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(25分)
担当教員			
第12回	「研究方法」の設定(2) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを 受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(25分)
担当教員			
第13回	「研究方法」の設定(3) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の 学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(20分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(25分)
担当教員			
第14回	「研究計画書」の作成 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもら う。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(20分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(25分)
担当教員			
第15回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを 受ける。	修正版「研究計画書」をWordで仕上げ、提出準備をする。(20分)	アドバイスを参考に、夏休みにすすめるフィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)	

その他	0	
教科書		
各担当教師から、適宜資料を配布する。		
参考文献		
・河野哲也(1997)『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 ・細川英雄(2008)『論文作成デザイン テーマの発見から研究の構築へ』東京書籍		
履修条件・留意事項等		
4年間の学びの集大成を成し遂げたい、と言う気持ち、姿勢があること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		総合教養講座				ナンバリング	1100
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記、渡部 俊弘						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。文章作成能力、プレゼンテーション能力を修得するための科目である。							
授業の概要							
本科目では、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすか意識化することを目指す。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とする。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能性について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。							
到達目標							
・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsの取り組みの重要性を理解できること。 ・4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。 ・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。 ・Google Classroomの利用ができること。 ・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。 ・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。 ・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。							
授業の方法							
パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。							
ICT活用							
図書館の利用方法など、一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する							
実務経験のある教員の教育内容							

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く 正しく 雄々しく進め」に込められた、真理を探究する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	この時代、君はどう生きるか これからの社会、不確実な時代を自分らしく生きるための、本質的な物の見方、捉え方を学ぶ。	これまで読んだ本の中から、自分の生き方に影響を与えたと思える本をもう一度読んでおく。(90分)	これからの自分の進路を見据えながら、事前学習で読んだ本を精読する。授業の感想を提出する。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第3回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。(教務課)	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	授業を受講するには② 履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。(教務課)	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第5回	遠隔授業の受講方法について 本学で遠隔授業のツールとして使用しているGoogle Classroomの使用方法について学び、遠隔授業を受講できるようになる。	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。(図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を 読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。 また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		
第8回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第9回	学生会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学生会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学生会に関する項目に目を通して置く。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		
第10回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森 圭		

第11回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。(90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほとんどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから、恵庭市の概要、特長について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市の未来に貢献する施策を考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第13回	えこりん村SDGs研修① (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	えこりん村SDGs研修② (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。研修を受けた感想を提出する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修③ (1)肉生産、(2)米生産、(3)資材、(4)再生可能エネルギーのテーマを通して、持続可能なエコロジーの取り組みを学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。年間パスポートにより、再度えこりん村を訪れる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の感想等の提出、および授業参加の積極性から総合的に判断する。	

その他	0	
教科書		
指定しない。		
参考文献		
渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年―恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット 渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会		
履修条件・留意事項等		
ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別紙で連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。13～15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。日程は別途、連絡する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	1132
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						
授業の位置づけ							
本科目は、初年次教育の一貫として、大学生活の充実や社会で活躍するために、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解するための科目である。なお本科目は、「キャリア形成」と連携している教養科目である。							
授業の概要							
グローバル化と高度情報化が益々進展する現代社会においては、自己のアイデンティティを確立することが重要である。そのために、我々を取りまく文化、環境を再認識しながら自らの生き方や生活、仕事について考えることを目指す。							
到達目標							
・「キャリア」や「キャリアデザイン」を説明できる。 ・自己理解の方法(「人生曲線」、「ジョハリの窓」等)、「計画的偶発性」について述べるができる。 ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」を説明できる。							
授業の方法							
・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。 ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。							
ICT活用							
・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。 ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。							
実務経験のある教員の教育内容							

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」などを理解する。	これまで「キャリア」という言葉を使ったり聞いたりした事があれば、その場面はどのようなものだったかを具体的に思い出す。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第2回	働くことの意味などを考えた上で、我々を取り巻く市場環境や「社会人基礎力」などを学ぶ。	高校生と大学生の違いと、働くことの意味について、調べ、考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第3回	自己理解の方法の全体像を理解した上で、テストの実施を通して学ぶ。「計画的偶発性」などを学ぶ。	「私は…」から始まる文で、自己紹介の内容を考える。(10個以上)(90分) 例:私は、北海道文教大学の学生です。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第4回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などの概要を理解する。	生まれてから現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理する。(90分) 例:高校に合格した。失恋した。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		

第5回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などの概要を理解する。	自分自身の日頃のコミュニケーション方法を振り返る。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第6回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などの概要を理解する。	これまでの人生において苦痛や怒り、悩み・不快・不安のあった出来事と、その出来事をどうしてほしかったのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第7回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などの概要を理解する。	自分自身の興味・性格・能力・動機を整理する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
第8回	これまでの講義の総括を実施した上で、大学4年間の目標などを考える。	大学4年間で成し遂げたいことを考えた上で、そのための方法を調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員	木村 悠里菜		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート	
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲など	
教科書			

人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房

参考文献

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
- ・出欠管理は、講義内で実施する予定である。
- ・講義中に私語が多い学生や講義とは関係のない行為をする学生は、退室となり欠席扱いとなる場合がある。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		現代医療と福祉・介護				ナンバリング	1122
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	今泉 博文						
授業の位置づけ							
各該当学科のディプロマ・ポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを鑑み、地域包括ケアシステムにおいて高齢者障害者等が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、[住まい][医療][介護][看護][予防][生活支援]が切れ目なく一体的に提供ができ、[心/意欲/態度]が養われる重要な科目である。更に日本の社会事情を広く理解するうえで必要な知識としての[医療/福祉/介護]に焦点をあて、近未来の社会制度を思考し、構築するための基礎的能力の向上を目指すとともに科学的思考力と創造的思考力を活用して各専門職の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力(看護においては看護過程の展開や臨床判断)を身につける重要科目でもある。							
授業の概要							
少子高齢化、人口減、労働力の減退などの社会構造が大きく変容している背景により、現代医療は、福祉や介護との連続性と包括的な制度や考え方が大きく変遷している。このようなことから、医療や福祉・介護に携わる者は、制度論だけではなく、幅広く社会を俯瞰する知識や倫理観を持ち備えることが必要である。これらをふまえ、授業では医療、福祉、介護の現状を理解し、日本が現在抱えている諸問題について考え、その解決策を探る。また、日本と諸外国における医療、福祉、介護制度を比較し、日本の特徴を理解する。同時に今後の日本の理想的な医療、福祉、介護のあるべき姿を考える。							
到達目標							
1. 現代日本の医療、福祉、介護の現状を理解し、その諸問題を説明することができる。 2. 日本と諸外国の医療、福祉、介護制度の特徴や違いを説明できる。 3. 今後の日本における医療、福祉、介護のあるべき姿を考え、説明することができる。							
授業の方法							
各種メディアを利用した座学・講義である。 講義中に課題を提示し、それに対するコメント等を提出させる。							
ICT活用							
授業中の課題の一部にグーグルクラスルームを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

国立病院機構施設・ナショナルセンターの施設11か所で勤務した経験を活かして「医療・福祉・介護」から日本の生活環境と社会環境について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義内容についての簡単なコメントを記載させ、その内容について講義内にフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 少子および高齢化社会を迎えている日本が抱える諸問題を理解する。	少子および高齢化社会の問題点について調べておくこと。(90分)	医療・福祉領域から見た問題点についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	20世紀の医療制度(介護保険施行以前)を理解する。	医療保険制度について概要を調べておくこと。(90分)	介護保険制定以前の問題点についてまとめること。(90分)
担当教員			
第3回	21世紀の医療制度(介護保険施行後)および先端医療について理解する。	なぜ医療制度・介護保険制度が施行されたのか資料を検索して考えてくること。(90分)	先端医療は生活にどのような恩恵を与え、どのような問題を生んだのか考えること。(90分)
担当教員			
第4回	医療制度における保健診療を理解する。	医療制度が論じられている資料を見ておくこと。(90分)	現状の医療制度について、自分の考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	「公的介護保険制度の現状と今後の役割」について理解する。	インターネットなどを利用して、「公的介護保険制度の現状と今後の役割」について概要を確認しておくこと。(90分)	「公的介護保険制度の現状と今後の役割」について、自分の考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	2025年問題が医療に与える影響と、病院に必要となる対策について理解する。	インターネットなどを利用して、「2025年問題が医療に与える影響と、病院に必要となる対策」について概要を確認しておくこと。(90分)	「2025年問題が医療に与える影響と、病院に必要となる対策」について、自分の考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	医療領域における社会福祉士業務および関連法規について理解する。	インターネットなどを利用して、「医療領域における社会福祉士業務および関連法規」について確認しておくこと。(90分)	「医療領域における社会福祉士業務」について、自分の考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	「成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律」(平成30年法律第104号。以下「成育基本法」。)を踏まえて、成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針を理解する。	インターネットなどを利用して、「成育基本法」について確認しておくこと。(90分)	「成育基本法」および成育医療等について、自分の考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	「DOHaD (Developmental origin of health and disease)次世代の非感染性疾患」を理解する。	「DOHaD 」について、インターネットなどを利用して確認しておくこと。(90分)	「DOHaD (Developmental origin of health and disease)次世代の非感染性疾患」について、自分の考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	小児医療と小児病院:なぜ、小児病院は存在するのか?について理解する。	小児医療および小児病院について、インターネットなどを利用して確認しておくこと。(90分)	小児医療と小児病院:なぜ、小児病院は存在するのか?を自分の考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	医療的ケア児の支援について地域社会における共生の実現に向けて 新たな障害保健福祉施策を講ずるための 関係法律の整備に関する法律についてを理解する。	医療的ケア児の支援および関係法律の整備に関する法律について、インターネットなどを利用して確認しておくこと。(90分)	医療的ケア児の支援について、自分の考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	障害福祉サービスの新展開について理解する。	現状の障害福祉サービスについて、インターネットなどを利用して確認しておくこと。(90分)	障害福祉サービスの新展開について、自分の考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第13回	精神疾患患者の医療について、理解する。	精神疾患および精神疾患患者の医療について、インターネットなどを利用して確認しておくこと。(90分)	精神疾患患者の医療について、自分の考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	精神科医療のこれまでの到達点と解決すべき課題～多職種連携による身体管理の重要性～について、理解する。	精神科医療(チーム医療)を中心にインターネットなどを利用して確認しておくこと。(90分)	精神科領域におけるチーム医療について、自分の考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	重症化予防の取組について生活習慣病(心不全)心不全と上手に付き合うためには、心不全患者の運動療法について理解する。	生活習慣病(心不全)心不全および心不全患者の運動療法について、インターネットなどを利用して確認しておくこと。(90分)	生活習慣病(心不全)心不全および心不全患者の運動療法について自分の考えをまとめておくこと。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	授業において提示される課題等(レポートも含む)	

その他	20	・授業への参加態度 ・レポート課題等の提出期限を厳守すること
教科書		
なし		
参考文献		
プリント配布		
履修条件・留意事項等		
授業には積極的に参加すること。		
備考欄		
なし		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツB(1組)				ナンバリング	1199
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
授業の概要							
体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。							
到達目標							
①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。 ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。 ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。 ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。							
授業の方法							
チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。 ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第5回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第10回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニスー基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	学習・実施した内容を今後どのように生かすか考える。(25分)
担当教員			
第12回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスーラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	バドミントン(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
特になし、必要に応じて資料を配付		
履修条件・留意事項等		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツB(3組)				ナンバリング	1199
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
授業の概要							
体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。							
到達目標							
①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。 ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。 ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。 ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。							
授業の方法							
チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。 ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第5回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール(4) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第10回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニスー基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	学習・実施した内容を今後どのように生かすか考える。(25分)
担当教員			
第12回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスーラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	バドミントン(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー一個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー一個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
特になし、必要に応じて資料を配付		
履修条件・留意事項等		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツB(2組)				ナンバリング	1199
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
授業の概要							
体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。							
到達目標							
①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。 ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。 ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。 ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。							
授業の方法							
チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。 ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			

第5回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第7回	バレーボール(3) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第10回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第11回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボールー基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニスー基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	学習・実施した内容を今後どのように生かすか考える。(25分)
担当教員			
第12回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールーゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスーラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第13回	バドミントン(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
特になし、必要に応じて資料を配付		
履修条件・留意事項等		
ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること 天候その他状況により種目に変更となる場合がある 積極的にプレーに参加すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 総合領域					
科目名		情報処理(2組)				ナンバリング	1158
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	常見 裕子						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。							
授業の概要							
本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。							
到達目標							
1. 課題解決のために必要な情報を探索できる。 2. 表計算ソフトExcelを用いた基本的な計算やグラフ作成を行い、それらを読み取ることによって情報の分析評価・整理ができる。 3. ワードプロソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なう情報のアウトプットができる。 4. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。 5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。							
授業の方法							
Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトによる操作やセキュリティと情報モラルに関する内容の理解については初回と試験時を除いて教科書会社が提供するeラーニングシステムにより各自が主体的に確認テスト問題を行う。							
ICT活用							
教科書に付属してアカウントを得られるeラーニングシステムを用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

eラーニングシステムにより確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【情報の探索】Web検索・インターネット情報の検証の方法を修得する。 【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの起動、画面構成を概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する(§2-STEP1のLesson1)。文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する(§2-STEP1のLesson2)	シラバスを読み、教科書1のp30～p35とp42～p47, p49～p50, p53～p58(授業では行わない)、教科書2の「情報検索」p9, p13～p15を読んでおく。(90分)。	教科書1のp51練習5を行う。タッチタイピングの練習を行う(90分)。
担当教員			
第2回	教科書が提供するWebサイト(NESS)への登録を行う。【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定を習得する(§2-STEP2のLesson1)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防技術についての知識を得る(§5-STEP1のLesson1)。	教科書1のp60～p67上半分とp250～p252を読んでおく。p80練習7の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～3の問題を解く。教科書1のp80練習7の可能な部分を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、均等割り付け、表の作成方法、ワードアートの挿入方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る(§5-STEP1のLesson1,2)。	教科書1のp67下半分～p75上半分とp253～p258を読み、p255練習25, p258練習26を行っておく。(90分)	教科書1のp80練習7を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～4の問題を解く。(90分)
担当教員			
第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、画像や図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する(§2-STEP2のLesson2)。 【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術を習得する。(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp75下半分～p91とp259～p262を読んでおく。p98練習8の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。教科書1のp98練習8の可能な部分を行う。(90分)
担当教員			

第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する(§2-STEP2のLesson2)。【情報の分析評価】《Excel》数値分析の概略を理解しExcelのファイル操作を習得する(§3-STEP1のLesson1)【セキュリティと情報モラル】cookie、パスワードの管理を習得する(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp92～p97, p100～p106とp263～p264,教科書2の「数値分析 I」Step1の(1)分析のポイントp18を読んでおく。(90分)	教科書1のp98練習8を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6, §3Excel-STEP2-同1～3, §5セキュ-STEP1-同5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第6回	【情報の分析評価】数値分析に必要な数値データについて理解する。《Excel》,データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。データの表示設定(文字・表示形式)(§3-STEP2のLesson1)を習得する。【セキュリティと情報モラル】ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺の知識を得る(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp107～p118の上とp265～p267を読んでおく。(90分)	NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第7回	【情報の分析評価】《Excel》データの表示設定(罫線の設定、行の高さ・列幅の変更)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。印刷手法(改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する(§3-STEP2のLesson2)。【セキュリティと情報モラル】著作権・知的財産権とはなにかについて知る(§5-STEP2のLesson1,2)。§2Word-Section2の試験(20問)を行います。	教科書1のp118～p129とp268～p270,教科書2の「数値分析 I」Step1の(2)数値データp19～p21を読んでおく。(90分)	教科書1のp122練習9を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト4～7, §5情報モラル-STEP2-確認テスト1～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】《Excel》数式の入力方法・コピー、合計の計算、相対参照と絶対参照の使い分け、よく使用する関数の利用法を習得する。(§3-STEP2のLesson3)。【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点について学修する(§5-STEP2のLesson2)。	教科書1のp130～p144とp271～p273を読んでおく。教科書2の「数値分析 I」Step2の(3)-2 p28～p29を読んでおく(90分)。	教科書1のp137練習12を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト5～7, §5情報モラル-STEP2-確認テスト2～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】《Excel》数学／三角関数、条件に応じて処理を変えるIF関数、ネストを習得する(§3-STEP2のLesson3)。数値分析に必要な関数の探し方を修得する。【セキュリティと情報モラル】個人情報の保護について学修する(§5-STEP2のLesson3,4)。	教科書1のp145～p152とp274～p275を読んでおく。教科書2の「数値分析 I」Step2の(3)-2 p28～p29を読んでおく(90分)	教科書1のp152練習16を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト2, §5情報モラル-STEP2-確認テスト4～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第10回	【情報の分析評価】《Excel》グラフの要素、縦棒グラフと円グラフの作成法レーダーチャートの作成、グラフの編集。複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する(§3-STEP3のLesson1,2)。	教科書1のp153～p176を読んでおく。(90分)	教科書1のp163練習17, p169練習18, p173練習20を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト1と3, §5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			

第11回	【情報の分析評価】Excelの機能を総合的に利用してデータを分析する方法を理解する。【セキュリティと情報モラル】ネットの危険性、ネチケツについて学修する電子メール利用のマナーについて学修する。暗号化、インターネット利用のマナーについて学修する(§ 5-STEP2のLesson4)。 § 3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を行います。	教科書1のp276～p282を読んでおく。教科書2の「数値分析Ⅱ」Step1 p36～p43を読んでおく。NESSの § 3-STEP2,STEP3確認テストを解く。(90分)	§ 5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【情報の分析評価】Excelのデータベース機能を理解し、データの並べ替え・抽出方法を習得する。【セキュリティと情報モラル】ネットコミュニケーションについて学修する(§ 5-STEP2のLesson5)。	教科書2の「数値分析Ⅱ」「データベース」Step2 p48～p61を読んでおく。教科書1のp283～p287を読んでおく。自身が使用しているネットコミュニケーションツールの特徴を調べておく。(90分)	§ 5情報モラル-STEP2-確認テスト7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成(§ 4-STEP1)、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する(§ 4-STEP2のLesson1)。 § 5 セキュリティと情報モラルSection5の試験(STEP1,STEP2合同20問)を行います。	NESSの § 5情報モラル-STEP2-確認テスト1～7の問題を解く。教科書1のp178,p181,p186～p210を読んでおく。(90分)	NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。(§ 4-STEP2のLesson1)。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。(§ 4-STEP2のLesson2) SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する(§ 4-STEP2のLesson2)。	教科書1のp211～p234を読んでおく。(90分)	教科書1のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テスト4～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する(§ 4-STEP3のLesson1)。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ(§ 4-STEP3のLesson2)。 § 4 PowerPiont-STEP2の試験(10問)を行います。	NESSの § 4 Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。教科書1のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書1のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する試験と各回の学習状況により評価する。	

その他	0	なし
教科書		
1.イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラルOffice2016対応／ノア出版 2.「情報の探索・分析」(情報活用力 抜粋版)／ノア出版		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
*教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください(キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場)。これ以外の方法での購入(ネット通販など)は推奨しません。また、メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。なお、教科書1は紙ベース、教科書2は電子教科書です。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		教養科目 総合領域					
科目名		情報処理(1組)				ナンバリング	1158
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	常見 裕子						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。							
授業の概要							
本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。							
到達目標							
1. 課題解決のために必要な情報を探索できる。 2. 表計算ソフトExcelを用いた基本的な計算やグラフ作成を行い、それらを読み取ることによって情報の分析評価・整理ができる。 3. ワードプロソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なう情報のアウトプットができる。 4. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。 5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。							
授業の方法							
Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトによる操作やセキュリティと情報モラルに関する内容の理解については初回と試験時を除いて教科書会社が提供するeラーニングシステムにより各自が主体的に確認テスト問題を行う。							
ICT活用							
教科書に付属してアカウントを得られるeラーニングシステムを用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

eラーニングシステムにより確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【情報の探索】Web検索・インターネット情報の検証の方法を修得する。 【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの起動、画面構成を概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する(§2-STEP1のLesson1)。文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する(§2-STEP1のLesson2)	シラバスを読み、教科書1のp30～p35とp42～p47, p49～p50, p53～p58(授業では行わない)、教科書2の「情報検索」p9, p13～p15を読んでおく。(90分)。	教科書1のp51練習5を行う。タッチタイピングの練習を行う(90分)。
担当教員			
第2回	教科書が提供するWebサイト(NESS)への登録を行う。【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定を習得する(§2-STEP2のLesson1)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防技術についての知識を得る(§5-STEP1のLesson1)。	教科書1のp60～p67上半分とp250～p252を読んでおく。p80練習7の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～3の問題を解く。教科書1のp80練習7の可能な部分を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、均等割り付け、表の作成方法、ワードアートの挿入方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る(§5-STEP1のLesson1,2)。	教科書1のp67下半分～p75上半分とp253～p258を読み、p255練習25, p258練習26を行っておく。(90分)	教科書1のp80練習7を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト1～4の問題を解く。(90分)
担当教員			
第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、画像や図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する(§2-STEP2のLesson1)。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する(§2-STEP2のLesson2)。 【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術を習得する。(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp75下半分～p91とp259～p262を読んでおく。p98練習8の各問が教科書のどこに対応するかを調べておく。(90分)	NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6, §5セキュリティ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。教科書1のp98練習8の可能な部分を行う。(90分)
担当教員			

第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する(§2-STEP2のLesson2)。【情報の分析評価】《Excel》数値分析の概略を理解しExcelのファイル操作を習得する(§3-STEP1のLesson1)【セキュリティと情報モラル】cookie、パスワードの管理を習得する(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp92～p97, p100～p106とp263～p264,教科書2の「数値分析 I」Step1の(1)分析のポイントp18を読んでおく。(90分)	教科書1のp98練習8を行う。NESSの§2Word-STEP2-確認テスト4～6, §3Excel-STEP2-同1～3, §5セキュ-STEP1-同5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第6回	【情報の分析評価】数値分析に必要な数値データについて理解する。《Excel》,データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。データの表示設定(文字・表示形式)(§3-STEP2のLesson1)を習得する。【セキュリティと情報モラル】ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺の知識を得る(§5-STEP1のLesson3)。	教科書1のp107～p118の上とp265～p267を読んでおく。(90分)	NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト1～3, §5セキュ-STEP1-確認テスト5～7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第7回	【情報の分析評価】《Excel》データの表示設定(罫線の設定、行の高さ・列幅の変更)を習得する(§3-STEP2のLesson1)。印刷手法(改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する(§3-STEP2のLesson2)。【セキュリティと情報モラル】著作権・知的財産権とはなにかについて知る(§5-STEP2のLesson1,2)。§2Word-Section2の試験(20問)を行います。	教科書1のp118～p129とp268～p270,教科書2の「数値分析 I」Step1の(2)数値データp19～p21を読んでおく。(90分)	教科書1のp122練習9を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト4～7, §5情報モラル-STEP2-確認テスト1～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】《Excel》数式の入力方法・コピー、合計の計算、相対参照と絶対参照の使い分け、よく使用する関数の利用法を習得する。(§3-STEP2のLesson3)。【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点について学修する(§5-STEP2のLesson2)。	教科書1のp130～p144とp271～p273を読んでおく。教科書2の「数値分析 I」Step2の(3)-2 p28～p29を読んでおく(90分)。	教科書1のp137練習12を行う。NESSの§3Excel-STEP2-確認テスト5～7, §5情報モラル-STEP2-確認テスト2～3の問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】《Excel》数学／三角関数、条件に応じて処理を変えるIF関数、ネストを習得する(§3-STEP2のLesson3)。数値分析に必要な関数の探し方を修得する。【セキュリティと情報モラル】個人情報の保護について学修する(§5-STEP2のLesson3,4)。	教科書1のp145～p152とp274～p275を読んでおく。教科書2の「数値分析 I」Step2の(3)-2 p28～p29を読んでおく(90分)	教科書1のp152練習16を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト2, §5情報モラル-STEP2-確認テスト4～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第10回	【情報の分析評価】《Excel》グラフの要素、縦棒グラフと円グラフの作成法レーダーチャートの作成、グラフの編集。複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する(§3-STEP3のLesson1,2)。	教科書1のp153～p176を読んでおく。(90分)	教科書1のp163練習17, p169練習18, p173練習20を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テスト1と3, §5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			

第11回	【情報の分析評価】Excelの機能を総合的に利用してデータを分析する方法を理解する。【セキュリティと情報モラル】ネットの危険性、ネチケツについて学修する電子メール利用のマナーについて学修する。暗号化、インターネット利用のマナーについて学修する(§ 5-STEP2のLesson4)。 § 3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を行います。	教科書1のp276～p282を読んでおく。教科書2の「数値分析Ⅱ」Step1 p36～p43を読んでおく。NESSの § 3-STEP2,STEP3確認テストを解く。(90分)	§ 5情報モラル-STEP2-確認テスト5～6の問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【情報の分析評価】Excelのデータベース機能を理解し、データの並べ替え・抽出方法を習得する。【セキュリティと情報モラル】ネットコミュニケーションについて学修する(§ 5-STEP2のLesson5)。	教科書2の「数値分析Ⅱ」「データベース」Step2 p48～p61を読んでおく。教科書1のp283～p287を読んでおく。自身が使用しているネットコミュニケーションツールの特徴を調べておく。(90分)	§ 5情報モラル-STEP2-確認テスト7の問題を解く。(90分)
担当教員			
第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成(§ 4-STEP1)、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する(§ 4-STEP2のLesson1)。 § 5 セキュリティと情報モラルSection5の試験(STEP1,STEP2合同20問)を行います。	NESSの § 5情報モラル-STEP2-確認テスト1～7の問題を解く。教科書1のp178,p181,p186～p210を読んでおく。(90分)	NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。(§ 4-STEP2のLesson1)。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。(§ 4-STEP2のLesson2) SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する(§ 4-STEP2のLesson2)。	教科書1のp211～p234を読んでおく。(90分)	教科書1のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テスト4～5の問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する(§ 4-STEP3のLesson1)。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ(§ 4-STEP3のLesson2)。 § 4 PowerPiont-STEP2の試験(10問)を行います。	NESSの § 4 Powerpoint-STEP2-確認テスト1～5の問題を解く。教科書1のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書1のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する試験と各回の学習状況により評価する。	

その他	0	なし
教科書		
1.イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラルOffice2016対応／ノア出版 2.「情報の探索・分析」(情報活用力 抜粋版)／ノア出版		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
*教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください(キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場)。これ以外の方法での購入(ネット通販など)は推奨しません。また、メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。なお、教科書1は紙ベース、教科書2は電子教科書です。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 こども支援					
科目名		こども家庭福祉				ナンバリング	2252
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木 幸雄						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる」と関連する科目である。 また、保育・教育の基礎的な専門知識を身に付けるための専門基礎科目である。こども家庭福祉の理念やこどもが置かれている現状を社会構造的に理解することで、「社会福祉」や「社会的養護Ⅰ・Ⅱ」「こども家庭支援論」「子育て支援」等の基盤となる科目である。							
授業の概要							
この授業では、子どもやその子どもが生活している家庭に生起している様々な問題に対応するための理念・制度・方法などを学ぶ。子どもや家庭を取り巻く環境について理解するとともに児童虐待・不登校・非行・情緒障がい・里親制度・ひとり親家庭など身近な問題と解決策を考える。授業の内容としては、子どもを取り巻く現状、こども家庭福祉の意義とその歴史的展開・法律制度・児童福祉施設と関係機関等、子どもや家庭に関する幅広い内容となる。							
到達目標							
- 子どもたちが生活している様々な問題の現状を説明できる。 - 国連児童の権利条約の意義と権利保障の歴史的展開を説明できる。 - 子ども家庭福祉に関する法律・制度・福祉施設の種類と機能について説明できる。 - 子ども家庭福祉におけるサービスの種類の現状と課題について説明できる。 - 子ども家庭福祉の専門職としての保育士の役割について説明できる。							
授業の方法							
配布印刷物等とテキストを用いて講義形式で行う。一部に、映像視聴による補足を行い、理解度の確認を含めてリアクションペーパー等を使用する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

社会福祉施設において児童指導員の勤務経験があり、社会福祉・こども家庭福祉・社会的養護について知識を有している。この経験を活かして教育を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして提出物等の返却の際に、解説を加える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション:受講上の諸注意、シラバスの説明 現代社会と子ども家庭福祉問題の現状(1):なぜ子ども家庭福祉を学ぶのか	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	現代社会と子ども家庭福祉問題の現状(2):社会環境の変化と子ども家庭福祉の問題、少子化問題・家庭問題・子どもの貧困問題・子ども子育てビジョンなどの概要を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	子ども家庭福祉の理念と概要:子ども家庭福祉の理念と概念、子どもの権利保障、子どもの発見、児童福祉法の基本理念、日本の子ども家庭福祉施策の展開を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	子ども家庭福祉の史的発展(1):日本の子ども家庭福祉の歴史を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	子ども家庭福祉の史的発展(2):諸外国(欧米)の子ども家庭福祉の歴史を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	子ども家庭福祉の法と実施体系(1):子ども家庭福祉の法制、行政、機関(児童相談所)、施設、措置体系を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	子ども家庭福祉の法と実施体系(2):子ども家庭福祉の財政と費用負担、専門職、ネットワーク、権利擁護を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	子ども家庭福祉分野の実際(1):子ども虐待問題の現状と課題を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	子ども家庭福祉分野の実際(2):子育て支援・児童健全育成対策の現状と課題を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	子ども家庭福祉分野の実際(3):社会的養護対策の現状と課題を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	子ども家庭福祉分野の実際(4):社会的不平等(格差)と子どもの貧困問題の現状と課題を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	子ども家庭福祉分野の実際(5):DV問題と母子保健対策の現状と課題を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第13回	子ども家庭福祉分野の実際(6):ひとり親家庭対策の現状と課題を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	子ども家庭福祉分野の実際(7):障害児対策・非行児対策の現状と課題を学ぶ	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	子ども家庭福祉の動向と展望 :今後の子ども家庭福祉の課題を学ぶ(レポート課題含む)	準備学習:指定されたテキストの範囲を熟読し、内容や疑問点を調べておくこと。(90分)	事後学習:講義内容を踏まえ、テキストの内容を暗唱しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート80%、リアクションペーパー10%、授業参加状況10%	

その他	0	
教科書		
子ども家庭福祉「最新保育士養成講座」総括編集委員会編 全国社会福祉協議会		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
保育士をめざす者として必要な科目です。積極的な授業参加を望みます。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 子育て支援					
科目名		子育て支援ネットワーク論				ナンバリング	2285
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につける。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。また子育て支援ネットワークの意義とその内容、方法を理解する科目でもある。地域で子育て支援ネットワーク活動を行っている実践者と共に活動に取り組み、実際にネットワークを構築できる力量を形成する。「こども家庭支援論」に関連する。							
授業の概要							
子育て支援ネットワークの意義を学ぶ。事例をもとにどのような主体がどのようなネットワークを構築しているのか、特に学習活動に焦点化しながらその展開過程を学ぶ。また、子育て支援ネットワークを行っている実践者と共に活動を行い、地域の課題をどのようにとらえ、それらの課題を乗り越えるための実践をどのように構築しているのかを学んでいく。実践の場へ複数回出向き、子育て支援ネットワーク実践者と共に学ぶことを予定している。							
到達目標							
・子育て支援ネットワークの意義を説明できる。 ・子育て支援ネットワークの内容と方法について説明できる。 ・子育て支援ネットワーク活動を主体的に実践する力量を獲得している。							
授業の方法							
前半は講義形式で子育て支援ネットワークの実践事例について学ぶ。その後、グループに分かれ子育て支援ネットワーク実践者へ予備的調査を行う。その上で実践活動に参加し子育て支援ネットワークの内容と方法を体験的に学ぶ。第8回、9回、10回、13回、14回は、学外での活動を予定している。子育て支援ネットワーク実践者の予定と受講生の予定を調整後、学外での活動日程を決定する。							
ICT活用							
webアプリを用いた双方向授業を取り入れながら行う。意見や感想の共有、議論に活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

子育て支援ネットワークの実践者としての経験を活かし、支援者としての主体的な力量形成の在り方について指導する。

課題に対するフィードバックの方法

予備調査や実践企画等の各段階で報告を行い、検討する機会を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	子育て支援ネットワークとは何か	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第2回	子育て支援の歴史と「子育てネットワーク」、「子育て支援ネットワーク」への展開	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第3回	現代社会における子育ての課題	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第4回	子育て支援ネットワークの課題	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			

第5回	子育て支援ネットワーク実践者への予備調査計画:ワークシートAの作成	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第6回	子育て支援ネットワーク実践者への予備調査	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第7回	子育て支援ネットワーク実践者への予備調査の振り返り	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第8回	子育て支援ネットワークの実際①ネットワーク会議への参加～保護者・地域の子育て課題の理解	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第9回	子育て支援ネットワークの実際②ネットワーク会議への参加～子育て支援者の課題理解	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第10回	子育て支援ネットワークの実際③ネットワーク会議への参加～支援構造の理解	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			

第11回	子育て支援ネットワークの実際④ネットワーク会議の振り返り～課題の整理と学習の企画立案:ワークシートBの作成	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第12回	子育て支援ネットワークの実際⑤ネットワーク実践～企画の提案	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第13回	子育て支援ネットワークの実際⑥ネットワーク実践～実践者との協議:ワークシートCの作成	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第14回	子育て支援ネットワークの実際⑦ネットワーク実践～企画の実施	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
第15回	まとめ～実施した学習企画の振り返り:ワークシートDの作成	授業のテーマについて調べる。(25分)	学習内容を振り返り、まとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内のワークシート(各回 25%×4回=100%)	

その他	0	なし
教科書		
使用しない。適宜、資料を配布する。		
参考文献		
テーマにより、適宜、参考文献を紹介する。		
履修条件・留意事項等		
※4～5回程度、学外での活動を予定している。子育て支援ネットワーク実践者の予定と受講生の予定を調整後、学外での活動日程を決定する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育の理解					
科目名		こども家庭支援論				ナンバリング	3302
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉岡 亜希子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。(知識・技能)」、「教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」ことと特に関係がある科目である。「こども家庭支援の心理学」と関連し、「子育て支援」へとつながる科目である。							
授業の概要							
本科目では、保育士が行う家庭支援の原理を学ぶ。なぜ子育て家庭への支援が必要なのか。保育所に入所している子どもの保護者だけではなく、地域の子育て家庭への支援を含めた包括的な支援の在り方について理解を深める。とりわけ保育の専門性を活かした子ども家庭支援とはどのようなことなのか、その意義と基本の理解を深める。また、地域における子育て家庭への支援体制や支援施策、次世代育成支援施策についても学ぶ。後半は、保育士が行う相談等の子ども家庭支援の内容、関係機関との連携について学ぶ。							
到達目標							
・子ども家庭支援の意義と役割を説明できる。 ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援について説明できる。 ・子ども家庭支援にかかわる体制や施策について説明できる。 ・保育所を利用している家庭、地域の子育て家庭、要保護児童等の家庭に対する相談や支援のあり方を説明できる。							
授業の方法							
テキスト・プリントを使用した講義形式で行う。必要に応じて映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でwebによるリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。地域子育て支援拠点事業の保育者をゲストスピーカーとして招き、支援の意義や方法を学ぶ。子育て家庭に対する相談や支援のあり方について、第9回と第14回にグループワークを行い、理解を深める。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。意見や感想の共有、議論に活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

子育て支援組織の実践者としての経験を活かし、理論と実践を往還する指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で配布するリアクションペーパーに記入された受講生の意見・感想等を共有、フィードバックする時間を設ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性: 子どもの育ちに対する家族・家庭の役割	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第2回	子ども家庭支援の目的と機能: 親が親となっていくプロセスへの支援、地域づくりへの主体へとつながる支援	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第3回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進: 子育て家庭支援の政策動向～エンゼルプランから子ども・子育て支援3法	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			
第4回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源: 専門機関と担い手、地域活動と担い手	授業のテーマについて、教科書を参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる(90分)
担当教員			

第5回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義： 保育の専門性とは何か	授業のテーマについて、教科書を 参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる (90分)
担当教員			
第6回	子どもの最善の利益と育つ喜びの共有： 共有することの意義と共有するためのツール	授業のテーマについて、教科書を 参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる (90分)
担当教員			
第7回	保護者の力量形成と地域における子育て支援機能の向上： 親がエンパワーする援助、地域子育て協同	授業のテーマについて、教科書を 参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる (90分)
担当教員			
第8回	保育士に求められる基本的態度～受容的かわり、自己 決定の尊重、秘密保持	授業のテーマについて、教科書を 参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる (90分)
担当教員			
第9回	家庭の状況に応じた支援： さまざまな養育上の課題を抱えた家族とその支援方法(グ ループワーク)	授業のテーマについて、教科書を 参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる (90分)
担当教員			
第10回	地域資源の活用と自治体・関係機関との連携・協力： 地域の子育て家庭を支える社会資源と活用について	授業のテーマについて、教科書を 参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる (90分)
担当教員			

第11回	子ども家庭支援の内容と対象、保育士が行う相談の基本： 子ども家庭支援の形態とアプローチ	授業のテーマについて、教科書を 参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる (90分)
担当教員			
第12回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援： 在園児家庭への支援の視点と事例検討	授業のテーマについて、教科書を 参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる (90分)
担当教員			
第13回	地域の子育て家庭への支援： 地域の子育て家庭への支援の視点と事例検討 (ゲストスピーカー～地域子育て支援拠点事業の保育者を 予定)	授業のテーマについて、教科書を 参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる (90分)
担当教員			
第14回	要保護児童等およびその家庭への支援： 要保護児童家庭の現状、支援体制、あり方(グループワー ク)	授業のテーマについて、教科書を 参考にして調べる(90分)	学習内容を振り返り、まとめる (90分)
担当教員			
第15回	子ども家庭支援に関する課題と展望： 子ども家庭支援のニーズの多様化、国際比較	授業のテーマについて、教科書を 参考にして調べる(90分)	こども家庭支援論の到達目標と 自己の理解について振り返りを行 う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	レポート(60%)、リアクションペーパー(30%)、授業参加の態度(10%)	

その他	0	なし
教科書		
松本園子ほか「実践 こども家庭支援論」、ななみ書房		
参考文献		
「子ども白書 2019」、日本子どもを守る会編、かもがわ出版 「さっぽろ子ども・若者白書」、「さっぽろ子ども・若者白書」をつくる会編集・発行 令和4年版「少子化社会対策白書」全体版(PDF版)、内閣府		
履修条件・留意事項等		
授業内でweb配布するリアクションペーパーは、成績評価の対象となるものであるため、必ず提出のこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育の理解					
科目名		社会的養護 I				ナンバリング	3300
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることが出来る」と関係する科目である。 また、「社会福祉」「子ども家庭福祉」「こども家庭支援論」「子育て支援」と関連を持つ科目であり、「社会的養護Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
社会的養護を必要としている子どもたちを支援していくために必要な知識を獲得し、これからの社会的養護のあり方について考える。子どもとかわる専門職として、子どもが置かれている現状を知り、社会的養護の意義と保育者の役割を理解する。							
到達目標							
・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について説明することができる。 ・子どもの人権養護を踏まえた社会的養護の基本について考えることができる。 ・社会的養護の制度や実施体系などについて説明することができる。 ・社会的養護の対象や形態、関係する専門職などについて説明することができる。 ・社会的養護の現状と課題について考えることができる。							
授業の方法							
基本的には配布印刷物等とテキストを使用して講義形式で行う。 一部に、映像視聴による補足を行い、理解度の確認を含めてリアクションペーパー等を使用する。 また毎回授業後半にグループワークを行い、学習内容の確認を行い内容を深める。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

児童福祉施設において児童指導員の勤務経験があり、社会的養護について知識を有している。この経験を活かして教育を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして提出物等の返却の際に、解説を加える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業の進め方、授業計画、評価方法等の説明 社会的養護のイメージや社会的養護の概要を学ぶ	社会的養護に関連しそうな素材(記事や特集)を探す。 テキストpp1-8を熟読すること。(90分)	授業の内容を受け、各自社会的養護が題材になっている素材を探し振り返る。 社会的養護の理念についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	社会的養護の歴史の変遷 欧米と日本の社会的養護の動向を学ぶ	テキストpp9-17を熟読すること。(90分)	社会的養護の歴史についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	子どもの人権と社会的養護 子どもの権利条約や子どもの権利ノート等を学ぶ	テキストpp29-35を熟読すること。(90分)	権利擁護の経緯や子どもの権利条約についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	社会的養護の基本原則 社会的養護の理念と基本原理を学ぶ	テキストpp75-83を熟読すること。(90分)	社会的養護の基本原理についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	社会的養護における保育士等の倫理と責務 専門職の資質と倫理、倫理綱領等を学ぶ	テキストpp65-73を熟読すること。 (90分)	保育士等の倫理綱領と責務についてまとめること。(90分)
担当教員			
第6回	社会的養護の制度と法体系 社会福祉法、児童福祉法、児童虐待防止法等の関係法令を学ぶ	テキストpp37-44を熟読すること。 (90分)	社会的養護の制度と法体系についてまとめること。(90分)
担当教員			
第7回	社会的養護の仕組みと実施体系 児童相談所、児童福祉施設、里親制度、養子縁組制度等を学ぶ	テキストpp45-53を熟読すること。 (90分)	児童福祉の実施機関や児童福祉施設についてまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	家庭養護とファミリーソーシャルワーク ファミリーソーシャルワークや養護のパーマネンシー(永続性)の重要性を学ぶ	テキストpp93-99を熟読すること。 (90分)	施設養護の実際についてまとめること。 ケースワークについてまとめること。(90分)
担当教員			
第9回	社会的養護の対象 児童福祉法等の対象規定を学ぶ	テキストpp37-44を熟読すること。 (90分)	社会的養護の対象についてまとめること。(90分)
担当教員			
第10回	家庭養護と施設養護 家庭養護、家庭的養護、施設養護等の社会的養護の形態を学ぶ	テキストpp55-63を熟読すること。 (90分)	児童養護の体系についてまとめること。(90分)
担当教員			

第11回	社会的養護に関わる専門職 保育士、児童指導員、母子支援員、ファミリーソーシャルワーカー等の業務内容を学ぶ	テキストpp65-73を熟読すること。 (90分)	社会的養護に関連する専門職についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	社会的養護に関する社会的状況 社会的養護を必要とする子どもの社会・生活状況を学ぶ	テキストpp19-27を熟読すること。 (90分)	児童家庭福祉と社会的養護の 関連をまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第13回	施設等の運営管理 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準、児童養護施設運営指針等を学ぶ	テキストpp85-92を熟読すること。 (90分)	施設養護の実際についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	被措置児童等の虐待防止 児童虐待、被措置児童等虐待等の現状と課題を学ぶ	テキストpp117-122を熟読すること。 (90分)	児童虐待についてまとめておくこと。 児童虐待防止法に目を通すこと。 (90分)
担当教員			
第15回	社会的養護と地域福祉 地域福祉と社会的養護等のネットワーク形成を学ぶ	テキストpp123-128を熟読すること。 (90分)	地域福祉と社会的養護についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート80%、リアクションペーパー10%、授業参加度10%	

その他	0	
教科書		
社会的養護 Iー「新しい社会的養育ビジョン」の理解に向けてー 鈴木幸雄・梶原敦・美馬正和編著 同文書院		
参考文献		
社会的養護児童のアドボカシー-意見表明権の保障を目指して- 栄留里美著 明石書店 施設で育った子どもたちの居場所「日向ぼっこ」と社会的養護 NPO法人日向ぼっこ編著 明石書店		
履修条件・留意事項等		
保育士をめざす者として必要な科目です。積極的な授業参加を望みます。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 対象の理解					
科目名		こどもの健康と安全(1組)				ナンバリング	3326
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	江本 千晴、續 佳代						
授業の位置づけ							
保育者としての基本的資質、および子どもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期の子どもについての知識を身につけるための科目である。子どもの成長発達に関して保健領域から広く涵養し、保育・教育・子育て支援に対する基礎的な理解を図る。「子どもの保健」、その他の保育に関わる科目と関連する。							
授業の概要							
「子どもの保健」で得た専門的知識を保育技術の展開と関連づけ、保健活動の実践について学ぶ。							
到達目標							
1. 子どもの成長発育と健康増進、および保健活動について理解することができる。 2. 子どもが罹患しやすい主な疾患について理解し、保育上の対応法を学び、現場での実践を想定し対処することができる。 3. 保育場面における安全性への配慮について理解し、状況に応じて対処することができる。 4. 子どものアレルギー疾患、特に食物アレルギーについて理解し、保育上の対処法について学び、現場での実践を想定し対処することができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を使用し、講義およびグループワークを行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

助産師免許、看護師免許を有し、小児科看護師としての実践経験をもとにし実践に即した指導を行う。(江本)

課題に対するフィードバックの方法

授業の疑問点を確認し、課題を回収してコメントを記載し返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【ガイダンス】 【子どもの健康と保育の環境】 子どもが心身共にのびのびと健康に発育・発達をするための保育環境について学ぶ。 子どもの健康管理のタイミングと観察のポイントについて学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返りをする(25分)
担当教員	江本 千晴		
第2回	【保育における健康・安全管理】 保育における衛生管理、事故防止および安全対策について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返りをする(25分)
担当教員	江本 千晴		
第3回	【保育場面における危機管理と災害への備え】 保育における危機管理および災害への備えについて学ぶ。 災害時の子どもへの対応について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返りをする(25分)
担当教員	江本 千晴		
第4回	【保育場面における健康障害とその対応】 体調不良や傷害が発生した場合の対応について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返りをする(25分)
担当教員	江本 千晴		

第5回	【保育場面における救急蘇生】 救急処置および救急蘇生法について学ぶ。 事故防止および安全対策について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第6回	【集団生活における感染症対策】 感染症の集団発症の予防について学ぶ。 感染症発生時および罹患後の対応について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第7回	【子どもの生活習慣と心身の健康】 保育における3歳未満児への対応を学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第8回	【さまざまな健康レベルの子どもに対する保健的対応】 個別的な配慮を要する慢性疾患について学ぶ 個別的な配慮を要する慢性疾患・障がいのある子どもへの 対応について学ぶ	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第9回	【子どもの健康および安全管理と実施体制①】 健康管理、安全管理に関する職員間の連携・協働と組織 的な取り組みについて学ぶ。 保健活動計画立案のための子どものアセスメントについて グループワークを実施する。	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第10回	【子どもの健康および安全管理と実施体制②】 保育における保健活動の計画および評価について学ぶ。 保健活動の目標設定、保健計画立案についてグループワ ークを実施する。	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		

第11回	【子どもの健康および安全管理と実施体制③】 母子保健・地域保健における自治体との連携について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第12回	【保健活動の計画および評価の統括】 家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携について学ぶ。 授業のまとめ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第13回	【免疫とアレルギー疾患の基礎】 人体の防御機構である免疫系のしくみやアレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、腫瘍などの免疫に深く関連した疾患などについて学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	續 佳代		
第14回	【食物アレルギーの基礎知識】 食物アレルギーの現状、種類、発症のメカニズム、症状、診断法、治療法などについて学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	續 佳代		
第15回	【保育場面における食物アレルギーとその対応】 食物アレルギーにおける保育園や学校での注意点と対策、給食対応、職種間の連携の重要性、給食提供以外での保育における注意事項などについて学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	續 佳代		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題・小テスト70%、平常点30%	

その他	0	なし
教科書		
「子どもの健康と安全」最新保健士養成講座第7巻 全国社会福祉協議会		
参考文献		
「好きになる免疫学ワークブック」荻原清文、講談社		
履修条件・留意事項等		
欠席せず積極的に授業に参加し、提出物の期限を守ること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 対象の理解					
科目名		こどもの健康と安全(2組)				ナンバリング	3326
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	江本 千晴、續 佳代						
授業の位置づけ							
保育者としての基本的資質、および子どもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期の子どもについての知識を身につけるための科目である。子どもの成長発達に関して保健領域から広く涵養し、保育・教育・子育て支援に対する基礎的な理解を図る。「子どもの保健」、その他の保育に関わる科目と関連する。							
授業の概要							
「子どもの保健」で得た専門的知識を保育技術の展開と関連づけ、保健活動の実践について学ぶ。							
到達目標							
1. 子どもの成長発育と健康増進、および保健活動について理解することができる。 2. 子どもが罹患しやすい主な疾患について理解し、保育上の対応法を学び、現場での実践を想定し対処することができる。 3. 保育場面における安全性への配慮について理解し、状況に応じて対処することができる。 4. 子どものアレルギー疾患、特に食物アレルギーについて理解し、保育上の対処法について学び、現場での実践を想定し対処することができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を使用し、講義およびグループワークを行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

助産師免許、看護師免許を有し、小児科看護師としての実践経験をもとにし実践に即した指導を行う。(江本)

課題に対するフィードバックの方法

授業の疑問点を確認し、課題を回収してコメントを記載し返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【ガイダンス】 【子どもの健康と保育の環境】 子どもが心身共にのびのびと健康に発育・発達をするための保育環境について学ぶ。 子どもの健康管理のタイミングと観察のポイントについて学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返りをする(25分)
担当教員	江本 千晴		
第2回	【保育における健康・安全管理】 保育における衛生管理、事故防止および安全対策について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返りをする(25分)
担当教員	江本 千晴		
第3回	【保育場面における危機管理と災害への備え】 保育における危機管理および災害への備えについて学ぶ。 災害時の子どもへの対応について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返りをする(25分)
担当教員	江本 千晴		
第4回	【保育場面における健康障害とその対応】 体調不良や傷害が発生した場合の対応について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返りをする(25分)
担当教員	江本 千晴		

第5回	【保育場面における救急蘇生】 救急処置および救急蘇生法について学ぶ。 事故防止および安全対策について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第6回	【集団生活における感染症対策】 感染症の集団発症の予防について学ぶ。 感染症発生時および罹患後の対応について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第7回	【子どもの生活習慣と心身の健康】 保育における3歳未満児への対応を学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第8回	【さまざまな健康レベルの子どもに対する保健的対応】 個別的な配慮を要する慢性疾患について学ぶ 個別的な配慮を要する慢性疾患・障がいのある子どもへの 対応について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第9回	【子どもの健康および安全管理と実施体制①】 健康管理、安全管理に関する職員間の連携・協働と組織 的な取り組みについて学ぶ。 保健活動計画立案のための子どものアセスメントについて グループワークを実施する。	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第10回	【子どもの健康および安全管理と実施体制②】 保育における保健活動の計画および評価について学ぶ。 保健活動の目標設定、保健計画立案についてグループワ ークを実施する。	教科書の該当部分を読んでおく こと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		

第11回	【子どもの健康および安全管理と実施体制③】 母子保健・地域保健における自治体との連携について学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第12回	【保健活動の計画および評価の統括】 家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携について学ぶ。 授業のまとめ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	江本 千晴		
第13回	【免疫とアレルギー疾患の基礎】 人体の防御機構である免疫系のしくみやアレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、腫瘍などの免疫に深く関連した疾患などについて学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	續 佳代		
第14回	【食物アレルギーの基礎知識】 食物アレルギーの現状、種類、発症のメカニズム、症状、診断法、治療法などについて学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	續 佳代		
第15回	【保育場面における食物アレルギーとその対応】 食物アレルギーにおける保育園や学校での注意点と対策、給食対応、職種間の連携の重要性、給食提供以外での保育における注意事項などについて学ぶ。	教科書の該当部分を読んでおくこと(20分)	教科書・印刷配布物の振り返り をすること(25分)
担当教員	續 佳代		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題・小テスト70%、平常点30%	

その他	0	なし
教科書		
「子どもの健康と安全」最新保健士養成講座第7巻 全国社会福祉協議会		
参考文献		
「好きになる免疫学ワークブック」荻原清文、講談社		
履修条件・留意事項等		
欠席せず積極的に授業に参加し、提出物の期限を守ること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 対象の理解					
科目名		こどもの保健				ナンバリング	3324
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	海老名 由紀子						
授業の位置づけ							
こどもの保育・教育・子育て支援に関する「専門科目」および「対象理解」の分野に該当する科目である。一般的なこどもの心身の成長発達についての理解に加え、個性を考える視点、また命の始まりから新生児・乳幼児・学童期さらに障がいを持つこどもと家族について基本的な知識を身につけ、こどもの健やかな成長について考えるための科目である。「保育士資格取得必修科目」である。「こどもの心理学Ⅰ」「乳幼児心理学」「こどもの健康と安全」に関連し保育実習の基礎となる科目である。							
授業の概要							
乳幼児期は著しい発育・発達の途上にある。すべての乳幼児が心身ともにすこやかに成長できるよう、その特性を理解し、保健的視野を持ちながら関わるための基礎を学ぶ。こどもの健康と保健の意義、こどもの発育と発達、生理機能の特徴と発達、精神保健について学び、基本的知識を得ることと現代の子育てについて学ぶことを目的としている。							
到達目標							
1.生命の始まりから学ぶことにより命と、人が人を育てることへの畏敬の念を持つことができる。 2.こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を述べることができる。 3.こどもの解剖学的・生理的な発育と発達を理解する 4.こどもの日常生活の援助の視点を挙げるができる 5.現代の子育ての社会的背景を理解し、子育て支援の必要性を挙げることができる。							
授業の方法							
講義ではパワーポイント使用、必要時板書も行う。資料は印刷し配布する。双方向性・学生間のグループワーク、学生プレゼンテーションなどを取り入れている。受け身の講義形式ではなく、積極的に学ぶスタイルである。							
ICT活用							
基本的には対面授業であり、状況に応じて必要時はGoogle classroomを使用することも可能である。							
実務経験のある教員の教育内容							

現役の開業助産師である。大学病院・クリニック・保健所・助産所・大学と大学院TAなどの勤務経験を持つ。学位は助産専門修士。母乳外来を中心に地域の母子、妊娠期からのかかわりもふくめ子育て支援を担っている。さらに現代における父親の子育て参加、社会全体でこどもを育ていく必要性にも随所で触れる。

課題に対するフィードバックの方法

学生グループワークやプレゼンテーションでは講義内でのコメント、提出課題に対してはメールでの返信を個別に行っている。講義終了前に質問に対応する時間をとっている。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業ガイダンス こどもの発育①妊娠の成立・胎児期・妊婦の心理	自身の母子手帳を見る。きょうだいがいる方は兄弟の分も見る。実家が遠隔地の方も、写真に撮って送付してもらうなどの方法で準備してください。可能な限りで大丈夫です(90分)	自己紹介メール作成。毎回の授業で配布資料の穴埋め部について不足しているところを学習、復習する。(90分)
担当教員			
第2回	こどもの発育②こどもの保健の用語と定義 ③こどもの身体的発育	内容に適した予習・自己学習(90分)	配布資料の穴埋め箇所を中心に復習・自己学習(90分)
担当教員			
第3回	こどもの発達①新生児	内容に適した予習・自己学習と自身の母子手帳より新生児の記録のページを読む。(90分)	配布資料の穴埋め箇所を中心に復習・自己学習(90分)
担当教員			
第4回	こどもの発達②運動機能の発達	内容に適した予習・自己学習(90分)	配布資料の穴埋め箇所を中心に復習・自己学習、発達に適したこどものあそびの考案(90分)
担当教員			

第5回	こどもの発達③精神機能の発達	内容に適した予習・自己学習。(90分)	配布資料の穴埋め箇所を中心に復習・自己学習(90分)
担当教員			
第6回	こどもの発達④こどもの精神保健 こころの発達と母子関係	母親へのインタビュー、自身が乳児だったころの話、寝かしつけ、母乳やミルクのこと、沐浴やお風呂入れのこと。ひとみしり、夜泣き、後追いなどのエピソードを聞き、まとめ。また絵本の読み聞かせとYouTube視聴はどのようなちがひがあるか考察する(90分)	産後の母親の気持ちをイメージする、子育てをイメージする、学びから考察し自己学習(90分)
担当教員			
第7回	子育て支援①産後ケアと育児支援	産後ケアとは？産後ケア事業とは？関連するキーワードの事前調べ学習。(90分)	居住地と恵庭市の産後ケア事業について、調べたことや学んだことのまとめ(90分)
担当教員			
第8回	子育て支援②保育施設と母児 こどもを預けて働く母の生活と気持ち	自身の乳幼児期の保育園または幼稚園の時期のエピソードを両親にインタビューしまとめる(90分)	講義での学びをまとめる、自己学習(90分)
担当教員			
第9回	子育て支援③命ってどこから？ 生命倫理と障がいを持つこどもと家族	予習内容は染色体異常・出生前診断・ダウン症候群などの言葉の意味を調べる、内容に適した自己学習(90分)	講義での学びをまとめる、自己学習。障がいのある子供を受け入れている保育園や幼稚園を調べる(90分)
担当教員			
第10回	こどもの健康状態①バイタルサイン・体温調節機能・免疫を中心に	内容に適した予習・自己学習(90分)	講義での学びをまとめる、自己学習(90分) 講義での学びをまとめる、自己学習(90分)
担当教員			

第11回	こどもの健康状態②こどもの栄養 母乳～離乳食～幼児食	離乳食について調べ学習、予習(90分)	講義での学びをまとめる、自己学習、次回学生プレゼンテーションの準備時間(90分)
担当教員			
第12回	世界の子どもの保健	プレゼンテーション準備(90分)	発表後のまとめ、自己学習(90分)
担当教員			
第13回	こどもの疾患①プレゼンテーション準備(グループワーク)	予習・事前学習(90分)	発表準備、修正、練習など(90分)
担当教員			
第14回	こどもの疾患②学生プレゼンテーション(グループワーク)	発表準備・修正・練習など(90分)	GWでの学びをまとめる、自己学習(90分)
担当教員			
第15回	こどもの疾患③こどもの疾患のまとめ 本講義のまとめと終講試験	試験準備学習、まとめの学習(90分)	講義での学びをまとめる、自己学習(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内試験・終講試験 90% グループワークへの参加と学生プレゼンテーションへの参加 10%	

その他	0	積極的な授業への参加態度を求めます
教科書		
なし		
参考文献		
子どもの保健 第七版 こうの悟郎編 診断と治療社 子どもの保健 中根淳子・佐藤直子編著 ななみ書房		
履修条件・留意事項等		
平常より子育てと母子を取り巻くトピックス、統計、母子関係のニュース、事件・事故もふくめ興味関心を持ち積極的に学ぶ姿勢を求めます。講義は学生が主体で学ぶ場です。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		社会的養護Ⅱ(2組)				ナンバリング	3378
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	堀 允千						
授業の位置づけ							
より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけるための科目である。 「社会福祉」、「児童家庭福祉」、「社会的養護」と関連する。							
授業の概要							
子どもが中心の社会的養育の基準が確立されつつあるが、未だ課題は多く、これからの私たちがどう舵取りをしていくかが肝要である。家族と離れ、施設生活を余儀なくされた子ども達にとって、社会的養育を担う施設職員・里親はどのような存在になりえるのか。求められるものとして、単に家庭に代わる代替機能や再養育機能だけではなく、対応が難しい子どもへの高い専門性、実家族との関係修復も挙げられる。さらに今後は施設の専門性を活用し周辺地域に働きかける地域養育全体の中核的存在もより求められるようになってきたことも視野に入れておかなければならない。 本演習を通し、これからの社会的養育を担う人材として、「子どもの最善の利益」を保障することができる専門性を身に付けていく。							
到達目標							
社会全体を把握しながら、同時に児童(家庭)個々のニーズに対応できる専門性を身に付ける。また、実際の現場で知識を応用することができる。 虐待防止に向けた取り組みを実践していくための基盤となる視点をも身に付けることができる。							
授業の方法							
体験学習を取り入れながら、パワーポイントを使用し講義形式で行なう。また、グループワーク・発表を実施する。 視聴覚メディアを活用する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

児童養護施設での勤務経験(14年)を活かし、社会的養護で保護が必要な児童の実情、対応方法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、全講義でのコメントシートに書かれた質問への回答を、講義内に反映する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1 ガイダンス、概要説明:授業の進め方、評価方法の確認、科目を通しての到達目標などを説明する。 児童養護施設の現状・実態について概略的説明を行う。	社会的養護の教科書を見直すこと。(20分)	社会的養護に関連する記事を探すこと。(25分)
担当教員			
第2回	2 社会的養護の現状①:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。 児童が保護され、社会的養護において保護される経緯を説明する。また、支援計画を含めた支援の流れと日常生活支援、退所への経緯を説明する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第3回	3 社会的養護の現状②:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。 法制度、子どもの権利条約、人権擁護の観点から学ぶ。連携機関として、児童相談所の機能・一時保護について学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第4回	4 社会的養護の現状③:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。“社会的養育”という観点から、施設養護と家庭養護について学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			

第5回	5 社会的養護の現状④:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。 自立支援として、入所児童の退所に向けた取り組み、リビングケア、アフターケアについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	退所前後の支援についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第6回	6 社会的養護の現状⑤:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。 被虐待、発達障がい、愛着障がいについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	発達障がい等についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第7回	7 具体的な支援方法・専門技術について①:講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。 専門性の必要性について説明する。学習・誤学習、施設における心理職の活用と治療的支援について説明する。ペアレントトレーニングについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	ペアレントトレーニングについてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第8回	8 具体的な支援方法・専門技術について②:講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。 怒りの感情について、“怒り”に対する対処法、アンガーマネジメントについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	アンガーマネジメントについてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第9回	9 具体的な支援方法・専門技術について③:講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。 性問題の増加、性教育の必要性、性教育から“生”教育への変遷について説明する。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	性問題についてまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第10回	10 社会的養護の課題と展望:講義 今後の児童養護施設等の機能強化、里親制度、地域支援、児童家庭支援センターの役割(「新しい社会的養育ビジョン」)についての説明を行う。などについて説明する。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員			

第11回	11 社会的養護におけるアセスメント①:グループワーク 架空のケースをテーマとして、グループにてケース検討、 及びアセスメントを行う。発表に向けての資料を作成する。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第12回	12 社会的養護におけるアセスメント②:発表 前回のグループワークの結果について発表を行う。それぞ れの発表についてのコメントを行う。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第13回	13 社会的養護におけるアセスメント③:映像鑑賞 社会的養護で育った子どもたちの様子が記録された映像 資料を鑑賞する。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第14回	14 社会的養護におけるアセスメント④:講義 前回の資料映像についての感想を元に、グループで討議 、発表と解説をする	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	授業全体をまとめておくこと。(25分)
担当教員			
第15回	15 最終テスト・レポート作成:授業の総括として、設問形 式による小テストと記述方式による小レポートを実施する。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	授業内のグループワーク・発表、授業への参加態度(30%) 最終テスト・レポート(70%)	

その他	0	なし
教科書		
使用しない		
参考文献		
社会的養護 / 吉田眞理 / 萌文書林 保育士をめざす人の社会的養護内容 / 辰巳隆・岡本眞幸 / みらい		
履修条件・留意事項等		
この科目は演習科目になるため、授業への積極的な参加を求める。 映像資料の鑑賞を実施する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		社会的養護Ⅱ（1組）				ナンバリング	3378
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	堀 允千						
授業の位置づけ							
より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけるための科目である。 「社会福祉」、「児童家庭福祉」、「社会的養護」と関連する。							
授業の概要							
子どもが中心の社会的養育の基準が確立されつつあるが、未だ課題は多く、これからの私たちがどう舵取りをしていくかが肝要である。家族と離れ、施設生活を余儀なくされた子ども達にとって、社会的養育を担う施設職員・里親はどのような存在になりえるのか。求められるものとして、単に家庭に代わる代替機能や再養育機能だけではなく、対応が難しい子どもへの高い専門性、実家族との関係修復も挙げられる。さらに今後は施設の専門性を活用し周辺地域に働きかける地域養育全体の中核的存在もより求められるようになってきたことも視野に入れておかねばならない。 本演習を通し、これからの社会的養育を担う人材として、「子どもの最善の利益」を保障することができる専門性を身に付けていく。							
到達目標							
社会全体を把握しながら、同時に児童(家庭)個々のニーズに対応できる専門性を身に付ける。また、実際の現場で知識を応用することができる。 虐待防止に向けた取り組みを実践していくための基盤となる視点を身に付けることができる。							
授業の方法							
体験学習を取り入れながら、パワーポイントを使用し講義形式で行なう。また、グループワーク・発表を実施する。 視聴覚メディアを活用する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

児童養護施設での勤務経験(14年)を活かし、社会的養護で保護が必要な児童の実情、対応方法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、全講義でのコメントシートに書かれた質問への回答を、講義内に反映する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1 ガイダンス、概要説明:授業の進め方、評価方法の確認、科目を通しての到達目標などを説明する。 児童養護施設の現状・実態について概略的説明を行う。	社会的養護の教科書を見直すこと。(20分)	社会的養護に関連する記事を探すこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第2回	2 社会的養護の現状①:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。 児童が保護され、社会的養護において保護される経緯を説明する。また、支援計画を含めた支援の流れと日常生活支援、退所への経緯を説明する。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第3回	3 社会的養護の現状②:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。 法制度、子どもの権利条約、人権擁護の観点から学ぶ。連携機関として、児童相談所の機能・一時保護について学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第4回	4 社会的養護の現状③:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。“社会的養育”という観点から、施設養護と家庭養護について学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。(20分)	社会的養護についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		

第5回	5 社会的養護の現状④:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。 自立支援として、入所児童の退所に向けた取り組み、リビングケア、アフターケアについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	退所前後の支援についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第6回	6 社会的養護の現状⑤:講義 社会的養護の現状について、具体例から理解を深める。 被虐待、発達障がい、愛着障がいについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	発達障がい等についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第7回	7 具体的な支援方法・専門技術について①:講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。 専門性の必要性について説明する。学習・誤学習、施設における心理職の活用と治療的支援について説明する。ペアレントトレーニングについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	ペアレントトレーニングについてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第8回	8 具体的な支援方法・専門技術について②:講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。 怒りの感情について、“怒り”に対する対処法、アンガーマネジメントについて学ぶ。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	アンガーマネジメントについてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第9回	9 具体的な支援方法・専門技術について③:講義 具体的に、児童の課題行動への対応方法について学ぶ。 性問題の増加、性教育の必要性、性教育から“生”教育への変遷について説明する。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	性問題についてまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第10回	10 社会的養護の課題と展望:講義 今後の児童養護施設等の機能強化、里親制度、地域支援、児童家庭支援センターの役割(「新しい社会的養育ビジョン」)についての説明を行う。などについて説明する。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		

第11回	11 社会的養護におけるアセスメント①:グループワーク 架空のケースをテーマとして、グループにてケース検討、 及びアセスメントを行う。発表に向けての資料を作成する。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第12回	12 社会的養護におけるアセスメント②:発表 前回のグループワークの結果について発表を行う。それぞ れの発表についてのコメントを行う。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第13回	13 社会的養護におけるアセスメント③:映像鑑賞 社会的養護で育った子どもたちの様子が記録された映像 資料を鑑賞する。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第14回	14 社会的養護におけるアセスメント④:講義 前回の資料映像についての感想を元に、グループで討議 、発表と解説をする	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	授業全体をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
第15回	15 最終テスト・レポート作成:授業の総括として、設問形 式による小テストと記述方式による小レポートを実施する。	資料を配布。精読しておくこと。 (20分)	講義内容をまとめておくこと。(25分)
担当教員	堀 允千		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	授業内のグループワーク・発表、授業への参加態度(30%) 最終テスト・レポート(70%)	

その他	0	なし
教科書		
使用しない		
参考文献		
社会的養護 / 吉田眞理 / 萌文書林 保育士をめざす人の社会的養護内容 / 辰巳隆・岡本眞幸 / みらい		
履修条件・留意事項等		
この科目は演習科目になるため、授業への積極的な参加を求める。 映像資料の鑑賞を実施する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		乳児保育Ⅰ				ナンバリング	3380
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	片岡 卓久						
授業の位置づけ							
本講は、「保育の内容と方法」の領域に該当する「保育士資格取得必修科目」であり、ディプロマポリシーの乳幼児期のこどもについての基本的な知識、こどもの特徴と発達を見極め対応できる教育的能力、成長・発達を支援するための基本的資質を身につけることと、より適切な保育のあり方を考え、不断に学ぶ意欲・態度を身につけることと関連する科目である。 「こどもの保健Ⅰー1」「こどもの保健Ⅰー2」に関連し、「乳児保育Ⅱ」「保育実習Ⅰー2」「保育実習Ⅱ」の基礎ともなる。							
授業の概要							
本授業の目的は、おおむね0～3歳の発達の特徴を理解し、その健やかな成長発達をうながす乳児保育の基本的な知識と技術を学ぶことである。具体的には、以下の内容を授業の柱とする。 1) 乳児保育の意義・目的、歴史、役割を学ぶ。 2) 保育所や乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題を学ぶ。 3) 3歳児未満児の発育・発達をふまえた保育内容、環境構成、運営体制について学ぶ。 4) 乳児保育における職員間の連携・協働、保護者や地域の関連機関との連携、子育て支援について学ぶ。							
到達目標							
1) 乳児保育の基本的な考え方やしくみを説明できる。 2) 3歳未満児の発達の道すじについて説明できる。 3) 乳児期の発達過程に合わせた生活習慣や環境について準備できる。 4) 乳児保育として必要な子育て支援の基本について述べることができる。							
授業の方法							
板書、配布資料、視聴覚教材を活用した講義形式とグループワーク形式を併用して進める。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園、認定こども園、保育園において9年間の現場職員としての職務から、乳児期の子どもの発達理解を踏まえた関わり、子育て支援に携わる保育士の専門性についての実践的な経験を踏まえて、乳児保育の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小課題等の内容や質問に対しては授業内で解説等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス(本講の概要や方法、および成績評価について) 乳児保育はなぜ必要か ・保護者の就労を支える乳児保育 ・保護者の子育てを支える乳児保育	シラバス テキストp.138 - p.152(90分)	自分の乳児期を振り返る(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第2回	乳児保育の成り立ちを知ろう ・乳児保育のはじまり ・乳児保育の現状	テキストp.138 - p.159(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第3回	「子ども・子育て支援制度」 ・新制度の仕組み ・新しい乳児保育の事業と待機児童問題	テキストp.162 - p.172(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第4回	知っておきたい法律のいろいろ ・児童福祉法について知る ・児童福祉施設の設備及び運営に関する基準とは ・労働基準法が示す女性への配慮 ・育児・介護休業法について知る	シラバス テキストp.162 - p.172(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		

第5回	『保育所保育指針』とは ・『保育所保育指針』の目標 ・『保育所保育指針』の方向性と3歳以上児の保育の内容の共有化 ・『保育所保育指針』で押さえておきたい内容	シラバス テキストp.34 - p.62(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第6回	『保育所保育指針』における乳児保育のポイント① ・改定された保育所保育指針 ・指針にみる保育所の役割 ・「第2章 保育の内容」における「ねらい」と「内容」 ・求められる「個別的な計画」	シラバス テキストp.234- p.62(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第7回	『保育所保育指針』における乳児保育のポイント② ・保育の「ねらい及び内容」の示し方 ・保育の「ねらい及び内容」を年齢別にとらえる① ・保育の「ねらい及び内容」を年齢別にとらえる② ・さまざまな意味が混然一体となっている子どもの生活 ・大切にしたい「養護」	シラバス テキストp.34 - p.62(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第8回	人生の基礎としての乳児期 ・高等哺乳類の新生児 ・「生理的早産」とは ・「生理的早産」であることの意味 ・「生理的早産」から学ぶこと	シラバス テキストp.108 - p.125(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第9回	乳児のこころの発達 ・能動的な存在である赤ちゃん ・子どもの「人見知り」 ・不思議な子どものこころ	シラバス テキストp.108 - p.125(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第10回	乳児のことばの発達 ・ことばの発達の道筋 ・ことばの発達に必要なことから ・ことばを育てよう	シラバス テキストp.10 - p.30(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		

第11回	乳児のからだ ・からだの成長 ・運動能力の発達	シラバス テキストp.10 - p.30(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第12回	乳児保育における複数担任制 ・乳児保育における複数担任制	シラバス テキストp.126 - p.135(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第13回	保育所で過ごす1日の流れ ・保育所の1日 ・保育の計画を立てる ・0歳児クラスのデイリープログラム ・1歳児クラスのデイリープログラム ・2歳児クラスのデイリープログラム ・デイリープログラムの理解に向けて	シラバス テキストp.62 - p.84(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第14回	保護者との連携を考えよう ・ことばの壁の解決 ・虐待の発見と対応 ・保護者に寄り添う	シラバス テキストp.108 - p.123(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
第15回	発達の遅れと向き合う ・発達の遅れに気づく ・保育者からの発信のしかた ・保護者を支える	シラバス テキストp.108 - p.123(90分)	授業内容の復習(90分)
担当教員	片岡 卓久		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業中の課題や宿題の提出と内容(70%) ・授業中の作業や討論への参加度(30%)	

その他	0	
教科書		
乳児保育研究会(編)(2019) 資料でわかる乳児の保育新時代(改訂5版) ひとなる書房		
参考文献		
松本峰雄監修(2019) 乳児保育演習ブック(第2版)・ミネルヴァ書房		
履修条件・留意事項等		
「こどもの保健」を履修済みであることを原則とする。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教科科目					
科目名		英語概論				ナンバリング	3452
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣 晴彦						
授業の位置づけ							
本科目は、ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」、「今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている。(関心・意欲・態度)」に関連する。また、「教科教育法英語」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
授業実践に必要な基礎英語力を身につけ、それを活用できる力を養う。英語を導入している世界の国々を調べ、日本との相違点をグループ毎に発表する。また、聞く力、話す力(やり取り・発表)、読む力、書く力を授業場面を意識しながら、英語教材をどのように活用していくかペアワークでプレゼンテーションを行う。クラスイングリッシュの練習も行い、聞く力や話す力のスキル向上を目指す。レポート課題もあり。							
到達目標							
小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。 児童期の第二言語習得の特徴について理解する。 児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)について理解する。 異文化理解は、授業場面に活用して応用することができるようにする。							
授業の方法							
パワーポイントで作成した資料を提示し、動画も取り入れて、ペアワーク、グループワークの活動を多く活用して授業を進めていく。アクティブラーニングの手法を多く取り入れる。							
ICT活用							
ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、指導に生かす。							
実務経験のある教員の教育内容							

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきた。

課題に対するフィードバックの方法

オンラインで常に課題をフィードバックしていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(講義ガイダンス) 講義内容やプレゼンテーションの方法、課題に関して説明する。	英語学習の意義と必要性に関して自分の考えをまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第2回	(外国語活動・外国語科の目的) 小学校における外国語活動及び外国語科の目的を理解し、中学校との接続について考える。	学習指導要領の与えられた箇所を読んで学習しておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第3回	(国際化と英語教育1) グループワーク。世界の国々から国を選んで、調べ学習。それを発表する。	選んだ国の教育事情と英語教育を調べてまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第4回	(国際化と英語教育2) 前回の講義の継続。グループワークで発表。	選んだ国の教育事情と英語教育を調べてまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			

第5回	(異文化理解教育としての英語教育) 世界の英語事情を比較して、日本の異文化理解教育を理解する。	世界の国の教育事情と日本の英語教育の状況をまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第6回	(第二言語習得と母語習得) 第二言語習得の基本的な考えを理解する。	与えられた資料を読み第二言語の取得方法をまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第7回	(英語の母音と子音の発音) アルファベットの発音から、日本語の音の違いを学ぶ。	日本語と英語の音声の相違点をまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第8回	(英語の音とスペリングの関係) フォニックスの手法を学習して、効果的な活用を学ぶ。	フォニックスとは何かを調べてまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第9回	(ALTとのチームティーチングの在り方) ALTとのチームティーチングの在り方について学ぶ。	ALTのチームティーチングとは何かまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第10回	(外国語活動・外国語科で活用できる歌・チャンツ1) 外国語活動・外国語科で活用できる歌・チャンツを学ぶ。	教材として活用できる歌・チャンツをまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			

第11回	(外国語活動・外国語科で活用できる歌・チャンツ2) 外国語活動・外国語科で活用できる歌・チャンツを学ぶ。	教材として活用できる歌・チャンツをまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第12回	(外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動1) 外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動を学ぶ。	教材として活用できる絵本をまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第13回	(外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動2) 外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動を学ぶ。	教材として活用できる絵本をまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第14回	(外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動3) 外国語活動・外国語科で活用できる絵本活動を学ぶ。	絵本の活用のプレゼンテーションを行うのでまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
第15回	(まとめ) 講義で学んだことをまとめる。	これまで学習してきたことをまとめておく(90分)	講義内容の復習を行う(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼンテーション3回 60% 課題レポート2回 40%	

その他	0	特になし。
教科書		
小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説 外国語・外国語活動編		
参考文献		
講義内で適宜配布する。		
履修条件・留意事項等		
事前、事後学習は必ず行うこと。課題などの提出期限は厳守すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教科科目					
科目名		総合的な学習の時間の指導法				ナンバリング	3522
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	相馬 哲也						
授業の位置づけ							
本科目は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を収集し、整理・分析して、まとめ・表現することができる力を養うことを目標とする総合的な学習の時間について、その教育的意義や指導の在り方を学び、教員に求められる指導力を身に付けることをねらいとしている。変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な教育の在り方を考え続けることのできる基礎力を得るための科目である。							
授業の概要							
本授業では、総合的な学習の時間の導入の趣旨の理解を踏まえて、小学校における総合的な学習の時間の目標・内容の理解や、総合的な学習の時間の特質に応じた学習の進め方等について、近隣の小学校での実践を参考にしながら学び、年間指導計画及び単元計画を作成することや、模擬授業を行うことを通して、その指導法の理解を深める。							
到達目標							
○総合的な学習の時間の導入の趣旨を述べることができるとともに、教科等を越えたすべての学習の基盤となる資質・能力について説明することができる。 ○総合的な学習の時間の目標や内容を説明することができるとともに、探究の過程を重視した学習について、指導の在り方を述べることができる。 ○総合的な学習の時間について、中・高学年の学習の進め方の理解を踏まえて、観点別の適切な評価方法を考慮した指導計画を作成し模擬授業を実施することができる。							
授業の方法							
教科書及びプレゼンテーション資料等を用いて、講義形式で行う。 グループワークと発表、学生によるプレゼンテーション及び模擬授業を行う。							
ICT活用							
グーグルクラスルームのアンケート機能を用いて、学生の意見等を集約し、タイムリーに還元する。また、映像やアニメーションを活用したプレゼンテーションを行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

教諭として、教科指導(英語)、生徒指導等に従事したほか、教育行政においては総合的な学習の時間や小学校外国語活動の導入など、小中高校の教育課程編成・管理に関わった。こうした経験を活かし、探究的な活動を通じて調査・研究の意欲を高め、課題解決に向けた技法等を身に付けるための指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームを通じて学生のレポートや発表に対してアドバイスをを行う。また、学生の学習過程やその成果を共有することで学生同士が相互に学びあえるよう、教員がファシリテーターとしての役割も担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	◎オリエンテーション ・総合的な学習の時間の導入の趣旨等について学ぶ。 ・授業の概要、到達目標、授業の方法、授業計画等を把握し、学習に見通しをもつ。	・シラバス及び教科書のp1～p7を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、総合的な学習の時間について学ぶ意義をまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	◎総合的な学習の時間の目標、内容 ・総合的な学習の時間の目標の構成、趣旨について学ぶ。 ・道徳や特別活動との関連、生活科や理科、社会科等との関連や相違点などについて学ぶ。	・教科書のp8～p34を読んでおくこと。(120分)	・配布資料を復習し、総合的な学習の時間の目標や内容についてまとめること。(60分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	◎総合的な学習の時間の内容の理解① ・地域の自然を生かした活動、フィールドや環境を扱った学習について参考事例に学ぶ。 ・各教科との関連やこうした内容の指導方法について学ぶ。	・自然環境を取り上げた事例を調べておくこと。(120分)	・配布資料を復習し、自然を生かした課題についての探究的な学習の在り方等をまとめること。(60分)
担当教員	相馬 哲也		
第4回	◎総合的な学習の時間の内容の理解② ・地域の歴史や文化、特色を扱った学習(ふるさと学習)について、参考事例に学ぶ。 ・各教科との関連やこうした内容の指導方法について学ぶ。	・地域の歴史や文化、特色を取り上げた事例を調べておくこと。(120分)	・配布資料を復習し、地域の歴史や文化、特色についての探究的な学習の在り方等をまとめること。(60分)
担当教員	相馬 哲也		

第5回	◎総合的な学習の時間の内容の理解③ ・国際理解や外国の文化、アイヌの人々の文化などを扱った学習について参考事例に学ぶ。 ・各教科との関連やこうした内容の指導方法について学ぶ。	・国際理解や外国の文化、アイヌの人々の文化を取り上げた事例を調べておくこと。(120分)	・配布資料を復習し、国際理解や外国の文化、アイヌの人々の文化についての探究的な学習の在り方等をまとめること。(60分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	◎総合的な学習の時間の内容の理解④ ・身近な地域や国内及び海外の食と生活を扱った学習について、参考事例に学ぶ。 ・各教科との関連やこうした内容の指導方法について学ぶ。	・身近な地域や国内及び海外の食と生活を扱った事例を調べておくこと。(90分)	・配布資料を復習し、身近な地域や国内及び海外の食と生活についての探究的な学習の在り方等をまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第7回	◎総合的な時間の学習の内容の理解⑤ ・身近な地域の環境問題や防災を扱った学習について、参考事例に学ぶ。 ・各教科との関連やこうした内容の指導方法について学ぶ。	・身近な地域の環境問題や防災を取り上げた事例を調べておくこと。(120分)	・配布資料を復習し、身近な地域の環境問題や防災についての探究的な学習の在り方等をまとめること。(60分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	◎総合的な学習の時間の進め方の理解① ・総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方について学ぶ。 ・学習課題の焦点化、仮説の設定や修正について学ぶ。	・教科書p108～p113を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方や仮説の設定等の方法などをまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	◎総合的な学習の時間の進め方の理解② ・書籍や資料・文献検索の方法を学ぶ。 ・取材や調査・インタビューの仕方を学ぶ。	・教科書p114～p119を読んでおくこと。(60分)	・配布資料を復習し、情報収集の仕方、整理・分析の方法をまとめること。(120分)
担当教員	相馬 哲也		
第10回	◎総合的な学習の時間の進め方の理解③ ・書籍や資料・文献検索で得られた情報や取材や調査・インタビューで得られた情報のまとめ方を学ぶ。 ・まとめに際しては協働的な学びの視点を重視する。	・教科書p119～p123を読んでおくこと。(90分)	・配布資料を復習し、まとめの表現方法を整理すること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		

第11回	◎総合的な学習の時間の指導計画の作成① ・グループ分けを行い、内容の理解として学習した5つの参考事例から選択し、8～12時間の単元計画を作成する。 (書籍や資料・文献検索及び取材や調査・インタビューを含めたものとする。)	・作成する単元計画について構想しておくこと。(90分)	・単元計画の作成を進めること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	◎総合的な学習の時間の指導計画の作成② ・グループ内でディスカッションしながら、単元計画を作成する。 (書籍や資料・文献検索及び取材や調査・インタビューを含めたものとする。)	・単元計画の作成を進めること。(90分)	・単元計画を見直しながら作成を進め、課題として提出すること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第13回	◎総合的な学習の時間の指導計画の作成③ ・グループで作成した単元計画から模擬授業を行う時間を選び、指導案を作成する。 (書籍や資料・文献検索及び取材や調査・インタビューを含めたものとする。)	・単元計画を完成させること。(90分)	・単元計画を振り返り、指導案の作成及び模擬授業の準備をすること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	○総合的な学習の時間の指導計画の交流と模擬授業の実施① ・グループで作成した単元計画の紹介を行う。 ・模擬授業を実施する。	・単元計画及び指導案の交流、模擬授業の準備をすること。(90分)	・交流した単元計画や指導案、模擬授業をもとに振り返りを行い、課題として提出すること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	○総合的な学習の時間の指導計画の交流と模擬授業の実施② ・グループで作成した単元計画の紹介を行う。 ・模擬授業を実施する。	・単元計画及び指導案の交流、模擬授業の準備をすること(90分)	・交流した単元計画や指導案、模擬授業をもとに振り返りを行い、成果と課題をまとめること。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組(20%)、振り返りシートの内容(50%)、課題(30%)	

その他	0	
教科書		
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 / 文部科学省 / 東洋館出版社 		
参考文献		
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 総合的な学習の時間 / 国立教育政策研究所 / 東洋館出版 		
履修条件・留意事項等		
小学校教諭一種免許状取得のための必修科目である。 		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教科科目					
科目名		特別支援教育概論				ナンバリング	3520
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	村田 敏彰						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」と関連する科目である。特別な教育的ニーズに応じた支援のための基本的資質、教育的能力を身につけ、共生社会の実現に向け、歴史的背景や国際的な動向を踏まえながら、より適切な教育のあり方を考え続ける指導者の基礎となるものである。特別支援教育総論や知的障害教育につながるものである。							
授業の概要							
通常の学級にも在籍する様々な困難さのある幼児・児童及び生徒が安心感・充実感をもって集団に参加しながら、将来の社会参加・自立に必要な知識・技能を学習し、活用することができるようになるための組織的な支援方法を個別の支援計画・個別の指導計画に基づく取り組みとして理解する。							
到達目標							
1. 特別支援教育の理念や目的を理解し、個別の教育的支援について説明することができる。 2. 共生社会の実現にむけたインクルーシブ教育が重視されている理由を説明することができる。 3. 障害者差別解消法など、社会的な支援の実際を理解し、障害と支援を関連付けて記述することができる。 4. 個別の教育的支援を行う支援者として、共生社会の重要性を説明することができる。							
授業の方法							
ICT機器や映像を多用しながら、これまでの経緯や動向、今日的課題についてよりわかりやすく授業を進めるように工夫し、教育現場における実態も紹介しながら展開していく。さらに、講義形式と並行させて指導計画作成、レポート等の提出により、受講生の理解の様子を確かめながら授業をすすめていく。フィードバックとして振り返りシートを活用し、講義の中で質問に答えたり、受講生からの質問についてディスカッションさせたりしながら学びを深め、アドバイス等を行う。							
ICT活用							
パワーポイントを使用して、プレゼンテーションを印象的に提示する。また、グーグルフォームやジャムボードを効果的に活用し、受講生相互の意見交流を図る。							
実務経験のある教員の教育内容							

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームの課題提出やグーグルフォームの振り返りシートを活用し、質問に答えたり、アドバイス等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション: 特殊教育時代を振り返り、特別支援教育が目指す共生社会の意義と重要性について、全15回の講義を通して学ぶことを理解する。	障がいについて、自分なりの考えをまとめておく。(90分)	共生社会について整理し、意義と役割について整理する。(90分)
担当教員			
第2回	交流及び共同学習という特別支援教育を特徴付ける取組から、実態に応じた指導・支援の重要性とインクルーシブ教育の理念を理解する。	共生社会について整理し、「交流及び共同学習」について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第3回	「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の役割や重要性について学習し、特別な教育的ニーズの把握や具体的支援の策定について理解する。	「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第4回	校内学びの支援委員会の位置付けと役割を知り、その推進役である特別支援教育コーディネーターの重要性を学習する。集団参加に困難さのある児童・生徒への組織的な取り組みと特別支援教育の役割について理解する。	「校内支援委員会」の目的や構成について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			

第5回	障害者差別解消法における合理的配慮について学習し、具体的な事例をもとに実際場面での運用について理解する。	「障害者差別解消法」について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第6回	保護者連携の重要性について学習し、事例を基に教育相談の目的や留意点等、適切な対応の在り方について理解する。	家庭との連携の意義や重要性について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する(90分)
担当教員			
第7回	特別支援教育の対象となる障がい種別や学習上、生活上の困難について理解する。 ※小テスト(レポート作成)の実施	特別支援教育の対象となる障がい種や程度について調べておく。(90分)	講義内容についてキーワードをもとに整理し、自身の作成した小レポートを振り返りながら自分の考えを整理する。(90分)
担当教員			
第8回	障がいに基づく困難を主体的に改善・克服する上で重要となる自立活動について学習し、実際の指導場面及び指導案等を通して目的や留意点を理解する。	自立活動の目的や主な種類について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第9回	幼児児童生徒の発達や知能を客観的に把握する心理検査について学習し、WISC-IVやKABC-II等の知能検査の特徴や分析方法について理解する。	心理検査の種類や目的、実施上の留意点について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第10回	ICF(国際生活機能分類)について学習し、活動と参加という社会的側面から「障がい」をとらえる必要性について理解する。	ICFや「障がい」の様々な捉え方について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			

第11回	障がい者の就労を見据えた、各段階におけるキャリア教育について学習し、就労支援の制度や実態について理解する。	障がい者の就労の実態や制度について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第12回	家庭との連携において、教育相談の困難事例である児童虐待について学習し、発達障がいとの関連や関係機関との連携について理解する。	児童虐待や関係機関との連携について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第13回	社会問題化している不登校やひきこもりについて学習し、事例を基に発達障がいとの関連や関係機関との連携について理解する。	不登校の実態や関係機関との連携について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学習上及び生活上の困難の軽減・克服にむけた、実態把握や具体的支援の組織的対応の必要性について理解する。	「チーム学校」の重要性やポイントについて調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ:授業で獲得した知識や理解を定着させる(レポートの作成作業に着手する)。	1～14回目の学習ノートと授業期間中に配布した資料に目を通しておく。(90分)	自身のレポートを振り返り、本授業で得たことや今後に向けての課題をまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第15回で実施する最終レポート作成(70%) 第7回で実施する小テスト(10%) 毎回提出する振り返りシート(10%) 授業への参加度・出席態度(10%)	

その他	0	なし
教科書		
なし(適時資料を配布する)		
参考文献		
「はじめての特別支援教育」 柘植雅義・渡部匡隆・二宮真一・納富恵子編 有斐閣 2014		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許取得の必修科目である。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		保育実習指導 I－2(2組)				ナンバリング	3801
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一						
授業の位置づけ							
変化する社会の中で、保育・教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を得るための科目である。保育内容総論や保育者論などの多くの科目を前提とし、保育実践にかかわる多様な授業を基盤にして、保育実習 I－2に必要な知識・技術を具体的に習得する。さらに保育実習Ⅱの基礎ともなる。							
授業の概要							
保育実習の目的、内容、方法について理解し、実習生として必要な知識・技術を習得し、実習に対する意欲を高める。実習後においては、実習の自己評価をもとに、各自の学習課題や、研究テーマを明確にし、他教科における学びとの統合を図る。保育所実習を行うため必要な「保育施設の現状と課題」「保育所実習の意義と目的」「保育所実習の特徴」「保育所実習の心得」「実習日誌について」「指導計画の作成」などを基にして、模擬保育等を通じて実践を学ぶ。							
到達目標							
1. 保育実習の意義や目的、実習の内容について理解し、自らの実習課題を説明することができる。 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等についての説明ができる。 3. 支援における計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、適用できる。 4. 実習後において、適切な総括と自己評価を行い、今後の学習課題や目標の説明ができる。							
授業の方法							
保育実習の枠組みの理解については、講義と保育実習場面の映像(DVD)視聴等を併用して行う。保育実践技術の習得及びその実践、保育者としての態度等の養成については、模擬保育等を 中心に行う。							
ICT活用							
提出物や資料等の共有にGoogleクラスルームを使用する。 そのほか適宜PCやスマートフォンを利用した授業を展開する。							
実務経験のある教員の教育内容							

保育園約25年、幼稚園18年と乳幼児期の保育に携わってきた。保育実践のみならず運営や経営についての役割も担ってきた。実習生の受け入れプログラム作り作りや、障碍児の受け入れと充実、保育現場における研修体制づくり、保育内容の充実に向けての見直し、保育者の実践研究等の課題に取り組んできた。これらの実務から得た内容と研究活動を基にして、個々の学生の実習に向かう姿勢を支えていく。(小田)
保育園、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務、管理職業務の経験をもとに、保育士としての必要なことを伝え、保育の重要性和楽しさを指導する。(渡邊)

課題に対するフィードバックの方法

提出物やグループワークへの具体的な解説を行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 保育実習の概要を知り、実践的な学びの重要性について理解する。	保育実習についての自己のイメージを整理しておく(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第2回	実習の意義・目的について(小田) 実習の意義や目的、また、保育士の定義や専門性、守秘義務等について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第3回	実習園について 保育所の社会的な役割、「幼児教育を行う施設」の特性について、実習園の特徴を理解することの重要性について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第4回	保育所保育指針と関連法規 保育所保育指針と関連する法規等(児童福祉法、教育基本法、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領等)について確認し、その概要について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		

第5回	実習の段階と方法 実習の形態(観察実習・参加実習・責任実習等)と、その具体的内容について学び、各段階における留意点等について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第6回	実習生としての心構え 実習前、実習中、実習後における、実習生としての心構えについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第7回	実習日誌(記録)について 実習日誌の意義について理解し、各実習段階における実習日誌の形式や内容について学び、実習日誌の作成を通して、記録の意義について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第8回	実習における計画① 保育における計画に意義を確認し、指導計画作成の実践に触れる。(指導計画の内容と作成の具体的な方法)	指導案を作成して授業に臨む(25分)	指導案の改定と要点のまとめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第9回	実習における計画② 部分実習の指導計画(指導案)を作成し、作成した指導案の検討を通じて指導計画作成の意義を学ぶ。	模擬保育作成のための計画準備、参考文献等の収集(25分)	グループに寄る保育のねらいと内容の検討と模擬保育準備(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第10回	模擬保育① 部分実習指導案作成とその計画に元づく実践と評価委を行う。(グループ活動)	模擬保育の実践及び園児として参加(25分)	実践内容の検討及び参加者としての評価(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		

第11回	模擬保育② 部分実習指導案作成とその計画に元づく実践と評価委を行う。(グループ活動)	模擬保育の実践及び園児として参加(25分)	実践内容の検討 及び参加者としての評価(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第12回	模擬保育③ 部分実習指導案作成とその計画に元づく実践と評価委を行う。(グループ活動)	模擬保育の実践及び園児として参加(25分)	実践内容の検討 及び参加者としての評価(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第13回	安全管理と衛生管理の実際 実習園における安全管理・衛生管理に触れ、実習生としての安全・衛生管理の姿勢と身に着けるための要点を学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第14回	実習課題の明確化(小田・渡邊) 実習課題の重要性について理解し、課題設定や自己評価の視点について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ 及び実習課題の立案(20分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第15回	まとめ(小田・渡邊) 実習に除く自己の姿勢を点検し、意欲を高めるとともに具体的な準備や具体的な留意点の確認を行う	実習に向かう姿勢の確認を小集団によるディスカッションを通じて高める(25分)	実習課題の具体化と確認(20分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20) 授業ごとの課題への取り組み内容(30) 計画案等の提出物(50)	

その他	0	
教科書		
Let's have a dialogue ! ワークシートで学ぶ保育所実習／同文書院 保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編		
参考文献		
保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編 保育所保育指針／フレーベル館		
履修条件・留意事項等		
保育者の立場で子どもに関わる体験的学習への準備であるので、明確な課題意識を持つての履修が望まれる		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 学外・校外実習					
科目名		保育実習指導Ⅰ－2(1組)				ナンバリング	3801
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一						
授業の位置づけ							
変化する社会の中で、保育・教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることのできる基礎力を得るための科目である。保育内容総論や保育者論などの多くの科目を前提とし、保育実践にかかわる多様な授業を基盤にして、保育実習Ⅰ－2に必要な知識・技術を具体的に習得する。さらに保育実習Ⅱの基礎ともなる。							
授業の概要							
保育実習の目的、内容、方法について理解し、実習生として必要な知識・技術を習得し、実習に対する意欲を高める。実習後においては、実習の自己評価をもとに、各自の学習課題や、研究テーマを明確にし、他教科における学びとの統合を図る。保育所実習を行うため必要な「保育施設の現状と課題」「保育所実習の意義と目的」「保育所実習の特徴」「保育所実習の心得」「実習日誌について」「指導計画の作成」などを基にして、模擬保育等を通じて実践を学ぶ。							
到達目標							
1. 保育実習の意義や目的、実習の内容について理解し、自らの実習課題を説明することができる。 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等についての説明ができる。 3. 支援における計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、適用できる。 4. 実習後において、適切な総括と自己評価を行い、今後の学習課題や目標の説明ができる。							
授業の方法							
保育実習の枠組みの理解については、講義と保育実習場面の映像(DVD)視聴等を併用して行う。保育実践技術の習得及びその実践、保育者としての態度等の養成については、模擬保育等を中心に行う。							
ICT活用							
提出物や資料等の共有にGoogleクラスルームを使用する。 そのほか適宜PCやスマートフォンを利用した授業を展開する。							
実務経験のある教員の教育内容							

保育園約25年、幼稚園18年と乳幼児期の保育に携わってきた。保育実践のみならず運営や経営についての役割も担ってきた。実習生の受け入れプログラム作り作りや、障碍児の受け入れと充実、保育現場における研修体制づくり、保育内容の充実に向けての見直し、保育者の実践研究等の課題に取り組んできた。これらの実務から得た内容と研究活動を基にして、個々の学生の実習に向かう姿勢を支えていく。(小田)
保育園、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務、管理職業務の経験をもとに、保育士としての必要なことを伝え、保育の重要性和楽しさを指導する。(渡邊)

課題に対するフィードバックの方法

提出物やグループワークへの具体的な解説を行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 保育実習の概要を知り、実践的な学びの重要性について理解する。	保育実習についての自己のイメージを整理しておく(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第2回	実習の意義・目的について(小田) 実習の意義や目的、また、保育士の定義や専門性、守秘義務等について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第3回	実習園について 保育所の社会的な役割、「幼児教育を行う施設」の特性について、実習園の特徴を理解することの重要性について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第4回	保育所保育指針と関連法規 保育所保育指針と関連する法規等(児童福祉法、教育基本法、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領等)について確認し、その概要について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		

第5回	実習の段階と方法 実習の形態(観察実習・参加実習・責任実習等)と、その具体的内容について学び、各段階における留意点等について理解する。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	小田 進一		
第6回	実習生としての心構え 実習前、実習中、実習後における、実習生としての心構えについて学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第7回	実習日誌(記録)について 実習日誌の意義について理解し、各実習段階における実習日誌の形式や内容について学び、実習日誌の作成を通して、記録の意義について理解を深める。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のまとめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第8回	実習における計画① 保育における計画に意義を確認し、指導計画作成の実践に触れる。(指導計画の内容と作成の具体的な方法)	指導案を作成して授業に臨む(25分)	指導案の改定と要点のまとめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第9回	実習における計画② 部分実習の指導計画(指導案)を作成し、作成した指導案の検討を通じて指導計画作成の意義を学ぶ。	模擬保育作成のための計画準備、参考文献等の収集(25分)	グループに寄る保育のねらいと内容の検討と模擬保育準備(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第10回	模擬保育① 部分実習指導案作成とその計画に元づく実践と評価委を行う。(グループ活動)	模擬保育の実践及び園児として参加(25分)	実践内容の検討及び参加者としての評価(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		

第11回	模擬保育② 部分実習指導案作成とその計画に元づく実践と評価委 を行う。(グループ活動)	模擬保育の実践及び園児として 参加(25分)	実践内容の検討 及び参加者 としての評価(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第12回	模擬保育③ 部分実習指導案作成とその計画に元づく実践と評価委 を行う。(グループ活動)	模擬保育の実践及び園児として 参加(25分)	実践内容の検討 及び参加者 としての評価(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第13回	安全管理と衛生管理の実際 実習園における安全管理・衛生管理に触れ、実習生として の安全・衛生管理の姿勢と身に着けるための要点を学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のま とめ(20分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第14回	実習課題の明確化(小田・渡邊) 実習課題の重要性について理解し、課題設定や自己評価 の視点について学ぶ。	テキスト該当箇所の読了(25分)	配布プリントの復習と要点のま とめ 及び実習課題の立案(20分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
第15回	まとめ(小田・渡邊) 実習に除く自己の姿勢を点検し、意欲を高めるとともに具 体的な準備や具体的な留意点の確認を行う	実習に向かう姿勢の確認を小集 団によるディスカッションを通じ て高める(25分)	実習課題の具体化と確認(20分)
担当教員	渡邊 堯宏、小田 進一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	授業への参加態度(20) 授業ごとの課題への取り組み内容(30) 計画案等の提出物(50)	

その他	0	
教科書		
Let's have a dialogue ! ワークシートで学ぶ保育所実習／同文書院 保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編		
参考文献		
保育実習・教育実習ハンドブック／北海道文教大学人間科学部こども発達学科編 保育所保育指針／フレーベル館		
履修条件・留意事項等		
保育者の立場で子どもに関わる体験的学習への準備であるので、明確な課題意識を持つての履修が望まれる		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(音楽表現1)(1組)				ナンバリング	3370
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 由恵、西野 美穂						
授業の位置づけ							
①こどもの保育・教育に関する専門科目「保育方法の理解」分野の科目であり、保育者・教育者としての基本的な知識と教育的能力、人間的コミュニケーション能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、学び続けることができる意欲・態度と感性を身につけるための科目である。 ②「保育内容総論」「基礎音楽」「表現Ⅰ 幼児音楽1・2」「幼児と表現」と関連し、「保育内容指導法(音楽表現2)」「教科教育法 音楽」「総合表現音楽Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
こどもは日常生活の中で、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。保育者がこどもの豊かな感性や表現を導き出すためには、保育者自身が豊かな表現者であることが望ましい。本時は、保育者がこどもの音楽表現において適切な援助をするために、音楽的側面におけるこどもの発達について理解を深め、こどもの“遊び”としての音楽を主体的に体験し、自らの感性を高め、そのうえで指導法について深く考察し、こどもの発達に準じた指導を身につけるための基礎を学ぶ。							
到達目標							
・幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育・教育の基本、領域「表現」のねらい、および内容について把握し、述べることができる ・こどもの発達について音楽的側面から知識を深め、発達に準じた音楽活動を考えることができる ・教材研究や楽譜を読み解くための基礎となる音楽通論を確認し、メロディーにスリーコードによる簡単な和音付けができる ・音や音楽によるさまざまな表現について学び、保育者として必要な基本的技能を身につけ、積極的に実践できる ・音楽表現における情報機器の活用や教材の工夫などについて、幼児の体験との関連を考慮した具体的な指導場面を考えることができる							
授業の方法							
①板書、プリント配布のほか、視聴覚メディアなどを使用する。 ②講義・演習(実技含む)の両形式を織り交ぜてすすめる。 ③グループワーク、ディスカッション、学生による発表のほか、学生相互の評価を行う。							
ICT活用							
本学の環境に適した、タブレット端末(あるいはスマートフォンなど)を用いた実践を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生にフィードバックし、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう指導する。

課題に対するフィードバックの方法

課題、あるいは小テストについてはコメントなどを記した後に返却し、実技においては随時行う。
模擬保育については、優れている点や改善点などをコメントするほか、学生による相互評価を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス～保育内容「表現」の概説 これからの授業の流れや留意点を説明し、感性と表現に関する領域「表現」について概説する	シラバスに沿って、本授業の内容と大まかな流れについて確認する。(20分)	これから学ぶ内容を自身が把握できるよう、テキスト全体を見通す。(25分)
担当教員			
第2回	こどもと音楽1:音・音楽の概念、領域「表現」のねらい、内容について 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をテキストに沿って学ぶ	テキスト巻末のとじ込み資料(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)に目を通し、P13～20を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	保育における領域「表現」の根幹について、テキストを通して個々の理解を深めるための復習をする。(15分)
担当教員			
第3回	こどもと音楽2:こどもの発達について 映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP21～28を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	こどもの発達や音楽表現の特性の変遷について、テキストを見直しまとめる。(最低15分)
担当教員			
第4回	こどもと音楽3:こどもの音楽表現、および評価について 映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP39～45、P50～52を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	生活や遊びの中でのこどもの音楽表現について、テキストを見直し、自身の経験も加えてまとめる。(15分)
担当教員			

第5回	こどもと音楽4: 情報機器及び教材の活用について 幼児の体験との関連を考慮した情報機器の活用や教材の工夫について、実践を通して学ぶ	テキストのP34～35を読むほか、 幼児の保育・教育現場のICT活用について調べる。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	保育・教育現場のICT活用について更に調べ、学習を深める。(15分)
担当教員			
第6回	コードネーム1: 音楽通論の確認、コードネームの基本について 主に鍵盤楽器で状況に即した演奏ができるように、コードネームの基礎について実践を通して学ぶ	読譜の基本となる記号や理論、音程と音階、調性と和音の復習、 テキストのP71～73を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(20分)	音楽の基礎知識を確認しながら、特にハ長調の音階と主要三和音について理解した上で、コードの展開とカデンツを繰り返し実践する。(25分)
担当教員			
第7回	コードネーム2: コードによる演奏実践、コードの作成 コードネームによる演奏実践と、メロディーにスリーコードを付ける方法について実践を通して学ぶ	スリーコードとカデンツを鍵盤楽器で練習、及び弾き歌いの課題を予習する。(15分)	こどもの歌に使用される頻度が高い「ハ長調、ト長調、ニ長調」について、スリーコード、カデンツを繰り返し実践する。(30分)
担当教員			
第8回	表現活動1: 言葉と歌唱表現 こどもの歌における言葉と歌唱表現について考察し、実践を通して学ぶ	テキストのP74～77、P81～83、P126～130を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	こどもと一緒に歌いたい歌を1曲選択し、曲が生まれた歴史や背景を調べる。(最低15分)
担当教員			
第9回	表現活動2: ピアノ伴奏法 楽曲に適した伴奏形の工夫、および旋律と伴奏が表現する音楽のイメージを探り、こどもの歌う心を引き出す伴奏法を実践・考察する	テキストのP67～70を読み、弾き歌いの課題を予習する。(20分)	「おべんとう」「せんせいとおともだち」について、どのような演奏がこどもの歌の伴奏として好ましいか考え、実践する。(25分)
担当教員			
第10回	表現活動3: 身体表現 リズム遊び、ボディーパーカッション、手遊び歌、わらべうたなどを取り上げ、グループワークによる教材研究に取り組み、保育者を想定した実践発表を行う	テキストのP89～96を読み、弾き歌いの課題を予習する。(25分)	手あそびなどを用いた幼稚園での実践を想定し、内容や構成を書き出す。(20分)
担当教員			

第11回	指導案の作成について 模擬保育を想定した指導案をグループワークで作成し、次回からの模擬保育に備える(情報機器等の活用、教材の工夫を含む)	テキストのP151～166を読む。指導案作成のための資料を準備し、幼稚園での実践を想定した内容を構成、書き出しておく。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	グループ討議を基に、模擬保育の自身の役割を理解し、シミュレーションする。(15分)
担当教員			
第12回	模擬保育1 作成した指導案をもとに模擬保育 (ICTの活用を含む) を体験し、指導法とともにこどもの遊びとしての音楽表現について考察する	テキストのP167～170を読む。受講生を幼児に見立てた模擬保育の事前準備・イメージ作りをする。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	模擬保育を通して見つけた課題について、レポートにまとめる準備をする。(最低15分)
担当教員			
第13回	模擬保育2、振り返り 前回に引き続き模擬保育 (ICTの活用を含む) を体験し、模擬保育全体の振り返りを行う 表現活動4: 音の響きを聴く1～ミュージックベルの導入 音の響きを聴き取るトレーニング、および協働による音楽づくりのためのグループワーク準備を行う	引き続き模擬保育の準備をする。拍子の数え方と音符・休符の長さについて再度復習する。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	模擬保育を通して見つけた課題について、レポートにまとめる。グループ活動における自身の役割について振り返る。(最低15分)
担当教員			
第14回	表現活動5: 音の響きを聴く2～ミュージックベルによる合奏 音の響きを聴き取り、協働による音楽づくりをグループワークにより深め、次回の発表に備える	楽曲の全体像をイメージし、心の中で拍子を感じながら楽譜を読み進める練習、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	仲間との音楽づくりのポイントをまとめ、グループ毎に発表の構成を考え、演奏内容が深まるよう準備を進める。(最低15分)
担当教員			
第15回	表現活動6: 音の響きを聴く3～ミュージックベルによる研究発表 聴き手を意識した研究発表をグループ毎に行い、ミュージックベルによる演奏表現の振り返りを行う こどもの音楽表現のまとめ	グループ毎に発表の内容・構成を考え、演奏の準備を進める。(15分)	アンサンブルを通して経験した音楽の楽しさと、これまでに学んだこどもの発達に準じた指導の基礎についてまとめる。(最低30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	受講姿勢(15%) 課題・小テスト(15%) 弾き歌いの確認課題(15%) 指導案・模擬保育(15%)	

その他	40	レポート課題
教科書 表現者を育てるための保育内容「音楽表現」一音遊びから音楽表現へー／石井玲子 編／教育情報出版 ※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、上記テキストの「資料」を用いる こどものうた200／小林美実 編／チャイルド本社		
参考文献 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 おんがくのしくみ／今川恭子 他／教育芸術社 その他、授業の中で適宜配布、紹介する		
履修条件・留意事項等 五線ノートを必ず用意すること(1年次使用のノートでよい)。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(音楽表現1)(2組)				ナンバリング	3370
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 由恵、西野 美穂						
授業の位置づけ							
①こどもの保育・教育に関する専門科目「保育方法の理解」分野の科目であり、保育者・教育者としての基本的な知識と教育的能力、人間的コミュニケーション能力、より適切な保育・教育のあり方を考え続け、学び続けることができる意欲・態度と感性を身につけるための科目である。 ②「保育内容総論」「基礎音楽」「表現Ⅰ 幼児音楽1・2」「幼児と表現」と関連し、「保育内容指導法(音楽表現2)」「教科教育法 音楽」「総合表現音楽Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる。							
授業の概要							
こどもは日常生活の中で、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。保育者がこどもの豊かな感性や表現を導き出すためには、保育者自身が豊かな表現者であることが望ましい。本時は、保育者がこどもの音楽表現において適切な援助をするために、音楽的側面におけるこどもの発達について理解を深め、こどもの“遊び”としての音楽を主体的に体験し、自らの感性を高め、そのうえで指導法について深く考察し、こどもの発達に準じた指導を身につけるための基礎を学ぶ。							
到達目標							
・幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育・教育の基本、領域「表現」のねらい、および内容について把握し、述べることができる ・こどもの発達について音楽的側面から知識を深め、発達に準じた音楽活動を考えることができる ・教材研究や楽譜を読み解くための基礎となる音楽通論を確認し、メロディーにスリーコードによる簡単な和音付けができる ・音や音楽によるさまざまな表現について学び、保育者として必要な基本的技能を身につけ、積極的に実践できる ・音楽表現における情報機器の活用や教材の工夫などについて、幼児の体験との関連を考慮した具体的な指導場面を考えることができる							
授業の方法							
①板書、プリント配布のほか、視聴覚メディアなどを使用する。 ②講義・演習(実技含む)の両形式を織り交ぜてすすめる。 ③グループワーク、ディスカッション、学生による発表のほか、学生相互の評価を行う。							
ICT活用							
本学の環境に適した、タブレット端末(あるいはスマートフォンなど)を用いた実践を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校講師としての勤務、保育士養成大学、その他教養科目としての音楽やピアノ音楽の教授経験、これまで継続している音楽表現活動などを活かし、音楽の持つ力や魅力、可能性について学生にフィードバックし、学生自身が興味をもって音楽について思考・感受できるよう指導する。

課題に対するフィードバックの方法

課題、あるいは小テストについてはコメントなどを記した後に返却し、実技においては随時行う。
模擬保育については、優れている点や改善点などをコメントするほか、学生による相互評価を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス～保育内容「表現」の概説 これからの授業の流れや留意点を説明し、感性と表現に関する領域「表現」について概説する	シラバスに沿って、本授業の内容と大まかな流れについて確認する。(20分)	これから学ぶ内容を自身が把握できるよう、テキスト全体を見通す。(25分)
担当教員			
第2回	こどもと音楽1:音・音楽の概念、領域「表現」のねらい、内容について 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をテキストに沿って学ぶ	テキスト巻末のとじ込み資料(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)に目を通し、P13～20を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	保育における領域「表現」の根幹について、テキストを通して個々の理解を深めるための復習をする。(15分)
担当教員			
第3回	こどもと音楽2:こどもの発達について 映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP21～28を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	こどもの発達や音楽表現の特性の変遷について、テキストを見直しまとめる。(最低15分)
担当教員			
第4回	こどもと音楽3:こどもの音楽表現、および評価について 映像資料などを用いながら、テキストに沿って学ぶ	テキストのP39～45、P50～52を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	生活や遊びの中でのこどもの音楽表現について、テキストを見直し、自身の経験も加えてまとめる。(15分)
担当教員			

第5回	こどもと音楽4: 情報機器及び教材の活用について 幼児の体験との関連を考慮した情報機器の活用や教材の工夫について、実践を通して学ぶ	テキストのP34～35を読むほか、 幼児の保育・教育現場のICT活用について調べる。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	保育・教育現場のICT活用について更に調べ、学習を深める。(15分)
担当教員			
第6回	コードネーム1: 音楽通論の確認、コードネームの基本について 主に鍵盤楽器で状況に即した演奏ができるように、コードネームの基礎について実践を通して学ぶ	読譜の基本となる記号や理論、 音程と音階、調性と和音の復習、 テキストのP71～73を読むこと、 及び弾き歌いの課題を予習する。(20分)	音楽の基礎知識を確認しながら、 特にハ長調の音階と主要三和音について理解した上で、 コードの展開とカデンツを繰り返し実践する。(25分)
担当教員			
第7回	コードネーム2: コードによる演奏実践、コードの作成 コードネームによる演奏実践と、メロディーにスリーコードを付ける方法について実践を通して学ぶ	スリーコードとカデンツを鍵盤楽器で練習、及び弾き歌いの課題を予習する。(15分)	こどもの歌に使用される頻度が高い「ハ長調、ト長調、ニ長調」について、スリーコード、カデンツを繰り返し実践する。(30分)
担当教員			
第8回	表現活動1: 言葉と歌唱表現 こどもの歌における言葉と歌唱表現について考察し、実践を通して学ぶ	テキストのP74～77、P81～83、P126～130を読むこと、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	こどもと一緒に歌いたい歌を1曲選択し、曲が生まれた歴史や背景を調べる。(最低15分)
担当教員			
第9回	表現活動2: ピアノ伴奏法 楽曲に適した伴奏形の工夫、および旋律と伴奏が表現する音楽のイメージを探り、こどもの歌う心を引き出す伴奏法を実践・考察する	テキストのP67～70を読み、弾き歌いの課題を予習する。(20分)	「おべんとう」「せんせいとおともだち」について、どのような演奏がこどもの歌の伴奏として好ましいか考え、実践する。(25分)
担当教員			
第10回	表現活動3: 身体表現 リズム遊び、ボディーパーカッション、手遊び歌、わらべうたなどを取り上げ、グループワークによる教材研究に取り組み、保育者を想定した実践発表を行う	テキストのP89～96を読み、弾き歌いの課題を予習する。(25分)	手あそびなどを用いた幼稚園での実践を想定し、内容や構成を書き出す。(20分)
担当教員			

第11回	指導案の作成について 模擬保育を想定した指導案をグループワークで作成し、次回からの模擬保育に備える(情報機器等の活用、教材の工夫を含む)	テキストのP151～166を読む。指導案作成のための資料を準備し、幼稚園での実践を想定した内容を構成、書き出しておく。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	グループ討議を基に、模擬保育の自身の役割を理解し、シミュレーションする。(15分)
担当教員			
第12回	模擬保育1 作成した指導案をもとに模擬保育(ICTの活用を含む)を体験し、指導法とともにこどもの遊びとしての音楽表現について考察する	テキストのP167～170を読む。受講生を幼児に見立てた模擬保育の事前準備・イメージ作りをする。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	模擬保育を通して見つけた課題について、レポートにまとめる準備をする。(最低15分)
担当教員			
第13回	模擬保育2、振り返り 前回に引き続き模擬保育(ICTの活用を含む)を体験し、模擬保育全体の振り返りを行う 表現活動4: 音の響きを聴く1～ミュージックベルの導入 音の響きを聴き取るトレーニング、および協働による音楽づくりのためのグループワーク準備を行う	引き続き模擬保育の準備をする。拍子の数え方と音符・休符の長さについて再度復習する。及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	模擬保育を通して見つけた課題について、レポートにまとめる。グループ活動における自身の役割について振り返る。(最低15分)
担当教員			
第14回	表現活動5: 音の響きを聴く2～ミュージックベルによる合奏 音の響きを聴き取り、協働による音楽づくりをグループワークにより深め、次回の発表に備える	楽曲の全体像をイメージし、心の中で拍子を感じながら楽譜を読み進める練習、及び弾き歌いの課題を予習する。(30分)	仲間との音楽づくりのポイントをまとめ、グループ毎に発表の構成を考え、演奏内容が深まるよう準備を進める。(最低15分)
担当教員			
第15回	表現活動6: 音の響きを聴く3～ミュージックベルによる研究発表 聴き手を意識した研究発表をグループ毎に行い、ミュージックベルによる演奏表現の振り返りを行う こどもの音楽表現のまとめ	グループ毎に発表の内容・構成を考え、演奏の準備を進める。(15分)	アンサンブルを通して経験した音楽の楽しさと、これまでに学んだこどもの発達に準じた指導の基礎についてまとめる。(最低30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	受講姿勢(15%) 課題・小テスト(15%) 弾き歌いの確認課題(15%) 指導案・模擬保育(15%)	

その他	40	レポート課題
教科書 表現者を育てるための保育内容「音楽表現」一音遊びから音楽表現へー／石井玲子 編／教育情報出版 ※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、上記テキストの「資料」を用いる こどものうた200／小林美実 編／チャイルド本社		
参考文献 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 おんがくのしくみ／今川恭子 他／教育芸術社 その他、授業の中で適宜配布、紹介する		
履修条件・留意事項等 五線ノートを必ず用意すること(1年次使用のノートでよい)。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(健康1)(1組)				ナンバリング	3354
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。「保育内容総論」と関連。							
授業の概要							
「健康」という言葉は一般的であり、万人が目標とする状況ではあるが、実際に自分が非常に健康だと思っている人は少ない。なぜ少ないのか。健康とは何か、何をもって健康とするのか、健康の定義とは何かを考え、健康を維持・増進していくためには何が必要か、乳幼児期から取り組むべき事・注意することは何かを学ぶ。							
到達目標							
①こどもの発育・発達、身体機能について理解できる。 ②保育所・幼稚園で考えられる「健康」とは何かを理解できる。 ③運動機能・能力の発達を理解し、様々な運動遊びの種類や工夫の仕方を学び、実践することができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。 グループワークとグループ発表を行う。 フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。							
ICT活用							
調査・発表、指導案作成・模擬保育において効果的に活用するように工夫する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テストの解答及び解説
レポートのコメント記入後返却

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	健康についての認識 自分が考える健康観・他人が思う健康観を理解する	自分の健康観を考えておくこと(20分)	発表された他人の健康観をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第2回	「健康」の定義 「健康」とは何か、何をもって「健康」とするのかを理解する	今までの健康の定義を調べておくこと(20分)	今までの健康の定義と現在の健康の定義の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第3回	保育所保育指針、幼稚園教育要領 それぞれの違いや特徴を学ぶ	保育所保育指針、幼稚園教育要領を事前に読んでおくこと(20分)	保育所保育指針・幼稚園教育要領について、小テストを実施するので復習しておくこと(25分)
担当教員			
第4回	幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針、幼稚園教育要領との違いや特徴を理解する	幼保連携型認定こども園の特徴を調べておくこと(20分)	幼保連携型認定こども園と保育園・幼稚園の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			

第5回	領域「健康」について 「ねらい」から考える	領域「健康」の「ねらい」を読んで おくこと(20分)	領域「健康」の「ねらい」を再度 読み理解すること(25分)
担当教員			
第6回	領域「健康」について 「内容」から考える	領域「健康」の「内容」を読んで おくこと(20分)	領域「健康」の「内容」を再度読 み理解すること(25分)
担当教員			
第7回	発育と発達について 人間の特徴、発育・発達を規定する要因、発育・発達の原 理、特質を理解する	発育と発達の違いについて調べ ておくこと(20分)	発育と発達の違いについてよく 理解しておくこと(25分)
担当教員			
第8回	形態の発育について① 体重、身長、発育評価について学ぶ	こどもの平均身長・平均体重は どれくらいかを調べておくこと(20 分)	年齢別の平均身長・平均体重を まとめておくこと(25分)
担当教員			
第9回	形態の発育について② その他の形態の発育について学ぶ グループによる討議を行い、その要旨を代表が発表する。	「その他」にはどのようなものがあ るかを調べておくこと(20分)	形態の発育についての小テスト を実施するので復習をしておく こと(25分)
担当教員			
第10回	機能の発達について① 循環機能、呼吸機能の働きを学ぶ	循環機能、呼吸機能にはどのよ うなものがあるか調べておくこと (20分)	年齢別の発達状況をまとめてお くこと(25分)
担当教員			

第11回	機能の発達について② 生理機能の発達について学ぶ	生理機能とは何かを調べておくこと(20分)	機能の発達について小テストを実施するので復習しておくこと(25分)
担当教員			
第12回	運動機能の発達について 神経機能と運動機能との関係を学ぶ	運動機能にはどのようなものがあるかを調べておくこと(20分)	神経機能と運動機能との関係をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第13回	運動能力について 基礎運動能力と反射の関係を学ぶ	基礎運動能力とはどのようなものかを調べておくこと(20分)	年齢による基礎運動能力の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第14回	運動あそびの実際 様々な運動能力の関係と実際を学ぶ	運動遊びにはどのようなものがあるかを調べておくこと(20分)	年齢に適した運動遊びをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第15回	まとめ 「健康Ⅰ」のまとめと復習	前期14回分の資料に目を通しておくこと(20分)	定期試験に向けて学習しておくこと(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	平常点・小テスト等	

その他	30	レポート等
教科書		
適宜プリントを配布します		
参考文献		
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針		
履修条件・留意事項等		
講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。 講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(健康1)(2組)				ナンバリング	3354
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。「保育内容総論」と関連。							
授業の概要							
「健康」という言葉は一般的であり、万人が目標とする状況ではあるが、実際に自分が非常に健康だと思っている人は少ない。なぜ少ないのか。健康とは何か、何をもって健康とするのか、健康の定義とは何かを考え、健康を維持・増進していくためには何が必要か、乳幼児期から取り組むべき事・注意することは何かを学ぶ。							
到達目標							
①こどもの発育・発達、身体機能について理解できる。 ②保育所・幼稚園で考えられる「健康」とは何かを理解できる。 ③運動機能・能力の発達を理解し、様々な運動遊びの種類や工夫の仕方を学び、実践することができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。 グループワークとグループ発表を行う。 フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。							
ICT活用							
調査・発表、指導案作成・模擬保育において効果的に活用するように工夫する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テストの解答及び解説
レポートのコメント記入後返却

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	健康についての認識 自分が考える健康観・他人が思う健康観を理解する	自分の健康観を考えておくこと(20分)	発表された他人の健康観をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第2回	「健康」の定義 「健康」とは何か、何をもって「健康」とするのかを理解する	今までの健康の定義を調べておくこと(20分)	今までの健康の定義と現在の健康の定義の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第3回	保育所保育指針、幼稚園教育要領 それぞれの違いや特徴を学ぶ	保育所保育指針、幼稚園教育要領を事前に読んでおくこと(20分)	保育所保育指針・幼稚園教育要領について、小テストを実施するので復習しておくこと(25分)
担当教員			
第4回	幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針、幼稚園教育要領との違いや特徴を理解する	幼保連携型認定こども園の特徴を調べておくこと(20分)	幼保連携型認定こども園と保育園・幼稚園の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			

第5回	領域「健康」について 「ねらい」から考える	領域「健康」の「ねらい」を読んで おくこと(20分)	領域「健康」の「ねらい」を再度 読み理解すること(25分)
担当教員			
第6回	領域「健康」について 「内容」から考える	領域「健康」の「内容」を読んで おくこと(20分)	領域「健康」の「内容」を再度読 み理解すること(25分)
担当教員			
第7回	発育と発達について 人間の特徴、発育・発達を規定する要因、発育・発達の原 理、特質を理解する	発育と発達の違いについて調べ ておくこと(20分)	発育と発達の違いについてよく 理解しておくこと(25分)
担当教員			
第8回	形態の発育について① 体重、身長、発育評価について学ぶ	こどもの平均身長・平均体重は どれくらいかを調べておくこと(20 分)	年齢別の平均身長・平均体重を まとめておくこと(25分)
担当教員			
第9回	形態の発育について② その他の形態の発育について学ぶ グループによる討議を行い、その要旨を代表が発表する。	「その他」にはどのようなものがあ るかを調べておくこと(20分)	形態の発育についての小テスト を実施するので復習をしておく こと(25分)
担当教員			
第10回	機能の発達について① 循環機能、呼吸機能の働きを学ぶ	循環機能、呼吸機能にはどのよ うなものがあるか調べておくこと (20分)	年齢別の発達状況をまとめてお くこと(25分)
担当教員			

第11回	機能の発達について② 生理機能の発達について学ぶ	生理機能とは何かを調べておくこと(20分)	機能の発達について小テストを実施するので復習しておくこと(25分)
担当教員			
第12回	運動機能の発達について 神経機能と運動機能との関係を学ぶ	運動機能にはどのようなものがあるかを調べておくこと(20分)	神経機能と運動機能との関係をまとめておくこと(25分)
担当教員			
第13回	運動能力について 基礎運動能力と反射の関係を学ぶ	基礎運動能力とはどのようなものかを調べておくこと(20分)	年齢による基礎運動能力の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第14回	運動あそびの実際 様々な運動能力の関係と実際を学ぶ	運動遊びにはどのようなものがあるかを調べておくこと(20分)	年齢に適した運動遊びをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第15回	まとめ 「健康Ⅰ」のまとめと復習	前期14回分の資料に目を通しておくこと(20分)	定期試験に向けて学習しておくこと(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	平常点・小テスト等	

その他	30	レポート等
教科書		
適宜プリントを配布します		
参考文献		
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針		
履修条件・留意事項等		
講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫ノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。 講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(言葉1)(1組)				ナンバリング	3366
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。また、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてや、領域「言葉」との関連について学んでいく科目である。 「保育内容指導法(言葉2)」の基礎となる。							
授業の概要							
幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてふれながら、教育・保育を構想する方法を身につける。							
到達目標							
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して教育・保育を構想する方法を身に付ける。以上が具体的に達成されることが到達目標である。子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義について、そして、領域「言葉」との関連について学ぶことがテーマとなる。							
授業の方法							
テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。 理解度確認テストを実施する。 今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施する。
 次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど) 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて 渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	子どものことばと育ち(1)一言葉の育ちを支えるものー①人に対する関心について理解する。②コミュニケーションへの欲求について理解する。③人の声に対する感受性について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「(1)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	子どものことばと育ち(2)一言葉の育ちを支えるものー①大好きな人の存在と交流ー伝えたい人がいるということーについて理解する。②伝えたいことがあるということー内面世界の表現、生活経験の拡張、ことばと表現ーについて理解する。③ことばを子どもの育ち全体で捉えることについて理解する。	上記、テキストの「(2)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	子どものことばと育ち(3)ーことばはどのような機能を持っているかー①コミュニケーションの道具としての機能について理解する・思考の道具としての機能について理解する。②行動調整機能について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。	上記、テキストの「(3)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	子どものことばと育ち(4)ーことばはどのような機能を持っているかー ①ことばと保育について理解する。②日常保育場面でのことばについて理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解し、領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解した上で、保育の構想に活用することを学ぶ。	上記、テキストの「(4)～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	領域「言葉」のねらいと内容 ①幼稚園教育要領領域「言葉」についての基本を理解する。②保育所保育指針領域「言葉」についての基本を理解する。③幼保連携型認定こども園教育・保育要領領域「言葉」についての基本を理解する。④生後からおおむね2歳未満の発達過程について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「領域「言葉」のねらいと内容」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	領域「言葉」と他の領域との関係 ①領域の捉え方と領域「言葉」の関係の基本を理解する。②おおむね2歳からおおむね6歳までの発達過程について理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育における評価の考え方を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「領域「言葉」と他の領域～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	乳幼児期のことばの発達 ①乳幼児期の基本を理解する。②出生から6歳以降までの発達の段階の流れを把握する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。また、領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	上記、テキストの「乳幼児期のことばの発達」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(1) ①泣き声から音声言語の出現を理解する。②指差しと初語について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「～(1)」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(2) ①幼児期前期の発達段階について理解する。②一語文について理解する。③二語文について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「～(2)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(3) ①幼児期前期の発達段階について理解する。②語彙の増加について理解する。③文構造の複雑化と会話の増大について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。	上記、テキストの「～(3)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(4) ①幼児期後半の発達段階について理解する。②会話のいっそうの進展について理解する。③ことばの質的な深まりについて理解する。そして、以上を通して、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。	上記、テキストの「～(4)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	領域「言葉」と指導計画(1) 指導案作成及び模擬保育を行う。①指導計画について理解する。②指導計画を記入する際の留意点について理解し、指導案作成及び模擬保育を行う。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	領域「言葉」と指導計画(2) 指導案作成及び模擬保育を行う。①指導計画について理解する。②指導計画を記入する際の留意点について理解し、指導案作成及び模擬保育を行う。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題などに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ'20 保育内容・言葉』岸井勇雄他監修, 同文書院。 『新版 遊びの指導』同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(言葉1)(3組)				ナンバリング	3366
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。また、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてや、領域「言葉」との関連について学んでいく科目である。 「保育内容指導法(言葉2)」の基礎となる。							
授業の概要							
幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてふれながら、教育・保育を構想する方法を身につける。							
到達目標							
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して教育・保育を構想する方法を身に付ける。以上が具体的に達成されることが到達目標である。子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義について、そして、領域「言葉」との関連について学ぶことがテーマとなる。							
授業の方法							
テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。 理解度確認テストを実施する。 今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施する。
 次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど) 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	子どものことばと育ち(1)一言葉の育ちを支えるものー①人に対する関心について理解する。②コミュニケーションへの欲求について理解する。③人の声に対する感受性について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「(1)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	子どものことばと育ち(2)一言葉の育ちを支えるものー①大好きな人の存在と交流ー伝えたい人がいるということーについて理解する。②伝えたいことがあるということー内面世界の表現、生活経験の拡張、ことばと表現ーについて理解する。③ことばを子どもの育ち全体で捉えることについて理解する。	上記、テキストの「(2)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	子どものことばと育ち(3)ーことばはどのような機能を持っているかー①コミュニケーションの道具としての機能について理解する・思考の道具としての機能について理解する。②行動調整機能について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。	上記、テキストの「(3)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	子どものことばと育ち(4)ーことばはどのような機能を持っているかー ①ことばと保育について理解する。②日常保育場面でのことばについて理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解し、領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解した上で、保育の構想に活用することを学ぶ。	上記、テキストの「(4)～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	領域「言葉」のねらいと内容 ①幼稚園教育要領領域「言葉」についての基本を理解する。②保育所保育指針領域「言葉」についての基本を理解する。③幼保連携型認定こども園教育・保育要領領域「言葉」についての基本を理解する。④生後からおおむね2歳未満の発達過程について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「領域「言葉」のねらいと内容」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	領域「言葉」と他の領域との関係 ①領域の捉え方と領域「言葉」の関係の基本を理解する。②おおむね2歳からおおむね6歳までの発達過程について理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育における評価の考え方を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「領域「言葉」と他の領域～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	乳幼児期のことばの発達 ①乳幼児期の基本を理解する。②出生から6歳以降までの発達の段階の流れを把握する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。また、領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	上記、テキストの「乳幼児期のことばの発達」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(1) ①泣き声から音声言語の出現を理解する。②指差しと初語について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「～(1)」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(2) ①幼児期前期の発達段階について理解する。②一語文について理解する。③二語文について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「～(2)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(3) ①幼児期前期の発達段階について理解する。②語彙の増加について理解する。③文構造の複雑化と会話の増大について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。	上記、テキストの「～(3)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(4) ①幼児期後半の発達段階について理解する。②会話のいっそうの進展について理解する。③ことばの質的な深まりについて理解する。そして、以上を通して、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。	上記、テキストの「～(4)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	領域「言葉」と指導計画(1) 指導案作成及び模擬保育を行う。①指導計画について理解する。②指導計画を記入する際の留意点について理解し、指導案作成及び模擬保育を行う。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	領域「言葉」と指導計画(2) 指導案作成及び模擬保育を行う。①指導計画について理解する。②指導計画を記入する際の留意点について理解し、指導案作成及び模擬保育を行う。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題などに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ'20 保育内容・言葉』岸井勇雄他監修, 同文書院。 『新版 遊びの指導』同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(言葉1)(2組)				ナンバリング	3366
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。また、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてや、領域「言葉」との関連について学んでいく科目である。 「保育内容指導法(言葉2)」の基礎となる。							
授業の概要							
幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して、子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義についてふれながら、教育・保育を構想する方法を身につける。							
到達目標							
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された、教育・保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して教育・保育を構想する方法を身に付ける。以上が具体的に達成されることが到達目標である。子どもの言語獲得の過程と、子どもにとって言葉をもつことの意義について、そして、領域「言葉」との関連について学ぶことがテーマとなる。							
授業の方法							
テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。 理解度確認テストを実施する。 今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施する。
 次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど) 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らない。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	子どものことばと育ち(1)一言葉の育ちを支えるものー①人に対する関心について理解する。②コミュニケーションへの欲求について理解する。③人の声に対する感受性について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「(1)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	子どものことばと育ち(2)一言葉の育ちを支えるものー①大好きな人の存在と交流ー伝えたい人がいるということーについて理解する。②伝えたいことがあるということー内面世界の表現、生活経験の拡張、ことばと表現ーについて理解する。③ことばを子どもの育ち全体で捉えることについて理解する。	上記、テキストの「(2)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	子どものことばと育ち(3)ーことばはどのような機能を持っているかー①コミュニケーションの道具としての機能について理解する・思考の道具としての機能について理解する。②行動調整機能について理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。	上記、テキストの「(3)～」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	子どものことばと育ち(4)ーことばはどのような機能を持っているかー ①ことばと保育について理解する。②日常保育場面でのことばについて理解する。そして、以上を通して、幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解し、領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解した上で、保育の構想に活用することを学ぶ。	上記、テキストの「(4)～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	領域「言葉」のねらいと内容 ①幼稚園教育要領領域「言葉」についての基本を理解する。②保育所保育指針領域「言葉」についての基本を理解する。③幼保連携型認定こども園教育・保育要領領域「言葉」についての基本を理解する。④生後からおおむね2歳未満の発達過程について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。	上記、テキストの「領域「言葉」のねらいと内容」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	領域「言葉」と他の領域との関係 ①領域の捉え方と領域「言葉」の関係の基本を理解する。②おおむね2歳からおおむね6歳までの発達過程について理解する。そして、以上を通して、幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育における評価の考え方を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「領域「言葉」と他の領域～」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	乳幼児期のことばの発達 ①乳幼児期の基本を理解する。②出生から6歳以降までの発達の段階の流れを把握する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。また、領域「言葉」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	上記、テキストの「乳幼児期のことばの発達」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(1) ①泣き声から音声言語の出現を理解する。②指差しと初語について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「～(1)」の①～②について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(2) ①幼児期前期の発達段階について理解する。②一語文について理解する。③二語文について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。テキストの他、ワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用し、具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「～(2)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(3) ①幼児期前期の発達段階について理解する。②語彙の増加について理解する。③文構造の複雑化と会話の増大について理解する。そして、以上を通して、領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。	上記、テキストの「～(3)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	ことばはどのように育つかーことばの発達ー(4) ①幼児期後半の発達段階について理解する。②会話のいっそうの進展について理解する。③ことばの質的な深まりについて理解する。そして、以上を通して、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。	上記、テキストの「～(4)」の①～③について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	領域「言葉」と指導計画(1) 指導案作成及び模擬保育を行う。①指導計画について理解する。②指導計画を記入する際の留意点について理解し、指導案作成及び模擬保育を行う。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	領域「言葉」と指導計画(2) 指導案作成及び模擬保育を行う。①指導計画について理解する。②指導計画を記入する際の留意点について理解し、指導案作成及び模擬保育を行う。そして、以上を通して、指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをして、保育を改善する視点を身に付ける。	テキストについて、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題などに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ'20 保育内容・言葉』岸井勇雄他監修, 同文書院。 『新版 遊びの指導』同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(人間関係1)(2組)				ナンバリング	3358
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がい者を有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連する科目である。人間関係の発達の様相と、そこで必要とされる周囲の人々の援助的関わりについて学んでいく科目として「保育内容指導法(人間関係2)」の基礎となる。							
授業の概要							
幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。人間は、「社会的な動物」として、生れ落ちたときから人間関係のなかに生きている。子どもは自分を取り巻くさまざまな人間関係のなかでいろいろなものを学び、生きていく。人は人間関係なしでは生きていけない。人間関係の意義について学び、教育・保育を構想する方法を身につける。							
到達目標							
幼稚園教育要領において 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て人とのかかわる力を養う」ことができる。そのようなこどもを育成するためには、保育者は何をすべきかを理解することが必要である。そして、その上で、実際に行動・実践できることを到達目標とする。							
授業の方法							
テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。基本的に、コメントシートを基にした、受講者の意見交流や学びのフィードバックを行い、双方向の学びを目指す。特に12回は、保育の中の人間関係のまとめとして、グループ学習を行う。 理解度確認テストを実施する。 今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど) 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らないこと。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	領域「人間関係」とは ①幼稚園及び保育所等の保育の計画について理解する。 ②カリキュラムの特徴について理解する。③5領域について理解する。④領域「人間関係」について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの領域「人間関係とは」の①～④について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	保育(教育)の基本と人間関係 ①個人内の能力における発達要求の矛盾と人間関係について理解する。②個人間の発達要求の矛盾と人間関係について理解する。③社会的矛盾について理解する。④幼稚園教育において幼児に身につけさせたい人間関係について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「保育(教育)の基本と人間関係」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	乳幼児の発達と人間関係 ①人的環境及び物的環境について理解する。②乳幼児を取り巻く人間関係と「人とのかかわり」について理解する。③「人とのかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。④「人の世界」への関心－視覚・聴覚の発達－について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②笑顔と笑顔の相互作用－社会的微笑の意味－について理解する。③生後6か月までの乳幼児の遊びについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②前言語期から言語期への発達過程について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②愛着の発達について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－幼児期－について理解する。②「つもり」の主体として外界とかかわることについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	乳幼児の発達と人間関係 ①言葉によるコミュニケーションについて理解する。②自我の芽生えと自己主張の始まりについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	乳幼児の発達と人間関係 ①愛着の対象の広がりについて理解する。②トラブルと仲間関係について理解する。③協同的学びと自己調整について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	幼稚園及び認定こども園における領域人間関係 ①幼児期の発達課題と領域「人間関係」について理解する。 ②領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い(指導案の作成)について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「教育における領域人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	保育所及び認定こども園における領域人間関係 ①乳幼児期の発達課題と領域「人間関係」について理解する。 ②領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い(指導案の作成)について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「保育における領域人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	将来を見通した統合(教育)保育の充実を考える ①統合(教育)保育の意義と課題を理解する。②インテグレーションとインクルージョンを理解する。③障がいのある子どもの指導計画における留意点について理解する。	上記、テキストの「将来を見通した統合(教育)保育～」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	人間関係を踏まえた幼稚園(保育所)のあり方 ①教育(保育)目的、活動、形態、環境を理解する。②適切な幼稚園(保育所)のあり方を理解する。③幼児期の教育(保育)を計画的に行ううえでの幼児・保育の実態把握の方法について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「人間関係を踏まえた～」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ17 保育内容・人間関係』岸井他監修, 同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。 『新版 遊びの指導』同文書院。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(人間関係1)(3組)				ナンバリング	3358
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連する科目である。人間関係の発達の様相と、そこで必要とされる周囲の人々の援助的関わりについて学んでいく科目として「保育内容指導法(人間関係2)」の基礎となる。							
授業の概要							
幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。人間は、「社会的な動物」として、生れ落ちたときから人間関係のなかに生きている。子どもは自分を取り巻くさまざまな人間関係のなかでいろいろなものを学び、生きていく。人は人間関係なしでは生きていけない。人間関係の意義について学び、教育・保育を構想する方法を身につける。							
到達目標							
幼稚園教育要領において 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て人とのかかわる力を養う」ことができる。そのようなこどもを育成するためには、保育者は何をすべきかを理解することが必要である。そして、その上で、実際に行動・実践できることを到達目標とする。							
授業の方法							
テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。基本的に、コメントシートを基にした、受講者の意見交流や学びのフィードバックを行い、双方向の学びを目指す。特に12回は、保育の中の人間関係のまとめとして、グループ学習を行う。 理解度確認テストを実施する。 今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど) 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らないこと。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	領域「人間関係」とは ①幼稚園及び保育所等の保育の計画について理解する。 ②カリキュラムの特徴について理解する。③5領域について理解する。④領域「人間関係」について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの領域「人間関係とは」の①～④について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	保育(教育)の基本と人間関係 ①個人内の能力における発達要求の矛盾と人間関係について理解する。②個人間の発達要求の矛盾と人間関係について理解する。③社会的矛盾について理解する。④幼稚園教育において幼児に身につけさせたい人間関係について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「保育(教育)の基本と人間関係」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	乳幼児の発達と人間関係 ①人的環境及び物的環境について理解する。②乳幼児を取り巻く人間関係と「人とのかかわり」について理解する。③「人とのかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。④「人の世界」への関心－視覚・聴覚の発達－について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②笑顔と笑顔の相互作用－社会的微笑の意味－について理解する。③生後6か月までの乳幼児の遊びについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②前言語期から言語期への発達過程について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②愛着の発達について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－幼児期－について理解する。②「つもり」の主体として外界とかかわることについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	乳幼児の発達と人間関係 ①言葉によるコミュニケーションについて理解する。②自我の芽生えと自己主張の始まりについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	乳幼児の発達と人間関係 ①愛着の対象の広がりについて理解する。②トラブルと仲間関係について理解する。③協同的学びと自己調整について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	幼稚園及び認定こども園における領域人間関係 ①幼児期の発達課題と領域「人間関係」について理解する。 ②領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い(指導案の作成)について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「教育における領域人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	保育所及び認定こども園における領域人間関係 ①乳幼児期の発達課題と領域「人間関係」について理解する。 ②領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い(指導案の作成)について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「保育における領域人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	将来を見通した統合(教育)保育の充実を考える ①統合(教育)保育の意義と課題を理解する。②インテグレーションとインクルージョンを理解する。③障がいのある子どもの指導計画における留意点について理解する。	上記、テキストの「将来を見通した統合(教育)保育～」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	人間関係を踏まえた幼稚園(保育所)のあり方 ①教育(保育)目的、活動、形態、環境を理解する。②適切な幼稚園(保育所)のあり方を理解する。③幼児期の教育(保育)を計画的に行ううえでの幼児・保育の実態把握の方法について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「人間関係を踏まえた～」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ17 保育内容・人間関係』岸井他監修, 同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。 『新版 遊びの指導』同文書院。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(人間関係1)(1組)				ナンバリング	3358
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と関連がある科目である。人間関係の発達の様相と、そこで必要とされる周囲の人々の援助的関わりについて学んでいく科目として「保育内容指導法(人間関係2)」の基礎となる。							
授業の概要							
幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園教育・保育において、育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。人間は、「社会的な動物」として、生れ落ちたときから人間関係のなかに生きている。子どもは自分を取り巻くさまざまな人間関係のなかでいろいろなものを学び、生きていく。人は人間関係なしでは生きていけない。人間関係の意義について学び、教育・保育を構想する方法を身につける。							
到達目標							
幼稚園教育要領において 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て人とのかかわる力を養う」ことができる。そのようなこどもを育成するためには、保育者は何をすべきかを理解することが必要である。そして、その上で、実際に行動・実践できることを到達目標とする。							
授業の方法							
テキストと配布印刷物を用いて演習形式ですすめる。基本的に、コメントシートを基にした、受講者の意見交流や学びのフィードバックを行い、双方向の学びを目指す。特に12回は、保育の中の人間関係のまとめとして、グループ学習を行う。 理解度確認テストを実施する。 今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど) 渡された資料を理解し、次回からの授業準備などを怠らないこと。	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	領域「人間関係」とは ①幼稚園及び保育所等の保育の計画について理解する。 ②カリキュラムの特徴について理解する。③5領域について理解する。④領域「人間関係」について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの領域「人間関係とは」の①～④について、事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	保育(教育)の基本と人間関係 ①個人内の能力における発達要求の矛盾と人間関係について理解する。②個人間の発達要求の矛盾と人間関係について理解する。③社会的矛盾について理解する。④幼稚園教育において幼児に身につけさせたい人間関係について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「保育(教育)の基本と人間関係」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	乳幼児の発達と人間関係 ①人的環境及び物的環境について理解する。②乳幼児を取り巻く人間関係と「人とのかかわり」について理解する。③「人とのかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。④「人の世界」への関心－視覚・聴覚の発達－について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～④を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②笑顔と笑顔の相互作用－社会的微笑の意味－について理解する。③生後6か月までの乳幼児の遊びについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②前言語期から言語期への発達過程について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－乳児期－について理解する。②愛着の発達について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	乳幼児の発達と人間関係 ①「人とかかわり」の発達過程－幼児期－について理解する。②「つもり」の主体として外界とかかわることについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第9回	乳幼児の発達と人間関係 ①言葉によるコミュニケーションについて理解する。②自我の芽生えと自己主張の始まりについて理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第10回	乳幼児の発達と人間関係 ①愛着の対象の広がりについて理解する。②トラブルと仲間関係について理解する。③協同的学びと自己調整について理解する。テキストの他、ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「乳幼児の発達と人間関係」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第11回	幼稚園及び認定こども園における領域人間関係 ①幼児期の発達課題と領域「人間関係」について理解する。 ②領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い(指導案の作成)について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「教育における領域人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第12回	保育所及び認定こども園における領域人間関係 ①乳幼児期の発達課題と領域「人間関係」について理解する。 ②領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取り扱い(指導案の作成)について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「保育における領域人間関係」の①～②を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第13回	将来を見通した統合(教育)保育の充実を考える ①統合(教育)保育の意義と課題を理解する。②インテグレーションとインクルージョンを理解する。③障がいのある子どもの指導計画における留意点について理解する。	上記、テキストの「将来を見通した統合(教育)保育～」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第14回	人間関係を踏まえた幼稚園(保育所)のあり方 ①教育(保育)目的、活動、形態、環境を理解する。②適切な幼稚園(保育所)のあり方を理解する。③幼児期の教育(保育)を計画的に行ううえでの幼児・保育の実態把握の方法について理解する。テキストの他、ワークシートやなどを保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。	上記、テキストの「人間関係を踏まえた～」の①～③を事前に熟読し、解らない語句などを調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第15回	授業のまとめ テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習を行う。	まとめに向けて、テキスト・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テスト及びテキストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	

その他	0	なし
教科書		
『保育・教育ネオシリーズ17 保育内容・人間関係』岸井他監修, 同文書院。		
参考文献		
『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。 『新版 遊びの指導』同文書院。		
履修条件・留意事項等		
幼稚園教員免許・保育士資格を取得する者は必ず履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(造形表現1)(1組)				ナンバリング	3374
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
保育方法の理解を深め保育に必要とされる方法を学ぶ科目である。こどもの描画活動に対する理解を深め保育者、教育者に必要な基本的資質や実践力を培う。ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」と関係のある科目である。「表現Ⅱ造形表現1, 2」「教科教育法図画工作」の基礎となる。							
授業の概要							
子どもの造形活動は、自由な遊びや保育者が用意する共通体験活動が考えられる。これらの活動では、子ども一人ひとりの個性が活かされ、楽しく造形活動が行われる保育が必要となる。そのため保育現場で求められる表現の基礎的技法を修得し、技法を高める作品制作等を行う。							
到達目標							
1子どもの人間形成において絵画制作の重要性を理解しそれを説明できる。 2実技実践を通して「領域 表現」の内容を理解し保育者として実践できる。 3こどもが創造的に表現ができる環境についての理解を深め、それを説明できる。							
授業の方法							
授業前半は教科書、提示資料、配布物やDVDなどを使い講義形式ですすめる。 後半は絵の具を使って描画活動を実践する。							
ICT活用							
2回～15回までワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用して導入とまとめ・鑑賞を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通じた教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して評価をつけて返却する。製作物に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス:「幼児造形と美術」子どもにとって絵画制作、また表現とは何かという考察を促しながら年間を通しての「絵画制作」の講義進行を説明する。	教科書p1～p7まで読んでおく。(25分)	幼児造形と美術についてワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	絵画制作:表現技法 紙遊び 切り絵、幼児造形領域において広く実践されている紙遊び「切り紙、折り紙」を行う。はさみの特性や紙素材の特徴を理解する。	教科書p8～p9まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ードロッピング 色が現れる面白さ良さを理解する。保育への展開を考察する。	教科書p10～p11まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第4回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび 一流し絵、吹き絵 流し絵と吹き絵の特徴をとらえ、現場で教える際の注意点や展開の仕方を考察する。	教科書p12～p13まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第5回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ー染め 変化する模様の特徴を理解し、現場で教える際の注意点 や展開の仕方を考察する。	教科書p14～p15まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと めておく。(20分)
担当教員			
第6回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ーフィンガーペインティ ング1 色彩理論の基礎を学びながら絵の具に直接触れる活動の 意義を考察する。	教科書p16～p17まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと める。(20分)
担当教員			
第7回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ーフィンガーペインティ ング2 表現への展開 前回学習したことを踏まえ、絵の具に直接触れる活動の可 能性を探求する。	教科書p18～p19まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと める。(20分)
担当教員			
第8回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ー身近な素材を使っ た表現 ティッシュとペンを使った演習。現場で教える際の注意点 や展開の仕方を考察する。	教科書p20～p21まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと める。(20分)
担当教員			
第9回	描画活動の授業作り1「絵の具あそび」を主題にした指導 案を作成する。保育の現場における導入方法を考察させる 。	教科書p81～p86まで読んでお く。(25分)	指導案を完成させる。(20分)
担当教員			
第10回	描画活動の授業作り2「絵の具あそび」を主題にした模擬 授業を行なう。線の形の多様さ、重なりやにじみなどの効果 に気づきその面白さを探求する。	発表の準備をする。指導案を用 意しておく。(25分)	発表内容をポートフォリオにまと める。(20分)
担当教員			

第11回	絵画制作:表現技法 クレヨンを使った表現一目隠し絵 見ないで描く事で得られるイメージの意外性に気づきその面白さを探求する。	教科書p23～p27まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第12回	幼児造形表現の原理 ―幼児造形表現の発達と様式 DVDを鑑賞し、幼児造形表現の発達段階について理解を深めその特徴である様式をまとめる。	教科書p28～p31まで読んでおく。(25分)	描く活動の発達段階と様式をワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第13回	仕掛け絵:紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作 (試作) ポップアップカードの基本構造(平行折、V字折)を理解する。	教科書p32～p42まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	仕掛け絵:紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作「思いを伝える形」 開閉時に仕掛けがあるグリーティング・カードの制作をする。	教科書p127～p133まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第15回	仕掛け絵:紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作(仕上げ・完成) コンセプトの実現に向けて工夫している点を確認していく。 パソコンやデジタルカメラを使用したポートフォリオの作成方法を実践的に学ぶ。	材料を準備する。(25分)	作品を完成させ、授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	授業参加度・出席態度・ファイリング・スケッチブックの内容・作品制作提出過程をみる	

その他	20	ポップアップカード
教科書		
保育をひらく造形表現 著者: 槇 英子 萌文書林		
参考文献		
保育所保育指針 解説書(フレーベル館). ●プロジェクト型保育の実践研究(北大路書房)		
履修条件・留意事項等		
【各自用意するもの】スケッチブック,水彩絵の具,筆,雑巾,クレパス,のり,はさみ,ファイル(クリアポケットファイル15ポケット程度) ※準備物の詳細はオリエンテーション時に伝える ※プリント類は必ずファイルに保管し造形表現2へつなげる		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(造形表現1)(2組)				ナンバリング	3374
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
保育方法の理解を深め保育に必要とされる方法を学ぶ科目である。こどもの描画活動に対する理解を深め保育者、教育者に必要な基本的資質や実践力を培う。ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」と関係のある科目である。「表現Ⅱ 造形表現1, 2」「教科教育法図画工作」の基礎となる。							
授業の概要							
子どもの造形活動は、自由な遊びや保育者が用意する共通体験活動が考えられる。これらの活動では、子ども一人ひとりの個性が活かされ、楽しく造形活動が行われる保育が必要となる。そのため保育現場で求められる表現の基礎的技法を修得し、技法を高める作品制作等を行う。							
到達目標							
1子どもの人間形成において絵画制作の重要性を理解しそれを説明できる。 2実技実践を通して「領域 表現」の内容を理解し保育者として実践できる。 3こどもが創造的に表現ができる環境についての理解を深め、それを説明できる。							
授業の方法							
授業前半は教科書、提示資料、配布物やDVDなどを使い講義形式ですすめる。 後半は絵の具を使って描画活動を実践する。							
ICT活用							
2回～15回までワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用して導入とまとめ・鑑賞を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通した教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して評価をつけて返却する。製作物に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス:「幼児造形と美術」子どもにとって絵画制作、また表現とは何かという考察を促しながら年間を通しての「絵画制作」の講義進行を説明する。	教科書p1～p7まで読んでおく。(25分)	幼児造形と美術についてワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	絵画制作:表現技法 紙遊び 切り絵、幼児造形領域において広く実践されている紙遊び「切り紙、折り紙」を行う。はさみの特性や紙素材の特徴を理解する。	教科書p8～p9まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ードロッピング 色が現れる面白さ良さを理解する。保育への展開を考察する。	教科書p10～p11まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第4回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび 一流し絵、吹き絵 流し絵と吹き絵の特徴をとらえ、現場で教える際の注意点や展開の仕方を考察する。	教科書p12～p13まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第5回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ー染め 変化する模様の特徴を理解し、現場で教える際の注意点 や展開の仕方を考察する。	教科書p14～p15まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと めておく。(20分)
担当教員			
第6回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ーフィンガーペインティ ング1 色彩理論の基礎を学びながら絵の具に直接触れる活動の 意義を考察する。	教科書p16～p17まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと める。(20分)
担当教員			
第7回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ーフィンガーペインティ ング2 表現への展開 前回学習したことを踏まえ、絵の具に直接触れる活動の可 可能性を探究する。	教科書p18～p19まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと める。(20分)
担当教員			
第8回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ー身近な素材を使っ た表現 ティッシュとペンを使った演習。現場で教える際の注意点 や展開の仕方を考察する。	教科書p20～p21まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと める。(20分)
担当教員			
第9回	描画活動の授業作り1「絵の具あそび」を主題にした指導 案を作成する。保育の現場における導入方法を考察させる 。	教科書p81～p86まで読んでお く。(25分)	指導案を完成させる。(20分)
担当教員			
第10回	描画活動の授業作り2「絵の具あそび」を主題にした模擬 授業を行なう。線の形の多様さ、重なりやにじみなどの効果 に気づきその面白さを探究する。	発表の準備をする。指導案を用 意しておく。(25分)	発表内容をポートフォリオにまと める。(20分)
担当教員			

第11回	絵画制作:表現技法 クレヨンを使った表現一目隠し絵 見ないで描く事で得られるイメージの意外性に気づきその面白さを探求する。	教科書p23～p27まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第12回	幼児造形表現の原理 ー幼児造形表現の発達と様式 DVDを鑑賞し、幼児造形表現の発達段階について理解を深めその特徴である様式をまとめる。	教科書p28～p31まで読んでおく。(25分)	描く活動の発達段階と様式をワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第13回	仕掛け絵:紙を使った表現 ーポップアップ・カード制作 (試作) ポップアップカードの基本構造(平行折、V字折)を理解する。	教科書p32～p42まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	仕掛け絵:紙を使った表現 ーポップアップ・カード制作「思いを伝える形」 開閉時に仕掛けがあるグリーティング・カードの制作をする。	教科書p127～p133まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第15回	仕掛け絵:紙を使った表現 ーポップアップ・カード制作(仕上げ・完成) コンセプトの実現に向けて工夫している点を確認していく。 パソコンやデジタルカメラを使用したポートフォリオの作成方法を実践的に学ぶ。	材料を準備する。(25分)	作品を完成させ、授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	授業参加度・出席態度・ファイリング・スケッチブックの内容・作品制作提出過程をみる	

その他	20	ポップアップカード
教科書		
保育をひらく造形表現 著者: 槇 英子 萌文書林		
参考文献		
保育所保育指針 解説書(フレーベル館). ●プロジェクト型保育の実践研究(北大路書房)		
履修条件・留意事項等		
【各自用意するもの】スケッチブック,水彩絵の具,筆,雑巾,クレパス,のり,はさみ,ファイル(クリアポケットファイル15ポケット程度) ※準備物の詳細はオリエンテーション時に伝える ※プリント類は必ずファイルに保管し造形表現2へつなげる		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 保育方法の理解					
科目名		保育内容指導法(造形表現1)(3組)				ナンバリング	3374
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	笠見 康大						
授業の位置づけ							
保育方法の理解を深め保育に必要とされる方法を学ぶ科目である。こどもの描画活動に対する理解を深め保育者、教育者に必要な基本的資質や実践力を培う。ディプロマポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」と関係のある科目である。「表現Ⅱ 造形表現1, 2」「教科教育法図画工作」の基礎となる。							
授業の概要							
子どもの造形活動は、自由な遊びや保育者が用意する共通体験活動が考えられる。これらの活動では、子ども一人ひとりの個性が活かされ、楽しく造形活動が行われる保育が必要となる。そのため保育現場で求められる表現の基礎的技法を修得し、技法を高める作品制作等を行う。							
到達目標							
1子どもの人間形成において絵画制作の重要性を理解しそれを説明できる。 2実技実践を通して「領域 表現」の内容を理解し保育者として実践できる。 3こどもが創造的に表現ができる環境についての理解を深め、それを説明できる。							
授業の方法							
授業前半は教科書、提示資料、配布物やDVDなどを使い講義形式ですすめる。 後半は絵の具を使って描画活動を実践する。							
ICT活用							
2回～15回までワークシート及び資料や視聴覚教材などのICTを活用して導入とまとめ・鑑賞を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

高等学校芸術科美術の指導及び絵画制作による国内外での発表経験、子どもを対象としたワークショップの実践など美術教育と美術を通じた教育についての知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して評価をつけて返却する。製作物に関しては適宜講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス:「幼児造形と美術」子どもにとって絵画制作、また表現とは何かという考察を促しながら年間を通しての「絵画制作」の講義進行を説明する。	教科書p1～p7まで読んでおく。(25分)	幼児造形と美術についてワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第2回	絵画制作:表現技法 紙遊び 切り絵、幼児造形領域において広く実践されている紙遊び「切り紙、折り紙」を行う。はさみの特性や紙素材の特徴を理解する。	教科書p8～p9まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第3回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ードロッピング 色が現れる面白さ良さを理解する。保育への展開を考察する。	教科書p10～p11まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第4回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび 一流し絵、吹き絵 流し絵と吹き絵の特徴をとらえ、現場で教える際の注意点や展開の仕方を考察する。	教科書p12～p13まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			

第5回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ー染め 変化する模様の特徴を理解し、現場で教える際の注意点 や展開の仕方を考察する。	教科書p14～p15まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと めておく。(20分)
担当教員			
第6回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ーフィンガーペインティ ング1 色彩理論の基礎を学びながら絵の具に直接触れる活動の 意義を考察する。	教科書p16～p17まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと める。(20分)
担当教員			
第7回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ーフィンガーペインティ ング2 表現への展開 前回学習したことを踏まえ、絵の具に直接触れる活動の可 可能性を探究する。	教科書p18～p19まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと める。(20分)
担当教員			
第8回	絵画制作:表現技法 絵の具あそび ー身近な素材を使っ た表現 ティッシュとペンを使った演習。現場で教える際の注意点 や展開の仕方を考察する。	教科書p20～p21まで読んでお く。(25分)	授業内容をスケッチブックにまと める。(20分)
担当教員			
第9回	描画活動の授業作り1「絵の具あそび」を主題にした指導 案を作成する。保育の現場における導入方法を考察させる 。	教科書p81～p86まで読んでお く。(25分)	指導案を完成させる。(20分)
担当教員			
第10回	描画活動の授業作り2「絵の具あそび」を主題にした模擬 授業を行なう。線の形の多様さ、重なりやにじみなどの効果 に気づきその面白さを探究する。	発表の準備をする。指導案を用 意しておく。(25分)	発表内容をポートフォリオにまと める。(20分)
担当教員			

第11回	絵画制作:表現技法 クレヨンを使った表現一目隠し絵見ないで描く事で得られるイメージの意外性に気づきその面白さを探求する。	教科書p23～p27まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第12回	幼児造形表現の原理 ―幼児造形表現の発達と様式DVDを鑑賞し、幼児造形表現の発達段階について理解を深めその特徴である様式をまとめる。	教科書p28～p31まで読んでおく。(25分)	描く活動の発達段階と様式をワークシートにまとめる。(20分)
担当教員			
第13回	仕掛け絵:紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作(試作) ポップアップカードの基本構造(平行折、V字折)を理解する。	教科書p32～p42まで読んでおく。(25分)	授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
第14回	仕掛け絵:紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作「思いを伝える形」 開閉時に仕掛けがあるグリーティング・カードの制作をする。	教科書p127～p133まで読んでおく。(25分)	ワークシートを完成させる。(20分)
担当教員			
第15回	仕掛け絵:紙を使った表現 ―ポップアップ・カード制作(仕上げ・完成) コンセプトの実現に向けて工夫している点を確認していく。パソコンやデジタルカメラを使用したポートフォリオの作成方法を実践的に学ぶ。	材料を準備する。(25分)	作品を完成させ、授業内容をスケッチブックにまとめる。(20分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	授業参加度・出席態度・ファイリング・スケッチブックの内容・作品制作提出過程をみる	

その他	20	ポップアップカード
教科書		
保育をひらく造形表現 著者: 槇 英子 萌文書林		
参考文献		
保育所保育指針 解説書(フレーベル館). ●プロジェクト型保育の実践研究(北大路書房)		
履修条件・留意事項等		
【各自用意するもの】スケッチブック,水彩絵の具,筆,雑巾,クレパス,のり,はさみ,ファイル(クリアポケットファイル15ポケット程度) ※準備物の詳細はオリエンテーション時に伝える ※プリント類は必ずファイルに保管し造形表現2へつなげる		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 幼稚園領域に関する科目					
科目名		幼児と人間関係				ナンバリング	3432
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	山口 宗兼						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーに示されている、「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」科目であるとともに、「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)」ようになる科目である。そして、領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける科目である。							
授業の概要							
幼稚園教育要領において 領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て人とかかわる力を養う」と示されている。そのような幼児を育成するために、幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解し、また、幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解し、そして、保育者は何をすべきかを考え、実際に行動・実践できるようになるための授業である。							
到達目標							
「幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解していること」「人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解していること」「乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できること」「幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できること」「自立心の育ち・協同性の育ち・道徳性や規範意識の芽生え・家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できること」である。							
授業の方法							
配布印刷物等を用いて授業をすすめる。基本的に、コメントシートを基にした、受講者の意見交流や学びのフィードバックを行い、双方向の学びを目指す。第4回授業においては、グループ協議及び発表等を行う。また、理解度確認テストを実施する。次回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。							
ICT活用							
ワークシートや保育記録等の資料、実践場面の映像の提供及び収集などICTを用いて具体的・実践的に学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

幼稚園と小学校において、教員としての実務経験がある。実務経験を生かし、具体的な授業展開する。

課題に対するフィードバックの方法

今回の授業において、採点した理解度確認を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなどの解説)	シラバスを十分に確認しておくこと。(20分)	オリエンテーション(注意事項・講義のねらいなど)にて渡された資料を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員			
第2回	親子やきょうだい関係について現代の特徴と課題を考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第3回	地域における子ども同士の関わり等, 幼児を取り巻く人間関係について、現代の特徴と課題を考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第4回	幼稚園教育において育みたい資質能力を領域「人間関係」の視点から考察し、大学生活で求められる人と関わる力との関連について考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			

第5回	幼児の様々な発達の諸側面が人との関わりの中で育つことについて、それぞれの発達の時期の特徴と関連づけて理解する。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第6回	幼稚園生活における決まりにはどのようなものがあるか等について、それぞれの決まりが幼児にとってどのような意味をもつか考える。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第7回	集団の中で見られる具体的な幼児の姿や幼児同士の関係の発達を理解する。	講義の内容を事前に調べておくこと。(25分)	返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(20分)
担当教員			
第8回	授業のまとめ 資料・返却された課題・小テストなどを確認し、復習を行う。	まとめに向けて、・資料・返却された課題・小テストなどに必ず目を通し、復習、整理を行うこと。(20分)	すべての返却された課題や小テストなどに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(40%)・提出物(30%)・発表内容(30%)	
その他	0	なし	
教科書			

テキスト無し
随時、課題及び資料を配布する

参考文献

『最新保育資料集2023』ミネルヴァ書房, 2023年4月発行予定(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領が掲載されている為使用する)。

履修条件・留意事項等

本授業は、幼稚園教員免許を取得する者の必修科目である。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門基礎科目 教育と保育の理解					
科目名		教職入門				ナンバリング	2231
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	村田 敏彰、森田 弘行、高桑 純						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている【知識・技能】」ための科目である。 さらに、ディプロマポリシーの「変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる【思考・判断・表現】」ための科目である。							
授業の概要							
今日の学校教育を担う教員の使命と職責について、教育行政及び保護者との連携や教職員の相互協力等に触れつつ、基本的な理解を促す。幼児期の保育との連携についても、教育の今日的課題として位置づけ取り扱う。授業には、教育行政担当者、地域住民、先輩教員を招き、具体的に学ぶことのできる条件を整える。子どもと地域を大切に、同僚とともに歩み、教育実践を展開する教師となる意欲を喚起したい。							
到達目標							
(1) 教育への親・地域住民の期待と協力の実態を理解できる。 (2) 自らの資質形成へ向けて、努力すべき内容や過程を明確にすることができる。							
授業の方法							
出合った教師についての振り返りを踏まえ、授業参観・保育参観や、保護者・教員の講話を通して、教職課程の学習に向かう姿勢をつくれるよう工夫する。							
ICT活用							
プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、電子黒板やデジタル教科書、タブレットや携帯端末の有効な指導法の説明等を行う。また、これらを利用した双方向型授業も体験させる。							
実務経験のある教員の教育内容							

小学校教員として長年勤務した経験を生かして、学校教育のあり方や地域・保護者・幼稚園・教育委員会等などと連携することの重要性についての授業を行う(森田・村田)。
教育委員会や学校に長年間勤務した経験を生かして、教師の使命と職責や学校教育のあり方について学ぶことにより教職に関する基本を身につけるための授業を行う(高桑)。

課題に対するフィードバックの方法

レポートや礼状について、評価結果を提示し、次の学習に生かすよう指導する。最終レポートについては、コメントを付記して学生に返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	○オリエンテーション(高桑・森田・村田) 授業概要と到達目標、授業計画、評価、授業の進め方について説明する。 ○教師の仕事について(森田) 教員に求められる資質の基本を説明する。	シラバスを読み内容を知ること で、講義内容を確認する。(90分)	オリエンテーション資料を再度 読む。授業内容について整理し ておく。(90分)
担当教員			
第2回	ICTの活用について(高桑・村田) 教育クラウドプラットフォームの活用について、実際に操作 して体験する。	前回の授業の課題作成。(90分)	参観・見学する小学校のHPを見 て学校の教育活動について確 認する。(90分)
担当教員			
第3回	小学校訪問(高桑・森田・村田) 受講者をグループにわけ、恵庭市の小学校を訪問させ、子 ども、教育活動、学校環境について参観・見学させる。	参観・見学する小学校のHPを見 て学校の教育活動について確 認する。(135分)	参観・見学記録レポートの整理 と提出。(90分)
担当教員			
第4回	小学校訪問の整理(森田) 小学校での訪問、参観・見学を通して、小学校教師の役割 や工夫について整理・理解する。礼状書きも行う。	お礼状の要点を書く。(90分)	小学校への礼状を清書する。参 観・見学する幼稚園のHPを見 ておく。(90分)
担当教員			

第5回	幼稚園訪問(高桑・森田・村田) 受講者をグループにわけ、恵庭市内の幼稚園を訪問させ、子ども、教育活動、学校環境について、参観・見学させる。	参観・見学する幼稚園のHPを見て教育活動について確認する。(135分)	参観・見学記録レポートの整理と提出。(90分)
担当教員			
第6回	幼稚園訪問の整理(高桑) 幼稚園での参観・見学記録の交流を通して、幼稚園教師の役割や工夫について整理・理解する。礼状書きも行う。	お礼状の要点を書く。(90分)	礼状を清書する。(90分)
担当教員			
第7回	教育委員会が教師に求めるもの(村田) 恵庭市の教育委員会の協力を得て、学校、教員を指導する立場から、教育の実情や今後の展望等について講話をいただく。	恵庭市の教育方針などをHPでみておく。(90分)	講話の記録整理。(90分)
担当教員			
第8回	親(保護者)の教育への願い(高桑) 子どもを学校に通わせている立場から、率直に学校、教員にかかわっての意見を述べていただく。	講話の聴き方についての学習。(90分)	講話の記録整理。(90分)
担当教員			
第9回	教育委員会・保護者講話の整理(村田) 前々回(教育委員会)及び前回(保護者)の講話を振り返り、交流と記録の整理を行う。礼状書きも行う。	礼状の要点を整理する。(90分)	礼状を清書する。(90分)
担当教員			
第10回	小学校教員講話(村田) 小学校教員2名から教育実践への姿勢や実績、教員としての成長の軌跡、克服してきた困難等、ライフヒストリーを語っていただく。	学校の教員の一日について学習する。(90分)	講話の記録整理。(90分)
担当教員			

第11回	幼稚園教員講話(森田) 幼稚園教員2名から教育実践への姿勢や実績、教員としての成長の軌跡、克服してきた困難等、ライフヒストリーを語っていただく。	幼稚園の教員の一日について学習する。(90分)	講話の記録整理。(90分)
担当教員			
第12回	小学校教員・幼稚園教員講話の整理(森田) 小学校教員の講話と幼稚園教員の講話の振り返り、交流と記録の整理を行う。礼状書きも行う。	礼状の要点を整理する。(90分)	礼状を清書する。(90分)
担当教員			
第13回	社会と教師(森田) 地域の中での学校・幼稚園の役割を理解し、家庭・地域との連携や「チーム学校」の必要性や意義などについて考える。	教師と家庭・地域との関係性について学習する。(90分)	記録の整理。授業内容に関する課題作成と提出。(90分)
担当教員			
第14回	○教員の資質能力(村田) 教員の資質能力の形成について理解し、向上のための取り組みについて学習する。 ○小中一貫教育(村田) 小中一貫教育のねらいや具体的な取り組みについて理解し、協働的な学校体制の必要性について学習する。	教員に求められる資質能力や小中一貫教育の意義について学習する。(90分)	記録の整理。授業内容に関する課題作成と提出。(90分)
担当教員			
第15回	○教育行政について(高桑) 教育委員会の意義や仕組みについて説明する。 ○ICT教育の背景と意義について(高桑) 学校教育におけるICTの役割や今後の方向性について説明する。	北海道及び札幌市の教育委員会のサイトを開き、公開されている情報の概要を調べておく。(90分)	記録の整理。授業内容に関する課題作成と提出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講話や見学のレポートと礼状(60%) 授業内の課題(30%) 授業の参加度・出席態度(10%)	

その他	0	なし
教科書		
使用しない。		
参考文献		
小学校学習指導要領(平成29年3月)幼稚園教育要領(平成29年3月)教職履修の道筋・カルテ「生命の若木」		
履修条件・留意事項等		
卒業必修科目である。 幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許取得には必修。 一年目に履修すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 幼稚園領域に関する科目					
科目名		幼児と環境(1組)				ナンバリング	3434
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	高桑 純						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、教育に求められるニーズに対応し、より適切な幼児教育の在り方を考え、より良い教育環境と教育実践を実現するために、不断に学び実行しようとする意欲と態度を育成するための科目である。							
授業の概要							
幼稚園教育要領における領域「環境」の内容について理解を深める。幼児を取り巻く環境や環境との関わりについて、背景となる専門的事項を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した指導方法を身に付ける。特に、我々を取り巻く自然環境について、それらの観察や調査、教材の開発などを通して自然を科学的にとらえ探求する方法を学ぶ。自然との触れ合いを指導する際の保育者の姿勢や留意点についても理解する。保育者自身が自然環境に対する感性を磨くとともに、身近な自然に興味や関心を持つよう、実際に野外に出て身近な自然と触れ合う機会をもつ。また、主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な指導方法を構想する方法を身に付ける。							
到達目標							
1. 保育者自らが自然を理解することで、子どもが自然を通じて主体的に遊べる方法を実施できる。 2. 身近な動植物の観察などの自然体験を通して、子どもが動植物に親しみ、生命の尊さを理解し尊重するようになるための方法を実施できる。 3. 地球環境の現状や課題を理解し、子どもが理解できる形で表現する方法を実施できる。							
授業の方法							
講義においては、ハンドアウトやプレゼンテーションソフトを活用して解説する。野外での観察や遊びなど身近な自然に触れ合う体験を多く取り入れるとともに、アクティブラーニングとしてグループ・ワークや発表を行う。授業の内容に関する課題を、レポートやフィールドノートの形式で課し、コメントを加えて返却する。							
ICT活用							
検索機能を活用した資料の調査を行う。また、プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、データの共有や双方向授業を活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

教育委員会において学校教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、理科教育や環境教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして、「環境」の指導法について、自然科学の視点を中心に授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出させる課題については、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業の進め方、授業計画、評価の方法など 環境問題と環境教育の現状 環境問題、SDGsの考え方、環境教育の在り方など 領域「環境」のねらい 幼児をとりまく環境の重要性、自然を愛する心情、生命尊重、自然以外の環境など	幼稚園教育要領解説の『3 身近な環境との関わりに関する領域「環境」』について読んでおく。 (45分)	課題を完成させる。(45分)
担当教員			
第2回	身近な自然の観察 大学周辺の自然観察を行う。実際の動植物に触れ、興味・関心をもった動植物の写真を撮影し、学生同士で交流するとともに、図鑑やICTを活用した調べ方の基礎を学ぶ。	観察で予想される動植物を調べてリストアップしておく。(45分)	自然観察のフィールドノートを整理し提出する。(課題1)(45分)
担当教員			
第3回	自然観察の指導法 前回の自然観察をふまえ、観察する対象や場所・活動内容や活動記録・自然観察実施上の留意事項などについて、グループで意見を交流し発表する。	前回の自然観察の記録の整理しておく。(45分)	グループでの交流の記録をまとめる。(45分)
担当教員			
第4回	自然を使った遊びを体験する ネイチャーゲームや草花を使ったものづくりを体験するとともに、グループであらたなゲームやものづくりを考案する。	書籍やネットからネイチャーゲームを調べておく。(45分)	考案したネイチャーゲームまたはものづくりの教材を作成する。(課題2)(45分)
担当教員			

第5回	前回の授業で考案したネイチャーゲームまたはものづくりを発表し、他の学生を子ども役にして実施し、お互いに評価する。	発表するネイチャーゲームまたはものづくりの準備を行う。(45分)	相互評価の結果をまとめる。(45分)
担当教員			
第6回	畑や水槽を使って動植物の飼育と栽培の意義や方法を学ぶ。 畑の管理と植物の栽培方法、水生動物の飼育方法、動物の飼育上の留意事項などについて説明する。	栽培したい植物あるいは飼育したい動物について調べておく。(45分)	自分が着目した動植物の飼育栽培についてまとめる。(課題4)(45分)
担当教員			
第7回	幼児を取り巻くその他の環境について、指導内容、指導方法、指導事例を学ぶ。 文化や伝統、身近な物、文字、数量と図形、施設、情報などについて、教材や指導方法を説明する。	自然環境以外で教材として取り上げたい内容について、実践例を調べておく。(45分)	街中から幼児が興味・関心を持ちそうな図形や物を探して記録する。(45分)
担当教員			
第8回	前回の事後学習で記録したものをを使った指導内容を、グループで交流するとともに、全体に発表する。 発表を受けて、留意事項や工夫の仕方など全体で交流する。必要に応じてICT(Google Jamboardなど)を活用する。	前回の事後学習で記録した図形や物の指導内容を考える。(45分)	全体の授業を通して、「環境」の指導に当たって重要と考えたことを整理して提出する。(課題4)(45分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(60%) 記録や事前の調査内容(30%) 発表や交流に対する積極性(10%)	
その他	0		
教科書			

教科書は使用しない。配布資料を活用する。

参考文献

幼稚園教育要領解説

履修条件・留意事項等

幼稚園教諭一種免許必修

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 幼稚園領域に関する科目					
科目名		幼児と環境(2組)				ナンバリング	3434
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	高桑 純						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、教育に求められるニーズに対応し、より適切な幼児教育の在り方を考え、より良い教育環境と教育実践を実現するために、不断に学び実行しようとする意欲と態度を育成するための科目である。							
授業の概要							
幼稚園教育要領における領域「環境」の内容について理解を深める。幼児を取り巻く環境や環境との関わりについて、背景となる専門的事項を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した指導方法を身に付ける。特に、我々を取り巻く自然環境について、それらの観察や調査、教材の開発などを通して自然を科学的にとらえ探求する方法を学ぶ。自然との触れ合いを指導する際の保育者の姿勢や留意点についても理解する。保育者自身が自然環境に対する感性を磨くとともに、身近な自然に興味や関心を持つよう、実際に野外に出て身近な自然と触れ合う機会をもつ。また、主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な指導方法を構想する方法を身に付ける。							
到達目標							
1. 保育者自らが自然を理解することで、子どもが自然を通じて主体的に遊べる方法を実施できる。 2. 身近な動植物の観察などの自然体験を通して、子どもが動植物に親しみ、生命の尊さを理解し尊重するようになるための方法を実施できる。 3. 地球環境の現状や課題を理解し、子どもが理解できる形で表現する方法を実施できる。							
授業の方法							
講義においては、ハンドアウトやプレゼンテーションソフトを活用して解説する。野外での観察や遊びなど身近な自然に触れ合う体験を多く取り入れるとともに、アクティブラーニングとしてグループ・ワークや発表を行う。授業の内容に関する課題を、レポートやフィールドノートの形式で課し、コメントを加えて返却する。							
ICT活用							
検索機能を活用した資料の調査を行う。また、プレゼンテーションソフトや教育クラウドプラットフォームを活用した説明や資料の提示、アドバイスやコメントの通知を行う。タブレットや携帯端末を使った指導法を体験させる。さらに、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、データの共有や双方向授業を活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

教育委員会において学校教育に係る研修機関の指導主事として勤務経験があり、理科教育や環境教育に関して幅広い知識を有している。この経験を生かして、「環境」の指導法について、自然科学の視点を中心に授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出させる課題については、教員から評価を行い、今後の学びに生かすよう講評を付記して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 授業の進め方、授業計画、評価の方法など 環境問題と環境教育の現状 環境問題、SDGsの考え方、環境教育の在り方など 領域「環境」のねらい 幼児をとりまく環境の重要性、自然を愛する心情、生命尊重、自然以外の環境など	幼稚園教育要領解説の『3 身近な環境との関わりに関する領域「環境」』について読んでおく。 (45分)	課題を完成させる。(45分)
担当教員			
第2回	身近な自然の観察 大学周辺の自然観察を行う。実際の動植物に触れ、興味・関心をもった動植物の写真を撮影し、学生同士で交流するとともに、図鑑やICTを活用した調べ方の基礎を学ぶ。	観察で予想される動植物を調べてリストアップしておく。(45分)	自然観察のフィールドノートを整理し提出する。(課題1)(45分)
担当教員			
第3回	自然観察の指導法 前回の自然観察をふまえ、観察する対象や場所・活動内容や活動記録・自然観察実施上の留意事項などについて、グループで意見を交流し発表する。	前回の自然観察の記録の整理しておく。(45分)	グループでの交流の記録をまとめる。(45分)
担当教員			
第4回	自然を使った遊びを体験する ネイチャーゲームや草花を使ったものづくりを体験するとともに、グループであらたなゲームやものづくりを考案する。	書籍やネットからネイチャーゲームを調べておく。(45分)	考案したネイチャーゲームまたはものづくりの教材を作成する。(課題2)(45分)
担当教員			

第5回	前回の授業で考案したネイチャーゲームまたはものづくりを発表し、他の学生を子ども役にして実施し、お互いに評価する。	発表するネイチャーゲームまたはものづくりの準備を行う。(45分)	相互評価の結果をまとめる。(45分)
担当教員			
第6回	畑や水槽を使って動植物の飼育と栽培の意義や方法を学ぶ。 畑の管理と植物の栽培方法、水生動物の飼育方法、動物の飼育上の留意事項などについて説明する。	栽培したい植物あるいは飼育したい動物について調べておく。(45分)	自分が着目した動植物の飼育栽培についてまとめる。(課題4)(45分)
担当教員			
第7回	幼児を取り巻くその他の環境について、指導内容、指導方法、指導事例を学ぶ。 文化や伝統、身近な物、文字、数量と図形、施設、情報などについて、教材や指導方法を説明する。	自然環境以外で教材として取り上げたい内容について、実践例を調べておく。(45分)	街中から幼児が興味・関心を持ちそうな図形や物を探して記録する。(45分)
担当教員			
第8回	前回の事後学習で記録したものをを使った指導内容を、グループで交流するとともに、全体に発表する。 発表を受けて、留意事項や工夫の仕方など全体で交流する。必要に応じてICT(Google Jamboardなど)を活用する。	前回の事後学習で記録した図形や物の指導内容を考える。(45分)	全体の授業を通して、「環境」の指導に当たって重要と考えたことを整理して提出する。(課題4)(45分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(60%) 記録や事前の調査内容(30%) 発表や交流に対する積極性(10%)	
その他	0		
教科書			

教科書は使用しない。配布資料を活用する。

参考文献

幼稚園教育要領解説

履修条件・留意事項等

幼稚園教諭一種免許必修

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 幼稚園領域に関する科目					
科目名		幼児と健康(1組)				ナンバリング	3430
配当年次		開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。 「保育内容総論」と関連。							
授業の概要							
こどもの心身の発達と健康との関連を理解するとともに、遊び(運動)が健康におよぼす影響を理解し、実践できる保育者をめざす。							
到達目標							
① こどもの健康に関する問題点や課題を理解する ② こどもの発育・発達、身体機能について理解する ③ 運動機能・能力の発達を理解し、運動遊びや健康との関連を理解する ④ 幼稚園での安全管理と安全教育について理解し、予防方法を実践できる							
授業の方法							
パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。 グループワークとグループ発表を行う。 フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。							
ICT活用							
調査・発表等において効果的に活用するように工夫する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テストの解答及び解説
レポートのコメント記入後返却

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	健康についての認識 健康の定義	健康の定義を調べておくこと(20分)	今までの健康の定義と現在の健康の定義の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第2回	領域「健康」について 「ねらい」から考える	領域「健康」の「ねらい」を読んでおくこと(20分)	領域「健康」の「ねらい」を再度読み理解すること(25分)
担当教員			
第3回	領域「健康」について 「内容」から考える	領域「健康」の「内容」を読んでおくこと(20分)	領域「健康」の「内容」を再度読み理解すること(25分)
担当教員			
第4回	こどもの健康な育ち 健康な育ち、こどもらしさとは何か	「こどもの健康な育ち」とは何かを自分なりに考えておくこと(20分)	自分の考えと実際の内容を整理すること(25分)
担当教員			

第5回	こどもの健康課題 現代っ子の健康に係わる問題点とは何か	現代っ子の健康に係わる問題点 は何かを考えておくこと(20分)	授業内容以外にも問題点は無い かを考えておくこと(25分)
担当教員			
第6回	発育・発達 健康と発育・発達の関連を学ぶ	様々な発育と発達の違いについ て調べておくこと(20分)	発育と発達の違いについてよく 理解しておくこと(25分)
担当教員			
第7回	安全管理と安全教育 「リスク」と「ハザード」について学ぶ	「リスク」と「ハザード」の違いにつ いて調べておくこと(20分)	保育現場でのリスクとハザードにつ いてまとめておくこと(25分)
担当教員			
第8回	まとめ まとめと復習	前期7回分の資料に目を通して おくこと(20分)	試験に向けて学習しておくこと (25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	70	平常点・小テスト等	
その他	30	レポート等	
教科書			

適宜プリントを配布します

参考文献

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針

履修条件・留意事項等

講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。
講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 幼稚園領域に関する科目					
科目名		幼児と健康(2組)				ナンバリング	3430
配当年次		開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
こども発達学科のディプロマポリシー「こどもの心身の成長・発育発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につける」ための科目である。 「保育内容総論」と関連。							
授業の概要							
こどもの心身の発達と健康との関連を理解するとともに、遊び(運動)が健康におよぼす影響を理解し、実践できる保育者をめざす。							
到達目標							
① こどもの健康に関する問題点や課題を理解する ② こどもの発育・発達、身体機能について理解する ③ 運動機能・能力の発達を理解し、運動遊びや健康との関連を理解する ④ 幼稚園での安全管理と安全教育について理解し、予防方法を実践できる							
授業の方法							
パワーポイントと配付資料を使用し講義形式ですすめる。 グループワークとグループ発表を行う。 フィードバックとして小テストを行い、解答の解説を行う。							
ICT活用							
調査・発表等において効果的に活用するように工夫する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、小テストの解答及び解説
レポートのコメント記入後返却

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	健康についての認識 健康の定義	健康の定義を調べておくこと(20分)	今までの健康の定義と現在の健康の定義の違いをまとめておくこと(25分)
担当教員			
第2回	領域「健康」について 「ねらい」から考える	領域「健康」の「ねらい」を読んでおくこと(20分)	領域「健康」の「ねらい」を再度読み理解すること(25分)
担当教員			
第3回	領域「健康」について 「内容」から考える	領域「健康」の「内容」を読んでおくこと(20分)	領域「健康」の「内容」を再度読み理解すること(25分)
担当教員			
第4回	こどもの健康な育ち 健康な育ち、こどもらしさとは何か	「こどもの健康な育ち」とは何かを自分なりに考えておくこと(20分)	自分の考えと実際の内容を整理すること(25分)
担当教員			

第5回	こどもの健康課題 現代っ子の健康に係わる問題点とは何か	現代っ子の健康に係わる問題点 は何かを考えておくこと(20分)	授業内容以外にも問題点は無い かを考えておくこと(25分)
担当教員			
第6回	発育・発達 健康と発育・発達の関連を学ぶ	様々な発育と発達の違いについ て調べておくこと(20分)	発育と発達の違いについてよく 理解しておくこと(25分)
担当教員			
第7回	安全管理と安全教育 「リスク」と「ハザード」について学ぶ	「リスク」と「ハザード」の違いにつ いて調べておくこと(20分)	保育現場でのリスクとハザードにつ いてまとめておくこと(25分)
担当教員			
第8回	まとめ まとめと復習	前期7回分の資料に目を通して おくこと(20分)	試験に向けて学習しておくこと (25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	70	平常点・小テスト等	
その他	30	レポート等	
教科書			

適宜プリントを配布します

参考文献

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針

履修条件・留意事項等

講義はパワーポイントを使用するので、自分なりに工夫しノート等を作成しながら自分の考えをまとめ、文献検索を積極的に行って理解を深めること。
講義中の私語、遅刻、飲食は厳禁です。また、講義中は携帯電話等、電子機器の電源はoffにすること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		ICTを活用した教育の理論と方法				ナンバリング	未定
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	村越 含博						
授業の位置づけ							
「ICTを活用した教育の理論と方法」は、教育(学校・幼稚園)におけるICTの活用に関わる現状と課題を認識し、これまでの教育のIT化やGIGAスクール構想の理念等に学びながら、意欲的に考察し、実践力を養うための科目である。 ディプロマポリシーの教育に関わるものとしての「教育的能力」や「基本的資質」を身につけ、「より適切な教育のあり方を考え続ける」ことと関係する。 また、幼稚園教諭、小学校教諭免許取得に必要な教職科目であり、「教科教育法」「幼稚園および小学校教育実習」と接続する科目である。							
授業の概要							
教育現場におけるICT(情報通信技術Information and Communication Technology)の活用について、その歴史的経緯、現状、今後の方向性を理解する。具体的には授業における児童及び教員のICT活用、校務でのICT活用、学習評価に関する活用などを取り上げる。また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力について具体的な指導法や教育課程上の取り扱いについて解説する。その上で現在ICT教育で取り上げられている議論も踏まえ、その利活用について多面的に考察していく。本科目では実際に学生によるタブレット等の操作も行い、1人1台端末時代の教育に即応するスキルについても身につけていく。							
到達目標							
・教育現場におけるICT活用に意義や理論、学習活動の方法、校務での活用等について理解し、説明することができる。(知識) ・学校現場での利活用を踏まえたICT機器の操作ができる。(技能) ・ICTを活用した教育についての理論と実践を結びつけて考察する態度を身につけることができる。(態度)							
授業の方法							
①テキストを用いる。事前にシラバスで指示した箇所を読んで授業に参加する。授業ではテキストや関連する資料を提示しながら理解を深めていく。 ②教育現場でのICT機器活用の様子について写真や動画等を視聴し、理解を深める。 ③第4回～第7回は各自PCを持参し、グループワーク等による実技を行う。 ④理解度確認テストを2回行い、基本的な知識の定着を図る。 ⑤授業で課す簡単な調査や制作物などは適宜提出する(授業内で指示する)。							
ICT活用							
①資料配布はGoogle Workspace for Educationを活用し、学生が必要に応じて見返すことができるようにする。 ②レポート提出はGoogleドキュメントにて行う。 ③理解度確認テストはGoogleフォームテスト機能にて行う。 ④Googleclassroomにて授業に関連する様々な情報を提供する。							
実務経験のある教員の教育内容							

北海道公立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(理科・算数)、ことばの教室担当教諭、生活指導、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆している。GIGAスクール構想を受け勤務校においてICT教育に関わる実践と研究を進め推進の立場としての経験を持ち、令和4年度北海道教育委員会教育実践表彰を受ける。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストは回答後すぐに答えが確認できるように、Googleフォームにて行う。課題のレポートはGoogleにて提出する。レポート課題にはルーブリック評価を設定し、受講生が取り組む目的を明確にする。提出後はコメントを付して返却を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1.授業のガイダンス 2.テキスト第1章、第2章を取り上げ、Society5.0に関する議論、経済産業省による「未来の教室」と文部科学省のGIGAスクール構想について説明する。さらに、Steam教育の概要について理解し、教育におけるICTの位置づけについて捉える。	テキスト第1章、第2章を読み、疑問点を整理しておく(90分)	テキストの該当部分を読み、授業内容と共に整理し、理解度確認テストの準備をしておく(90分)
担当教員			
第2回	1. 第3章を取り上げ、子どもの生活世界とICTの議論について様々な角度から取り上げて考察する。 2.第5章を取り上げ、一人一台端末による学習環境の変化とそれに伴う実践事例について理解する。 3.第12章を取り上げ、教育現場での情報化による学校の変化や、校務での活用の実践について理解する。	テキスト第3章、第5章、第12章を読み、疑問点を整理しておく(90分)	テキストの該当部分を読み、授業内容と共に整理し、理解度確認テストの準備をしておく(90分)
担当教員			
第3回	1.第6章を取り上げ、令和の日本型学校「個別最適な学びと協働的な学び」における、ICTの役割について理解を深める。 2.第9章を取り上げ、ICTを活用した遠隔教育の実践と活用について理解する。 3.理解度確認テストを行う。	テキスト第1章、第2章を読み、疑問点を整理しておく(60分) 理解度確認テストの準備をしておく(30分)	インターネットでGoogle Workspace for Educationの概要や操作方法について検索し、予習しておく(90分)
担当教員			
第4回	一人一台端末と教育活動での利活用の実践① 実技演習として、Google Workspace for Educationの操作を行う。教師側、生徒側双方の操作の違いについて理解し課題の設定、回収、評価までの演習を行ってみる。※充電されたパソコンを持参のこと	インターネットでGoogle Workspace for Educationの概要や操作方法について検索し、予習しておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員			

第5回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際② 第7章を取り上げ、様々な教育活動におけるICT機器の利用について理解し、特に活用されるGoogleフォームの作成、スライド、ドキュメント、スプレッドシートの活用やofficeとの連携について実践的に理解する。※充電されたパソコンを持参のこと	第7章について事前に読み、様々な教科でのICT機器の活用についての知識を得ておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員			
第6回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際③ 第7章を取り上げ、様々な教育活動におけるICT機器の利用について理解し、実際の教科や教育活動場面を想定し、その場面において学習者が活用するワークシート等を作成してみることを通して、理解を深める。※充電されたパソコンを持参のこと	第7章を踏まえて、小学校の授業での一人一台端末の活用例について文部科学省StuDX Style Steamライブラリー、EdTechライブラリー等のサイト等で調べ、様々な教科でのICT機器の活用についての知識を得ておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員			
第7回	一人一台端末と教育活動での利活用の実際④ 第8章を取り上げ、プログラミング教育について理解する。アンブレグドによるプログラミング教育を通じたプログラミング的思考とはどういうものかを理解するとともに、具体的なプログラミング操作としてのscratchを取り上げ実際にプログラムを組む活動を通して理解を深める。※充電されたパソコンを持参のこと	各自PC等でScratchのサイトに接続し、アカウントを作成しログイン処理をしておくこと。また、第8章について事前に読み、疑問などを整理しておく(90分)	授業で行った操作を自宅でも復習し、技能の定着を図る(90分)
担当教員			
第8回	第10章を取り上げ、メディアリテラシーの問題、学校でのICT機器活用に関しての課題、授業の画一化の課題を取り上げるとともに、デジタルシチズンシップの概念と具体的な実践について触れ、教育でのICT活用について多面的に理解を深める。	第10章について事前に読み、疑問などを整理しておく(90分)	これまでの資料、テキストなどを読み返し、レポート課題を進める(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(発言、実技演習の取り組み、提出物など)40% レポート提出 40% 理解度確認テスト 20%	
その他	0		
教科書			

ICTを活用したこれからの学び―次世代を担う教師のためのICT入門 北海道教育大学未来の学び共創研究センター 編 一荃書房 2022年

参考文献

「ICT活用の理論と実践」稲垣忠/佐藤和紀編著 2021年 北大路書房
「画一化する授業からの自律―スタンダード化・ICT化を超えて― 子安潤著 2021年 学文社
「デジタル・シチズンシップ―コンピュータ1人1台の善き使い手をめざす学び」坂本旬他 2020年 大月書店
「オンライン脳」川島隆太 著 2022年 アスコム
「教育DXで未来の教室をつくろう」2021年 浅野大介著 学陽書房
「第四次産業革命と教育の未来: ポストコロナ時代のICT教育」佐藤学 著 2021年 岩波ブックレット

履修条件・留意事項等

毎回の授業ではインターネット・学内Wi-Fiにつながる端末(スマートフォン、タブレット)を持参のこと。
特に第4回～第7回授業は、十分に充電されたパソコンを各自持参のこと。(当日利用できない事情がある学生にはchromeブックを貸与するので申し出ること)

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		教育方法論				ナンバリング	3514
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	加藤 裕明						
授業の位置づけ							
①授業「教育方法論」(以下、本授業)は、ディプロマ・ポリシーの「こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がい有するこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。(知識・技能)」ことと強く関係する科目である。 ②本授業は、小学校教諭、幼稚園教諭免許を取得するうえで必修の教職科目であり、「教育基礎論」や「教育課程の編成と実施」との連続性のもと、小学校教育実習、幼稚園教育実習に接続する科目である。							
授業の概要							
幼稚園、小学校において、子どもの「声」を聴き、学ぶ姿を見とる教師のあり方について対話的に学び合う。学生自身がこれまで受けてきた一斉授業方式の被教育経験を編み直し、21世紀にふさわしい教育者として「主体的・対話的で深い学び」を実践できる技能を習得する。そのために、授業は基本、アクティブラーニングを軸に、学修者が、能動的に学修に参加する姿勢を身につけるよう展開する。							
到達目標							
①学生は具体的な実践例をもとに、子どものことばについて対話することができるようになる。 ②学生は具体的な実践例をもとに、教師の聴き方、話し方について、発表することができるようになる。 ③授業を通して学生は、ひととひとをつなぐことばの重要性を理解し、他者と協調し、コミュニケーションできるようになる。							
授業の方法							
すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような学びの方法により進める。 ①パワーポイントによるテーマの提示と、グループワークによる学生同士の対話的な学びによって進める。 テキスト理解を深めながら、グループ間での対話により、授業にのぞむ教師の聴き方、話し方について対話し進める。 ②学生の発表・発言を重視し、アクティブ・ラーニングを軸に授業を進める。							
ICT活用							
・e-ラーニングのプラットフォームを活用し、レポート(課題)提出や、発表用資料の作成等、学生自身のレポートや発表内容の自主学習支援を行う。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介・共有することによって、学生同士が対話的に学びを深め合えるよう、教員がファシリテータとしての役割を担い、双方向型の授業を進める。							
実務経験のある教員の教育内容							

・加藤は公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践をもとに、教師自身の学びや育ちについて考察と経験を深めてきた。また、この間、部活動指導にも従事し、演劇教育を質的方法によって研究し、博士号を取得した。以上の経験を活かし、学校現場における具体的な子どもたちの姿を想定し、「主体的・対話的で深い学び」のための授業づくりをファシリテートする。

課題に対するフィードバックの方法

・e-ラーニングのプラットフォームを活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介・共有することによって、学生同士が対話的に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・ガイダンス: 授業のすすめ方、テキストの使い方、グループ編成の方法、レポートの書き方、評価等について説明する。 ・グループでレポートの分担範囲(テキスト範囲)を決める。 ・テキストp.2-26を参考にして、「教師の話し方」について考え、対話する。	テキストをp.2-26読み、考える。(90分)	各自の分担範囲にもとづき、課題①(レポート①)を作成する。(90分)
担当教員			
第2回	テキストp.27-47をふまえ、「子どもの目を見て話す」ことについて、グループ内で対話し、自分の考えを発表する。	テキストp.27-47を読み、「子どもの目を見て話す」ことの大切さについて考える。(90分)	今日のグループでの対話をふりかえり、「子どもの目を見て話す」意味についてあらためて考える。(90分)
担当教員			
第3回	テキストp.48-72をふまえ、「子どものことば」を待つことについて、グループ内で対話し、自分の考えを発表する。	テキストp.48-72を読み、「子どものことば」を待つことの大切さについて考える。(90分)	今日のグループでの対話をふりかえり、「子どものことば」を待つことの意味についてあらためて考える。(90分)
担当教員			
第4回	テキストp.73-95をふまえ、「子どものことば」を聴き取る際の、教師の思考について、グループ内で対話し、自分の考えを発表する。	テキストp.73-95を読み、「子どものことば」を聴き取る際の、教師の思考について考える。(90分)	今日のグループでの対話をふりかえり、「子どものことば」を聴き取る際の留意点についてあらためて考える。(90分)
担当教員			

第5回	テキストp.96-119をふまえ、子ども同士のことばの「つながり」について、グループ内で対話し、自分の考えを発表する。	テキストp.96-119を読み、子ども同士のことばの「つながり」について考える。(90分)	今日のグループでの対話をふりかえり、子ども同士のことばの「つながり」の意味についてあらためて考える。(90分)
担当教員			
第6回	テキストp.120-136をふまえ、「教師のことば」が子どもに届くということについて、グループ内で対話し、発表する。	テキストp.120-136を読み、「教師のことば」が子どもに届くということについて考える。(90分)	今日のグループでの対話をふりかえり、「教師のことば」が子どもに届く条件についてあらためて考える。(90分)
担当教員			
第7回	テキストp.137-149をふまえ、保護者の信頼感をはぐくむ教師のことばについて、グループ内で対話し、発表する。	テキストp.137-149を読み、保護者の信頼感をはぐくむ教師のことばについて考える。(90分)	今日のグループでの対話をふりかえり、保護者の信頼感をはぐくむ教師の条件についてあらためて考える。(90分)
担当教員			
第8回	テキストp.150-167をふまえ、教師の学び合いにつながる同僚とのコミュニケーションについて、グループ内で対話し、発表する	テキストp.150-167を読み、教師の学び合いにつながる同僚とのコミュニケーションについて考える。(90分)	今日のグループでの対話をふりかえり、教師の学び合いにつながる同僚とのコミュニケーションの条件についてあらためて考える。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出と発表(50%程度)、挙手発言(30%程度)、グループ活動への積極的参加(20%程度)	
その他	0		
教科書			

石井順治(2010)『教師の話し方・聴き方 ことばが届く、つながりが生まれる』ぎょうせい

参考文献

授業中に指示します。

履修条件・留意事項等

備考欄

各テーマの必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きし、学生の皆さんと対話する時間を設けます。

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 こども発達学科					
区分		専門科目 小学校・幼稚園教職科目					
科目名		特別支援教育基礎論				ナンバリング	3521
配当年次	1年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	村田 敏彰						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)」と関連する科目である。特別な教育的ニーズに応じた支援のための基本的資質、教育的能力を身につけ、共生社会の実現に向け、歴史的背景や国際的な動向を踏まえながら、より適切な教育のあり方を考え続ける指導者の基礎となるものである。特別支援教育総論や知的障害教育につながるものである。							
授業の概要							
共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育の歴史や制度を踏まえながら、特別支援教育の全体像について理解する。また、様々な困難さのある幼児・児童及び生徒が、安心感・充実感をもって集団に参加しながら、将来の社会参加・自立に必要な知識・技能を定着・活用できるように支援のあり方を理解する。							
到達目標							
1. 特別支援教育の理念や目的を理解し、個別の教育的支援について説明することができる。 2. 共生社会の実現にむけたインクルーシブ教育が重視されている理由を説明することができる。 3. 障害者差別解消法など、社会的な支援の実際を理解し、障害と支援を関連付けて記述することができる。 4. 個別の教育的支援を行う支援者として、共生社会の重要性を説明することができる。							
授業の方法							
ICT機器や映像を多用しながら、これまでの経緯や動向、今日的課題についてよりわかりやすく授業を進めるように工夫し、教育現場における実態も紹介しながら展開していく。さらに、講義形式と並行させて指導計画作成、レポート等の提出により、受講生の理解の様子を確かめながら授業をすすめていく。フィードバックとして振り返りシートを活用し、講義の中で質問に答えたり、受講生からの質問についてディスカッションさせたりしながら学びを深め、アドバイス等を行う。							
ICT活用							
パワーポイントを使用して、プレゼンテーションを印象的に提示する。また、グーグルフォームやジャムボードを効果的に活用し、受講生相互の意見交流を図る。							
実務経験のある教員の教育内容							

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームの課題提出やグーグルフォームの振り返りシートを活用し、質問に答えたり、アドバイス等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション: 特殊教育時代を振り返り、特別支援教育が目指す共生社会実現の意義と重要性について、全8回の講義を通して学ぶことを理解する。	障がいについて、自分なりの考えをまとめておく。(90分)	共生社会について整理し、意義と役割について整理する。(90分)
担当教員			
第2回	インクルーシブ教育の理念や目的について、歴史や世界的な情勢を踏まえながら理解する。	共生社会について整理し、インクルーシブ教育について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第3回	障害者差別解消法における合理的配慮について学習し、具体的な事例をもとに実際場面での運用について理解する。	「障害者差別解消法」について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第4回	特別支援教育の校内支援体制と対象となる障がい種別や学習上、生活上の困難について理解する。	特別支援教育の校内支援体制と対象となる障がい種や程度について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			

第5回	ICF(国際生活機能分類)について学習し、活動と参加という社会的側面から「障がい」をとらえる必要性について理解する。	ICFや「障がい」の様々な捉え方について調べておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第6回	障がい児教育の歴史と共生社会の実現に向けた課題について、資料映像を視聴しながら考察する(前半)。	特別支援教育の推進上の課題について考えをまとめておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第7回	障がい児教育の歴史と共生社会の実現に向けた課題について、資料映像を視聴しながら考察する(後半)。	特別支援教育の推進上の課題について考えをまとめておく。(90分)	講義内容について、キーワードをもとに整理する。(90分)
担当教員			
第8回	授業のまとめ:授業で獲得した知識や理解を定着させる。(最終レポートの作成)	1～7回目の学習ノートと授業期間中に配布した資料に目を通しておく。(90分)	自身のレポートを振り返り、本授業で得たことや今後に向けての課題をまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第8回で実施する最終レポート作成(70%) 毎回提出する振り返りシート(15%) 授業への参加度・出席態度(15%)	
その他	0	なし	
教科書			

なし(適時資料を配布する)

参考文献

「はじめての特別支援教育」 柘植雅義・渡部匡隆・二宮真一・納富恵子編 有斐閣 2014

履修条件・留意事項等

幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許取得の必修科目である。

備考欄